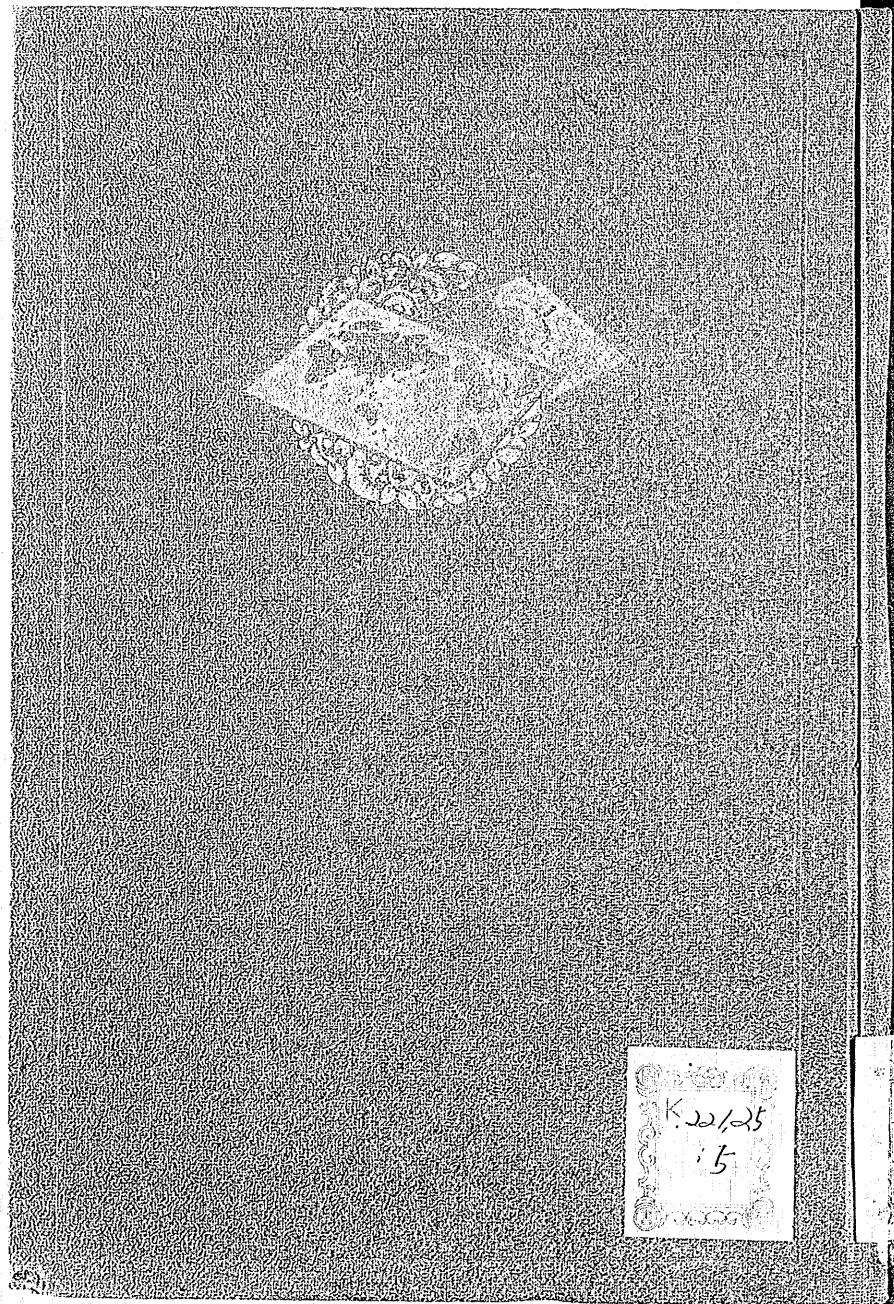




K221.25

5

櫻井 靜著



世界新地誌

(亞細亞篇)



東京 大同館藏版

序

滿洲國の獨立によつて日滿兩國の提携は確立したのであるが、滿洲國を繞る政治地理上の問題は益々複雑なものとなつた。滿蘇の國境は『燃ゆる國境』として世界の視聽を集め、北京郊外に發生した蘆溝橋事件は遂にサラエボの一彈と化して、支那事變の勃發を見たのである。日支は同文の國であり、兩國間の國交は極めて古く、日支の親善は我々日本人の常に希求するところであつた。然し不幸にして東洋空前の大事變となり、皇軍は海に陸に聖戰を續けねばならぬ状態となつたのである。東洋永遠の平和確立と、全人類の福祉増進を圖ることは、實に我が國民の責務であり、理想である。國民は心を一にして、この大理想實現に邁進せねばならぬのである。

現代日本の國民に對して、最も強く要望せねばならないことは、動きつゝある世界の國々の眞の姿についての知識である。それは單なる知識の羅列ではなく、地理學上の理論に立脚したものでなくてはならぬ。我々は植民大陸の地誌的考察をなして、その地の富源と歐米列

強の『持てる姿』を認識したのであるが、亞細亞の陸地に關しても考察を進めねばならない。この大陸は古い文明發祥の地で、そこには優れた精神文明が建設されたのである。我々はこの大陸の真相を把握することによつて、吾人の使命を認識することが出来るのである。

本書は亞細亞大陸についての地誌であつて、全く新しい地誌的考察法に立脚して記述したのである。地誌の研究は地理學の根柢をなすものであるから、その研究に志ある者並に文檢受験者の必讀を希望するのであるが、更に新時代の國民教育の任にある教育家諸賢の一讀を切望するものである。著者が淺學を顧みず本書を公にした所以は、地理的教育的使命の大きなことを高調したい熱望からである。

昭和十四年三月

著 者 識

例 言

- (一) 本書はアジア大陸の地誌について論述したもので、その記述は全く新しい方法によつた。
- (二) 本書は文部省の中等學校新教授要目に準據したものであつて、新時代の要求する地理科の教育的使命を達成せんが爲に努力した。
- (三) 國民教育を主眼として編述したものであるから、各章節には必ず教授意見を記し、世界地誌教授の參考に資した。
- (四) 小學校高等科並に中等諸學校の地理教授者、文檢受験者の參考書として最適のものであると著者は信じてゐる。
- (五) 『植民大陸篇』の續刊として『歐亞大陸篇』を著述する豫定であつたが、之を二分して先づ『アジア篇』を記し、續刊『ヨーロッパ篇』をもつて完結することにした。

教材 解説 世界新地誌(亞細亞篇) 目次

第六編 亞細亞洲

第一章 歐亞大陸

歐亞大陸——アジアの氣節風——ヨーロッパの偏西風——文明の發祥地とヨーロッパ

第二章 アジアの自然景城

第一節 地形誌

地形的區分——北部諸低地——中央諸高地——南部古期諸臺地——諸大河低地——花綵列島——弧狀山脈の發達

第二節 氣候誌

夏の狀態——冬の狀態——氣節風地域——住民——氣候型・植物景城

第三章 滿洲國

第一節 滿洲帝國の獨立

極東のバルカン——日本の特殊權益——政治

第二節 地形・氣候

地形の三大區分——地形區——氣候

第三節 地誌

〔地理區〕

(一) 遼東半島區

(二) 遼東山地區

(三) 間島區

(四) 遼河流域區

(五) 遼西區

(六) 松花江上流域區	四九
(七) 松花江・嫩江流域區	五一
(八) 西遼河流域區	五四
(九) 呼倫貝爾高原區	五六
(一〇) 北部山地區	五六
第四節 産業	五七
(一) 農業	五七
自然的條件——滿洲大豆——穀物	
(二) 牧畜業	六〇
(三) 林業	六一
植生區——鴨綠江材——吉林材——北滿材	
(四) 鑛業	六三
鐵鑛——石炭——菱苦土礦	
(五) 工業	六六
日滿工業統制——油房業——食料品工業——製鐵製鋼業——煙草工業——木業	

第五節 交通・貿易	六八
道路——河川交通——鐵道——航空路——滿洲國の外港——貿易の特色	
第六節 住民	七六
滿洲人——通古斯族——漢族——蒙古族——日本人	
第七節 關東州	七九
位置——地形——氣候——産業——大連	
第四章 中華民國	八三
第一節 政治	八三
境域——政治——中華民國に於ける列國の利權	
第二節 地形誌	八七
地形の二大區分——西藏高原——崑崙山脈——タリム盆地——アルタイ山脈——蒙古	

高原——北支那平野——中支那平野——南支那平野	
-------------------------	--

第三節 氣候區

氣候區——北支那型——中支那型——南支那型——溫暖大陸型——ゴビ型——タリム型——雲南臺地型——西藏型	
---	--

第四節 支那本部

(一) 北支那	一〇二
(二) 中支那	一〇四
(三) 南支那	一〇六
(四) 東支那	一〇九
(五) 西支那	一一三
(六) 南支那	一二四

第五節 支那藩部

(1) 蒙古	一二九
(2) 新疆	一三二

西域交通路——天山南路——ズンガリヤ……………一三三
(3) 青海・西康……………一三四
(4) 西藏……………一三四

第六節 産業・交通……………一三五

(一) 産業の特色……………一三五
農業國——牧畜業——蠶業——商工業——貿易……………一四〇
(二) 交通……………一四〇
鐵道交通系——鐵道敷設と列國——南船北馬……………一四二

第七節 住民……………一四二

大人口國——華僑の分布——種族——纏足——大移民國……………一四五

第五章 印度支那……………一四五

第一節 自然景域……………一四五

地形の特色——ビルマの地形——シマン高原——メコン・メナム盆地——マレイ半島……………一四九

——熱帯氣節風區——赤道型氣候區

第二節 地方誌……………一五〇

政治的區分——東京——安南——老撾——交趾支那——カンボヂヤ——ビルマ——シアン王國——マレー聯合州——マレー保護州——海峽植民地……………一五六

第三節 産業・住民……………一五六

第六章 マレー諸島……………一五九

第一節 地形・構造……………一五九

島嶼の配列——スマトラ島——ジャバア島——小スンダ列島——モルツカ諸島——セレス島——ボルネオ島——フィリッピン諸島……………一六八

第二節 氣候誌……………一六八

赤道型——颱風の影響——ウ・トレス線

第三節 地誌……………一七〇

政治的區分……………一七〇

(1) 蘭領東印度……………一七二
ジャバア島——バクヴィア——スマトラ島——蘭領ボルネオ——セレス島——香料諸島……………一七六
(2) 英領ボルネオ……………一七六
(3) フィリッピン聯邦……………一七六
獨立問題——住民——産業——都市——マニラ……………一七九

第七章 印度……………一七九

第一節 政治……………一七九

印度帝國——印度の民族運動

第二節 地形誌……………一八一

(地形區)……………一八一

(1) 北部山地……………一八二
山岳障壁——ヒマラヤ山脈……………一八六
(2) ヒンドスタン平原……………一八七
(3) デカン高原……………一八九

第三節 氣候誌……………一八九

印度の季節——氣候區——マラバル海岸區——半島内部地方——コロマンデル區——アッサム・ベンガル區——ガンヂス平原區——北西部乾燥區——ヒマラヤ山地區……………一九六
第四節 産業・貿易……………一九六
農業——棉花——小麥——黃麻——甘蔗——茶——工業——貿易——日印貿易……………二〇一

第五節 地誌……………二〇一

(地理區)……………二〇一

(一) 印度高原……………二〇一
(1) 西部海岸區……………二〇一
(2) 東部海岸區……………二〇三
(3) デカン高原……………二〇四
(4) タール沙漠……………二〇四
(二) ヒンドスタン平原……………二〇四
(1) シンド……………二〇五
(2) パンジャブ……………二〇五
(3) 上流ガンヂス平原……………二〇六
(4) ガンヂス三角洲……………二〇七

(三)ヒマラヤ山地	二〇八
ネパール王国—ブータン王国	
第六節 交通	二二一
水運—鐵道—空運	
第七節 住民	二二四
人口—人種—宗教—階級制度	
第八節 セイロン島	二二七
直轄植民地—産業—コロンボ—コロンボの發達	
第八章 南西アジア	二三〇
第一節 概説	二三〇
地形及び構造—氣候誌—東西の交通路—政治的區分	
第二節 イラン地方	二三七
(1)アフガニスタン王国	二三七
緩衝國—地誌—カブール	

(2)ベルチスタン	二二九
(3)イラン王国	二二九
政治—遊牧地域—都市	
第三節 イラク王国	二三一
メソポタミア—地誌—バグダッド	
第四節 トルコ	二三四
小亞細亞—地理區—アンゴラ—トルコ共和國	
第五節 アラビア半島	二三八
(1)シリヤ	二三八
(2)パレスタイン	二三九
(3)アラビア	二四一
アラビア島—地誌—アデン	
第九章 アジアロシア	二四三
第一節 政治	二四三
ロシアの膨脹—アジアロシア—政治的區分	

第二節 地形誌

(1)東部高地	二四七
(2)シベリア臺地	二四九
(3)シベリア低地	二五〇
(4)西シベリア準平野	二五一
(5)ツラン低地	二五二
(6)コーカシア	二五三
第三節 氣候誌	二五三
極東地方—世界の寒極—バイカル湖附近—ツラン型—植物帶	
第四節 地誌	二五九
(1)極東地方	二六〇
北樺太—カムチャツカ—黒龍江流域	
(2)ヤクーツク	二六四
(3)ブリヤト・モンゴル	二六四
(4)西部シベリア	二六五
シベリア鐵道—草原帶	
(5)中央アジア	二六八

キルギス草地—トルコマン共和國—ウズベク共和國—タジク共和國	
(6)コーカシア	二七〇
概説—トランスコーカシア	

教材
解説
世界新地誌 (亞細亞篇)

櫻井 靜 著

第六編 アジア洲

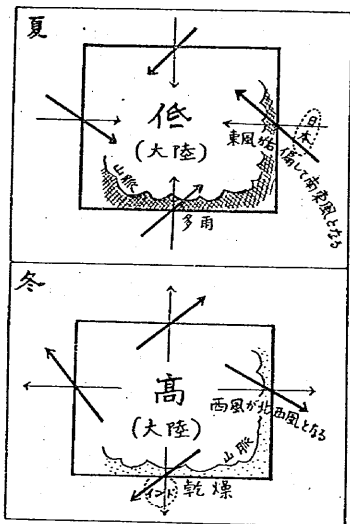
第一章 歐亞大陸

【歐亞大陸】(Eurasia Continent) アジアといふ語の起原は、メソポタミヤの北部に紀元前十五世紀の頃既に獨立國を形成したアッシリア(Assyria)の語によるもので、日出の國又は東方を意味するアス(Ass)によつてゐる。ヨーロッパ(Europe)は同じく日没の國の意であるエレブ(Ereb)に由來するもので、ギリシヤ時代を経て次第に語義が定まり、地中海交通時代にはローマ人等によつて、アジア・ヨーロッパの二區分がなされてゐたのである。アジア大陸は世界最大の陸塊であつて、バミル高原を中心として四周に延長した諸山脈は、其の間に高原・盆地等を有し、自然狀態並に人文狀態の複雑してゐることは他に類例を見ないのである。之をヨーロッパに比して見れば、アジアはその軀幹部をなし、ヨーロッパはその半島部であると見

ることが出来る。従つて地理的に論ずるならば、この二大洲の區分の如きは全く因襲上のものであつて、二洲は合して一つのユーラシア大陸（歐亞大陸）を構成してゐる。ユーラシアとはこの二洲を合したもので、Eurasia = Europe + Asia の意で、その總面積は五一八〇萬方呎に達し、世界全陸地の三五％に當り、その人口は一六億に餘つてゐる。

アジアとヨーロッパとの境界は割然たるものを決定し得ないことは如上の理由によつても判明するのであるが、その境界線は普通次の如きものによつてゐる。その南部はエーゲ海（Aegean Sea）マルマラ海（S. of Marmara）黒海（Black Sea）等により、更にコーカサス山脈（Caucasus Mts.）裏海（Caspian Sea）ウラル河・ウラル山脈（Ural Mts.）等に従つて北上してゐる。コーカサス山脈・ウラル河・ウラル山脈等によつて二洲の境界となすことは、何れも主として政治的・自然的境界によるもので、自然の境界としては他にやるべきものを見出し難いからである。然しコーカシアの地方では山脈にその區分を求めないで、その北方のマニッチ（Manich）低地によることもあるが、山脈をもつてすることが普通である。

【アジアの氣節風】 アジアの南東海岸地方は、世界に於いて最も著しい氣節風（Monsoon）の地帯であつて、我が國もこの地帯に屬してゐる。滿洲國・中華民國・印度支那・英領印度等のアジア主要部は實にこの氣節風地域にあるのであつて、人口密度が甚だ大なる所である。氣節風或は信風は英語のモンスーンであつて、アラビヤ語の Musun に由來してゐる。夏季アジアの陸地は熱せられて氣温が高くなり、ペルシア・



第1圖 アジアの氣節風と風向

アフガニスタン等の地域に最低氣壓の部分が生じ、この地域は更に北東に延長して蒙古高原の地方に及び、北緯三五度附近にある溫帶高氣壓帯は全く消失して低壓地帯となり、この中心部に向つて太平洋及び印度洋等から風が吹き込み、夏の氣節風が生ずるのである。東亞に位する日本・中華民國等では南東の氣節風（北半球では東風であるべきものは右偏して南東風となる）となり、大陸の南に位する印度では右偏する爲に南西氣節風が卓越し、これ等の氣節風地帯では何れも雨期となる。

冬季に於いては、アジアの陸地は冷却して高氣壓の地帯となり、北緯三五度附近には溫帶高氣壓地帯が生じ、最も低溫の地方はヴェルホヤンスク（Verkhoyansk）を中心として生ずる爲に、高壓の中心はこの二つの理由の結合した中

間のバイカル湖地方に發生する。この地方を中心として流動する冬の氣節風は、東亞の日本島・中華民國等では北西風となり、大陸の南に位してゐる印度では北東の氣節風となり、滿洲・中華民國・印度等は何れも乾期となる。

アジアの南東地方はこの気節風の影響を受けて農業の發達を來したことは著しいことで、米の耕作・茶の栽培・養蠶業等が行はれ、之に依存して過大の人口が藏されてゐるのである。印度・支那等の古代文明の發祥地はこの地帯に存在し、現今アジアに於いて最も文化の進んだ我が日本は、實にこの地域の北東部に位置してゐるのである。

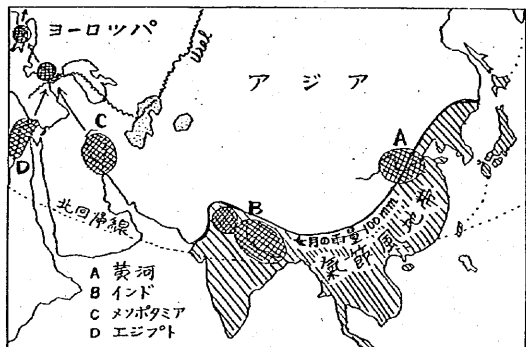
【ヨーロッパの偏西風】 ヨーロッパの氣候上に於いて最も著しい事象は、メキシコ灣流（Gulf Stream）上を卓越する偏西風（Prevailing Westlies）の影響が大なることである。この偏西風は温帯高氣壓帯と極地方との間に見られるもので、南西貿易風（S. W. Anti-Trade Winds）が下降して生じたのである。赤道地方に於いて上昇した氣流は、北半球に進んで南西の逆貿易風となり、北緯三五度附近に下降して温帯高氣壓帯を形成してゐるが、それより更に北進するものは右に偏して流動するから偏西風となるのである。

アジアでは氣節風・旋風等の影響を受けてゐるから、かゝる偏西風の存在は明瞭でないが、ヨーロッパでは氣節風の關係がない爲にその發達が顯著であつて、この偏西風地帯には、イギリス・フランス・ベルギー・オランダ・ドイツ・デンマーク・ポーランド・ノルウェー・スウェーデン・ソヴィエト聯邦等の文明國が存在してゐる。ノルウェーの西海岸に就いて見れば明瞭である如く、北緯七〇度以北の地方に至る迄、凍海面を有し、其處に漁港の發達を促したことはメキシコ灣流の影響で、陸地の氣候も著しく温和となつてゐる。ヨーロッパ南部の地中海沿岸地方に見られる地中海式氣候（Mediterranean Climate）は、冬季の降雨を特色とするの

であるが、これは偏西風帯が南下する爲に降雨が見られるのである。

【文明の發祥地とヨーロッパ】

中華民國の黃河流域は世界の文明發祥地の一つで、漢族は今より凡そ五〇



第2圖 文明發祥地と其の位置

〇〇年前にこの地方に據り、すでに統一ある政治が行はれたのである。後に舜及び禹の如き有徳の人が出て、共に治水事業に成功して社會の統一を圖り、中央集權の實を擧げたのである。禹は特にその功が大であつて、從來の禪讓の制を改めて王位世襲の制度を定め得たことは中央集權確立の結果である。インドではアリヤン族（Aryans）の一派が、凡そ四〇〇〇年以前に印度に來り、この地に文化を扶植したのである。殊に釋迦の出現によつて佛教の興起したことは精神文化の著しい發展である。

次にメソポタミア（Mesopotamia）の地方について見なければならぬ。この地方はチグリス河（Tigris）エウフラテス河（Euphrates）の隻子河があつて、ナイル河の如く氾濫期を有し、灌溉の事業が行はれて早くから農業の發達を來し、紀元前三〇〇〇年頃既にスメル人（Sumerians）は幾多の都市を建設してこの地に

據つたのである。其の後にスメル人はセム系の種族に征服せられてバビロニア國（Babylonia）の出現を見たのである。エジプトの地理に就ては本書の姉妹篇『植民大陸篇』に記述したのであるが、世界に於ける古代文明の發祥地は、①何れも大河の下流地方の沖積平原に發生し、②週期的の降雨によつて氾濫期を有する特色ある地帯であり、③灌溉事業によつて農業の發達が促され、中央集權が達成されたのである。④而して現世界の文化地帯よりも赤道に接した亞熱帶地方に存在し、アジア大陸がその核心をなすものである。

ヨーロッパの文明は近代の世界文明の源泉となつたのであるが、その源はローマ並にギリシアの文明に由來してゐる。ギリシアはエーゲ海（Aegean Sea）の多島海に臨み、この海上に存在する無數の島嶼は、葡萄・オリブ・柑橘等の地中海性植物の産物に富み、早くから通商が行はれエジプト文明を承けて開明の域に達し、所謂エーゲ文明を形成したのである。ギリシア人は紀元前一三世紀にこの地方に來り、エーゲ人を驅逐してその文明を繼承し、フェニキア人との通商によつて東方文化並に文字を學んでギリシアの發達を見たのである。即ちヨーロッパ文明の源はエジプト並にバビロニアの文明に由來し、エーゲ海・ギリシア・ローマを経て北ヨーロッパに於いて結實し、イギリスの如き廣大なる領土を有する植民帝國の出現を見るに至つたのである。

【教授】ヨーロッパとアジアは結合してユーラシア大陸を形成するもので、地理上の觀點からすれば區分は出來ない。然

しアジアの氣候風地帯とヨーロッパの一大半島を比較して見るならば、二つの文化地帯を構成することが知られるのである。従つて二つの區分も便宜であり、對比して考察しなければならないのであるが、ユーラシア大陸として取扱ふことを忘れてはならない。

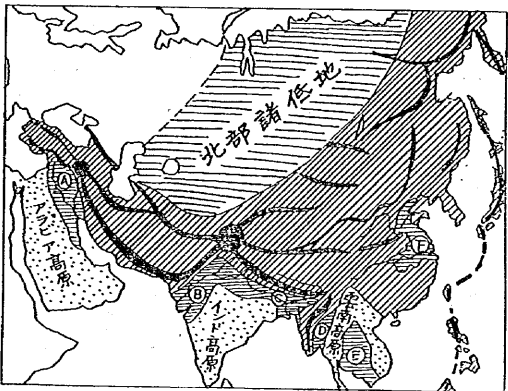
第二章 アジアの自然景域

第一節 地形誌

【地形的區分】

アジアを地形上から區分すれば次の如くであつて、大陸部を四つの地形區分となし、更に東部及び南東部に亘つて存する日本列島・馬來諸島等の花緑列島を分つことが出来る。①北部諸低地（The Northern Lowlands）はシベリア平原から中央アジアに及ぶ地域を占め、②中央諸高地（Central Highlands）はバミル高原を中心として二つに區分せられ、その一はバミルより北東部に續く高地で、中華民國からシベリアに亘るものであり、他はバミルより南西に及び、アフガニスタン・ペルシア・小アジア高原に亘る三角形の地帯である。③南部古期諸臺地（The Old Plateaus of the South）はアラビア半島・インド半島・雲南印度支那の諸高地で、古い地質の高地である。④諸大河低地（The Great River Valleys）——メソポタミア・インダス河・ガンデスリブラマブトラ低地・イラワヂ河・メコン河・揚子江等の沖積平野である。⑤花緑列

島（Festoon Islands）——日本列島・馬來諸島等は恰もアジア大陸を保護する如き形狀を有し、花綵の如く海中に山脈弧を示してゐる。



第3圖 アジアの地形的區分

(1) 北部諸低地 (The Northern Lowlands)

廣大なる三角形の低地を形成し、その東部はオビ河 (Obi R.) エニセイ河 (Yenisei R.) レナ河 (Lena R.) 等の流域に屬し、エニセイ河以東はシベリヤ (Siberia) によつてアンガラランド (Angaraland) と呼ばれた古大陸の一部であつて、解析された高原狀の地帶である。之に反してエニセイ河以西の低地は、西部はウラル山脈に及ぶまで新しい堆積平原であつて、オビ河流域の平原を構成してゐる。前者を東シベリアと稱し、後者を西シベリアと呼んでゐる。

この地帶の南西部は中央アジアの地方であつて内陸流域 (Inland Drainage) をなし、アム河 (Amu Daria) シル河 (Syr Daria) 等は内陸湖に注いでゐるが、其の他に於いては沙漠地域に消失するものが多い、その水源はアジアの中央諸高地であつて、この高地を離れて中央アジアの平原に

出ると砂礫を堆積し、こゝでは河道の變遷が著しい。この地方の諸大河には次の如きものがあり、シベリアの諸大河は何れも寒冷な地方に向つて流れ、北極海に注いでゐることは交通上の缺點である。

北極海斜面	レナ河 (Lena R.)	四六〇〇 軒—二三八萬方軒
	エニセイ河 (Yenisei R.)	五二〇〇 軒—二五九萬方軒
	オビ河 (Obi R.)	五二〇〇 軒—二九五萬方軒
大陸斜面	アム河 (Amu Daria)	二五〇〇 軒—四六萬方軒
	シル河 (Syr Daria)	二八六〇 軒—六五萬方軒
	ウラル河 (Ural R.)	二三八〇 軒—二二萬方軒

(2) 中央諸高地 (Central Highlands)

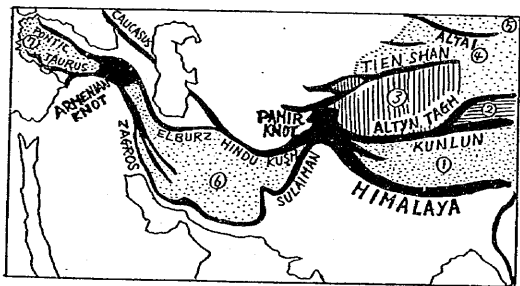
【パミール高原】 (Pamir Plateau) パミール高原は『世界の屋根』 (Roof of the World) と言はれ、地形的にはヒマラヤ山脈の如き新しい第三紀の褶曲山地と、古生代褶曲山地——コーカサスのパルミール (Palmyra) に屬するアルタイ・天山・崑崙・秦嶺・南山等が、こゝに結合してパミール結點 (Pamir Knot) をなしてゐるのである。これ以西の中央諸高地はイラン高原 (Iran Plateau) となり、更に小亞細亞 (Asia Minor) に及ぶものであるが、これはヒマラヤ山脈に續いた新しい造山期の形成によるメソイデン (Mesoiden) である。イラン高原の三角形高地と小アジアの結合部はアルメニア高原であつて、東部のパミール結點に對してアルメ

ニア結點 (Armenian Knot) と呼ばれてゐる。

【中央アジア諸高原】

バミル以東の中央アジア山脈及び諸高原は、ヒマラヤ山系の諸山脈を除けば何れも古生代褶曲に屬し、爾後の地塊運動によつて區分せられたものであり、アルタイ・崑崙・天山等の諸山地が北東に走つてゐる。これ等の山頂には平坦面を有して準平原遺物を留めて居り、天山の隆起準平原は殊に多くの學者によつて注意せられ、中生代末或は第三紀初には蒙古高原地方に及ぶ地域に亘つて準平原化が行れてその平坦面を形成した。この準平原は隆起して分裂し、或は褶曲となり斷層となつて見事な斷層山脈群を構成したのである。マハチック (F. Machatschek) によればこの地方のブロック運動は準平原面を複雑に變位せしめ、天山等の隆起準平原を構成したのであつて、ヒマラヤ等に於いては新堆積層が新しい造山運動によつて褶曲山地を形成し、古生代褶曲山地の天山等ではブロック運動が行はれたものであるといふ。

これ等の山地間には多くの盆地・高原等を介在し、その大部は内陸流域に屬してゐる。タリム盆地 (Tarim Basin) は舊地塊の一であると思は



第4圖 アジア中央部の諸山地

れセリンディア地塊と呼ばれてゐるが、その構造は未だ不明である。この盆地内を東流するのがタリム河で、ロブノル (Lob Nor) に注いで消失してゐる。天山の東部には著しい陥没部があつて海面下二二〇mに及び、トゥルファン (Turfan) 地溝の名を得てゐる。

- | | |
|----------------------------------|-------|
| ① 西藏高原 (Tibetan Plateau) | 中央諸高地 |
| ② ツアイダム盆地 (Tsaidam Basin) | |
| ③ タリム盆地 (Tarim Basin) | |
| ④ ズンガリア盆地 (Zungaria Basin) | |
| ⑤ ゴビ高地 (Plateau of Gobi) | |
| ⑥ イラン高原 (Plateau of Iran) | |
| ⑦ 小アジア高地 (Plateau of Asia Minor) | |

【中央部アジアの構造】 中央アジアの諸高原については、そのブロック山地群の特色について注意したのであるが、その地形發達に就いては E. Suess, B. Willis, E. de Martonne, F. Machatschek 等の學者によつて明かにされたのである。この中央アジア諸高原に對して、ヒマラヤ系統の新褶曲山地は如何なる關係にあるかは残された問題であつて、實に興味ある事である。

コーベル (L. Kober) は中央アジアの構造に就いて論及し、古生代褶曲山地は中生代に準平原化せられ、

現存するキルギス準平原の如く平坦地を形成したのであつたが、第三紀に隆起して山地群を造つた。一方に於いてはヒマラヤの褶曲が行はれ、その造山運動の餘波によつてプロック山地群が生じた。然しヨーロッパに於けるアルプスの新褶曲山地と、獨逸地方の新生(Neubelbung)によるプロック山地との關係の如く、その區別は明らかでなく、その構造は複雑である。シュタウプ(R. Staub)はバミル結點及びアルメニア結點は共に對曲(Scharung)であるとなす從來の説明に對して、之は單なる彎曲によるものであることを唱へてゐる。

アルガン(E. Argand)は中央アジアのプロック山地群に對して、準平原となつた後に斷層・撓曲の作用が及んで山地の分離が行はれたものであり、之等の山地群は整然たる山脈の系統を有する特色に注意したのである。そして此の如き系統は深部褶曲の結果であるとなし、ウェーゲネルの大陸移動説を取り入れて中部崑崙の大分岐等を巧妙に説明した。

(3) 南部古期諸臺地 (The Old Plateaus of the South)

アラビア高原・インド高原・雲南高原の三地域を占め、何れも古い地質の地塊である。アラビアの高原(Plateau of Arabia)は南西部に於いて最も高く北東に向つて傾斜する地塊で、片麻岩・片岩等の結晶質岩石と之を貫く花崗岩・閃綠岩等の古期噴出岩から成り、アフリカに續く大沙漠地を形成したのであるが、第三紀の初めに紅海の陥没があつて分離されたのである。従つて地質的にはメソポタミア堆積地の存在によつ

てアジア・アフリカの境界を區分することが出来る。印度半島高原(Plateau of Peninsular India)も同様に古い地質から成り古生代以後の地層は全く褶曲を受けず、海侵(Transgression)の現象もなかつた。シウヌによつてゴンドワナランド(Gondwanaland)と言はれた舊地塊の一部で、その西部は切斷せられ東部が印度半島として殘存したもので、地形は西より東に傾斜してゐる。雲南高原(Plateau of Yunnan)は主として前カンブリア紀の地質で、その地質の變化に應じて特に地形の差異が著し。

(4) 諸大河低地 (The Great River Valleys)

第三圖に示す如く、南部古期諸臺地と中央諸高地との間にある堆積平原である。(A)メソポタミア(Mesopotamia)はチグリス河・エウフラテス河流域の堆積平原である。(B)インダス盆地(Indus Basin)及び(C)ガンヂス川・ブラマプトラ盆地(Ganges-Brahmaputra Basin)は同名の河によつて貫流されてゐるインド北部の低地で、ヒマラヤ褶曲山地とインド高原との間にあるヒンズスタン(Hindustan)の堆積平原を構成する。(D)イラワヂ盆地(Irrawady Basin)(E)メコン盆地(Mekong Basin)には各々同名の河流があり、(F)揚子江盆地(Yangtze Basin)は支那東部の大平原である。

太平洋斜面	黒龍江(R. Amur)……四四八〇(呎)・二〇五(萬方呎)
黃河(Hwang-ho)……四一〇〇……九八	
揚子江(Yangtze-kiang)……五二〇〇……一七八	

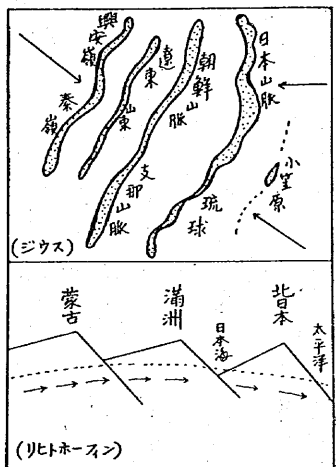
(メコン河 (Mc-kong).....四〇五六.....)	印度洋斜面
イラワヂ河 (Irrawady).....二〇〇〇.....四三	ガンデス河 (Ganges).....三〇〇〇.....一七三
インダス河 (Indus).....三一八〇.....九六	エウフラテス河 (Euphrates).....二〇〇〇.....七六

(5) 花綵列島 (The Festoon Islands)

【東亞の構造】

東アジアの構造に就いては多數の學者によつて解釋せられ、その花綵狀の列島の發達に關しては種々説明が與へられてゐる。ジウスは造山力の方向をアジア大陸の方から及んだものと見て、日本では東方に彎曲し、馬來諸島では南東に彎曲するものとした。花綵狀をなす日本列島は五箇の並行褶曲山脈の二であり、幾つかの弧が結合して列島を形成した。之に對してリヒトホーヘンは構造線によつて説明し、三つの地壇の最東端が日本の北緯となり、南緯部は崑崙山系に屬するものであるといふ。従つてジウスとは全くその解釋を異にし、リ氏の考察は階段狀斷層の如き地壇斷層が起つて東部が陷落し、曳裂によつて彎曲した斷層が形成されたのであるといふ。

ナウマン (H. Neumann) は日本列島の弧狀山脈を褶曲の結果であるとなし、之をヒマラヤ・アルプスの大褶曲山脈と比較して説明し、その三緯を區別し一は支那山系より日本本島に續くもの、他の二つは千島緯



第5圖 ジウス並にリヒトホーヘンの東亞の構造

と琉球緯とを認めた。更に内外兩帶を區別し、内帶は斷片狀となつて火成岩の噴出が多いのに對し、外帶は緻密で帶狀をなすことに注意してゐる。小川博士はナウマン氏の如く原構造は一緯の褶曲山脈と考へて居り、その現在の構造は第三紀舊期の變造によるもので、この運動は極めて著しいことを指摘した。近年に至つて東亞の弧狀構造線の成因を考究して東亞の地形を解釋し、岩漿の活動

が深淺を異にすることによつて弧狀が決定されたのであらうと述べられた。

【弧狀列島の發達】

ホップス (Hobbs) は弧狀列島の發達について論及し、大洋底の徐々なる陷没によつて生ずる横壓力が大陸を Pelatal として褶曲山脈を形成するとなし、ジウスとは反對に外側より内側に働く爲に生ずるものとなした。その形成の初期にあるものは我がマリアナ列島で曲率は四五度以下であり、此の如き島弧が次第に發達するに至ると凸面部には海溝を生じ、我がバラオ諸島の如く曲率が大きとなつて五一度に達し、海岸段丘並に隆起珊瑚礁等の存在を見るのである。スンダ列島 (Sunda Islands) は更に發達して一〇五度の曲率を有し、モルッカ諸島 (Moluccas) は更に一八〇—二〇〇度の曲率を有し、數列の弧狀列

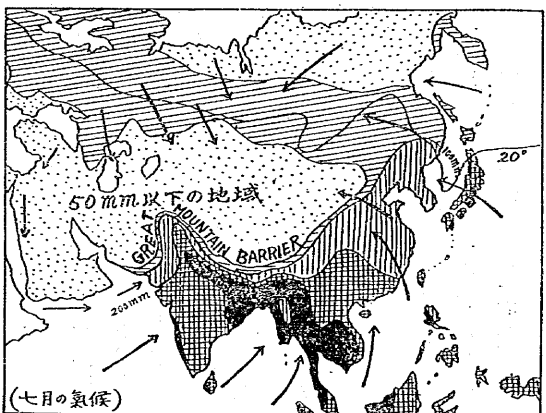
島となつてゐる。

東亞の花綵列島は地球上に於いて最も顯著な島列を形成し、前溝として多くの海溝の分布を見るのであつて、海溝と弧狀山脈との關係を満足に説明し得るものでなければならぬ。コーベル氏も東亞の構造については簡略なる記述をなして居り、帷子學士によればそのオロゲン説（Orogen）もこゝでは適用が困難であるらしい。徳田貞一博士は雁行狀の褶曲構造を研究してその機巧を説明し、東亞の花綵列島は地球收縮による壓縮彎でもなく、リヒトホーヘン氏の如き單なる曳裂彎でもなく、海盆の後方は曳裂を受けてその前面が壓縮されて褶曲を形成するとす「曳裂扇狀體」を立案し、これはウェーゲネルの如き漂移に近い形式のもので且つ地形的のものであることを述べられた。

【教授】アジアの如き複雑な大陸の地図は、授業時間中に之を描かして地形上の記入をなすことは困難である。印刷したものを用ゐて其の中に山脈、臺地等を記入し、前述の五地形區を理解する様に致し度。高等小學地理卷一には、花綵列島・南部古期諸臺地・中央諸高地・北部諸低地の順序に記述してあり、河流の説明として堆積平野の存在を述べてゐる。

第二節 氣候誌

【夏の状態】 アジアの地形は極めて複雑であり、南北其の緯度を異にしてゐること大である爲に、簡単な記述をもつてその氣候を説明することは困難である。こゝでは氣溫と風向及び雨量との關係から夏・冬の



第6圖 アジアの七月の氣候圖

上昇氣流となり、甚だしい凝結が行はれて降雪を齎すのである。東部アジアでは四月頃から南東氣節風が吹

き始め、六月には極めてよく發達して九月に及んでゐる。

【冬の状態】 一月の等温線の状態は何れも南に彎曲してゐて、夏の状態とは全く反對である。零度の等温線は黄河附近からカスピ海に達し、ヴェルホヤンスク(Vorkhoyansk)では(一五〇度の月平均気温を示し、この附近には世界の寒極(Cold Pole)が存在してゐる。かゝる寒冷地帯の存在と三五度附近の温帯高気壓帯の形成とに依つて、バイカル湖を中心とした高気壓區域が發達し、こゝを中心として氣流は大陸の四周に向つて流動する。従つてこの冬季氣節風の卓越する時期は、氣節風地域を通じて何れも乾期となつてゐる。

夏の氣節風を遮斷する諸山地——ヒマラヤの大障壁・中華民國の西部山地東縁——の存在する爲に、温潤な風はこれ等の山地を越えて乾燥となり、冬の氣節風による降雨も見られない中央アジアの地域は、内陸流域となつてゐる。こゝには周囲の山地の影響から乾燥地形が發達し、多くの沙漠盆地は温帯沙漠として最大なるものを形成し、熱帯地に生じたサハラ沙漠地に連續してゐる。

【氣節風地域】(Monsoon Region)

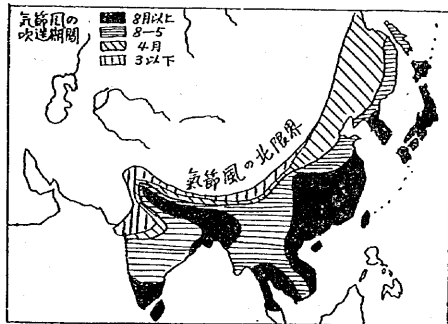
産業 アジアの氣節風地域は第七圖に示す如くであつて、第二圖に示した七月の雨量一〇〇耗線或は全年の雨量五〇〇耗線に大體一致して居る。氣節風地域の代表的地方は印度・印度支那・中華民國の地方で、夏の湿潤期と冬の乾燥期の特色を有し、この氣候的影響は産業——特に農業上に著しい。印度では氣節風の到来によつて農耕が開始されるもので、その降雨の量が少きに失する場合には饑饉となり、農業者の生活に至

大の關係を有してゐる。中華民國の地域も同様であつて、米・茶・甘蔗・棉花等が耕作せられ、この地域を通じて集約的農業(Intensive Cultivation)が行はれ、之に依存して人口密度の大を來したのである。

米(Rice)は耕作上高温多湿を必要とするもので、アジアの氣節風地域をその主産地となし、アジアの文化地帯と密接な關係に置かれてゐる。南部の氣節風地域では雨量が多く且つ規則正しい爲に灌漑を必要としな

世界の茶産出(一九三〇年)			
中華民國	二五・〇〇〇噸	(推算)	三七%
印度	一七・八七〇噸		二七%
セイロン	一一・〇七〇噸		一六%
蘭領印度	六・九〇〇噸		一〇%
日本	四・七九〇噸		七%
印度支那	〇・二二〇噸		
世界總計	六七・三四〇噸		一〇〇%

領印度等が主要地である。棉花(Cotton)の栽培條件に就いてはアメリカ合衆國の條に記述したが、成長期の濕熱は氣節風による降雨によつて滿され、世界に於いて第二位の産地として一二%を出してゐる。中華民國も合衆國・インドに次ぐ産地として世界産出の六%を占め、將來もその發達は有望視されてゐる。



第7圖 氣節風地域

「気節風地帯の國家及領土」

日 本	滿 洲 國	中 華 民 國
(面積) 六八	(面積) 一一九	(面積) 九九〇
(人口) 九一〇〇 萬人	(人口) 三三七〇	(人口) 四・四一〇〇
東 京	新 京	南 京

【住民】 気節風地域には日本・滿洲國・中華民國・シアム等の獨立國があり、英領印度・佛領印度等の植民地があつて、約九億の人口が藏されてゐる。印度には三億五〇〇〇萬の人口があり、中華民國は四億四〇〇〇萬の人口を有し、共に人口の過大な地方であるからヨーロッパ人の植民は困難である。爲に歐人の政治的・經濟的發展は興味ある問題である。ボローク氏 (C. H. Pollock) は西歐人の如く海洋性氣候の諸國民はこの地方の植民に適し、大陸的なロシア人は不適當であると述べ、馬來人はこの地方の各地に移住し廣い分布を有する優秀な民族であるといふ。果してヨーロッパ人・馬來人がこの地方に發展し得るか、また海洋性氣候の環境を有する日本人が如何なる發展をなすかは今後の大問題である。

【註】 南東アジアの人種集團中で最大の集團は支那人であり、黃河流域に發祥した支那の文化は、現代に至る迄繼續して支那四億の民を融合したのである。彼等はこのモンスーン地域の最も價值ある場所に住し、その思想・制度・科學・産業等は何れも驚異に値するものであり、現世界に於いては世界の各地に文化のヨーロッパ化が見られる様に、過去に於けるアジア東部に就いては支那化が行はれたことを考察してその變遷を見たい。

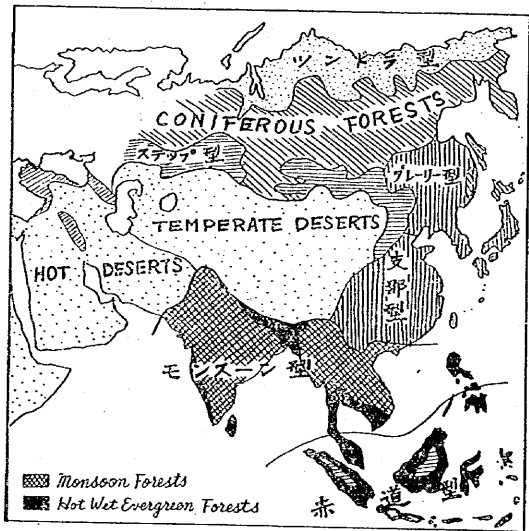
【氣候型・植物景観】

アジアの氣候的區域については前述した気節風地域が最も主要なるものであつて、この氣候を^〇氣^〇節^〇風^〇型 (Monsoon Type) と稱すべきであるが、インドがその代表的のものであるから印度・印度支那半島の區域を Monsoon Type となし、東部を^〇支^〇那^〇型 (China Type) として區別した。

(1) 赤道型 (Equatorial Type) は馬來半島の南端及び馬來諸島を包括した地方で、一年を通じて全く季節の變化なく、ケッペン氏の高温多雨原始林式氣候 (アフリカ氣候参照) に相當する。シंगाポールの一月は二六・七度で七月は二七・四度を示し、雨量は常に多く全年の雨量は二五九〇耗である。熱^〇帯^〇常^〇綠^〇森^〇林 (Hot Wet Evergreen Forests) はこの地方を主とし、更にモンスーン型の多雨地方に點在してゐる。

(2) モンスーン型 (Monsoon Type) は南部の気節風型であつて、高温濕潤期と冷涼乾燥期を特色とするもので、植物は乾燥期に落葉する闊葉樹が多く^〇氣^〇節^〇風^〇森^〇林^〇及^〇び^〇ス^〇ク^〇ラ^〇ブ (Scrub) を形成してゐる。

【註】モンスーン地方の動物 この地方には殊に特殊な動物が多く、獅子・虎・豹・犀・鯨魚等は最も恐怖せられてゐる。マレー半島の密林中には各地に沼澤性の所があつて、野獸の集合する所があるといふ。象も野性のものは性質が粗野であるが、印度支那の象は比較的従順で使役せられてゐる。象の年齢は通常一五〇歳迄であるが三〇歳位で成熟するもので、その捕獲法は材木で圍んだ大きな罠をつくり、風下から象群に近づいて馴化した象を使用して罠内に導くのである。かくして捕はれた象は馴化せられ、運搬用として重要な動物をなすもので、チーク材の如き巨木を河岸等に運ぶことなどは最も得意とするものである。



第8圖 アジアの氣候區

(3) 支那型 (China Type) は氣節風地域の東部を占めた地方で、またアジアの旋風地帯に屬してゐる。夏季には南東氣節風の影響を受けて雨多く、冬季は寒冷で降雨が少い。北支に位する北平の一月氣温は(一四・五度であるが、七月には二六・四度に達し大陸性の度著しい氣節風區で北支那型となり、揚子江下流は温暖で河湖の影響を受けること大であ

り、上海の一月は三・七度で七月は二六・九度である。これは中支那型と呼ばれてゐる所で温和な氣候を呈するが、冬季には海岸地に至る迄降霜を見る。珠江流域は南支那型で亞熱帶性となり、香港の一月は一五・六度で七月は二七・七度である。

(4) 冷涼溫帶區 (Cool Temperate Region) は滿洲國から黒龍江流域に亘る地方で、北東部の氣節風地域である。夏季には高温となり南東風による降雨があるが、長い乾燥期と非常に寒冷な冬をもつてゐる。カナダ西部のプレーリーの氣候に類似したもので、プレーリー型 (Prairie Type) をなしてゐる。

(5) サハラ型 (Sahara Type) はアラビヤ半島からイラン高原に亘る熱帶沙漠の地域で、イランは高度が大なる爲にアラビアとは更に區別し得るのであつて、ハーバートソンに従つてイラン型 (Iran Type) とする。

(6) 溫帶沙漠區 (Temperate Deserts) は西部支那から中央アジアに至る内陸流域の地方で、乾燥である爲に植物は少いが各地にスクラン・草地等があり、山麓地方には農耕地が發達してゐる。

(7) ステップ型 (Steppe Type or Temperate Grassland Climate) はケルマン氏によつてステップ氣候と呼ばれ、夏に暑く冬は甚だ寒冷となる大陸性氣候で、降雨は春・初夏に僅かばかりある型式である。シベリア南西部の草原帶・蒙古高原北部等に亘つてゐる。

アジア各地気温・雨量及び位置・高度											
気候型	地名		最寒月気温		最暖月気温		年平均		雨量(mm)		緯度
(1)赤道型	シンガポール	バタヴィア	ボンベイ	カルカッタ	河内(ハノイ)	北平	上海	香港	ハルビン	奉天	高度(m)
	26.7	25.5 (1・2)	24.0	19.2	16.4 (2月)	-4.5	3.7	15.3 (2月)	22.0	13.0	3
(2)モンスン型	27.7 (5月)	26.6 (5・10)	29.0 (5月)	30.5 (5月)	28.8 (6月)	26.4 (8月)	27.6 (8月)	27.9	23.7	24.7	11
(3)支那型	27.1	26.2	26.0	25.9	23.4	11.5	15.5	22.3	3.0	7.2	6
(4)冷涼温帯区	2502	1800	1690	1619	1776	500	1125	2056	553	671	14
	1°17' (N)	6°11' (S)	18°54' (N)	22°36' (N)	21°22' (N)	39°57' (N)	31°55' (N)	22°18' (N)	45°45' (N)	41°48' (N)	38

(5)サハラ型	イラン型ハン		(6)温帯沙漠区		(7)ステップ型		(8)寒冷温帯区		(9)ツンドラ型	
0.2	イラン型ハン	イラン型ハン	ヤルカンド	サマルカンド	トムスク	イルクーツク	イルクーツク	イルクーツク	イルクーツク	イルクーツク
27.8	6.0	0.6	27.6	25.6	19.4	17.8	17.4	15.5	15.1	15.1
15.2	13.1	12.3	13	13.1	0.9	1.3	1.3	15.9	15.9	15.9
130	13	13	13	13	534	345	378	128	128	128
32°38' (N)	38°15' (N)	39°39' (N)	56°30' (N)	52°16' (N)	67°33' (N)	67°33' (N)	67°33' (N)	67°33' (N)	67°33' (N)	67°33' (N)
1630	1255	720	122	467	100	100	100	100	100	100

(8)寒冷温帯気候 (Cold Temperate Climate) はシベリアの大部を占めた森林帯の地方であり、樺・落葉松・樺等の森林 (Taiga or Coniferous Forest Belt) から成つてゐる。イルクーツクの気温は一月が(-)二〇・四度で、七月が一七・四度で雨量は四六七粒である。

(9)ツンドラ型 (Tundra Type) は森林地帯の北部にあつて、夏季を除いた一年の大部は雪に被覆されてゐる。この地方にある植物は皆蘚苔類のみで、馴鹿苔 (Reindeer Moss) は馴鹿の食料として重要である。

(10)地中海型 (Mediterranean Type) は小アジア半島の西海岸並にシリア地方に見られ、地中海性の農産があり、古くから開明の域に達した地方である。

【教授】 地形と氣候との關係について教授し、前述の如き氣候的區分がなされることを知らしめたい。そしてこの氣候區が現在のアジアに於ける政治的境界とよく一致してゐるのであつて、地誌教授上特に留意することが大切である。教授の核心は勿論氣候風地帶の理解に重點を置くのであるが、他の地域と比較することによつて一層明確になるものである。高一の地理書には地形・住民・産業・宗教・區分等が挙げられてゐるが、地形・氣候を中心として之に關係づけて説明するのがよいと思ふ。

第三章 滿洲國 (Manchukuo) (面積二二六萬方呎 人口三三七〇萬)

第一節 滿洲帝國の獨立

【極東のバルカン】 滿洲並に朝鮮半島の地は極東のバルカンの稱を得た所であつて、滿洲人・漢族・朝鮮人等の居住する所であり、政治地理上からは、東亞に於いて最も樞要な場所を占めた所であると言はねばならない。日清戦争の起因は實に朝鮮半島地の宗屬問題に始まるもので、我國は朝鮮を獨立國と認めて之が發展に對する助力をなしたのであつたが、清國は之を自國の隸屬關係にあるものとしたのである。日清戦争は我國の大勝に歸して、その結果清國をして朝鮮の獨立を確認せしめ、世界各國の野心をこの半島地から除去することを得たものであつたが、遼東半島の日本への讓渡問題（鴨綠江河口より鳳凰城・海城・營口を経て遼河口に至る一線以南）に關しては露・獨・

佛の三國干涉があつた爲に、遂に之を支那に還附せざるを得なかつた。

露西亞は極東に對して大なる關心を有し、次第に野望を露してシベリア地方に東方經路を進め、一八五八年の璦琿條約によつて黒龍江左岸のシベリアを領有し、次いで滿洲の地に於いて鐵道を敷設し、一八九八年旅順・大連の地域を租借したのである。一九〇〇年の北清事變に際しては滿洲の各地を占領し、事件終了後も兵を撤せず、この兵を鴨綠江方面に移して朝鮮を威壓したのである。日本は勿論、英國其の他の國々も露西亞のかゝる野心を妨げんとしたが、露國は次第に領土的野心を逞しうするに至つたもので、遂に日露の開戦を見るに至つた。こゝに於いて我が國は未曾有の國難に當面したが、我が軍は陸に海に戦勝を續け、ポーツマス和議の結果、我が國は、關東州・南滿洲鐵道附屬地の租借並に鐵道の經營等、ロシアの有する利權を繼承したのである。

【日本の特殊權益】 日清・日露の二大戦役は何れも我が國難であり、滿洲・朝鮮の地域を中心として發生した民族の闘争である。この國難を打開する爲に我が國はその全力を傾倒し、實に上下心を一にしたもので、多くの同胞の生靈と莫大な富を失つてゐることを忘れ得ない。この二大戦役の結果として露國の有する利權の大部が繼承せられ、この權益に對して經營と巨額の投資がなされたものであり、日本の特殊權益の發生は極めて當然のものである。之が大正四年に至つて（日露戦争の終結による）所謂「對支二十一ヶ條要求」がなされ、之によつて滿洲に於ける我が國の利益が確認された。

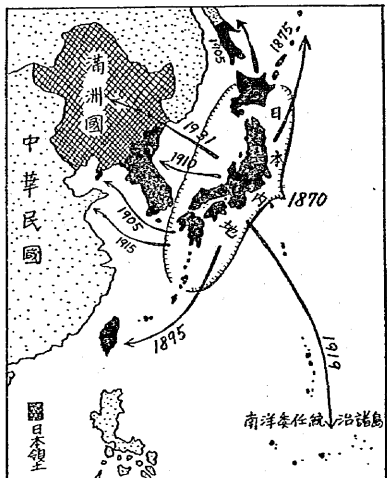
【註】特殊権益の主要なるものは、^①關東州及び南滿洲鐵道附屬地の租借權で、大正四年に至つては廿五年を九年間に改め、關東州は一八九八—一九九七年、南滿主要線は一九〇三—二〇〇二年、安奉線は一九〇八—二〇〇七年となる。^②滿鐵の經營及び吉長線の受託經營・吉會線敷設權（吉長・吉會線は京國線と改められて完成）^③土地の商租權。^④守備隊駐屯權。^⑤撫順・鞍山等の鐵山採掘權。^⑥鴨綠江森林の伐採權。^⑦中立地帯の設定。^⑧日本人吏員の僱聘（中華民國の時代には殆んど行はれなかつた）^⑨間島に於ける鮮人の雜居權等である。

滿鐵の經營はすべての權益中の根幹をなすものであるが、中華民國は條約を無視してその並行線を敷設し、その競争線の出現によつて滿鐵の収益は非常に減少を來した。其の他排日的行爲や鮮人の雜居に就いての山積した事件は、中華民國政府の不誠意によつて何れも解決を見ることなく、近くは萬寶山事件・中村大尉事件等は日本人をして極度に憤激せしめたが、昭和六年九月十八日中華民國官兵が奉天に近い柳條溝に於いて滿鐵を破壊した事變が起り、遂に軍事的行動を起すの止むなきに至つた。こゝに於いて所謂滿洲事變が勃發し、國際聯盟の滿洲に對する認識不足と、アメリカ合衆國の干渉等は中華民國人をして一層混亂に導き、次いで上海事變の問題を起して國際聯盟の一大問題となり、遂に日本は聯盟の脱退を宣して列國にその反省を促したのである。この間に於いて三〇〇〇萬民衆の要望によつて滿洲國の獨立は宣言せられ（昭和七年三月一日）日滿議定書が調印せられて滿洲に於ける日本の利權を擴充し、日滿の共同防衛が約束されたのである。かくて短日月の間に著しい内政上の實を擧げ、立憲共和制から立憲君主制となり、昭和九年三月一日溥儀執政には皇帝の即位式を擧げさせられたのである。

【政治】

滿洲國は中華民國の舊東三省及び東部内蒙古を包括した區域を占めた新興國で、立憲君主制となり元首は皇帝と稱せられる。元首の諮詢機關に參議府があり、皇帝の諮詢を受けて法律・帝室令・勅令等について意見を上奏するものである。政府は國務院・立法院・監察院の三院から成つてゐて、國務院に國務總理があり、その下に民政・外交・軍政・財政・實業・交通・司法・文教等の諸部があり各部に總長がある。地方政治は昭和九年十二月の改正によつて十四省となり、從來の餘りに廣大に失する行政區を改めて交通及び經濟關係を考慮した新區劃を設定し、地方行政の確立によつて中央集權の實を擧げ得る様にしたのである。

日滿の經濟提携については、我が商工省を中心として日滿産業統制委員會を組織して之が考究に當り、政治的に經濟的に日滿ブロックの結成を見



第9圖 日本の政治的發展

るに至つた。從來我が國は樺太・朝鮮の地に於いてのみ外國と國境を接してゐたのであるが、日滿の政治的提携によつてその範圍は滿蒙の地に擴大した。即ち中華民國と滿洲國とは萬里長城によつて境界となし、ソ

ヴィエト聯邦とは黒龍江・烏蘇里江によつて界されてゐるが、國境に關する諸問題は將來に残された一大問題である。

【註】日滿議定書 滿洲國正式承認の日滿議定書は昭和七年九月十五日調印を了したのである。この議定書は本國政府より委任を受けて、日本特命全權大使武藤信義・滿洲國國務總理鄭孝胥によつて作成調印されたもので、之によつて日本は滿洲國が獨立の一國家たることを確認し、滿洲國はその領域内に於いて、日本國または日本臣民が從來日支間の條約・協定・取極によつて有する一切の權利利益を承認し、日滿兩國の共同防衛が公約されたのである。

第二節 地形・氣候

【地形の三大區分】 滿洲國は地形及び構造上より北東—南西に走る三帶を區別し得るもので、(イ)東部山地(ロ)滿洲平野(ハ)西部高地の三並行地帶から成つてゐる。東部高地と西部の大興安嶺とは大褶曲の背斜軸に相當するものと認められ、滿洲平野はその谷に當るものと解釋されてゐる。長白山脈は東部山地の主軸をなすものでその南西部は遼東半島となり、その地形は晩壯年期に屬する從順山形(Subdued Mountain)で、東部山地の北部と南部とは低位置準平原が發達してゐる。長白山脈中の白頭山附近には玄武岩の鎔岩臺地があり、この臺地上に白頭山火山(二七四四m)が噴出してゐる。西部高地を構成してゐる大興安嶺は南は中華民國本部の陰山脈に連り、北は伊勒呼里・小興安嶺の名によつて呼ばれ、最高點は二〇五〇mに達してゐるが一般には二〇〇〇m以下の高地である。蒙古高原からこの山地を望めば低い丘陵地に過ぎないけれど

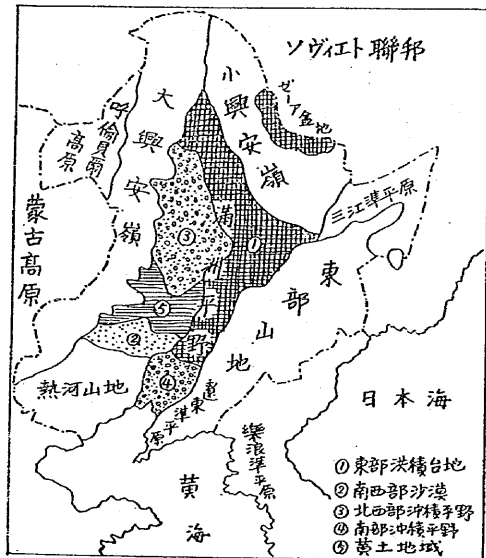
も、滿洲平野の低地に立つて望むならば大山脈として横はつてゐる。リヒトホルヘン氏の東亞の構造については、階段狀斷層をなしてゐる東亞の第一の地壇(Land Shelf)をなすものである。

中央部には滿洲平野の沖積平原が横はつてゐる一大盆地狀を形成し、農耕がよく發達して所謂滿洲の寶庫をなしてゐる。滿洲平野は南北二つに分たれ、遼河流域は南滿洲平野と呼ばれ、松花江・嫩江流域の北滿洲平野に續いてゐるが、この分水界は殆んど言ふに足りない程度のものである。

【地形區】 滿洲國の地形的區分については、前記の三並行地帶を骨子とするものであるが、秋岡學士は之を更に細分して次の九地形區に分つてゐる。

(1)東部山地 遼東半島から北東に延長して一四〇〇呎に及び、幅員は五〇〇呎に亘る紡錘狀の山地で、片麻岩・花崗岩等の岩石がその基盤をなしてゐる。朝鮮との國境附近には玄武岩の鎔岩臺地があつて朝鮮の蓋馬高臺に延長し、滿鮮の境上にある白頭山はこの臺地上に噴出した石英粗面岩の火山で、頂上には龍王潭の火口湖がある。滿鮮の境上を西流する鴨綠江は七九〇呎に及び、その上流地方に於いて曲流が甚しく前輪廻の曲流を受けつゞで嵌入し、掘鑿曲流(Intrenched Meander)をなしてゐる。圖們江流域の間島は臺地狀を呈する隆起準平原であつて、臺地狀の中には第二の輪廻による河谷が發達して幼年期の地貌を呈してゐる。東部山地は北部・西部に赴くと次第に高度を減じ、遼東半島は花井學士によつて遼東準平原と呼ばれた所で、原位置或はそれに近い高度にある低位置準平原であつて、關東州の大和尚山(六六三m)の如きはこれ

準平原面上のモナドノツク(殘丘)であるといふ。東部山地中に生じた山間盆地(Intermontane Basin)には、松花江上流の海龍盆地、朝鮮北東部に近い琿春盆地、牡丹江上流の寧古塔盆地等があつて新しい堆積層から成る低地である。



第10圖 滿洲國の地形區

(2) 三江平原 東部山地の北に續く地域で三江省附近の地を占め、遼東半島の如く低位置準平原をなしてゐる。この山地の中央部は片麻岩から成り、その東西には相對應する花崗岩の地帯があつて老年期の地貌を呈し、中央部の完達山脈は古生代の地質から成つてゐる。

(3) 滿洲平野 東部山地・小興安嶺・大興安嶺・熱河山地等によつて圍まれた平野で、北滿洲平野・南滿洲平野の二區分をなすことは前述した。この南北滿洲の地形的境界は、新帶學士の黒遼分水嶺であつて、同學士によれば滿洲山地の主要方向である北東

——南西に對する直角の方向に形成された褶曲作用によるもので、この運動は現在も繼續されてゐるものであらうといふ。地形學的には①東部洪積臺地②南西部沙漠③北西部沖積平原(嫩江流域)④南部沖積平原(遼河下流平野)の四區に細分することが出来る。東部洪積臺地は砂・粘土等の地質から成り、東部山地西麓の地域から北方は小興安嶺の山麓に達してゐる。滿鐵沿線の地方はこの洪積臺地で農耕の中心となり、滿洲實庫の核心部をなすものである。

(4) 熱河山地 熱河省の山地で西部山地と東部丘陵地の二帶を區別する。西部山地は灤河上流地方の山岳で起伏が大であり、五龍山は二〇五〇mに達してゐる。北東より南西に走る山峯と低地とは熱河山地の主要方向で、多田學士によればこの方向に生じた斷層によつて地壘・傾動地塊・地溝等が形成された爲である。東部の大凌河流域は五〇〇mの高度をもつ丘陵地で、地形は一般に緩傾斜で西部山地に於ける如く急峻ではなう。

(5) 大興安嶺 その主軸の方向は北東——南西であつて蒙古高原の東縁をなすものである。リヒトホルン(Reichtorf)は之を地壇であると認めたことは前述したが、この東側の大傾斜は決して大斷層によるものではなく、地塊運動を伴つた上昇撓曲運動によつて形成された大背斜軸に當るものであるといふ。延長は六五〇kmに達し、その平均高度は一二〇〇mあつて蒙古高原と滿洲の氣候上の障壁となり、滿洲側の松柏科森林地と蒙古高原の沙漠、或はステップの兩地域を區分することは著しいことである。

(6)小興安嶺 大興安嶺の北部にあつてS字形に屈曲し、滿洲北部の地形的障壁をなしてゐる。その地形は從順山形を示し、最高所と雖も僅に一二〇〇mの高度を有するに過ぎないもので、脈中の烏雲和爾冬吉山は古い噴出による火山である。

(7)ゼーア河盆地 四周は花崗岩から成る山地中に生じた盆地で、その北部はシベリアのゼーア河流域に續いてゐる。黒龍江の侵蝕作用によつて段丘狀の地形が形成され、洪積層の段丘と沖積層の洪満平原とは耕作の適地である。この盆地の成因等に就いては未だ不明である。

(8)呼倫貝爾高原 興安嶺の西部にある蒙古高原の一部で、乾燥地域をなしてゐる。この高原は隆起準平原であつて、その中には所々に低平の地があり、蒙古語によつてターラ(Tala)と呼ばれ、グライターラ(Dalai Tala)中には呼倫池・貝爾池等がある。

【氣候】 滿洲の地は大陸の東岸に位してゐる爲に東岸氣候(East Coast Climate)の特色を有し、偏西風地帯の西部にあるヨーロッパでは溫暖氣候であるが、東岸の滿洲では大陸的氣候となり、夏の暑熱と冬の寒冷は共に甚だしい。この東岸氣候は氣節風の影響を受けて乾濕の二期に分たれ、大陸旋風の影響によつて三寒四溫の特色を示すもので「滿洲氣候」と稱せられてゐる位である。

氣溫の分布について見ると、七月の氣溫二〇度の線は滿洲國の全域を包み著しく高温であることを示してゐるが、一月の氣溫は零點下となつてその大部は(一)一〇度以下である。ハルビンに於ける較差は四五・五度

に達し、北海道の札幌の二七・三度に比して著しく寒暑の差が大なることを示してゐる。我が國の最高溫の月は八月であるが、滿洲の各地では大陸性の影響によつて七月が最高溫となる。新京の七月氣溫は二四・七度であるが、略同緯度に位する我が札幌は一九・二度となつてゐる。冬季には高氣壓の中心がバイカル湖附近にあるので氣壓の傾斜は北西から南東に及び、新京の二月平均氣壓は七七〇・六耗あつて最も高い月である。之に反して夏季は滿洲の全地域に亘つて低氣壓部が延長し、その圈内となるから、南或は南東の氣節風が卓越するもので、新京では六月の氣壓が最も低く七五二・二耗を示してゐる。

滿洲國各地の氣溫

地名	月												緯度(N)
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	一〇月	十一月	十二月	年平均
ハルビン	(一)22.0	(一)15.9	(一)6.4	5.7	14.5	20.9	23.5	21.4	14.6	5.1	(一)7.9	(一)17.2	四五・四五
新京	(一)18.5	(一)12.0	(一)4.0	6.6	15.0	21.2	23.4	21.8	15.0	6.3	(一)4.8	(一)13.8	四三・五五
大連	(一)5.7	(一)3.1	1.9	9.3	15.3	20.4	23.2	24.4	19.8	13.3	4.9	(一)2.5	三八・五四
札幌	(一)6.3	(一)5.3	(一)1.6	5.3	10.4	14.8	19.2	21.0	16.3	9.7	3.1	(一)3.2	四三・〇四

滿洲各地の雨量は我が國に比して少く、新京では六四八耗ハルビンでは五五三耗で、南より北するに従つ

て漸減してゐる。大興安嶺の西に位する呼倫貝爾高原は雨量は最も少く、滿洲里では僅に二八〇耗を有してゐるに過ぎない。大陸の内部より吹く北風及び北西風の爲に雨量は少く、乾燥の甚しい氣候となつて土砂を飛散し、所謂「黄沙」を送るもので、天日も爲に晦しといふ滿洲特有の状態をなすのである。之に反して夏季は全くの雨期となり、新京ではその雨量六四八耗中六——九月間の降雨は五〇四耗に達し、ハルビンに於いても五五〇耗中四〇〇耗の降雨を示し、泥濘膝を没するに至るのである。

地名		滿洲國各地の雨量（耗）												位置
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	一〇月	十一月	十二月	全年
ハルビン	3	11	16	14	63	85	130	127	52	30	16	6	553	滿洲北部
新京	8	7	19	14	43	71	178	183	66	35	14	9	648	滿洲中部
大連	7	6	19	35	36	33	142	138	121	29	24	10	600	滿洲南部
札幌	87	65	62	55	62	64	85	106	130	111	106	100	1033	北海道

【教授】 地形上からは八區を分ち、氣候上からは滿洲を一單元として説明したのであるが、要するに滿洲平野を考察の中

心としたのである。南滿洲平野と北滿洲平野は黒遼分水界の小盆地によつて分たれ、氣候上からは次第に漸移してゐるものである。従つて氣候上の説明に就いても北部のハルビン、中部の新京、南部の奉天或は大連等についてその變化を認めねばならない。特に我が國の氣候と比較して之を説明し、漠然とした言葉によつてのみ教授することは避けたいと思ふ。

第三節 地誌

【地理區】 滿洲國の新省別は交通・政治・經濟等の關係を考慮して設定したものであるから、地理的地域と一致することが多い。前節に於いて説明した地形・氣候等の關係、經濟的考察に立脚した經濟區に依つて次の十區を決定した。この設定は田中秀作學士の經濟區を主としたもので、その稱呼の如きも大方は同學士に依つたのである。普通使用されてゐる南滿洲平野は大體遼河流域區・遼西區に當り、北滿洲平野は松花江上流流域區・松花江嫩江流域區に相當するものであるが、すべて劃然たる區別の如きは存するものでなく一連の滿洲平野をなしてゐる。

A 東部山地

- (1) 遼東半島區
- (2) 遼東山地區
- (3) 間島區（間島省）
- (4) 遼河流域區（奉天省）
- (5) 遼西區（錦州省）

地理區 B 滿洲平野 (7) 松花江・嫩江流域區(吉林省)

(6) 松花江・嫩江流域區

(8) 西遼河流域區(熱河省)

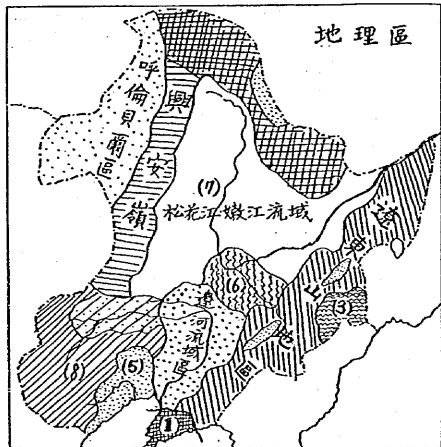
C 西部山地 (9) 呼倫貝爾高原區(興安北省)

(10) 北部山地區

(一) 遼東半島區 (中立地帯・關東州)

遼東半島區は滿洲東部山地の南西端をなすもので、關東州の全域及び滿洲國の中立地帯等を合した區域である。中立地帯 (Neutral Zone) とは國防の安全を期する爲に設定された一種の緩衝地帯であつて、關東州界と北方では蓋平から大洋河口に至る一線とによつて劃された地帯である。この地方の地形に就いては前節に記述した如く、前寒武利亞紀及び寒武利亞紀の古期岩層が剝削 (Denudation) によつて低平となつたもので、花井學士の所謂『低位置準平原』をなしてゐる。準平原面上に孤立した丘陵は何れもモナドノック (Monadnock) であり、關東州の大和尚山は最も標式的のものであるといふ。海岸地は過去の地質時代に沈降してリアス海岸 (Riasitic) を生じたものであるが、最近は上昇を示して海岸段丘の存在を見る。村上博士・青地學士等によつて半島地の構造は明らかとなり、全體としては一つの單斜構造 (Monoclinal structure) を

地理區

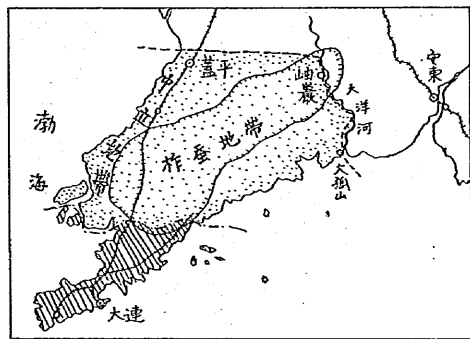


第11圖 滿洲國の地理區

呈してゐるが、複雑な斷層構造が之に伴つてゐることが知られてゐる。氣候は滿洲中で最も溫和な地方であるが、土地が礫礫である爲に耕地の如きも少く、柞蠶・漁業等は重要である。

【柞蠶】

山東省からの移民に依つて傳へられたもので、之に接した遼東半島



第12圖 柞蠶の飼育地帯

は柞蠶飼育の中心である。楡・櫟・榲等の柞樹は遼東半島の各地に多く、且つ晝夜の氣溫變化が多いことは蠶質を強壯ならしめて病害を除き得る爲に好適であるといふ。柞蠶場は普通二〇アールの山林が一單位で一把剪子と呼ばれ、約五〇〇〇本の柞樹を有して一人

の労働者が一挺の剪子を使用して飼育する面積である。東部の岫巖地方では一般に自然林中に飼育せられ、蓋平・海城附近では造林を行つてゐる。柞蠶繭の産額は平均約二三萬籠で、一一〇〇萬圓内外に及んでゐる。我が國の絹紬機業地たる福井・岐阜・京都では満洲から柞蠶絲の供給を受けて之を製織し、日本絹紬 (Japanese Tongsue) の名によつて歐米及び濠洲等に輸出されてゐる。

【都邑】 蓋平(2)はもと海山寨と呼ばれた所で、蓋平河の小河がその南を流れた天嶮の地で、磚壁の城郭を繞した城都である。蓋平附近は柞蠶業の中心であるが僅かに六―七〇〇把剪子を有するのみで、安東が現在の中心地となつてゐる。然しその發達は古いだけに製絲・絹紬織物等の工業が發達して其の取引が多く、附近の低地には鹽田の分布が著しい。その南方にある熊岳城は高粱・梨・野菜等耕作の中心地で、滿鐵の農事試験所が置かれ柞蠶業・果樹栽培等の研究指導に當つてゐる。大洋河上流に位する、岫巖は良質の柞蠶を集散し、細工・建築用に供する岫巖石の産がある。岫巖の輸入貨物は營口より之を仰ぎ、近距離にある大洋河口の大孤山に依らないことは營口の背域たることを示すものであつて、木材の取引關係から營口に輸送し、その歸荷を利用して貨物を運搬することに由來してゐる。

（二）遼東山地區

長白山脈と遼東脊梁山脈の軀幹部を占めた所で、海拔四〇〇―五〇〇mの平均高度を有する高臺狀の地

形である。一〇〇〇m以上の高度にある所は白頭山附近に廣く存在し、玄武岩の銘岩臺地となつてゐるが、所に玄武岩の小地域がメサ (Mesas) 狀をなして残つてゐる。鴨綠江は遼東山地區の東端を流れ其の延長は七九〇軒に達し、白頭山に源を發して滿鮮の境界となつてゐる。鴨綠江右岸の地帯は、一六二七年太宗皇帝によつて支那と朝鮮を分離する間曠地帯 (No man's land) とせられ、朝鮮人の流入を防止し得たばかりでなく、土地は全く荒廢に歸し森林の繁茂を來したのであつた。それが漢族の流入によつて近來森林は濫伐せられ、帽兒山より上流地方には今猶千古斧鉞の跡なき原始林が博蒼としてゐるが、下流地方では河岸の諸所に耕地が見られて漢族の居住地となり、鴨綠江は眞に人種上の境界をなすに至つたのである。

【安東】 (Antung 17) 鴨綠江の河口に位して普通汽船の終航點にあり、上流の森林地方を背域とした製材都市で、北京に於いて締結した日清協約に基き、明治四一年創立された鴨綠江採木公司 (日滿合辦) の所在地である。市街は鴨綠江岸の小支流によつて形成されたデルタ上にあり、明朝の時代には鎮江堡を設置したところであるが、その發達は開港後に屬してゐる。即ち鴨綠江木材を集散して製材・パルプ工業の發達を促し、安奉線の開通によつて單に滿洲物資の集散地となつたばかりでなく、貿易港としてその繁盛を來したのである。輸出品には柞蠶絲・豆粕・粟・木材等があり、柞蠶絲の生産に對しては蓋平地方を凌駕するに至つた。

【註】 日滿國境 鴨綠江右岸の間曠地帯は太宗によつて設定された鮮支の人為的無人境界帶をなしたもので、北方では圖們江左岸の間島地

開閉橋はその長

【本溪湖附近】

達を僞した。

【海龍盆地】

の地域から



の御力なる

磨して金湯

五・小彗等

三層

問長雀力證

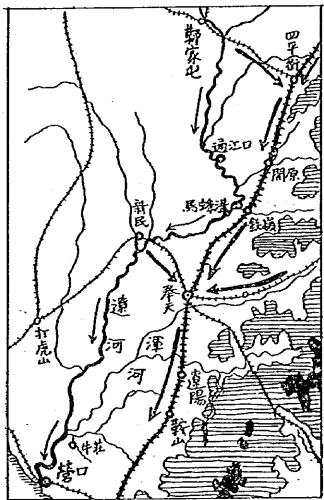
にある隆起準平原であつて、原表面は間島臺地と稱せられてゐる幼年期の地貌を呈し、圖們江の支流である蘭河・朝陽河・雅河等が臺地面を刻んでゐる。人文的には朝鮮人の移住者によつて開拓せられ、全く朝鮮人の植民地たるの觀を呈してゐる。前述の如くこの地方は清・鮮何れにも屬さない開墾地帯であつたが、封禁の制が弛んだことに乘じて鮮人の移動が促され、その開拓が行はれた。現在の人口約五〇萬中その七割餘は朝鮮人で二割が支那人、其の他に日本内地人等が居住してゐる。この地は鮮漢兩民族の鬭争地となつたが、一九〇九年間島條約が結ばれて日本は支那の主權を認め、朝鮮人の居住・營業・不動産の所有權・開市場（龍井村・延吉・百草溝・頭道溝）の設置等を認めしめたのである。

【産業】 朝鮮人の發展は全く農業に依存するものであり、水田耕作・山腹傾斜地の開墾等に就いては漢族の追隨を許さないものがある。朝鮮人は牛を用ひて農耕に従事し、漢族は馬を便役してゐる。農産物の主なものは粟・大豆等で、之に次いで小麦・玉蜀黍・大麥・米等がある。農産物は主に朝鮮に輸出せられ、粟は朝鮮半島地の消費に當てられてゐるもので、間島は經濟關係に於いては朝鮮と極めて密接である。然し經濟上の支配は全く漢族にあつて、彼等は土地を所有し商業上の實權を握り、全體の八割は地主又は自作農である。

【交通・都邑】 間島地方の貿易は從來北鮮を經由して行はれ、東部に位する琿春（Huanchun）では雄基の港により、龍井村は清津の外港によるものが普通の交通系であつたが、京圖線の全通と羅津の築港によ

つて、一は新京に他は直接日本内地に結ばれたのである。羅津港は自然的の良港で、間島の門戸であると同時に滿洲中部に結合し、日滿連絡上の貿易港として其の發展は期して待つべきである。龍井村（Lungching-shu）は我が總領事館の所在地で、我が内地人商業の中心地である。延吉（局子街 Chuizikai 3）は間島省公署のある所で、古くからこの地方經濟の核心となり、漢族移地の中心地で、穀物・木材等の集散が行はれてゐる。

（四）遼河流域區（奉天省）



第14圖 遼河流域の交通系

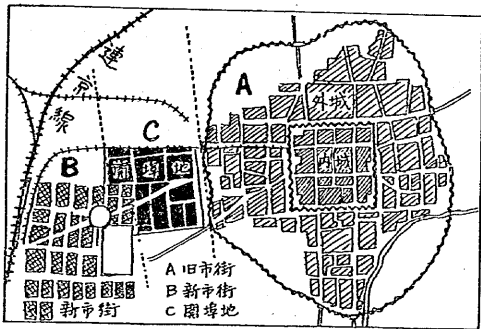
遼河流域の平野であつて、北東部の洪積臺地を除けばその大部は沖積平野の低地である。その北境は黒遼分水界によつて北滿洲の平野と分たれ、その西部は遼西區に接してゐる。この區域は農業上の核心地帯であるばかりでなく、鐵・石炭等の鑛産が豊かであるから工業の發達は將來最も有望視せられ、從來は北滿のソヴィエト聯邦に對して南滿は我が國の勢力範圍と見るべき所であつた。

大豆と高粱とはこの地域の代表的農産物で、殊に大豆は滿洲富源中の第一位にあるものである。大豆の耕作發達に依存して年々多數の漢族が流入し、新京地方・東山地方は大豆產出の中心となつたもので、大豆の輸送

と生産地帯との關係、並に油房工業との關係は遼河流域の聚落に大なる影響を附與するものである。而してその輸送路としては滿鐵と遼河とがあり、滿鐵の連京線は絶大なる輸送力をもつものであるが、遼河（長さ二五四〇軒、河口より九〇〇）の舟運も比較的盛大で、（糧の上流幾家屯まで或克を過ぎ）の舟運も比較的盛大で、（或克の交通が行はれる。）

【奉天】（Munkien or Fungtien 40）寧安地方を根據とした滿

洲人は平野に進出して蒙古人・漢族を擊退し、奉天に都したのである。後に至つて清は明に代つて四百餘州を統治したが、奉天府には滿洲太守を駐劄せしめ、清朝の滅亡に至る迄滿洲政治の中心であつた。市街は城壁に圍まれた城都市で内城と外城に別たれ、外城は漢人街であるが内城は官衙區で中央に宮殿がある。滿鐵の經營に屬する新市街はその西部にあり、中間の開墾地（支那が外國の爲に開いた市街）によつて連續してゐる。新市街は全く西洋式の市街で、廣大なる道路と壯大なホテル・病院・醫科



第15圖 滿洲の標式的都市—奉天

大學・銀行等の建築とはこの地が滿洲文化の中心地たることを物語るもので、連京線・奉山線・奉吉線・安奉線等がこゝに集中して交通・政治・經濟・軍事の中心地となつてゐる。これ等の諸線によつて農産等の原料が送られ、油房・製粉・醸造等の工業が發達した。遼陽は太子河に臨む古い都市で人口は七萬を有し醸造業が行はれ、又大豆の集散が多い。

奉天の北方に位する開原（Kaiyuan 3）鐵嶺（Tiehling 5）は大豆の市場で、鐵嶺の河港は馬蜂港と呼び、開原・昌圖等と共に遼河交通の要地であつたが今は衰微した。鐵開原・鐵昌圖・鐵嶺等は連京線の交通關係によつて發達した大豆の集散地である。平齊線の要驛にある四平街及び鄭家屯（Chengchiatun 4）はこの開拓鐵道の開通によつて發生した新興都市で、大豆の集散が多い。鄭家屯は遼河に於ける或克（Junk）航行の終點に位し、もとは河港として特色あるものであつたが、近來は水田灌溉事業による遼河の減水の爲舟行は不便となつた。

【鑛山町】撫順城は渾河岸の斷崖上に建設されたもので、奉天北東部の要害の地である。この對岸に當つて渾河南岸には滿鐵の經營に屬する大炭田がなり、こゝに炭坑都市撫順（Fushun 6）が發達した。又、奉天の南方に位する鞍山（Anshan）は鐵鑛產出の中心地で、明治四二年滿鐵地質調査所の一行によつて發見されたものである。鑛區は製鐵所を中心として一〇哩の半圓狀内に亘り、全鑛量は六億噸と稱せられてゐる。石炭は撫順・本溪湖より搬入して貧鑛は處理せられ、滿鐵經營の製鐵工業が發達を來した。近年に至つて滿

鐵は製鋼計畫をなし、鞍山製鐵所を併合した日滿合辦の昭和製鋼會社の出現を見た。

【註】撫順農田 千金寨・虎山寨等の準平原山地の北麓に横はり、鎮區は六〇〇〇萬方米に及び、東西は一七軒南北は四軒に亘るものである。地質時代は我が國のものと同様に第三紀夾炭層に屬し、堆積炭は實に一〇億噸で東洋第一の大炭田である。もと鐵國樞東森林會社の所有であつたが、日露戰役後我が滿鐵會社が之を繼承し、大規模の炭坑掘によつて全體の產出量は一日に二萬五〇〇〇噸に及ぶ。この炭層の上層をなす油母頁岩を加熱し、其の蒸氣を冷却することによつて頁岩油（Tale Oil）の製油工業をなしてゐる。燃料國策の見地からオイルシェール工業は大なる擴張をなすことになった。

【營口】遼河は南滿洲に於ける舟運の大宗で、戎克によつて其の取引が發達してゐる。營口は遼河の河口港で冬季四ヶ月間の結氷期があることが缺點であるが、滿洲の一門戸たることを失はないのは同河の重要性を示してゐる。滿洲に於いて最も古い開港で、開屋制度と商取引關係によつて上流地の大豆を集散すること多く、豆粕・豆油の製造工業が發達した。市街は遼河左岸の屈曲部にあつて帶狀の狹長形態をなし、その西部が商業の中心である。營口（Yingkow 口）は河口の貿易港で、牛莊（Newchwang）は河口より八軒の内、地に位してゐる。新民（Sing-min-tu）は法庫門街道の要驛で遼西地方の農産物を集散する。

【五】遼河區（錦州省）

その一部は遼河流域に屬し、他は熱河山地南東海岸の地帯で錦州省の區域と大體一致してゐる。漢族の移住が早くから行はれた所で、中華民國と滿洲國の漸移地帯とも見るべき所である。この地方の中心地錦州

（Chinchow）は省公署の所在地で、奉山鐵道の要驛であるばかりでなく北票線によつて熱河山地に通じ、軍事・商業の要地である。錦州は大都市で城内には古塔・大佛寺等があり、この地方に生産する毛皮・棉花等の取引が盛である。その外港葫蘆島は不凍港であり、中華民國が大連の競争港としてその工事を進めたものであつた。即ち奉山線の一驛大虎山から通遼に至る大鄭線によつて滿鐵西翼の物資を集め、奉山線と奉吉線の連絡によつて東山地方に達し、滿鐵東翼の物資を集中せんとしたものである。然るに滿洲國の獨立によつて、その野望は全く挫折した。大凌河の上流には朝陽（Chaoyang）の小城市があり、穀物・羊毛・牛皮等の產出がある。附近には新邱・北票・大窩溝等の石炭產出地が多く、この地方の發達は將來有望である。

【六】松花江上流域區（新京市・吉林省）

【北滿洲平野】南滿洲と北滿洲とは地理的に著しい差異がある。南滿では既に戰國時代から漢族によつて開拓せられ漢族の植民地の觀を呈して居り、其の文化上からは明らかに支那化が認められる。之が北滿洲平野に於いては漸く近年の開發に屬し、露西亞がその北境に迫つて來たことは特に清國をしてこの邊境に留意せしめ、對露政策上駐兵を増加し、更に約七〇年前より封禁の政策を棄て、招民に傾き、漢族の流入を盛ならしめた。特に最近一〇年間の如きは年々數十萬乃至一〇〇萬の移民があり、豐沃なる北滿の平野は次第に開拓されて一大穀倉を現出した。松花江流域には黒土質土壤チェルノーゼム（Chernozems）が廣範圍に分布

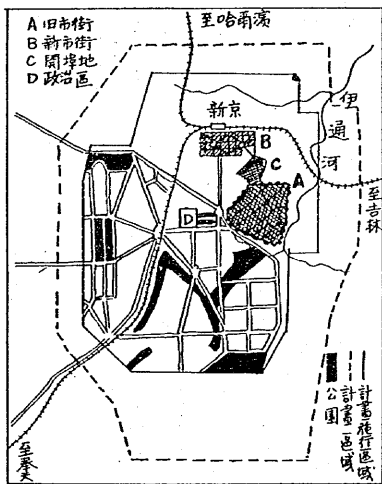
し、大豆・粟・小麥等の栽培に好適である。滿洲に於ける日本の治安維持といふ政治的外力は、この地方をして安住の地たらしめ、日・漢・滿等の諸民族をして穀倉の充實に努力せしむるであらう。

北滿洲平野
 (1) 松花江上流流域區……新京市・吉林省
 (2) 松花江・嫩江流域區……龍江省・濱江省西部・三江省

松花江上流々域區は吉林・新京・伯都訥を包括した地域で、吉林省の地域に大體一致してゐる。この中には政治・經濟上の二大中心地たる吉林・新京があり、吉林は古い市街で松花江に臨む木材市場であるが、新京は滿洲國の首都で南北滿洲の漸移地帯に發生した新文化の中心をなすものである。

【吉林】(Khin 30) 松花江は遼東山地を離れて平坦地に出るので水勢が大いに緩かとなり、木材輸送路としての松花江は鴨綠江の如き性質を有し、安東では河口に吉林は溪口的位置に木材市場町の發達を見た。吉林省の省公署の所在地であり、風景のよい小盆地内にあつて遊覽客を招致する爲にその美化が進められ、舊都らしい特色と山紫水明の盆地であるから滿洲の京都の稱がある。小麥・煙草・毛皮・木材等を集散し、製材・製紙の木材工業が行はれてゐる。

【新京】(Hsinking 17) 滿洲國の獨立によつて新たに政治の中心となつた市街で、その地理的位置は北滿と南滿の接觸する滿洲國土の中央に存してゐる。この市街は奉天と同様に舊市街・開埠地・新市街の三部から成り、舊市街は伊通河畔にあり、その形狀は支那城都市として特別な三角形を示し、その北部に滿鐵附



第16圖 新京の都市計畫

屬地の新市街があり、その中間に北京條約によつて開かれた開埠地がある。夙に滿洲中部に於ける大豆・粟・小麥等産出の中心地となり、其の市場として知られ製粉・油房工業も勃興した。鐵道系は連京線・京濱線・京圖線の三大幹線がこゝに會合し、政治・經濟・交通等の大中心として益々重要性を加ふるもので特別市となり、その進歩した都市計畫が行はれてゐる。その計畫は面積二〇〇方呎、人口百萬の大都を目標として進められ、小丘陵を巧に利用した公園地によつて之を連鎖せしめ、商店街・住宅街・工場區等が形成されるものである。こゝに我が大使館・總領事館・關東軍司令部が置かれてある。伯都訥・農安等は新京の發達に伴つて開發が進み滿洲の一穀倉となつたもので、近世に至る迄は蒙古人の遊牧地帯であつた。伯都訥 (Pemu 5) は松花江岸の港市で、小麥・大豆・穀物等の取引が盛である。

〔七〕 松花江・嫩江流域區

哈爾濱は露西亞が北滿洲經營の策源地とした所で、鐵道系及び松花江の舟運等がこゝに集中して北滿の中心都をなしてゐる。北滿の平野は黒土質の大沖積平野であつて、その可能耕地面積八七〇〇萬ヘクタール中、開墾された所は僅かに一〇%程度のものであるから、其の將來の發達は充分豫想し得るもので、その開拓と共に各地に市街の發達を見るであらう。滿洲國の獨立後はソヴィエト人の引揚げが多く、近年は日本人が進出して興國製粉・滿洲製粉等の事業を興し其の移住は各地に著しいが、滿洲商人は連鎖組織をなしてゐるので邦商の進出には多大の困難がある。

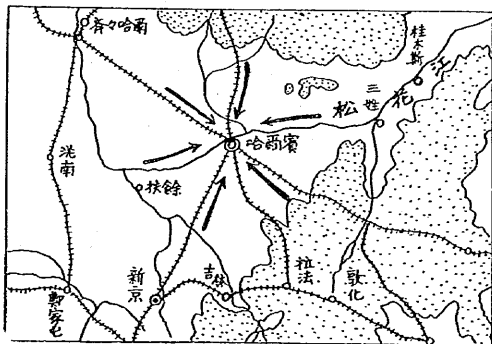
西部の洮南地方の土壤はアルカリ質であつてセローゼム(Serozems)土壤と呼ばれ、南部の通遼附近も同様の土壤である。この地方は農作物には好適ではないが、ステツプをなす處が多いから牧場として利用することが出来る。洮南(Taonan)は日露戰爭當時は毛皮の市場であつたが、平齊線の開通によつて劃期的の發達を遂げ、畜産の外に大豆・穀物等を取引する。

【哈爾濱】(Harbin) 露西亞が日清戰役後鐵道の敷設權を得てこの地を滿洲經營の策源地となし、一八九八年市街を建設した。爾來三〇餘年にして人口四二萬の大商工業都市となり、將來の發展が期待されてゐることは交通系の集中的位置にあるからである。市街の南東部に舊市街があり、中央部には露國風の新しい街が続き、北西部の河岸には埠頭區があつて松花江岸の港市となり、商業・工業(製粉・油房・印刷)が繁盛である。哈爾濱は濱江とも稱せられ、濱江省の省公署が置かれ我が領事館も置かれてある。傅家甸(10)は哈

爾濱に接した漢人街で、日露戰役後露國勢力の衰退に乗じて彼等の商業的手腕を發揮し、商取引の大中心となつてゐる。

【三江省】 佳木斯(1)は松花江下流平野にある新しい植民市であつて、三江省の省公署の所在地である。北東部の警備に對する中心となり我が武裝移民集團の多い地方で、大豆・小豆・魚等を取引する。依蘭(三姓 Sansing)は松花江と牡丹江の會合點に位置し、大豆・小麥等の集散地である。

【龍江省】 齊々哈爾(Quichah)は龍江省の省都で嫩江に面してゐる。康熙帝によつて防備の爲に建設された城都市で、古くから政治上の都市として發達したもので經濟上の重要性は少う。僅かに毛皮・農産等の市場として知られてゐる。昂々溪(Angang-chi)は北滿・平齊鐵道の會合點にある交通市で、南方に洮南がある。齊北線(齊々哈爾—北安鎮間)の一驛である克山(Kushum)は黒土質の沃野の中心地で、近年の移民が多く、國立農事試驗場がある。



第17圖 ハルビンの集中的交通系

【八】西遼河流域區（熱河省）

西遼河の上流地方で熱河省と興安南省・興安西省の一部に亘る地方である。鄭家屯附近から西遼河に沿つて興安嶺の山麓に達する區域は、滿洲平野の南西部沙漠として擧げた所である。他の一區は熱河山地の部分で、河岸には農耕地も多いが他は牧畜地帯となり、蒙古人の牧民と新來の漢族が居住してゐる。この熱河山地の南西部は灤河流域に屬し、清帝の離宮地熱河（承德）はこの流域にある。

【南西部沙漠】 熱河山地の北方にある沙漠地で、東西四〇〇軒・南北一二〇軒に及ぶものである。その東部は比較的濕潤である鄭家屯地方に迄も及んでゐるもので、シラムレン河（Sirumun）及び老哈河は南西部の山地に發してこの沙漠を流れ、途中で消失することなく外來河川（Exotic River）として東流を續け、二川は合して遼河を養つてゐる。この沙漠の成因に就いて中野竹四郎教授は、氣節風によつて戈壁の砂塵が東漸して舌狀に張出したものであらうと述べられた。この地の氣候は滿洲の各地よりも一層大陸的で、雨量も二〇〇耗程度の寡雨地帯に屬してゐるのである。

沙漠地帯には居住者が甚だ少く、それ以北には蒙古人の遊牧者が多い。これ等の蒙古人は蒙古包（Mongol-camp）と稱する天幕に住し、牧草を逐つて山麓の各地を移動する。沙漠以南では全く漢族に同化せられ、蒙古人も支那式の住居を有し定住者が多い。白音太拉（Pintula）は沙漠地の北端にあつて水田耕作が行は

れ、鐵道の開通後その發達が見られたもので、穀物・毛皮・甘草等の取引が行はれる。

【熱河省】 熱河山地は北東—南西の斷層系統を有して低地と高地が並列し、大凌河・老哈河等は何れもこの方向に延長してゐる。熱河地方は蒙古族發祥の一地方で、熱河と南滿洲を領した大遼國は蒙古族の國家であつた。従つて近代に至る迄蒙古人の遊牧地となり、清時代には封禁の制を定めて漢族の流入を防ぎ、或は蒙古人に備へる爲に離宮を建設などしたが、清の國威が衰運に傾くと漢族が次第に移住してこの地を開拓した。産業は全く原始的で農牧本位であり、高粱・粟・大豆・小麥等の農産がある。牧畜業は主として蒙古人によつて行はれ、羊毛等は奉天の工業原料となつてゐる。

赤峰（Chinghsin）は隊商の集る所で、日支條約の結果國際互市場として開放された町で我が領事館が置かれ、羊毛・毛皮・穀物・藥草等の取引が多い。南方の熱河（Chengtse or Tchiolse）は清朝の離宮がありその避暑地として發達した所で、溫泉の湧出がある爲にこの地名が生じたものである。熱河省の省公署所在地となり、附近には古くから阿片栽培が行はれて其の取引の中心地をなし、滿洲獨立後は中華民國との貿易市として重要で、綿布・食料品等の輸入がある。

【註】 錦承線 錦州と承德を結ぶ熱河開拓線で、その一驛壽州と赤峰を結ぶ葉峰線も開通したから熱河の交通は至便となり、錦州との交通關係は極めて密接となつた。

〔九〕呼倫貝爾高原區（興安北省）

興安嶺の東斜面は大森林地帯をなし、樹種はダフリカカラマツ (*Talix dahurica*) の單調な森林である。之に反して山嶺の西部は全くの乾燥地域 (*Arid Region*) をなし、所々に存する草地には牧民が居住してゐる。牧羊はこの地方の住民に對して生活上極めて重要で、乳牛は大約一〇——二〇萬頭と見積られ滿洲に於ける酪農地である。農業は主として漢族及びアルグン河東岸に居住する自系露人によつて行はれてゐる。海拉爾 (*Haïr*) はコンバイル地方の中心地で、牧畜地帯に位するから毛皮・羊肉・羊毛・日用品等の互市場で大都市をなしてゐる。滿洲里 (*Manchouli*) はシベリアに對する國境貿易市で、ロシア人が大部であるが日本人の居住も多く、我が領事館が置かれてある。呼倫湖・貝爾湖等は多くの魚族を棲息せしめてゐるが、漁業は甚だ原始的で漁獲高は少い。

〔一〇〕北部山地區（小興安嶺・黑河省）

滿洲の北部には小興安嶺が横はり、北西隅には大興安嶺に續く伊勒呼里山脈が存在し、共に高臺性の地貌を呈してゐる。小興安嶺は大森林地帯をなしてゐるが、市場が遠隔であり輸送が不便である爲に未だ重要でない。北境を東流するのが黒龍江 (*R. Amur*) で滿蘇の國境となり、支那が舊て國境防禦に力を注ぎその屯田

地、城地として發生したものが愛琿・黒河等である。ゼーア河盆地は東西二七〇軒・南北六一七〇軒の地帯で、黒龍江の河口より盆地西境まではグレート (*Grate*) の状態をなしてゐるから舟運が便で、河岸には段丘狀の沃地があつて農耕が行はれてゐる。

愛琿 (*Aïgun*) は露國の南下を防ぐ爲に明の萬曆三十七年愛琿城を建設した所で、嘗てはこの地方商業の中心地であつたが大黒河にその繁盛を奪はれた。その北西にある大黒河 (*Tschilo*) はブラゴエシチエンスクと對する國境貿易市で黒河省の首都となり、滿洲國の農産物とシベリアの石油・毛皮類が取引されてゐる。近時北黒線（北安鎮——大黒河）が開通した爲に哈爾濱・齊々哈爾との交通が至便となり、國境都市としての重要性を増大した。

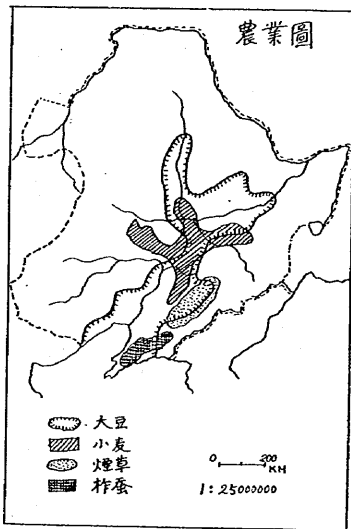
【教授】滿洲國は我が隣邦である。そして日滿議定書によつてその攻防が約された國家であるから、地誌の教授上にもその重要性が認められる。一方に於いては地誌的考察の主眼をなす文化地帯の教授に留意すると共に、他方に於いては其の將來の發展地帯に邊境の要地等に對する注意をなすことが肝要である。例へば邊境の地である熱河・呼倫貝爾等は中華民國の一部であつた時代とは異なる取扱をなすべきで、政治地理上の考察は全く一變してゐる。

第四節 産業

(一) 農業

【自然的條件】

滿洲の可耕地面積は總面積の二八・二％に當り、既耕地は一三・三％であるから可耕地面積の四七％が開拓されたのである。農業は滿洲産業の大宗であつて、その發達を促した原因に就いては種なるものがあるが、耕種農に對しての技術者である漢族の來住と、米作適地に集團的勢力をもつ鮮人の移住に由來することが大である。農村は自衛上多數の農家が集團して聚村を形成して農業發達の核心となり、其の地的富源と日本を主とした政治・經濟的勢力の影響を受けて躍進を遂げたのである。



第18圖 滿洲國の農業圖

とや重粘であることなどはその缺點である。滿洲農民は施肥をすること少く、甚しく土地を消耗する。採取法を行つてゐるが、窒素成分は寒冷氣候による風化促進によつて補はれてゐるといふ。氣候と農業との關係は、春の氣溫上昇が早く秋の寒氣襲來が早いから作物の生育期間が短く、粟作を行ふことが困難である。又、

夏の降雨を特色とするのであるが比較的雨量が少いから、栽培作物の制約を受けて大豆・高粱・粟・小麦等の産地となり、乾燥農業（Dry Farming）が行はれてゐる。

【滿洲大豆】 大豆の栽培に適する條件は、平均氣溫一五度——二一度で生育期間が四——五月を要し、雨量は五〇〇——八五〇耗を適度とするもので、成熟期には快晴であることが必要である。滿洲の各地はこの栽培に對して好適であつて、殊に明治四一年三井物産が大豆を英國市場に試賣して好評を博したことは新市場を見出したもので、その需要が増加を來した。單

世界大豆產出（一九三二）			
滿洲國	五二・七八〇〇噸	七七％	
朝鮮半島	五九・九五〇〇噸		
日本内地	三二・八〇〇〇噸	一四％	
米國	四〇・六〇〇〇噸	六％	
爪哇	一二・八五〇〇噸	二％	
全世界	六七八・〇〇〇〇噸	一〇〇％	

出し、一九三一年の產出は五二〇萬噸以上に達するもので、この大量生産と價格の低廉であることに依つて發達を來したのである。

【穀物】

高粱はその產出三七〇〇萬石に及び住民の主食物をなすもので、其の他高粱酒・飼料・製紙原

料に供される。程は燃料、建築材料・アンペラ原料として重要であり、高粱は近時中華民國への輸出が多く、食料・醸造等に用ひられてゐる。高粱の産地は主として南滿洲で、滿鐵沿線・東山地方・奉天線等の地方では高粱畑は密林の如く、その黄褐色を呈する景観は滿洲色の主要なる要素となつてゐる。

小麦は雨量の少い北滿洲平野に産し、春小麦（Spring Wheat）である。その産額は一〇〇〇萬石と推定せられ、北滿の濱北線・齊北線・濱州線地方が栽培の中心である。従つて交通の中心に位する哈爾濱及び沿線の各都市には、新式の製粉工業が發達してゐる。又滿洲の各地には磨坊（Native Mill）と稱する舊式の製粉工場があつて、地方人の消費する小麦粉を製してゐる。

粟は高粱と共に重要な食料品で、奉天地方・平齊線地方・間島地方等に産出し、國內に於いて消費する以外に朝鮮に輸出してゐる。玉蜀黍（包米）は滿洲南部の熊岳城以南の地方に多く、その生産額は一三〇〇萬石あつて年々中華民國・日本等に輸出する。米は朝鮮人の移民によつて栽培せられ、その氣候・土質等より見て滿洲の水田耕作は將來有望である。我が國の食糧問題並に滿洲移民問題の解決に對して重要性があり、凡そ一〇〇〇萬石程度の産出は可能であると見られてゐる。

（二）牧畜業

滿洲の農業者は有畜農業であるから各戸共家畜の飼養が行はれ、牛・馬・驢・騾・綿羊・山羊・豚等の家畜が飼育されてゐる。滿洲人の農業經營に就いては密接な關係があるもので、牛・馬・驢等は粗末な小屋の

中で粟稈・包米稈或は高粱等を與へて飼育し、豚の如きは其間は全く野外に放牧せられ、野外にある餌によつて生育する。滿洲の綿羊頭数は四〇〇萬頭に及び、羊毛の産出は凡そ九〇〇萬封度である。その品質は不良であつて夾雜物多く、爲に下等絨に混用したり、或は毛布に用ひたりするもので、ヨーロッパへの輸出品は絨・絨毛（Carpet Wool）として使用されてゐる。羊毛の主要産地は熱河省で呼倫貝爾高原が之に次ぎ、赤峯・錦州・通遼及び海拉爾等は羊毛取引の市場町である。從來の蒙古種とメリノ種の一回雜種によつて毛質を改良し、被服原料に適する羊毛を得ることなどが試験されて之に成功してゐる。

牧畜頭數		牛	馬	羊・山羊	豚	驢	騾	驢
		二七三萬頭	三三二萬	五八〇萬	八三五萬	八〇萬	五七萬	五七萬
		（滿洲平野では力役、蒙古高原では搾乳・力役）	（呼倫貝爾と東部内蒙古が産地の中心）	（羊は蒙古高原、山羊は滿洲平野、共に蒙古種）	（食用家畜として重要）	（牡馬と牝驢の雜種、耕作運搬用）		（農耕及び駄用に供す）

（三）林業

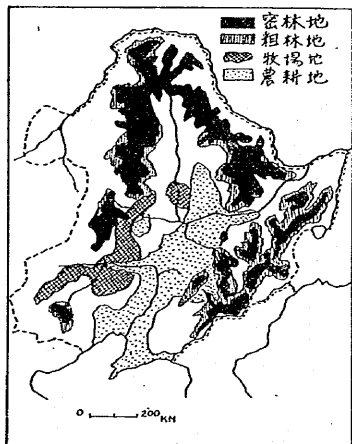
【植生區】 滿洲の地は嘗ては到る處に森林がよく繁茂し、殊に清朝の發祥地であつた爲に樹木の伐採を禁じたから、各地の山地には美林が形成されてゐた。現在は興安嶺・小興安嶺・東部山地等の各地に凡そ全

土の三六%に當る森林地があり、針葉樹では朝鮮松・朝鮮樅・朝鮮唐楡・エゾマツ・朝鮮ハリモミ・落葉松等、闊葉樹はアムールシナノキ・楡・白樺等がある。大賀博士は地形・氣候と植物分布との關係から次の六植生區に分れた。**①**ダフリカ區。滿洲國の北西部地方で歐洲赤松 (*Larix dahurica*) を主とした森林地。**②**滿洲區。北東の地方で朝鮮松 (*Abies Holophylla*) の純林或は原始林が多。**③**朝鮮區。朝鮮國境に近き地方で、朝鮮北西部の植物と同種である。**④**南滿洲區。南滿の主要部で、稍、温暖地的な遼河流域、遼東半島の地域を占めてゐる。**⑤**中央平原區。滿洲平野の中央部で、ノニレ・ノブドウ・マンシウグリミ・ドロノキ・ヤナギ等が多い。**⑥**蒙古區。滿洲國內の東部内蒙古地方で蒙古赤松 (*Pinus Sylvestris* Var *Mongolica*) があり、砂丘地方には甘草 (*Glycyrrhiza Echinata*) が生育してゐる。

【鴨綠江材】 鴨綠江岸の地方は數十年前迄は樹木が鬱蒼と茂つてゐたが、多數移民の來住に依つて森林地は伐採せられ、帽兒山下流は今や全く農耕地と化し、一大支流たる渾江では八道江の山奥に至る迄有用樹は伐採された。之は單に鴨綠江材として搬出せられたのみでなく、火入開墾の際自然林を燒却せしめて短期間にその富源を失つたのである。水源地方には朝鮮松・蝦夷松・朝鮮唐楡・落葉松・樺類等の針葉樹が多く、鴨綠江材の產出地をなしてゐるが、經濟的の價值は大いに減じて昔日の面影はない。木材は鴨綠江を流下して安東の木材市場に集められ、原材の儘或は製材して日本・中華民國等に輸出してゐる。

【吉林材】

松花江上流の濛江河地方には針闊混生林の鬱蒼たる森林があり、松花江右岸の富良嶺・牡丹



第19圖 滿洲の森林・耕地・牧場地

嶺等の山地は現在最も良好なる森林地である。松花江沿岸の各地方では二〇—五〇軒間に亘つて森林地を缺き、農耕地域と化した處が多い。世界大戰當時の好況時代にはこの地方への投資が多く、我が王子系・大倉系の進出は著しかつた。松花江上流の各地より流下した木材は吉林に集中せられ、敦化方面より鐵道によつて送られた木材と共に吉林材の名を得て南滿洲の市場に取引されてゐる。

【北滿材】

北滿の濱綏線及び松花江の交通系によつて運搬せられ、哈爾濱に於いて取引される木材を北滿材と稱してゐる。その販路は北滿鐵道沿線の地方を主とするもので、建築材並に燃料として甚だ價値あるものであつたが、近年は石炭がその燃料に使用されてゐる。北滿材は近來南滿の市場に進出してその販路を擴大し、次第にその重要性を増大した。大興安嶺森林はダフリカカラマツ・シラカンバを主としたもので、小興安嶺の同種から成る森林帯に續いてゐるもので、將來は有望である。

(四) 鑛業

日本は地質上新期酸性岩の分布が廣く、銅・鉛・錫・金等の鑛産は各地に見られるが其の產出量は何れも少く、特に重工業の原料たる諸鑛物は海外より輸入してゐる。滿洲は古期水成岩の分布が廣く存してゐて、金・鉛・石炭・鐵・菱苦土礦・礬土頁岩・油母頁岩等の產出があつて、その鑛産物は何れも我の缺を補ふものである。之等の採掘權は何れも滿洲國の經營となり、我が國の工業原料として特殊の關係を有するものである。油母頁岩（Oil shale）に就いては前述したのであるが、撫順のものは厚さ一二〇mで五四億噸に達し、年々一四〇萬噸の頁岩を消費して五・五%内外の原油を採取してゐる。

【鐵鑛】 鐵鑛の分布は南滿洲を主とし、結狀鐵鑛の稱ある赤鐵鑛・磁鐵鑛を主してゐる。結狀鐵鑛は鐵鑛中に結狀に珪酸を混じてゐるもので、含鐵量は三五—四〇%の貧鑛が多く、鞍山鐵鑛は六億噸の堆藏を有するものであるが貧鑛である爲に憂慮されたのであつた。之が獨特の還元焙燒法の發明によつて貧鑛の處理に成功し、その價值の大なるものとなつた。本溪湖鐵鑛公司に屬する廟兒溝はその堆藏量は二億噸と稱せられ、火成岩との接觸によつて形成された磁鐵鑛であつて、含鐵量は六〇%の富鑛である。其の他遼陽の南東四五料にある弓張嶺は三億五〇〇〇萬噸の堆藏量を有し、鞍山・廟兒溝と共に滿洲の三大鐵鑛の一であつて有望視されてゐる。

【石炭】 全堆藏量は最近の計算に依ると四八億噸と稱せられ、奉天省の本溪湖・煙臺・牛心臺等の諸炭田は二疊・石炭紀のもので、中生代のものには錦州省の新邱・北票、三省の鶴立崗等がある。有名な撫順

の炭田は第三紀乃至漸新世の形成によるもので、有煙の瀝青炭であるが厚層をなす點に就いては世界無比であつて、古城子附近では層の厚さ一〇〇m以上に達してゐる。

(1) 撫順（滿鐵經營）…埋藏量一〇億噸、年產額六—七〇〇萬噸で、燃料・ガス・タール・コークス等々に使用してゐる。

(2) 本溪湖（日滿合辦）…埋藏量一億噸、製鍊用のコークスに適してゐる。

(3) 煙臺（滿鐵經營）…埋藏量四〇〇〇萬噸、煉炭として使用。

(4) 牛心臺（日滿合辦）…炭質は煙臺炭に類し、無煙粉炭、埋藏量二一〇〇萬噸。

(5) 新邱（日滿合辦）…交通不便、埋藏量一一億噸。

(6) 北票（滿洲國有）…撫順炭に類し、埋藏量は二億五〇〇〇萬噸。

(7) 鶴立崗（滿洲國有）…埋藏三億噸、運炭鐵道及び松花江の水運によつて輸送。

【菱苦土礦】（Magnesite） 菱苦土礦は日本内地には殆ど見られない礦物で、製鋼用耐火材料或は金屬マグネシウム製造の原料として我が國に送られてゐる。礦區は南滿洲の大石橋附近にあつて四〇礦區が設定せられ、滿鐵の經營に屬するものもあるが、他は滿洲國人が所有してゐる。菱苦土礦は必ず苦灰岩（Dolomite）と共出し、大體は粗粒の結晶質で白灰色を呈し大理石に類似したものである。苦灰岩は白雲岩とも稱せられ、石灰岩と菱苦土礦の中間性の礦物であり、大石橋附近或は關東州の地方に產出し、製鐵等に使用する耐火材

料として重要である。

(五) 工業

【日滿工業統制】 滿洲に於ける從來の工業として重要なものは、油房・釀造(高粱酒及び粟より製造する黃酒)・磨坊(Native Mill)等であり、油房業は大豆の生産地帯に位する奉天・開原・新京並に大連・營口等の貿易港に於いて行はれ、近時は水壓機を用ひて豆油・豆粕の製造を行つてゐる。近代工業の發達に就いては最近極めて著しいものがあり、製鐵業は鞍山の昭和製鋼所及び本溪湖製鐵所に於いて、セメント・油母頁岩工業は撫順に發達してゐる。其の他纖維工業には柞蠶製絲(安東・蓋平・海城・岫巖)・絹紬(安東)・綿絲布業(大連・遼陽)等が行はれ、化學工業としては燐寸(吉林・營口)・硝子(奉天・大連)等の製造が發達した。

滿洲國と日本との工業關係に就いては産業統制中の主要問題であつて、我が商工省を中心とする日滿産業統制委員會の結成を見るに至つた。日滿兩國の間に於いて利害相反するもの、兩國に就いて有無相通するもの等を調査し、理論上より經濟的の調和^{〇〇}と^{〇〇}を考案して既に實行に入つてゐる。その統制の主要なるものは製鐵鋼統制・マグネシウム會社設立・石油會社設立・セメント統制・自動車會社創設・製粉工業統制等であつて、日滿兩國を一九とした自給^{〇〇}自足^{〇〇}の域に達せんとするものである。

(1) 油房業

大豆の生産増加に連れて油房工業の發達を來し、豆油は食料品・工業用としてその用途甚だ

廣く、豆粕の需要が大であるといふ理由によつて豆油はその生産費が大いに減少されてゐる。豆油は中華民國では直接食用に供してゐるが、臭氣がある爲に主に塗料・石鹼・グリセリン・減磨用として使用されるもので、必ずしもその用途に於いて最良質のものでないから、亞麻仁・オリブ油等の他の油によつて需給の支配を受けるのは缺點である。滿洲國並に關東州の油房工場四〇〇の中五〇餘は大連にあり、豆粕・豆油は全產出量の二五を占し、哈爾濱・安東・營口等が之に次いでゐる。

(2) 食料品工業

製粉業は滿洲に於ける重要産業であつて、各地には舊式の磨坊があるがハルビンが製粉業の中心となつてゐる。北滿はその土壤及び氣候が小麥耕作に適し、露西亞人の經營に端を發し歐洲大戰の好況時代を経て發達した。從來米國粉の脅威によつて操業すら困難であつたが、近年では需要の増加によつて活氣を呈してゐる。工場數は約五〇あつてその半は哈爾濱及び其の附近にあり、製粉總額の過半を占めてゐる。燒鍋業は油房業・製粉業と共に滿洲の三大工業と稱せられ、高粱を主要原料とする釀造業であつて、遼陽はその名産地である。滿洲國人の個人經營による小工場が多く、大連・營口等に輸送されてゐる。

(3) 製鐵製鋼業

鞍山製鐵所は滿鐵會社の製鋼計畫に依つて改組せられ、昭和製鋼所の名に改められた。その生産工程は鞍山鑛山より鐵鑛石を採掘して鞍山式の貧鑛處理法によつて選鑛し、撫順炭と本溪湖炭を用いて製鐵業が行はれ、一九三五年よりは年々銑鐵四〇萬噸・鋼鐵四〇萬噸を出すことに定められた。本溪湖煤鐵公司は大倉組と滿洲國の合辦事業で、年々八萬餘噸を出してゐる。

(4) 煙草工業 煙草の產出地は吉林地方を中心とした地方で、吉林の南山煙と東山地方の東山煙とはその主要なるもので、日・滿・英・米等の投資によつて煙草工業が發達したもので、奉天・大連・營口等がその中心である。

(5) 木材工業・化學工業 安東・吉林を主とし、新京・奉天・大連・四平街等は何れも木材の市場であつて、製材の業が發達してゐる。安東には鴨綠江製紙・滿洲製紙の工場があつてバルブ工業の中心となり、樺太材・カナダ材を輸入してこの業が行はれてゐる。燐寸工業は新京・吉林・營口等に行はれ、其の他油母頁岩・硫安・石鹼等の化學工業が行はれてゐる。

【教授】 滿洲國は日本人の移民地として重要であるばかりでなく、政治・軍事・經濟上密接な關係にある。日本は地理的關係より工業立國を基礎とする國であるから、一方では滿洲國の工業原料に關係を有すると共に、他方では我が製品の消費地として重要である。即ち日滿の經濟プロダクトの結成の基はこの産業關係から來るもので、更に産業の調和・協同を必要とするのである。従つて日本の産業と對比して教授を進めてゆき度いと思ふ。

第五節 交通・貿易

(一) 交通

【道路】 滿洲の道路は Road ではなく只人馬の通る Track であつて、舗裝工事の如きは行はれてゐな

い。道路上の交通機關としては大車（三輪車）と轎車とが用ひられてゐるが、豪雨に際しては泥濘車を没して交通は不便となる。滿洲の夏は全年雨量の大部を降らすもので、道路の不完全と共に一層交通を妨げ陸運の困難となるのである。かゝる爲に、内陸の滿洲各地は如何に經濟的損失を受けてゐるかを察知し得るものであるが、滿洲國の獨立後は道路交通網の完成を計畫して之に當り、國營のバスを運轉して全滿の交通の充實を見るに至つた。既開の道路と昭和十年度完成道路を合すればその延長は八〇〇〇餘里に達し、滿洲國土の周圍七八九〇里よりも大である。

【河川交通】 南滿洲には遼河・鴨綠江・大凌河等の河川があり、遼河は特に滿洲の農業地帯を南流してゐるので大豆・雜穀等の輸送が行はれてゐるが、滿鐵・奉吉・奉山等の並走する競争線によつて貨物は吸集せられて交通價值は減じた。北滿洲では六―七ヶ月間の舟航期間を有するのみであるが、北滿鐵道に斜交してゐてその培養線となり、川豆の稱ある大豆或は木材等を輸送するなど重要交通路となり、滿洲國の江上艦隊を浮べてゐる。滿洲の冬は結氷して陸運の最盛期となり、各河川は氷結して棧道に利用せられ、各所に棧宿が出來て河上交通の中心となる。

(1) 遼河……全長二五〇四里中、八〇〇里の上流にある郷家屯に至る迄戎克を通じ、冬季四箇月間は河水凍結して交通杜絶する。戎克数は約三〇〇〇隻。

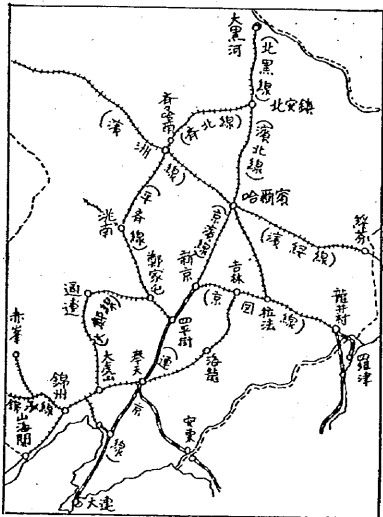
(2) 鴨綠江……長さ八〇〇里あるが岩礁があり減水期等のあることは缺點で、吃水の浅い高瀬船・プロペラ

一 船の航行がある。木材は原木の儘流し二十四溝より筏として流下する。冬季四箇月間結氷。

(3) 黒龍江……全長四四八〇杆、可航水路は支流共で八〇〇〇杆に及んでゐる。黒龍江の解氷期は四月下旬

で結氷期は一〇月下旬であるから六箇月間の結氷期間があり、一〇〇〇噸級の船舶の航行が行はれる。松花江は長さが二〇〇〇杆に及び、吉林より會合斯迄一四〇〇杆の間小蒸氣船の航行が可能である。

【鐵道】 滿洲の鐵道は開拓の先驅となり、その文化の招來者であつた。殊に大陸の中心地は海より距ること七八〇〇杆に達し、最も遠く所では二〇〇〇杆もあるもので、鐵道の經濟・交通上の價值は甚大である。我が滿鐵の連京線



第20圖 滿洲國の鐵道系

は交通上最も重要なもので、昭和十年三月滿洲國が譲渡を受けた北滿鐵道と連絡して東亞交通の幹線となつてゐる。滿洲國の諸鐵道は擧げて國有となり、我が滿鐵が委託經營することゝなつたもので、京濱線（新京——哈爾濱）は連京線と同様に標準軌道（四呎八吋半）にゲージ（Gauge）變更がなされたから、貨物は

積換をなすことなく大連より哈爾濱に輸送し得ることゝなつた。

(1) 南滿洲鐵道（連京線七〇四杆・安奉線二六〇杆・旅順線五〇杆） 南滿洲鐵道はポーツマス條約によつ

て我が有に歸した鐵道で、半官半民の南滿洲鐵道會社の經營に屬し、露西亞が軍事上の目的から鐵道を敷設したのとは異り、その滿洲の發達に齎した效果は著しい。同會社は單に鐵道經營をなすのみでなく、その附帶事業として倉庫・工場・港灣・鑛山業・製油・製鐵・土木・教育・其の他の事業を經營するもので、滿洲に於ける我が權益の主要なるものである。

(2) 滿洲國有鐵道（滿鐵委託經營） 滿洲國の諸鐵道は滿鐵に經營を委託し、更に新鐵道の敷設工事に當つ

てその成績を擧げてゐる。奉山線は英國及び日本より借款して中華民國が建設した鐵道で、一九二七年打虎山より通遼に至る打通線（滿鐵の競争線）を敷設して問題を起し、奉吉線も奉山線と連絡して葫蘆島の新港を利用することによつて滿鐵の競争線となるものであつたが、現在では滿鐵東翼の培養線である。國都新京より我が國への最短線として重要である京圖線の全通を見るに至つて新港羅府の築港が行はれ、日滿交通上的一大變化が行はれようとしてゐる。

(a) 奉山線（奉天——山海關四二三杆）

(b) 大鄭線（大虎山——通遼——鄭家屯四〇〇杆）……打通線

(c) 奉吉線（奉天——朝陽鎮——吉林四五〇杆）

(d) 平齊線（四平街——洮南——齊々哈爾五七〇杆）

(e) 京圖線（新京——吉林——圖們五二八杆）

(f) 廣軌線……京濱線（新京——哈爾濱二三三杆標準軌道）濱洲線（哈爾濱——滿洲里九三五杆）濱綏線（哈爾濱——綏芬河五五〇杆）

(g) 拉濱線（拉法——哈爾濱二六八杆）

(h) 濱北線（哈爾濱——北安鎮三三三杆）

(i) 齊北線（齊々哈爾——北安鎮二三〇杆）

(j) 北黑線（北安鎮——黑河二七一杆）

【航空路】 滿洲國の如く土地が廣大で交通が未だ開けない所では、特に航空路は重要なものであり、國防・治安維持・郵便輸送等に至大の關係がある。その主要なものは次の如くである。

(1) 日本航空輸送會社

。東京——大阪——福岡——蔚山——京城——平壤——新義州——大連線。

(2) 滿洲國・滿鐵・住友合辦滿洲航空會社

。奉天——新京——哈爾濱——齊々哈爾線。

。新京——吉林——敦化——龍井村線。

。奉天——大連線。哈爾濱——寧古塔線。

。哈爾濱——佳木斯——富錦線。

。齊々哈爾——瑗琿線。奉天——錦州——朝陽——熱河線。

。齊々哈爾——滿洲里線。錦州——朝陽——赤峰線。

(二) 貿易

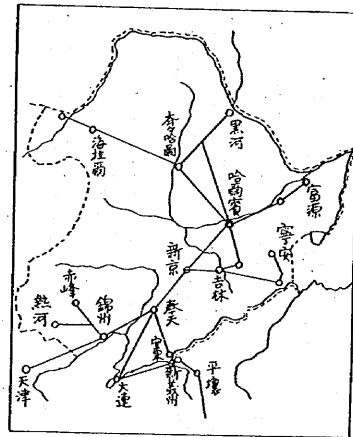
【滿洲國の外港】 滿洲の貿易は、一九〇三年當時は中華民國全土の貿易額の三・〇五%に過ぎない小額のものであつたが、近年は次第に増加し、一九三三年に於いては五億四〇〇〇萬圓に達してゐる。その總貿易額の中八割以上は南滿三港を經由し、殘額の大部は北滿地方及び間島地方を経て行はれるもので、税關管轄は次の三區に分たれる。

① 南滿地方 大連・營口・安東の所謂南滿三港。

② 北滿地方 哈爾濱税關管内 (Harbin Customs District)……松花江・滿洲里・綏芬河・三姓等。

③ 東滿地方 龍井村・琿春・羅津港。

大連は遼東半島の先端にあつて實に優秀なる位置を占め、天津・上海・青島等の貿易港に接近してゐるば



第21圖 滿洲國の航空路

かりでなく、我が國との貿易關係に就いても交通上形勢の位置にあり、全滿洲貿易額の六割を占めてゐる。營口（Yingkow）は嘗て滿洲第一の貿易港であつたが、滿鐵の大連集中主義によつてその背域（Hinterland）を奪はれて衰微を來したが、近來は大連の補助港として稍々活氣を呈して來た。之は滿洲經濟界の急速なる發展によつて大連に集中する貨物の増加に苦しみ、營口に輸送する貨物の運賃を低下せしめてその利用をなした爲である。安東（Antung）は營口と共に河川交通による港である爲に、河水の結氷期には全然交通が杜絶する。その上背域が狭小であるから發達は充分でなく、葫蘆島の築港完成後は錦州地方・熱河地方の外港として將來の發達は顯著であらう。朝鮮海岸の羅津港は京圖線と連絡して日滿交通の最捷路となり、將來は大連の一大競争港として日滿貿易の重要港となるであらうと思はれる。

【貿易の特色】 滿洲國は一九三二年海關を中華民國より繼承し、關東州經山の貿易品に對しては大連にある滿洲國海關に於いて課税し、石油・棉花・羊毛・木材等の原料品輸入に對しては高率の課税をなしてゐる。貿易上の特色には次の如きものがある。①開拓途上の新興國であるから貿易の發達が著しい。滿洲の貿易はもと沿岸貿易が主であつたが、大連の開港後は外國貿易の急増を來し、一九〇七年の貿易額に對して一九三二年にはその約二〇倍に及んでゐる。②滿洲國の貿易は輸出超過を常態となし、一九〇七——一九三三年に至る二七年间に於いて一九〇七・一九〇八・一九一二・一九一四・一九一八・一九一九の六年は入超過、他は輸出超過であつた。年々の出超は無形輸入（Invisible Imports）——外人の投資の利子支拂及び移民の郷

里送金——によつて相殺されてゐる。一九三三年の輸出は三億六三〇〇萬圓で、輸入は一億七五〇萬圓である。列國の投資中我が國はその第一位を占めて二〇億三六八〇萬圓に達し、全投資額の七九%餘に相當してゐる。③貿易國は日本を第一となし、中華民國・獨逸・米國・ロシア等が之に次ぎ、一九三三年の日滿貿易は日本内地への輸出が一億七二〇〇萬圓で、大豆・豆粕・石炭・銑鐵等があり、輸入は實に三億二二〇萬圓の巨額に達し、綿織物・綿絲・鐵及鐵製品・小麥粉・車輛・砂糖が主要なるものである。④滿洲國の輸出品は大豆（三七%）、豆粕（一七%）、豆油（七%）を主とし、其他雜穀・種子・燃料等の農産及び原料品の輸出を特色となし、輸入品は雜穀・金屬及製品・綿絲・

列國投資額（一九三四年）			
日	本	二〇・三六八〇	七九%
露	西	四・六五〇〇	一八%
イ	ギ	三九六〇	二%
米	國	二六四〇	
フ	ラ	二一〇〇	
全	額	二五・七八九〇	一〇〇%

綿布等の加工品を特色としてゐる。

【教授】 鐵道・河川等の交通系と連絡して各貿易港を比較せねばならない。鐵道では滿鐵の大連集中主義による背域の擴大と、京圖線の全通並に奉山・大鄭等の鐵道系を有する葫蘆島の築港との關係について考察を進め、河川では鴨綠江・遼河等の舟楫及び結氷期の條件を基礎として、各港の特色——滿洲國の外港たる特色について對比したい。

第六節 住 民

滿洲の住民中最多を占めてゐるものは漢族であつて、原住民たる滿洲族は長白山脈の僻地或は奉天附近に少數の居住があるに過ぎない。滿洲族は人種學上ツングース族(Tunguses)の一派であつて、赫爾・契丹・女真等として漢族より畏怖されたもので、清朝は滿洲より起つて支那全土を統一して北京に都したのであつた。然しその故地である滿洲の地は全く荒廢に歸し、漢族の招民と其の後に於ける彼等の來住とによつて人口の増加を來し、遂に全人口の九〇%を占むるに至つた。其の他蒙古族・朝鮮人・日本内地人・白系露人等も居住してゐる。

(1) 滿洲人(Manchus) 清朝の支那統一後その旗人は漢土に移住するもの多く、彼等の本土は全く荒廢に歸したのである。滿洲人の根據とも稱すべき地は長白山脈の山間地方で、人種上の特徴は皮膚が黃白或は淡褐色で頭髮は黒くて直く、軟骨秀で鬚髯は少い。滿洲人の數は全人口の一〇%以下で、多數を占めてゐる漢族に同化せられて支那語を語り、漢族との混血が行はれてゐてその區別が困難である。然し辮髮の舊態を保つことにより、婦人の服裝・髮形・纏足のないこと等によつて漢族と區別せられてゐる。山間に居住する滿洲人は原始的生活をなしてゐて、多くは土造りの小屋或はテント等に住してゐるが、清朝時代の官吏・軍人等の子孫中には奉天等の都市に居住するものも多い。

(2) 通古斯族(Tungus) 滿洲族と共にウラル・アルタイ語系の民族で、ハッドン氏(A. C. Haddon)は直狀毛人種の一種であるこの民族をセントラリス(Centrals)の名をもつて呼んだ。ツングースに屬するものにはゴールド(Gold) オロチョン(Orochon) ビラール(Birar) ダウ(Daur) ソロン(Solon) メネゲル(Mengere) ギリヤーク(Gilyak) 等があるが、その人口は僅々五萬である。

(3) 漢族 現在滿洲人口の九〇%を占めてゐる。滿洲人の中原移住(Exodus)によつて荒廢地と化した爲全く處女地の觀を呈した滿洲は、漢族の來住によつて開拓せられその植民地となつたのである。一六五三年には遼東招撫令を發して邊境以南に漢族の移住を許し、邊境外は封禁の地としたが其の後漢族の來住が甚だ多く、乾隆帝は封禁の制を嚴重にしたのであつた。康熙帝は開原から北東に向つて松花江に至る柳條邊境をつくつて蒙古人との境界となし、その一部は柳を植えて目標となした。山海關より開原を経て安東に至る邊境は石城或は土壘等から成り、明代の城壁は其の後滿洲人の邊境として利用された。この邊境以南は早くから漢人の住地となり、近年に至つては漢族の流入が非常に多く、山東省を第一となし山西省更に中部・南部地方等より年々數十萬乃至一〇〇萬の移動があつた。山東地方は人口が過剰であつて生活に餘裕がないからその移住が多かつたもので、苦力と稱せられる労働者の出發地として有名である。殊に中華民國各地の凶作に際しては所謂難民移住が多く、その出生地は各地に亘つてゐる。

(4) 蒙古族(Mongols) 内外蒙古人の大部は東部蒙古人(Eastern Mongols)に屬し、カルカ(Khalkas) 哈

爾哈）の別稱を有し、元の成吉思汗はこの種族である。カルムック人（Kalmuks）は西部蒙古人で、その一部は呼倫貝爾にも居住して居り、ブリヤート人（Buriats）はアルグン河地方・滿洲の各地に少數の居住がある。

(5) 日本人

朝鮮族は間島の地を中心として約七〇萬の移住民があり、多く農業に従事してゐる。大和民

滿洲への漢族の移住（滿鐵調査局）			
年	入	満	定
度	入	満	定
一九二二	四・三・〇〇〇 _A	一九三・〇〇〇 _A	二六・九%
一九二三	四・八・〇〇〇	二八・二・〇〇〇	四五・八%
一九二四	五・三・三・〇〇〇	二九・五・〇〇〇	五六・二%
一九二五	六・〇・七・〇〇〇	二八・四・〇〇〇	四九・四%
一九二六	一・七・八・〇〇〇	八三・六・〇〇〇	七〇・三%
一九二七	九三・八・〇〇〇	五四・四・〇〇〇	五七・九%
一九二八	一〇・四・六・〇〇〇	四・四・〇〇〇	四二・五%
一九二九	八・一・〇〇〇	二五・〇〇〇	三一・〇%
一九三〇	四・六・七・〇〇〇	〇・六・〇〇〇	
一九三一	四・四・〇〇〇	八・五・〇〇〇	
一九三二			

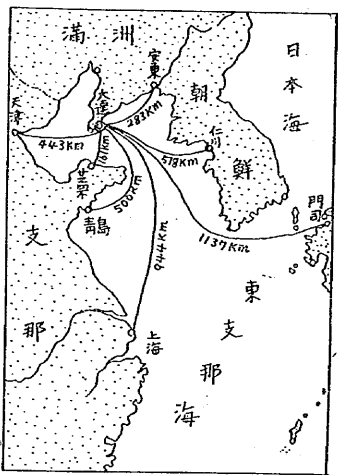
族は關東州内に一五萬あり、滿洲には二〇萬餘の人口があつて、三江省の佳木斯附近（永豐鎮）の武裝移民・大郷線地方の農業移民等は移民問題に對して最も注意すべきものであるがその數は未だ少く、大部は滿鐵附屬地及び都市に居住する者である。日本人移民の困難である理由は、①生活程度の甚だ低い漢族と競争しなければならぬこと、②未開拓の地方は北滿に多く、氣候が寒冷・暑熱の變化が多く日本人移民の農耕に對して不適である。③匪賊が多く漢族の

移民よりも特に襲來を受け易い。④従つて農業を目的とすることよりも、都市或は滿鐵附屬地等に於いて商業・工業に従事することが利益であつて、目下のところ農業移民は困難である。白系露人は北滿に多く、約一〇萬の人口を有してゐる。

【教授】滿洲の日本人移民問題——世界の各地に於いてその發展を制止されてゐる——我が國にとつては實に大切な事であつて、日本政府並に資本家の援助を必要とするのである。生活程度の低い漢族との競争は農業移民上最も困難な問題で、移民に當つてはその覺悟が必要であり、且つ身體の強健であることを要求する。この共力こそ日本の發展の根柢をなすのであるから、地理教育によつて世人の注意を大いに喚起したいものである。

第七節 關 東 州 (Kwantungchuan) (面積三四〇〇方軒 人口一〇〇萬)

【位置】遼東半島の先端を占めた我が國の租借地 (Leased Territory) であつて、日露戦争の結果露國よりその租借權を繼承した植民地 (1895—1905) である。東は黃海西は渤海に臨み、南は渤海海峡を隔て、山東半島に對する優秀な位置にあることから、滿洲國並に北支那の關門となり、香港・シンガポール等に比すべき東洋の商業根據地 (Commercial Station) となつてゐる。大連はこの半島の東岸にあつて冬季の結氷期に於いても船舶の出入が可能であり、第廿二圖の如く營口 (344km) 天津 (443km) 安東 (233km) 芝罘 (161km) 仁川 (318km) 青島 (500km) 等の中心的位置にあるばかりでなく、上海・長崎・門司に對する要地



第22圖 大連の地理的位置

を占め、滿洲を背域とする東亞の重要な商港である。

【地形・氣候】 遼東半島の地形に就いては滿洲の部で既に記したのであるが、更にその南端部の地形に就いて記述しよう。遼東平原は低位置にある準平原であつて、海蝕の痕跡は全く流水の侵蝕によるもので、東海岸の貔子窩附近では北東—南西約一〇〇呎間に亘つて二〇〇m以下の準平原から成る丘陵地が發達してゐる。この丘陵上には大和尚山(六六三m)、小黑山(四六八m)、老鐵山(四五六m)等の標式的モナドノック(Monadnock)があることが知られてゐる。花井學士によれば、丘陵の分布と地質構造との關係は密接であつて、片麻岩區域では丘陵と認むべきものが殆どないのに反して、前寒武利亞紀より中生紀に至る水成岩層區域では殘丘が多く、殊に硅岩から成る部分の山地では、連峯は鋸齒狀を呈してゐるといふ。

遼東平原は沈降の結果、東海岸にはリ阿斯式海岸(Riasische)の發達を見たもので、更に海底に迄續いたデルタ(Delta)を形成した。然し最近では新帶博士によつて指摘された如く、土地の隆起が見られてゐる

のである。松下學士によれば、旅順—大連間の旅大山地では一段或は二段の河岸段丘(River Terrace)があつて多くのものは石段丘であり、局部的の地盤運動によつて形成されたものであるといふ。これ等の低位置準平原上の殘丘である大和尚山、及び其の他の硅岩山地の山頂に近い所には、四〇〇—五〇〇mの平坦面があり、隆起準平原(Elevated Plain)の存在することは興味あることである。

關東州の氣候は所謂「滿洲氣候」の特色を有するもので、海洋の影響を受けることは滿洲の各地よりも大である。然し夏季の氣温が高い爲に自然蒸發による天日製鹽の業が行はれ、沈降によつて生じた各入江の灣頭にある低地が鹽田として利用されてゐる。

【産業】 古くから漢族の來住によつて開拓せられ、耕地面積は二〇萬ヘクタールに及んでゐて全面積の五八%に當り、玉蜀黍(包米)及び高粱・大豆・林檎等の產出が多い。日本人の農業者は戸數三〇〇戸、その人口は七〇〇人あり、金州に近い愛川村は内地人最初の移住農村で、地下水の利用によつて水田耕作の發達を來したことは注目すべきことである。近海は極めて淺い大陸棚(Continental Shelf)の一部であつて、鰯・石首魚・鯛・鱈・鰻等の漁獲が多く、天日製鹽は貔子窩(Pisewo)普蘭店(Pulantien)を中心として行はれてゐる。

油房業は大連の最も主要なる工業であつて、その位置がよいから滿洲大豆の輸出港となり、Bean Townの稱さへある位である。搾油法には搾壓法と抽出法とあり、壓搾法は豆油と共に豆粕を得るのであるが、抽

出法は豆油を目的となし、その油は中華民國・歐米等に送り豆粕は主に日本に送つてゐる。近年はハルビンに油房業の發達を來したのみでなく、獨逸等の諸國に於いても大豆工業が行はれ、その影響を受けて大連の油房業は衰頹の氣味がある。現在は五〇餘の工場があつて滿洲工場の一を有し、國際的工業としての特色を示してゐる。

【大連】(Dairen 30)

露西亞が極東經營の一大根據地として建設した都市で、滿洲を背域とした商港であり、且つ油房・セメント・製粉・硝子等の工業市である。その輸出品は大豆・豆粕・豆油・石炭・鐵及鋼・落花生・小豆等で、輸入品には綿織物・綿絲・麥粉・金屬性建築材料・車輛及部分品・砂糖・煙草・麻袋等があり、仲繼貿易(Entrepot Trade)が主であるから自由港(Free Port)となつてゐる。市街の中心部は放射狀同心圓式のもので、露國の經營によつたものであり、日本人の建設した新市街は井然たる街區をなしてゐる。郊外の沙河口には滿鐵の工場があり、周水子には日本航空會社の大連發着所がある。

大連の貿易關係國 (一九三三)	
日本	四二・〇〇%
中華民國	八一・〇〇%
英國	三八・五〇%
和蘭	三四・〇〇%
ドイツ	二七・七〇%
埃及	二四・〇〇%
米國	一九・八〇%
香港	二一・〇〇%
世界	七〇・五〇%
	一〇〇・〇%

旅順 (Baygin 3) は山地に圍まれた要塞地で、日露戰跡として有名な爾靈山・東鷄冠山・松樹山・老鐵山・黃金山・鷄冠山等の砲臺によつて圍まれた中に良港灣があり、東港の要港と西港の商港とに分たれ、露西亞の建設した新市街には關東廳・工科大学・博物館等がある。

【教授】 關東州の重要性を教授するには、その位置が政治的に滿洲及び北支の要地を占めることを知らしめる。大連の港市に就いては政治・經濟的意義を總括することが出来、商港の背域 (Hinterland) 連京線を主とする交通系・日本の經營・自然的良港・前方地 (Foreland) との關係等、港の發達條件を吟味することが出来る。

第四章 中華民國 (China) (面積約一〇〇〇萬方呎 人口約四億五〇〇〇萬)

第一節 政治

【境域】 中華民國 (Chung-hua-min-kuo) はアジアの大國であつて其の面積は一〇〇〇萬方呎に及び、ヨーロッパの全面積に等しい大領域國である。中華民國の地域は次の如き各地に分たれ、その面積・人口等も正確を期し難いけれども、支那本部 (China Proper) は全領域の約四〇%を占めて最も樞要な所である。次に各地方の面積・人口等の概算を擧げて、この國の現在に於ける境界を吟味したい。

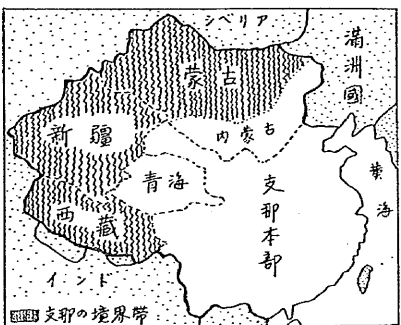
滿洲の地に起つた清朝は支那全土を統一して北京(北平)に都し、支那史上に於て稀有の長期に亘る統治を

地名	面積(萬平方英里)	面積の割合	人口(萬人)
支那本部(China Proper)	四二〇	四二%	四五〇〇〇
内蒙古(Inner Mongolia)	八〇	八%	四〇〇
蒙古(Mongolia)	一六〇	一六%	四〇
新疆(Xinjiang)	一七〇	一七%	二五〇
青海(Qinghai)	七〇	七%	三五
西藏(Tibet)	一〇〇	一〇%	一三〇

なしたのである。此間に於いて清は大いに領域を擴張してその大をなし、聖祖は内外蒙古を攻略(一六九六)して之を併せ、次いで西藏を征服して駐藏大臣を拉薩に置き(一七二四)現在の中華民国領域の基をなした。一九二一年のワシントン會議に於いて、支那の領土主

權の尊重に關する論議がなされた時、佛國全權ブリアン氏は『支那とは何ぞや』との奇問を發して一同を啞然たらしめたのであつた。これはその領土主權について詮索して見ると、支那は甚だ漠然としたものになつて來る。我々は支那國民政府の政治が全く行使されてゐない——所謂支那藩部(Chinese Outer Territories)を包括して常識的に支那となし、現在に於いても清朝時代の歴史的境界線を眺めてゐるのである。従つてその藩部と稱してゐる蒙古・新疆・西藏等に就いては、政治地理上一考を要する地帯であつて、緩衝國的存在である大領域國——支那を、更に外部から保護する一つの緩衝地帯(Buffer Belt)と見ることが至當ではなからうかと思ふのである。

【政治】 支那は易姓革命の國である。唐虞三代より中華民國に至る迄二十幾回の革命が行はれてゐるのであつて、彼等の間には天命移れば取つて代るべし精神が生じてゐる。清朝に代つて中華民國の共和政體



第23圖 中華民國の境域

が形成されたのであるが、各地の軍閥は兵を養つてその統一を計畫し、常に自己の勢力の擴大を望んでゐる。かゝる爲に支那の統一ある政治はその出現が困難であつて、強大なる國家たり得ない理由がこゝに存してゐる。支那人が國家的觀念を缺除してゐるといふことは、國家が彼等の生命財産を保護することがなく、寧ろ多くの迷惑を受けてゐることに由來してゐる。従つて中華民國に於いてはその社會がよく發達し、國家を離れた社會人としての活動は驚異に値するものがある。

中華民國はその成立後孫文が第一代の臨時大總統となつたのであるが、其の後袁世凱・宣統帝・大總統・大元帥(張作霖)等が、其の後袁世凱・宣統帝・大總統・大元帥(張作霖)等の變遷が多く、民國十七年に至つて蒋介石等は委員會制の國民政府を南京に建設した。孫文は所謂三民主義を標榜して國民黨を指導したもので、民族主義(對内的・對外的に民族の解放を爲すこと)民權主義(政治上のデモクラシー)民生主義(經濟上のデモクラシー)であつて、地權の偏在を防止し、國家資本の發達と國產振興を圖るをその指導方針としたのであるが、その達成を見ずして歿した。現在は南京政府が大體に於いて支配權を有し、一九二八年の制定(一九三一年修正)による國民黨政府組織法によつて委員會制の政府を組織し、その下に行政院・立法院・司法院・考試院・監察院の

五院がある。行政院は内政・外交・軍政・海軍・財政・實業・教育・司法及行政・交通・鐵道の十部と、蒙藏・禁烟・賑務・僑務の四委員會とから成つてゐる。

支那の政治・外交問題に就いて最も顯著な事實は、實に日本との關係であつて、極めて密接な國家的關係を有してゐる。その獨立國たることすら疑問視されてゐるこの國は、日本の存在に依存して存在することを明示してゐる。中華民國に於ける列國の利權には次の如きものがある。

中華民國に於ける列國の利權。

- (1) 佛蘭西……安南の宗主權。雲南・廣西兩省に於て、老開・蒙自・雲南・龍州・桂林等の市場を開く。滇越鐵道の經營。雲南・廣東・廣西の不割讓。廣州灣の租借——還付を聲明。
 - (2) 英吉利……緬甸鐵道の延長權。威海衛租借——還付。香港島の領有と附近の租借。揚子江流域の不割讓。北平・山海關の鐵道出資權。山西・河南の鑛山探掘權。
 - (3) 獨逸……膠州灣の租借及山東鐵道の敷設——還付。鑛山探掘權——還付、日華合辦。
 - (4) ソヴィエト聯邦……東支鐵道敷設經營——滿州國へ讓渡。關東州租借權——日本へ讓渡。滿洲の鑛山探掘權——日本へ讓渡。
 - (5) 列國……治外法權・關稅の制限・内陸水の航行權・租界（居留地）行政權・駐兵權等の利權。
- かくの如く列國は中華民國の地域内に於いて其の利權を有し、日露戰爭並に日獨の開戦は何れも列國の有

するかゝる權益に起因するもので、日本はその權益の一部を支那に還付せしめたのみでなく、實にこの國の獨立を支援するものと見做すべきである。外蒙古の邊境部は一九一五年その自治權を附與したのであつたが、一九二一年ソヴィエト聯邦の援助に依つて獨立を宣言し、西藏亦獨立して英國の保護國たる觀を呈するに至つた。中華民國の領域に關する政治問題は今後に於ける極東の一大問題であつて、我が國は新興滿洲國と提携するのみでなく、日華親善の道を講じて東亞の平和を保持してゆかねばならぬ。

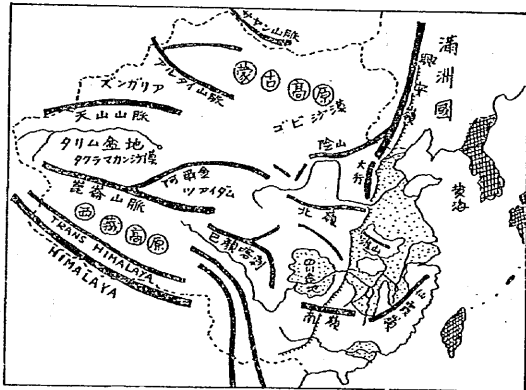
【教授】 中華民國の政治的境界に注意を向けて、この國の政治を觀察した。この國の境界は全く明瞭でなく、國內に於いても列強の權益が數多く存してゐて獨立の如きも疑問である。従つて日華親善は單なる美辭麗句ではなく、眞に華國並に日本の發展となり、東亞の平和を確立するものであることを認識せしめねばならぬ。

第二節 地形誌

【地形の二大區分】

中華民國はその領域が甚だ廣大であつて地理的景觀は複雑を極めてゐるが、地形上からは、(1)西部高地 (Western Highlands) と (2)東部低地 (Eastern Lowlands) の二區分が可能である。この境界は興安嶺・大行山脈・大巴山脈 (Ta-Pa-shan)・雲貴高原等の東縁に存在してゐる一大斷層 (Fault Scar) によつて區分せられ、西部高地は乾燥地と山岳地が大部分を占めてゐるのに反して、東部低地には沃地が廣く續いてゐる四億に達する過大の人口が藏されてゐる。

西部高地には Himalaya, Kwen-Lun, Tien Shan, Altai, Altyn Tagh 等の諸山地があり、これ等の諸山地



第24圖 中華民国の地形圖

貴高原等によつて圍繞された中に、ジュラ紀の赤色砂岩層がある爲に赤色盆地(Red Basin)の名がある。

もとは一大内陸湖を形成したものであつて、その堆積物が盆地底の各所に發見せられ、盆地の水は全く枯渇して湖底平原が露出するに至つた。

東部低地は黄河・揚子江・珠江等の沖積平野の地域で、この低地中には山東地塊・淮山脈(Huai Mts)南嶺(Nan-shan)等の北東—南西に走る第三の地塊がある。黄河の下流部は北支那平野(North China Plain)と稱する沖積平原で、黄河の堆積によつてこの肥沃な所謂中原の地が形成された。揚子江の中流には湖廣盆地・江西盆地の二大地溝(Graben)があり、洞庭湖・鄱陽湖等の湖沼を湛へてゐる。洞庭湖は夏季増水時にはその面積は六〇〇〇方呎に及び、雲夢澤の舊湖が乾涸して生じたものである。揚子江は西藏高原の北側に發源し、四川盆地の水を容れて東流して三峡の激灘となり、湖廣盆地・江西盆地の水を集めて流れ、河口には揚子江三角洲(Yangtze Delta)を造つて東支那海に注ぐ。その流程五二〇〇呎、流域面積は一七八萬方呎に達し支那の地中海の稱を得てゐる。南支那は珠江がの流域で河口には珠江デルタがあり、廣東灣頭に注いでゐる。

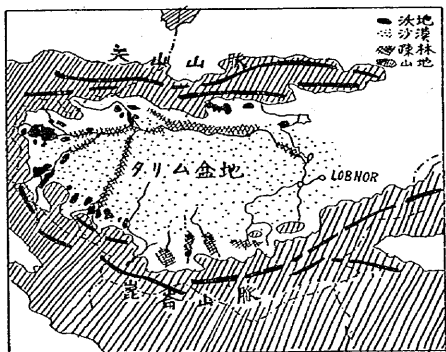
(一)西部高地 (Western Highlands)

西藏・新疆・青海・蒙古等に亘る邊境部は高亞の地域で、蒙古高原・ズンガリア盆地・タリム盆地・ツアイダム盆地・西藏高原等は乾燥氣候(Arid climate)を呈してゐる。これ等の高原・盆地等の四周にはヒマラヤ・トランスヒマラヤ等の褶曲山脈や、崑崙・天山・アルタイ・サヤン等の斷層山脈群があつて、その内

部は内陸流域(Inland drainage system)をなしてゐる。この断層山脈群は古生代褶曲に属するものであるが後には準平原化し、第三紀の造山運動の影響を受けて断層山脈となつたもので、E. Argand 及び Huntington に依れば深部褶曲(plis de fond)の結果によつて構成されたものである。

【西藏高原】(Plateau of Tibet) 西藏高原は平均の高度四〇〇〇mに達し、廣大なる面積を有してゐて且つ高度の大なる點に於いては世界に比類がない。チベットとは支那人が圖伯特(西藏人が自ら Bod と稱すことに起因してゐる)と呼んだことに由来するもので、乾燥なる(Tu)土地(Bod)を意味するものであるといふ。高原には鹽分を含んだ大小の湖水が散在し、乾燥氣候に曝された沙漠性の高地には鹽の堆積丘があることも珍しくない。高原の周縁にはヒマラヤ山脈・カラコルム山脈(Kara Koram)・バミル高原・崑崙山脈等が存在し、地形上からは北部の高原チャンタン(Chang Tang)と南部の河谷地に分たれる。チャンタンは崑崙山脈とトランスヒマラヤとの間の地帯で内陸流域をなし、テングリ湖(Tengri Nor)・セリング湖(Seling Cho)・ダンシャム湖(Dangra Yum Cho)等海拔五〇〇〇mに達する鹹湖がある。南部の河谷低地はヒマラヤ・トランスヒマラヤ(Trans Himalaya)間の縱谷をなすツアンポー河(Jaungpo)の低地を占め、東部ではメーコン・サルウィン・揚子江等の河谷に終つてゐる。

【崑崙山脈】(Kuen-Lun Mountains) 崑崙山脈はバミル高原に發して東に走り、リヒトフォーヘンは支那本部の北嶺を経て我が國に連るものと見て、アジア東部の脊梁山脈と稱した。崑崙山脈の西部はヤルカン



第25圖 タリム盆地の地形圖

ド弧と呼ばれ、準平原面は五〇〇〇mの高度を有してゐる。崑崙中部では Altyn Tagh、フムボルト山脈・リヒトフォーヘン山脈・アレクサンダー山脈・ジウス山脈・南山等の諸山脈があり、E. Argand に依れば Altyn Tagh 及び南山附近では後方山脈群との間に深部褶曲の分岐即ち強制分岐を構成するものである。これ等の山脈間の諸盆地は分解物に依つて充填せられ、中央にはツアイダムの大盆地が横はつてゐる。

【タリム盆地】(Tarim Basin) 東西の延長は一〇〇〇km、幅員は五〇〇kmに及ぶ楕圓形の盆地で、乾燥氣候下にある内陸盆地であつて、タクラマカン(Takla-Makan)と呼ばれる沙漠をなしてゐる。この地域は一つの舊地塊をなすものと思はれるもので、沙漠の砂の下に隠れてゐる構造は未だ不明であるが、セリンディア地塊(Massif indien)の名を得てゐる。四周の天山・崑崙等の山地は六―七〇〇mの高度にあつて氷雪を有しゐるか、Kashgar Daya, Khotan Daya, Yarkand Daya 等はタリム河となつて東流し、ロブノル(Lob Nor)に注いでゐる。沙漠には黄土性の微粒から成る砂丘が多く存在し、山地に發する細流は山麓に

於いて多くは消失してゐる。

【天山山脈】(Tien Shan) 天山山脈も中部崑崙の如き強制分岐による山系を形成し、山頂には各地に石灰岩の分布があつて、廣い隆起準平原を認めることが出来る。山系中の最高峯はハンテングリ山 (Tengri 6990m) で、準平原面上に残存したモナドノック (Monadnock) である。天山の地形發達については石炭紀に二回の造山運動があつたことが知られて居り、この褶曲の後には全く準平原化したのであつたが、アルペン深部褶曲の結果として現在の如く隆起したものであるといふ。

樹木境界は二七〇〇—二八〇〇mの高所にあり、松・唐檜等の植物が茂つてゐるが、山頂附近では氷雪を藏してゐるから自然的境界となり、タリム盆地 (Tarim Basin) とズンガリア (Jungaria) とを分つ著しい境界をなしてゐる。

【アルタイ山脈】(Altai Mountains) アルタイ山脈は蒙古高原の北西部を占め、Grano は蒙古高原と共に中生代に準平原化したものであると認めた。その北西部ではソウイェトのオビ河上流地に及び、蒙古高原上では瀚海山脈 (Khangai Mts.) 南アルタイ (Southern Altai) 等の山地に分たれてゐる。アルタイの地形も天山に於けるが如くであつて、隆起準平原面上には多くのモナドノックがあり、アルバイン形の高峯には氷河を存してゐる。E. Argand に依れば、その深部褶曲は幼稚な形式で隆起も著しくなゝ。然し東西に走る高峯群は斷層によつて隆起したもので、準平原上のモナドノック群をなしてゐる。

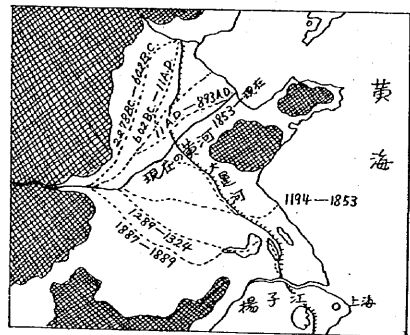
【蒙古高原】(Mongolian Plateau) 蒙古高原は中華民國西部高地の最北端に位する高原狀盆地で、東境には北東—南西の支那方向 (Sinian direction) をなす大興安嶺・五臺山脈・太行山脈等があり、南部には南山、北西部には天山・アルタイ・サヤン等の諸山地がある。ゴビ沙漠 (Gobi or Shamo) は盆地中に北東—南西方向に存在し、地盤の下降によつて生じた撓曲盆地底を占めてゐる。この盆地は激しい變動によつて生じた斷層盆地と、僅かに堆積物を有してゐる撓曲盆地とを分つことが出来る。パーキー (C. P. Berkeley) 及びモーリス (E. K. Morris) 兩氏の研究によれば、蒙古高原には少くも二箇の準平原面があつて、この割剝面に對して蒙古準平原 (Mongolian Penplain) とゴビ準平原 (Gobi Penplain) の名を與へてゐる。蒙古準平原は南部では一六〇〇m北部では一八〇〇mの高地にあつて、太古代よりジュラ紀に至る地層を切つて形成され、ゴビ準平原は軟弱な盆地層を切る平坦な割剝面であつて、第三紀末或は洪積紀初期に完成されたものであるといふ。然しこの關係に就ては未だ明瞭でない。

(二) 東部低地 (Eastern Lowlands)

支那方向 (Sinian Direction) には Raphael Pumpelly によつて始めて注意されたもので、北東—南西方向を示す大興安嶺・五臺・太行等の諸山地は、更に南西部に延長して湖廣盆地西部の一大斷層崖に續いてゐる。この東部低地は黃河流域の北支那平野・揚子江流域の中支那平野・珠江流域の南支那平野の三區に分つことが出来る。

【北支那平野】(North China Plains)

北支那の黄河下流平野は三角洲平野 (Delta Plain) の好例であつて、扇狀地狀を呈する沖積平野であるが爲に、その頂點よりの傾斜に従つて河道の變遷が極りない。黄河は支那歴代の治世上の痛であつて、洪水時に齎らす多量の土砂の爲に河床は次第に高まつて河水氾濫の因となる。之は全く黄河流域に存する黄土 (Loess) の細粒を流下することによるもので、河水は常に黄濁してゐるから『百年待河清』の諺がある位である。黄河は源を青海の山地に發し、オルドス (Ordos) の地では直角狀に屈曲して南流し、汾水・渭水等の支流を合して函谷關の峽谷を穿つてゐる。汾水は山西臺地を流下する河で北東—南西方向の河谷をなし、太原盆地・平陽盆地等が介在してゐる。渭水流域の渭水盆地は漢族發祥の地で、秦嶺の方向を示す構造線に沿つて形成された。



第26圖 北支那平野(黄河の變遷)

黄土の成因に就いては河流水河説・洪積説・風成説等の學説があるが、リヒトホーフンは支那の黄土を調査して風成であることを推論してゐる。河流水河説 (Fluvio-glacial theory) はラインの黄土について Lyell (1834) が主張した所で、氷河時代にアルプスから氷河の泥を流下して生じたものであると認めた。洪積説 (Diluvial theory) は黄土を

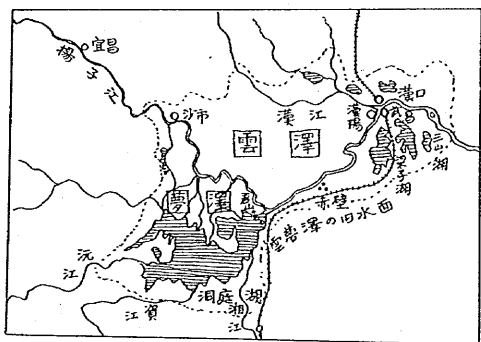
洪積層の腐蝕したものとすもので、その信用度は甚だ薄い。之に對して風成説 (Aeolian theory) は Huch-
brot (1877) Tutkovsky (1889) 等の論する所で、リヒトホーフンは沙漠地方から風力によつて運搬されたものとなし、その飛散した土砂が半乾燥地のステップに堆積して成生したといふのである。黄土は多孔質で層狀をなすことなく、黄土中に含有する貝化石は陸棲のものであり、その堆積狀態が土地の高低・地質等に無關係である等の事實より、風成であるとすることが一般に認められてゐる。然し Willis が注意した様に、黄土の一部は河の堆積物として置き換へられたことは事實である。

北支那平野は黄河下流から白河の流域に及ぶもので、白河の上流には五臺山脈 (Wutai Shan) 陰山山脈 (Yin-shan) の並行山地がある。この山地間には陥没によつて生じた懷來盆地・桑乾河盆地等があつて、渾河は最南部の南口山脈を横斷して峽谷を形成する。この地方の地形發達に就いては Willis, Barbour 等の研究があり、北支時期 (Peking stage) に準平原化した地貌は隆起して侵蝕を受け、第四紀に至つて撓曲運動による河川の回春が行はれて段丘が形成せられ、峽谷の發達を見たのである。

【中支那平野】(Central China Plains)

中部支那の平野は揚子江の流域に屬し、次の三箇の平野に分たれてゐる。揚子江三角洲 (Yangtze Delta) の下流平野と、揚子江の中部盆地 (Yangtze Central Basins) には江西・湖廣の二大平野がある。揚子江は四川盆地の水を集めて三峽(風箱峽・巫山峽・米倉峽)の峻を過ぎ、こゝに山地を横斷して先行河流 (Antecedent river) となつてゐる。石灰岩から成る背斜部では水流は深潭を

湛へて缺となり、その兩岸は何れも數百米の絶壁をなしてゐるが、片麻岩・粘板岩・赤色砂岩等の向斜部では急流となつて灘をなしてゐる。灘は河幅廣く巨岩が河中に露出して激流となり、舟航は危険である。



第27圖 湖 廣 盆 地

赭色砂岩から成る絶壁で揚子江岸に臨んでゐる。

〔註〕三峽 四川省の盆地の水を集めて東流する揚子江は、巴山・棲山の山地間を横断してゐる。こゝに三峽の險があるものであつて、山地の隆起に抗して河の侵蝕が行はれて元來の流路を保持したものである。之を先行河と名づけるのである。有名な白帝城は夔門峽（瞿塘峽）の北岸にあり、李白の詩に「朝辭白帝彩雲間。千里江陵一日還。兩岸猿聲啼不住。輕舟已過萬重山。」といふのがある。

(A) 湖廣盆地 湖北・湖南兩省に續く盆地で中央地溝帶の一部をなし、現在に於いても猶繼續してゐる一の沈降區域である。この低地に於いては皆て漢江・揚子江間に雲澤、揚子江以南には夢澤の大湖が存在してゐたが、湖岸平野の發達によつて次第に縮小して洞庭湖等が残存した。湖頭には湘江・資江・沅江等の大支流が注いでゐて、岳州に於いて揚子江に會する。武昌の南部には梁子湖・後湖・三山湖等の小湖があつて、湖岸には二壘・石炭紀・中生代等の地質から成る丘陵が之を圍繞してゐる。有名な赤壁は

洞庭湖は太湖とも稱せられ、その高水時の面積は六〇〇〇方呎に達する支那第一の淡水湖である。冬季の減水時には湖面は乾涸して小湖に分たれるが、夏季には甚しく増水して大湖となり、東西・南北各、一〇〇方呎に達するに至る。湖岸には各地に小丘が點在し、洞庭湖口の君山・烏山等の小島は何れも赭色砂岩の丘陵から成るものである。

(B) 江西盆地 江西・安徽兩省の低地で淮山脈・贛西山地・仙霞嶺間に横はり、その低所には巢湖・鄱陽湖等の大湖がある。リヒトホルフェンによれば斷層ブロックによつて形成されたもので、淮山脈(Huai Mts.)の地壘山地に對してその南は江西地溝をなすものであるが、Abendanon の如く撓曲によつて構成されたものとなすものもある。鄱陽湖頭には贛江が流入して湖岸平野を形成して居り、この低地によつて贛西山地と仙霞嶺とを區分する。贛西山地の東端には小地壘をなす廬山(1300m)が屹立し、五老峰・香爐峯等の名勝地として知られた所で南支隨一の避暑地である。

(C) 揚子江三角洲 江蘇省・浙江省に亘る平野であるから江浙平野の稱がある。揚子江三角洲の北部地帯は淮河流域に屬し、黃河及び淮河の沖積平野で黃土を混じてゐる。この兩河の中間地帯には洪澤湖・寶應湖・大縱湖等があつて華國第一の湖沼地帯をなし、黃河・淮河・揚子江と互に連絡して溝渠網の著しい所である。揚子江以南では南嶺の連綿を示す小丘が散在し、主に中生代の火成岩によつて貫かれた古生層の岩石から成つてゐる。舟山列島の如きもその一例で、杭州灣の三角江(Estuary)口を扼してゐる。揚子江三角洲の堆積

層の厚さは三〇〇mに及び、三角洲最近の前進は唐代以後少くとも一〇〇〇年間に約三〇mに及ぶものであると云ふ。

【南支那平野】(South China Plains) 南嶺以南は珠江(Chu-kiang)流域に属し、西江(Si-kiang)は雲南省に發して東流し、鬱江・桂江等の支流を合せ、河口では多くの分流をなして珠江の名を得てゐる。雲貴高原の上流部では急流・瀑布を有してゐるが、中流部では沖積平野が廣く、下流部一五〇mの部分では珠江三角洲をなしてゐる。南嶺(South Mountains)は中南兩支那平野を分つ山脈で、桂湘山地・閩浙山地等を總稱する。閩浙山地は仙霞嶺を主とする内帶山地で一五〇〇—二〇〇〇mの高度を有し、錢塘江の縱谷以東には江東山地がある。南嶺東海岸は象山灣・三門灣・三沙灣・泉州灣・閩頭灣等の出入に富み、標式的のリアス海岸(Riasische)である。

【教授】 西部高地の地形的特色をなす高原・斷層山地群・盆地・内陸流域・乾燥地域等の壹般を理解せしめ、その東部は地境狀の地形を呈して低地の沃野に移化するもので、河(黄河)江(揚子江)及び珠江流域について地形の特色を授ける。必ずしも地形學上興味ある事項についてのみ論及する必要はなく、東部低地の主要地域を考察の核心としたい。華國の政治的境界と地形とがよく一致してゐることは興味あることで、西部高地の大部は中央政府の威令が行はれない所となつてゐる。

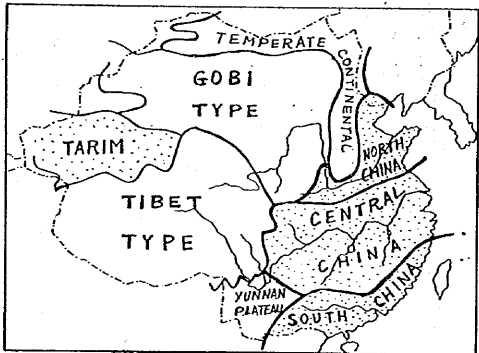
第三節 氣候區

【氣候區】 中華民國の東部と西部とは氣候上全く二つの區域に分たれてゐる。支那本部の大部分はマルトンス氏の支那氣候(China Climate)であつて、氣節風帶の溫暖地域に屬する地方で大陸性の度は割合に大きい。雨期は六—九月の夏季で、この期間の降雨は北支那では全雨量の八〇%を占め、中支那では雨量は一層大であるが雨期の降雨量は全體の五〇%以下である。支那型(China Type)氣候は之を更に北支那型・中支那型・南支那型の三區に分ち得るのであるが、南嶺は特に著しい境界となつてゐる。西部高地の大部分は溫帶沙漠(Temperate Deserts)に屬し、戈壁型・タリム型・西藏型等の諸地域から成つてゐる。

(1)北支那型(North China Type) 北支那は中・南支那に比して氣溫の較差が大きく、冬季は殊に嚴寒で且降雨量が少い。北平の一月氣溫は(一)四・五度で七月は二六・四度であるから、その較差は三二度である。北平の年雨量は五六〇mmあつてその八〇%は六—九月間の降雨で、冬季は寡雨である。この地方は緯度上からは、(N)四〇度—(N)三四度間でヨーロッパの最南部に相當するが、ギリシアのアテネの一月氣溫八・八度に比しては寒冷で、夏季の濕潤と冬季の乾燥とは北支那型の特徴である。

(2)中支那型(Central China Type) 冬季は北支那の如く寒冷であるが氷點以上であつて、上海の一月は三・七度を示し八月は二七・六度である。氣節風帶であるから南東風の卓越する夏季が雨期で、北支那の

如く冬季の乾燥は甚しくない。之は地方的旋風の影響を受ける爲で、全年雨量に就いても北支那の如く夏のみに偏しない。上海の雨量は一二五耗あつて、六——九月間の降雨は全年の四八%を占めてゐる。揚子江上流の四川盆地は中支那型中の一小氣候區をなし、土地は海拔五〇〇m以上の高度を有する盆地であるが、北西部山地の影響を受けて比較的温暖で雨量は一〇〇〇耗に達してゐる。



第23圖 中華民國の氣候區

(3) 南支那型 (South China Type) 湿润・亚热带性的氣候區である。年平均気温は二〇度以上を示して熱帶圈内にあり、香港に於いては最寒月気温は一五・三度で年平均気温は二二・三度である。雨量は何れも二〇〇〇耗以上に達し、六——九月間の降雨は全年の五五%に當つてゐる。福建以南の地方には亚热带或は熱帯性の植物が多く、柑橘・バナ・甘蔗・パイナップル・龍眼肉等の果實類、茶樹・檳榔樹・樟腦・桂樹等の有用

植物が多い。

(4) 温暖大陸型 (Temperate Continental Type)

蒙古高原の北部から南東部に亘る狭長地帯を占め、支那

型及び滿洲型氣候 (Manchurian Climate) とゴビ型との漸移地帯 (Transitional Zone) をなしてゐる。北支那の地方では山西臺地から内蒙古の地方に延長し、年雨量は五〇〇耗程度でゴビ型氣候區の如く乾燥ではない。

(5) ゴビ型 (Gobi Type) 位置的に見れば蒙古高原中央部の氣候で、不毛の沙漠地は盆地中央部の一部にのみ限られ、決して一樣に砂原ではない。ケッペン (Köppen) の氣候圖に依れば乾燥氣候のステッパ型であつて、その各地の草地は蒙古人の遊牧の地となつてゐる。夏冬の気温較差は三〇——四〇度であつて純大陸性氣候を呈し、雨量は二〇〇耗以下で比較的南東部に多い。

(6) タリム型 (Taim Type) 天山・パミル高原・崑崙・カラコルム・阿爾金山脈 (Allyn Tagh) 等の高山地によつて圍繞された盆地であるから、降雨は甚だ少く五〇耗以下である。沙漠氣候 (Desert Climate) の地域で、夏季は三〇度以上の高温となり冬季は極めて寒冷である。ヤルカンド (Yarkand) の一月気温は二六度で、七月は二七・六度に及び、雨量は一三耗に過ぎない。この乾燥の甚しいタリム盆地の周縁に於ては都邑の遺跡等が多く發見された爲に、Hedin, Huntington 等の學者は氣候の變遷に注意したのであつたが、近年河道の變化に説明を與へて解釋した學者がある。

(8) 雲南臺地型 (Yunnan Plateau Type) 雲南省と貴州省に亘る臺地の地域で、冬は温暖で夏の気温も餘り昇騰を見ない。緯度上からは亚热带性であるべきであるが、臺地にある爲に冬季は温暖で氷點下になることは稀で、夏は湿润で稍不健康地である。

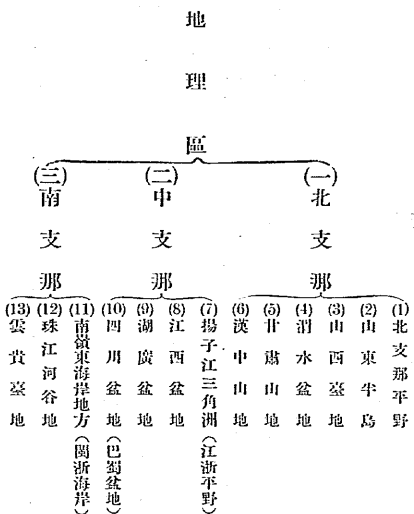
(8) 西藏型 (Tibet Type) 青海及び西藏の高地はツンドラに類似した寒冷氣候で、氣溫較差の著しい大陸性氣候 (Continental Climate) と甚しき乾燥氣候 (Arid Climate) を特色としてゐる。ラッサの八月平均氣溫は一九・五度で十二月には一二・八度を示し、長しそして寒い冬と、短しそして暖い夏を特色とし、雨期は六月より八月頃迄で九月・十月には殆ど雨がでない。

【殺接】 地形區・氣候區・政治區等が大體に於て一致してゐる。支那型の東部低地と、戈壁型・タリム型・西藏型等の乾燥氣候を呈する西部高地との漸移地帯との中間に、雲南高原型・四川盆地・溫暖大陸型等の漸移地帯がある。これ等を綜合して各地域の特色を認め得るのであつて、この地域の理解によつてその國の地誌が理解されるのである。

第四節 支那本部 (China Proper)

【地理區】 支那本部は黃河流域と揚子江流域の二地域と、更に南嶺以南の珠江流域とに分つことが出来る。地形及び氣候上の區分に就いては前述したのであるが、地理的にも同様に北支那・中支那・南支那の三區に分たれるのである。北支那は黃河流域の地方で、行政上からは山東・河北・河南・山西・陝西・甘肅の六省となり、地理的には北支那平野・山東半島・山西臺地・渭水盆地・甘肅山地・漢中盆地の六區となる。内蒙古に屬する察哈爾・綏遠・寧夏等の三省も、地理的には北支那の一部と見做すことが出来る。

中支那は揚子江流域で、江蘇・浙江・安徽・江西・湖北・湖南・四川等の各省に亘り、地理的には揚子江三角洲・江西盆地・湖廣盆地・四川盆地の四區に分つことが出来る。揚子江と珠江の分水界をなす南嶺は、氣候上からも南支那型と中支那型を分つ界線となり、南支那の珠江流域は一地理區をなしてゐる。浙江省南部と福建省の地は南嶺東海岸に位する南・中支那の漸移地帯で、廣東・廣西の兩省は南支那の核心である。その西部に位する雲南・貴州の地は雲貴高臺の一區を形成し、氣候上からは雲南高臺型である。



【二】北支那 (North China)

【黃河流域】 黄河 (Hwang Ho) は單に河とも稱する北支那の大河で、全長は四〇〇〇浬、流域面積は一五〇萬方浬に及んでゐる。源を青海省に發し甘肅山地を流れて蘭州に至る間は上流部で、中流部は潼關に至る間を占めてゐる。オルドス (Ordos) では地質構造線に従つてその流路は直角狀に屈曲し、その水路によつて河東 (山西) 及び河西 (陝西) の稱がある。黄土 (Loess) は山西省を中心として陝西・河南・河北等の諸省に亘り、その風成に就ては V. Richtofen, B. Willis, G. Menzies, J. G. Anderson 等の學者によつて認められてゐる。

黄河下流部は既に記述した如く、三角洲平原 (Delta Plain) をなして渤海に注ぐ。蒙古高原南東縁の山地をなす興安嶺・南口山脈・五臺山脈 (Wutai Shan) 陰山山脈 (In Shan) 等は北東—南西系統の山地をなし、南部を東西に走る秦嶺 (Tsinling Shan) との間には、山西臺地東縁をなす太行山脈 (Taishang Shan) が南北に走つてゐる。この秦嶺以北の諸山地は黄土堆積區域で黄土山地と稱せられ、黄河下流部の三角洲平原は黄土沖積地をなすのである。

黄河下流部では河道の變遷が著しく、有史以來既に九回の大變化があつた。一八七七年の大氾濫に際しては實に一〇〇萬の死傷者を出し、一九二一年の洪水には二五萬の牛靈を失つた。一九三〇年の洪水は北支

那・中支那の各地に及び、河南・山東・山西・浙江・安徽・江西・湖北・湖南の各省に於て約一四〇〇萬の避難者を算した。黄河の氾濫は古來治水上の痛であると言はれ、禹の如きは治水事業の爲に九年の歳月を要し、九年の間七年も家に歸らなかつたといふ。華國の政治が安定して近代科學による治水が達成し得たならば、古來中原の地の稱ある北支那平原は世界の一穀倉たり得るものである。北支那平原は肥沃なる黄土沖積地をなし、水田は少く畑地の分布が多く、高粱・玉蜀黍・大豆・粟・落花生等の産出が著しい。集約的農業 (Intensive Cultivation) による大家族の地方であり、黄河の洪水による被害と、氣節風による降雨量の不順と寡少とに起因する饑饉とは、文化の破壊者である。北支那平原は既に人口過剩 (Overpopulation) である上に、時々起る洪水・旱魃等の天災の爲に、滿洲國等への移民が陸續として移住するに至つた。

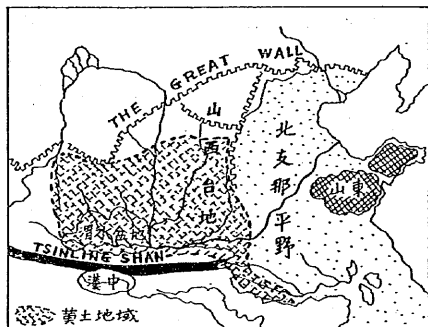
【黃河文明】 支那文化の發祥地は實に黃河流域であつて、黄河上流より來住した漢族は先づ渭水盆地に定住して農耕に従つた。この種族は次等に先住の民を同化して勢力を河谷低地に延ばし、堯・舜・禹等の都が何れも山西にあつたことは、次の時代に中原への發展をなす基をなした。漢族はその同化力の強大である點に於ては、近代に至る迄實に著しいものがある。河谷を東方に出で、先づ夏の相王は商邱 (河南省歸德) 周は河南省の洛陽に都したもので、渭水盆地より中原の地に進出してその發展を來した。この漢族は南方に起つた異民族の國——楚と抗爭したのが實に春秋時代の歴史で、次に西方に起つた秦と闘争して戰國時代となつた。

秦族は漢族と異つて好戰的であり、より進歩的である。始皇帝は渭水盆地を占據して北支那並に中支那を統一したばかりでなく、佛領印度支那の地方迄その版圖となし、北境には人爲的境界たる萬里の長城（Great Wall of China）を建設して蒙古人の侵入を防いだ。秦以後隋・唐は長安を都となし、宋の太祖は洛陽並に開封の二都を政治の中心とした。蒙古に發祥した元並に滿洲の地に發した清は、共に平原北境の北平の地を國都となし、全支那文化の中樞をなして支那文化の結實を見るに至つたのであつたが、清朝の滅亡後その國威は昔日の俤なく、南京に中華民國の國民政府が置かれてある。

(1) 北支那平野 (North China Plain)

黄河三角洲平原は黄土の堆積が多い低地で、黄土は透水性が大であるから表面には水が乏しく、水田耕作は局部的に發達するのみである。高粱・大豆・粟・麥・落花生等の畑作が行はれ、原始産業を主産業とする地方であるから人口の都市集中は顯著でない。然し政治の中心として發達した北平、その外港である天津、黄河畔に位する濟南、平原西部の舊都開封等は何れも北支那の主要都市である。その分布は平野周邊に多く、その理由に就いて西田教授は、①平野の中央は河水氾濫及び河道の變遷が多く、人民の集團的生活に適であるから都市が少く、②平時には商業の中心となり、戰時には攻防上の要衝として山隘に都市の發達が見られることに注意された。

【支那都市の形態】 支那式の都市は城壁を繞らし、その平面形態は正方形・矩形・圓形等の規則正しい



第29圖 北支那の地域

西田教授は次の二つの理由を擧げられた。①城内は構築の當初より市街發展の餘地を残し、戰時に於いては外部よりの避難所となり、多數の兵員や軍用品を收容し得るのである。②城門は毎夜之を閉鎖して居住民を保護してゐるが、城外は之に反するからである。従つてこの理由から支那式の聚落形態をなすもので、政治の聚落に及ぼす影響を如實に物語つてゐる。

【北平】(Peking) 遼・金・元・明・清等の舊都であつた所であるが、その發達は明の永樂帝が南京から遷都して以來のことに屬し、代表的の支那式城廓市である。内城は東西七軒南北五軒餘あつて、頂上部はその幅員五〇呎に及ぶ。舊皇城紫禁城はその中央に位し、清は滿洲族をこの内城に在住せしめて所謂八旗兵の駐在地とし

たのである。内城は官衙區で外城は商工業區域をなす。工業には絹織物・毛織物・硝子・敷物等の製造が行はれてゐるが、何れも家内工業の域を脱しない。學校には北平大學・師範大學・清華大學・燕京大學等があつて中華民國の學都である。

【天津】(Tientsin 80) 白河の下流に位する貿易港で、白河の小支流並に大運河の會合點にある水の都である。民船による水運と鐵道交通の焦點にあつて、棉花・雜穀・羊毛・石炭等の輸出が多い。北支那及び内蒙古を背域(Hinterland)とする港であるばかりでなく、北平の政治都に從屬して發達した經濟金融の中心地である。市街の南東部には、日・英・佛・伊・白等の租界があつて、西平の支那式市街に對して新しい文化市を形成してゐる。白河は水淺く二〇〇噸級の船を通じ得るのみであるから、河口にはその外港たる太沽(Taku 2)があり、十二月—二月間は河水の結氷期であるので碎氷船によつて連絡されてゐる。

河北省の北東部に位する開平(Kaiping 1)灤州(Luanchow 3)は開灤炭田の炭坑聚落で英人の經營に屬し、その石炭は秦皇島(Qinhuangtan)の外港より積出される。秦皇島はもと海岸の一小島であつたが、不凍港であるから天津の補助港として開港した。山海關(Sungshankwan)は滿洲國に對する要害地で『天下第一關』をなし、萬里長城の東起點にある國境市である。

【註】大運河 萬里長城と共に支那に於ける二大土木工事と稱せられ、北は白河岸の天津に起り南は杭州に達するもので、全長は一三〇〇里に及んでゐる。春秋時代には揚子江・淮水間の運河が開鑿されてその利用が行はれたが、隋の文帝に至つてこの運河を延長し、煬帝は

南部運河(杭州—鎮江間)通濟渠(黃河—淮水間)永濟渠(黃河以北)等を完成した。運河は其の後の變化を來してゐるが、開鑿の目的は南部の糧米を長安の都に運ぶこと、杭州・蘇州附近の名勝地の遊覽とに主目的があつた。然し現今では局部的に小汽船を通じ得るのみで、その價值は大いに減じた。

【開封】(Kaifeng 20) 河南省の首都で宋時代の舊都である。市街は黃河床より一〇呎以上低く、堅固な城壁に圍まれてゐるのは一は外敵の防禦の爲であり、一は黃河氾濫を防ぐ爲である。有史以來洪水及び大戮殺の難を蒙ること十餘回、殆ど全滅して全くの焦土と化したこと六回、かくの如く損害を受けることが多かつたが河南第一の經濟市である。その西部に位する鄭州(Chengchow)は平漢・海蘭兩鐵道の交點にあつて米の取引が多く、江蘇省に位する徐州(Suehoyu 4)は津浦・海蘭兩線の交叉點にあつて貿易市をなしてゐる。

【山麓都市】 北平・保定・正定等は山麓に位する都市で、保定(Paoingfu 35)は再び河北省の省都となり、近時工業が發達した。正定(Chengting)は太原に達する正太線(210km)と平漢線との交點に位し、石炭搬出の要地である。河南(Honan 2)は洛水の小盆地内にあつて中原と渭水盆地間の要地にあり、所謂洛陽の古都で名勝古跡に富んでゐる。

(2)山東半島 (Shantung Peninsula) 山東半島は黃河三角洲によつて大陸と連結するに至つた一大地塊で、主として始生代の片麻岩及び花崗岩

等の古い岩石から成つてゐる。中央に横つてゐる膠河地溝帯によつて、東部の嶗山山塊と西部の泰山山塊の二山地を區分する。泰山（Taishan 1450m）は古來支那の名山として知られたもので、その眺望は極めて雄大である。全山花崗岩から成る峨々たる山地で、大平原中に横

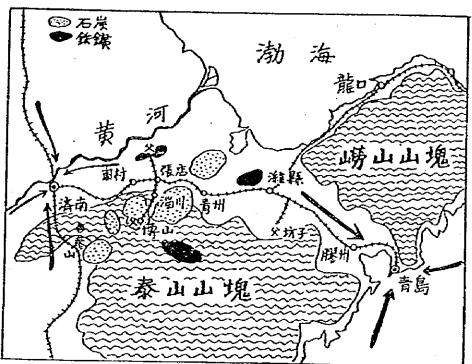
はつてゐる様は確に一大偉觀である。

山東地方には落花生・高粱・大豆・棉花・煙草・山東牛・鷄卵等の産出が多く、石炭・鐵礦等の産も多い。山東牛の大部は生牛として又は屠殺して、青島の外港より我が國に輸出される。遼東半島と同様に柞蠶の飼育地帯に屬し、繭紬の産出が多い。

山東省の面積は一五萬四〇〇〇方呎でその人口は三〇〇萬あり、人口過剰（Overpopulation）の地方であるから滿洲國への出稼移民が多い。その動因に關しては人口過剰の地方であること、土地磯礪で兵亂が絶えないこと、凶作飢饉の多いこと等の理由を擧げることが出来る。

【濟南】（Tsinan 40） 山東省西部の中心市場で、膠濟鐵道・

津浦鐵道・黄河等による交通の核心にある經濟市である。市街は支那式の城都市で内外二城から成り、製粉・



第30圖 山東の主要部

棉花・煙草・豆油等の農業的工業が發達してゐる。山東半島の鍵とも稱すべき所で省政府が置かれ、齊魯大學・我が總領事館の所在地である。

石炭の産地には淄川（Zichuan）博山・坊子等の諸炭坑があり、その埋藏量は一〇億噸以上であると推定せられ、淄川・博山の炭坑と金嶺鎮の鐵山とは共に日華合辦である。山地に位して博山（Foshan 5）の工業都市があり、炭層に附隨して産出する陶土を利用して窯業が發達し、北支隨一の窯業地であると共にガラス等の工業が行はれてゐる。濰縣（Weixian 8）は商業地で葉煙草を集散し、青島・龍口等に達する要路に位してゐる。

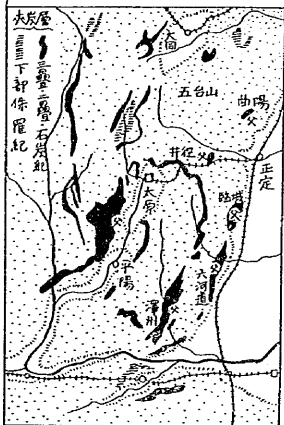
【青島】（Tsingtau 27） 膠州灣は膠河地溝帯の南東端に位する陷沒灣で、自然の良港であるばかりでなく、北支那平野の寶庫を背域とする商港としての位置が優秀である。獨逸の地理學者リヒトフォーヘンはこの地の重要性に着眼し、その價值を本國に報告したのであつて、我が國がこの地を占領する迄獨逸の東洋に於ける軍事・商業の中心であつた。青島發達の原因は實に獨逸の經營に端を發するもので、市は要塞に圍繞された商港として發展した。西岸の商業區に接して支那型船（Tunk）の出入する小港があり、北部の工業區に接した大港は一〇m餘の水深があつて、六〇〇噸級の汽船一〇餘隻を同時に繋留し得る。我が國は占領後銳意その經營に當つたが、ワシントン會議の結果華國に還附した。麥酒・紡績・セメント・榨油等の工業が行はれ、雜穀・豆油・山東牛・鷄卵・落花生等の輸出が多い。

芝罘 (Chefoo 10) は山東半島北岸の貿易港で、苦力の出發地として知られ、絹・葡萄酒の産がある。威海衛 (Weihaiwei) はもと支那の北洋艦隊の根據地であつた港で、後英吉利の租借する地となつたが一九三一年華國に之を還附した。

〔註〕青島 リヒトフォーンは一八六九年この地を調査したもので、獨逸は一八九七年二人の宣教師が支那人の爲に殺されたのを機として之を占領し、九九年の租借地となした。日本は一九一四年之を軍事的に占領して、獨逸の有する利権——膠州海岸の租借・鐵道經營權・鐵山探掘權等——を繼承したが、一九二二年華國の領土保全と東洋平和の爲に之を還附した。鐵山は日華合辦であるが、その條約上缺くかゝらざる鐵道を有してゐないことは甚だ遺憾である。

(3) 山西臺地 (Shansi Plateau)

山西臺地は一〇〇〇m以上の高地をなし、無煙炭臺地の別稱がある位で石炭紀に屬する無煙炭の埋藏量が多い。石炭産出地には平定・井陘・監城・澤州・太原・西山等があり、山西の鐵量は五六〇億噸に及ぶといふ。臺地東端には太行山脈があつて斷崖を東方に向け、傾動地 (Tilted Block) をなして中原の地に臨んでゐる。その北部に接した五臺山 (Wutai Shan) はプロテロゾイックの地層から成る片岩・片麻岩の褶曲山地で、所謂『五臺層』として知られ、三〇〇〇m以上の高峯が準平原面上に屹立する。汾水 (Fen Ho) は臺地間を南西流して黄河に注ぎ、その西部には寒武利亞・奥陶紀の地層から成る青嵐山脈があつて、こゝに太原を中心とした盆地がある。山西臺地は奥陶紀末から地盤の隆起を來し、志留利亞・泥盆紀には大陸の一部をなしたが、石炭紀及び二疊紀には沈水して海浸を受けた。三疊紀以後地盤の隆起があつて、更に第三紀以後には黄



第31圖 山西臺地の炭田

土の厚層を被覆した。その最も大なる所では實に六〇〇mに達するものがあるといふ。

住民は農牧を主業とし、汾水の河谷には穀物・棉花・煙草等の産出が多いが、高原地には僅かに燕麥の産があるに過ぎない。山西臺地の各地には黄土の厚層中に洞穴を穿つて住居となし、原始的生活をなしてゐる者が多い。太原盆地の中心都市太原 (Taichuan shi) には省政府

が置かれ、閻錫山の統治下にあつた爲に政治・教育よく普及し、山西大學・高等師範等がある。太原盆地は太原盆地と同じく石炭紀の形成による盆地で、各地に石炭の産がある。大同 (Taiping 10) は桑乾河の上流に位する平緩線の要驛で、羊毛・皮革・穀物等の集散が多い。

(4) 渭水盆地 (Wei Ho Basin)

南境を秦嶺 (Shanling) の大褶曲山脈が東西に走り、嶺北の盆地には渭水・涇水・洛水等が合流して黄河に注ぐ。盆地東部には潼關・兩谷關の狹隘があつて之を限り、古來關中の稱がある。産業は農牧が主業であつて、小麥・棉花・果實等を産出する。兩谷關は孟嘗君の鶏聲を真似て關を出たことに知られ、南部の藍關は韓退之の『雲橫秦嶺家何在、雪擁藍關馬不前』に知られた秦嶺中の鞍部 (Saddle) の通路である。陝

西省に於ても黄土の分布廣く、洞窟住居の發達が著しい。

【註】洞窟住居 黄土中に洞窟を掘鑿するのは雨後数日が最過で、その内部にはレス泥で塗装をする。その奥行は普通一〇m高さは五m位で、煙突と窓をもつてゐる。富者は入口や壁等に石を使用してゐるものが多く、中には戸・障子を取付けてゐるばかりでなく門を構へてゐるものもあるが、貧者の住居は甚だ簡單である。山西・陝西・河南諸省の穴居者は數百萬に達し、匪族等の襲撃に對しては防禦上絶好の地形で、集團的に洞窟から成る聚落を形成してゐる。

【西安】(Hsian 40) 隋・唐時代の國都長安の地で、その當時は一五〇萬の人口を有したであらうと言はれ、長方形の整然たる大都であつた。關中の中心で省會の地であり、海關線及び中央アジアからの隊商路(Caravan routes)の會點に當り、羊毛・皮革・棉花・穀物等の市場である。附近には秦の阿房宮址・咸陽城址等の舊蹟が多い。近年迄張學良がこの地にあつて防共に従つたが、遂に蔣介石を監禁して容共に傾き、政治的一大轉換をなした。

(5)甘肅山地 (Kansu Highlands)

北支と西域との中間地方を占め、古來西部アジアからの通路として重要な廊下(Corridor)をなしてゐた。省會蘭州(Lanchow 10)は支那式都市で、住民には回教徒が多いが商業上の實權は漢人が掌握してゐる。その取引は羊毛・皮革等が多く、黄河を皮袋筏として流下して包頭(Paotow)の市場に出すものが多い。

(6)漢中盆地 (Hanchung Basin)

漢水上流の盆地で、南部には巴山山脈・北部には秦嶺が横はり、揚子江流域に屬してゐるが人文的に北支

那と密接な關係にある。漢中(Hanchung 5)は漢の高祖が劉邦と稱した頃の都で、土地が肥沃であるから組織物・棉花等の產出が多い。

【教註】北支那の地域性を理解せしめて、北支那平野が古來如何に重要であつたかを授ける。滿洲國の獨立によつて萬里長城は兩國の境界となり、更に冀東政府の成立を見るに到り、北支の問題は愈々重大性を有するに至つた。山東半島は我が國と特殊關係がある所で、鐵山採銅權を有する外、青島に於ては商工業に従事する邦人が多い。

(二) 中 支 那 (Central China)

【揚子江流域】 中支那は揚子江流域の地方で自然的に一地域を形成し、江蘇・安徽・江西・湖北・湖南・四川の六省と、更に錢塘江流域の浙江省北部を占めてゐる。地形上一區をなすばかりでなく、氣候は中支那型(Central China Type)をなし、經濟的には揚子江の一大内海とも見るべき河系によつて結合された——華國第一の樞要なる地域を構成してゐる。中支那には淮・吳・越・巴・蜀等の諸民族が興亡し、北支の民族と混血してその文化を繼承し、全く同化を見るに至つたのである。

揚子江の源流は西藏高原の北東部に發して金沙江と呼ばれ、鴉龍江(Yalung King)の巨流を合せて第一の地壇を流下し、四川盆地に入つて岷江・沱江・嘉陵江・烏江等の支流を集めてゐる。盆地中には著しい侵蝕谷を形成してゐるが、支流に至る迄舟楫の便を有して交通に寄與することが大である。四川盆地の水は先

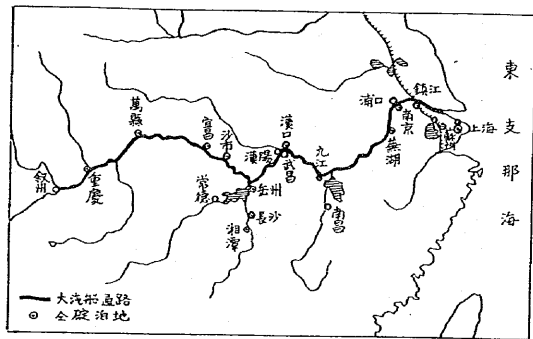
行河流をなして巴山脈(Ta-Pashan)を横斷し、この第二の地壇部に於いて三峡の峻をなし、中流部では湖廣盆地を流れて沅江・資江・湘江並に漢江の諸水を容れ、こゝに漢口・武昌・漢陽の三市を昇立せしめてゐる。湖廣盆地の低所には洞庭湖があり、この湖盆に發達した沃野

は米・雜穀・菜種・棉花・茶・煙草等の農産に富んでゐる。

鄱陽湖(Poyang Lake)は江西盆地の地溝中にあつて、湖岸には彭澤(鄱陽)平野の沃野があり、安徽省の皖南平野に續いてゐる。

淮山脈(Huai Mts)は第三の地壇を形成して以東の揚子江三角洲を分ち、華國の政治・經濟・交通の核心地をなしてゐる。北部は北支那に類似した氣候であつて雜穀多く、南部では米・棉花・菜種・胡麻・雜穀等が多い。人口密度は各省中第一位で一方糶三二〇人に達し、人口の都市集中が最も顯著である。國際都市上海と政治都市南京の兩都がこの平野にあつて、揚子江と東支那海の接觸する要地を占めてゐる。

【支那地中海】 揚子江(Yangtze Kiang)はその流程五二〇〇杼、流域面積は一七七萬方杼に及ぶ大河であつて、支那型船は勿論、



第32圖 支那の地中海

英・日・米等諸國の船舶、華國招商局(國有となるの)船舶等の交通が至便であつて『支那地中海』の稱がある。河川交通上最も重要である河幅・水深・傾路等は、大汽船の通航に適し、三峡の若い谷の部分を除いては河底の平衡曲線は殆どグレード(Grade)の状態にある。汽船の通航距離は河口より宜昌に至る一五〇〇杼であるが、増水期には四川盆地の叙州に達することが出来る。漢口迄は減水期に四〇〇〇杼、増水期には一〇〇〇〇噸級の汽船が通航し、宜昌迄は二〇〇〇噸、小蒸汽船は常に重慶・叙州に達し得るもので、その可航距離は五〇〇〇杼以上に達してゐる。この内陸水路は支那の最も肥沃な平野を貫流してゐる上に、その流路の諸條件は何れも理想的である。諸強國はこの内陸水路の航行權を有し、一八六三年のデンマークとの條約、一八五八年の英支條約等の權利は、最惠國條款(Most-favoured-nation clause)によつて他國もこの恩恵に浴することが出来た。

河川	汽船可航距離	小蒸汽船可航距離	帆船可航距離	合計
黄河	—	—	四三六	四三六
揚子江本支流	二二三九	三〇三〇	六〇三七	一一二〇六
廣東・廣西兩省	七二三	一五五六	一六〇七	三八八五
華國合計	三〇〇〇	五一七九	一〇四一三	一八五九二

(7) 揚子江三角洲 (Yangtze Kiang Delta)

【上海】(Shanghai 325) 揚子江の一支流黃浦江岸にある華國第一の商工業都市で、その開港は一八四二年の南京條約によつて廣東・厦門・福州・寧波と共に開かれた。上海には縣城が置かれてあつて、河口地方に於いては最も繁華であつたからこの地を開港したもので、水深が浅いことはその缺點で吳淞(Wusung)の補助港を必要とした。上海は揚子江流域を背域とした貿易港で華國貿易額の四〇%以上を占め、東亞交通の焦點に位する爲に伸縮貿易 (Transshipment Passes) が盛大である。上海港の直接背域は上海附近の三江平野に限定せられ、間接背域としては揚子江區・浙江沿岸區・淮河區を區別することが出来、直接背域の擴大を妨げる理由は夥しい舟運によるもので、中間港を経由して集中せられる爲である。浦東(Po Tung)は江東の地で上海の工業地域を形成し、綿絲・綿織物の工場が多い。西岸のバンド(Bund)には歐風の宏壯なる建物が多く、港區であつて各國船舶が輻輳する。市街の北東部には共同租界があつて各國人が居住し、邦人の上海居住者は約三萬である。

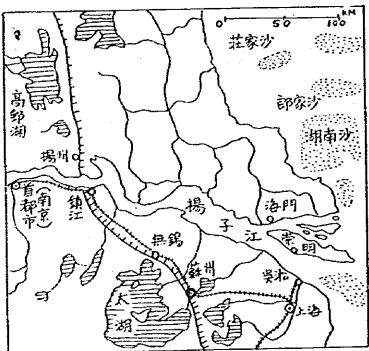
【註】租界 外國人居住の爲に設けられた特定地域の稱で、上海には共同租界（外國の共管租界）佛租界（佛連營）等があり、その面積は二五方軒に達してゐる。租界には華國の行政下にある內管租界と、外國の行政下にある外管租界と、華國と外國の共同行政による外華共同租界等に分たれてゐるが、上海のものは何れも外管租界に屬してゐる。

【蘇州】(Soochow 50) 太湖の東岸にあつて大運河と蘇州河の會合點に位し、下關條約によつて開かれた開港場であるが貿易は振はない。吳の都であつた所で附近には楓橋・姑蘇山・寒山寺等の勝地があり、古

來絹織物・彫刻品の産地として知られてゐる。蘇州は美人の多い地方として有名で、『生在蘇州、食在廣州、著在杭州、死在柳州』の諺がある。

無錫(Wushin 20) は近來工業市として一大躍進を示し、華國人獨自の企業經營によつて製絲・日用品の工業が發達した。鎮江(Chinkiang 28) は江蘇省の省都で、大運河と揚子江の會點にある開港場である。運河交通の衰微と鐵道による陸地交通の發達に由來して衰運を來し、舊時の繁榮は見られない。絹織物・農産物を取引し、燐す・漆器等の工業が行はれる。對岸の揚州(Yungchow 10) は鹽の産出が多く、陪の場帝が江都宮を置いて遊樂を恣にした所である。

【南京】(Nanking 63) 古來吳・東晉・宋・梁・陳・明等の帝都となつた地で、現在華國政府の所在地となり首都の稱がある。四周に城壁を繞らした大都市で、舊時は商業市として繁榮したものであつたが、長髮賊の本據となり、或は兵火の爲に度々破壊されて發達を見なかつた。現在は純政治都市で河港を下關(Sinkwan)と呼び、對岸の浦口(Pukow 1)と相對する渡頭聚落で共に開港場である。蕪湖(Wuhu 13) は安徽省に位する開港である。



第333圖 揚子江の江口地方

【杭州】(Hangchow 42) 揚子江三角洲の南に接した錢塘江流域に屬し、杭州灣(Hangchow Bay)頭に位してゐる。浙江(錢塘江の古名)省政治の中心地で、下關條約による開港場である。蘇州と共に絹織物の産が多く、織物・扇子・茶等の取引が盛である。錢塘江は海嘯(Tidal Bore)に知られ、附近には吳山・西湖等の名勝地がある。

紹興(Shaoxing 6) は越國の都であつた所で南には有名な會稽山があり、酒・茶・棉花等を産出する。寧波(Ningpo 21) は日支間古代交通に知られた港で、南京條約によつて開港場となり、米・棉花・雜貨等の商取引及び工業が發達した。この地方人は財界に重きをなして浙江財閥の名があり、上海其他各都市並に海外に發展してゐる。定海(Tinghai 3) は舟山列島上にある港である。

(8) 江西盆地 (Kiangsi Basin)

【皖南平野】 安徽省は皖省とも稱せられ、淮山脈中には名山たる皖山(天柱山)が屹立してゐる。淮山脈以南の地が皖南平野で、江西地溝の北部を占めた農業地をなしてゐる。省都安慶(Anking 5) は皖南平野の中心地で學者及び文人の淵藪として名高い。

【彭蠡平野】 東には仙霞嶺、南には五嶺山地、西部には贛西山地が横はり、北境には廬山が存在してゐる。南昌(Nanchang 30) は省都で贛江下流に位し、贛州(Kunghow 10)と共に米・茶・紙等の集散が行はれる。南萍鐵道は南昌と開港場九江(Kinkiang 7)を結び、彭蠡平野に産する麻・茶・穀物・煙草・陶磁

器等の取引が多く、貿易港としての九江は活氣を示してゐる。廬山は鄱陽湖岸にある一小地。壘で、各峯は雄を競つて飛泉懸り、華國政客並に上海地方居住外人の避暑休養地として有名である。湖東に位する景德鎮(Kingteh Chen 3)は現在浮梁と呼ばれ、古來陶磁器の産地として知られてゐるが年々衰頹に向つてゐる。

(9) 湖廣盆地 (Hukwang Basin)

湖北・湖南の兩省は所謂湖廣の地であつて、清時代に至つて二省に分れた。北境には淮山脈の地壘が連亘し、南には贛西山地・衡山山脈・雪峯山脈等があつて四周を限り、中間に湖廣の陷沒盆地がある。洞庭湖は雲夢澤の縮小したもので、湖岸平野には米・棉花・茶・菜種・麻類等の農産物を出し、山地からは石炭・鐵・鉛・亜鉛・アンチモニー・タングステン等の礦産が多い。

【武漢三鎮】 漢口・武昌・漢陽の三市は武漢三鎮と稱せられ、揚子江と漢江の合流點にあつて四通八達の要地にあるから九省の會と呼ばれてゐる。平漢鐵道は漢口と北平を結び、粵漢鐵道は南嶺を横斷して廣東に連絡した。漢口(Hankow 80)は揚子江口より一〇〇〇軒の上流にあるが、揚子江の内陸水路によつて一萬噸級の船舶を通じ、開港以來華國中部の互市場として發達した。輸出品は棉花・雜穀・磚茶・生絲・桐油・煙草等が主要なるもので、近來は製麻・織布・製鐵等の工業が興つてゐる。

武昌(Wuchang 50)は支那式の大都市で省都である。紡績・製絲・製麻等の工業が稍發達してゐるが、商業は不振である。漢陽(Hanyang 30)は漢冶萍煤鐵公司の製鐵所及び兵工廠の所在地で、大冶鐵山の鐵礦

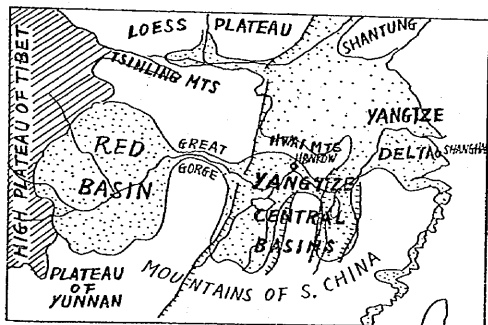
と萍鄉(Pingsiang)の石炭を輸送して重工業が發達した。萍鄉は江西省の一聚落でその北東に位する安源山には石炭を産し、萍株鐵道によつて長沙へ輸送してゐる。

【港市】 長沙(Changsha 50)は湖南省の省都で、湘江に面した開港である。米・アンチモニー・桐油等の取引が盛大で、古來中支の政治・文化の中心で湖南學派の學都であつた。常德(Chang-teh 20)は沅江に面した洞庭湖頭の市場町で、湖脚には岳州(Xochow 30)の開港場があり、湖南地方と漢口との中間港で農産物の取引が多い。沙市(Shashih 30)は下關條約によつて我が國の爲に開港したもので、棉花・米・麥・麻等を集散する。宜昌(Yichang 10)は四川省の外港たる性質を有する貿易港で、米・茶・生絲・油類を取引してゐる。

(10) 四川盆地 (Szechwan Basin)

四川省は揚子江上流部の一地域で、その面積は四〇萬三〇〇〇方杆あつて獨逸の領域に比すべく、人口は五四〇〇萬に達してゐる。

四川盆地は巴蜀盆地とも稱せられ、その盆地底は中生代以後の赤色砂岩層が堆積し、その風化によつて肥沃



第34圖 中部支那の地形圖

な土壌が形成された。リヒトフォオーヘンの所謂赤色盆地(Red Basin)であつて、もと内陸湖をなしたが三峡の侵蝕によつてこの内陸盆地が出来た。成都盆地の如きは最も新しい湖底平原で、網目狀の河流が沃野を貫流してゐる。

農業は最も重要な産業で、米・甘蔗・茶・煙草・阿片・玉蜀黍等を産出し養蠶業も盛大である。地理上甚だ興味ある盆地で、他地方との交通が不便であつたから古來自給自足の經濟を本位とした。養蠶業の發達を促したことは實に盆地經濟の發達であつて、生絲・絹織物等が主要輸出品として江岸の重慶・萬縣の二貿易港から送られて、産額の増大を示した。然し近年に至つて國內需要の減退と人絹業の發達の影響を多分に受けて、重慶に於ける生絲取引も湖落の兆がある。

【重慶】(Chungking 60) 揚子江と嘉陵江の合流點にある開港場で、四川盆地の外港たる性質を有する重要港である。特に揚子江水位の變化が著しいから壺足船(Hulk)を使用して荷役し、江岸には階段があつて市街は層狀に建設されてゐる。四川省金融の中心地であるばかりでなく、鹽・生絲・綿織物・皮革・藥材等の交易の中心となり、生絲・絹織物の輸出が多い。

萬縣(Wanhsien 10)も開港場の一で生絲・桐油の移輸出が多く、重慶の發達によつて衰頹を來し、昔時の殷盛はその面影がない。叙州(Sichu 5)は揚子江汽船航路の終點で、之に近い自流井(Tzoliutsing 5)は鹽の産地として知られてゐる。

【成都】(Chengdu 70) この地は蜀漢の古都で現在の省都、四川文化の中樞である。成都は成都盆地の沃野にあつて農業地の中心を占め、絹織物・漆器・金屬細工等の家内工業が発達し、商業は頗る殷盛である。土地の高度が大なる爲盆地の霧は極めて有名で、蜀犬吠日の語がある程である『蜀中山高霧重、見日時少、每至日出、則群犬疑而吠之也。』重慶からは陸路五四〇軒、嘉定からは舟運によつて二二〇軒、漢中からは蜀の棧道を経て達することが出来る。

【教授】華國の最も重要な地域で、この國産業の核心である。之を四地理區に分つて説明したのであるが、揚子江水路の存在によつて人文的に結合された一地帯を形成してゐる。地理學習上略圖の効果は極めて顯著であるから、教授上最も主要地域は之を描かしめることにしたい。そしてその地域性を説明し考察せしめて揚子江舟運の價值を知らしめ、上海・南京・漢口等の中心都の諸性質を推究せしむることが肝要である。

【三】南支那 (South China)

【地理的特色】 南支那は南嶺によつて中支那と區劃せられ、南支那型の氣候區である。行政上は福建、廣東・廣西・貴州・雲南の五省の地域であるが、廣東・廣西の兩省が南支の核心部をなしてゐる。地理的には南嶺東海岸地方・珠江河谷地・雲貴臺地の三區となる。南支那に於いては中部・北部支那の如き廣大なる平原はなく、何れも小平野に分たれてゐる。濕潤亞熱帶性の氣候區で、Summer Monsoon による六—九

月間の降雨は甚だ多く、特に九月は颱風 (Typhoon) の襲來によつて雨量が極大となる。南嶺は更に植物の重要分界線で、山地以南は熱帶性植物區となり、檳榔樹・樟腦・桂樹・蜜柑 (温州) 茶樹・龍眼肉等の植物が多い。

南支那は華國中最も後に開けた地方で、野蠻蒙昧の住民が多い。廣東人はその代表者で急進的であり理解力に富んでゐるが、必ずしも北支人の如き堅實さはない。孫文は廣東に軍を起して北方の軍閥と鬭争し、露西亞の援助によつて革命を達成したのである。南嶺は華國の政治的界線ともなり易く、今にして中央集權の實を達成し得ない限りは、華國々士の瓦解は當然の歸結である様に思はれる。

(1) 閩浙海岸 (南嶺東海岸地方)

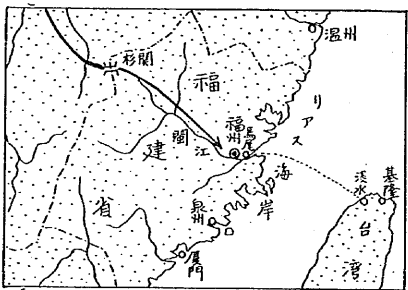
浙江省と福建省の東海岸は閩浙海岸と稱せられ、半島・島嶼・港灣等の出入に富んだリアス海岸 (Riasische) をなし、入江は何れも山地が迫つて溺れ谷 (Drowned Valley) となつてゐる。象山灣 (Sung-Shan Bay) は自然の良港で海軍の根據地となり、三門灣 (Sammon Bay) は昔て伊太利が租借せんとして拒絶されたところである。閩浙海岸は好出入に富んでゐるから、軍港・漁港としては適してゐるが、背威 (Hinterland) が狭小であるから貿易港としての發達は顯著でない。

【福建省】 古は閩と稱せられた所で、臺灣に對する重要な位置にあるからその不割讓を約さしめた。泉州 (Chün-chow 5) はマルコポーロの Zayton で、昔ては臺灣との戎克貿易によつて繁榮を來した港市であ

つたが今は全く衰微した。福建地方は平地が少ないから階段耕作が行はれ、米・茶・甘蔗等を産出する。茶はこの地方の重要輸出品で福州がその取引の中心地として有名であつたが、臺灣茶・セイロン茶等に壓迫されて昔日の偉がない。経済的には茶・樟腦等の輸出減退が見られ、人口過剰の地方であるから海外への移民が多く、南洋地方華僑（支那移民）の郷里となつてゐる。

厦門（Amoy 12）は同名の島上にあつて茶・砂糖等を輸出し、廣東省の汕頭（Swatow 13）と共に『支那移民の輸出港』であると言はれる。我が臺灣の本島人もこの地方から來住したものである。

【福州】（Fuchow 35）阿片條約によつて開港場となつたもので、福建の省都である。閩江岸に位して城廓を繞らし、漆器・茶・紙等の製造が盛である。主要輸出品は紅茶で Canton と稱せられ、品質は極めて良好である。閩江は水深小で汽船の碇泊が不能であるから、河口の馬尾（Mawei）がその外港となり、江中の小島に羅星塔が屹立してゐる爲に Pagoda Anchorage の稱がある。

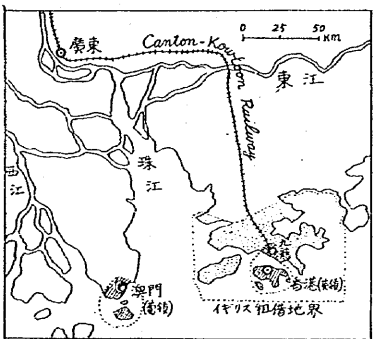


第35圖 閩海岸の一部

(12) 珠江河谷 (Chu-Kiang Valley)

【珠江】 南嶺に發源する東江・北江・西江の總稱で、雲南に發源する西江（Si-Kiang）が最も長大であ

る。その長さは約三〇〇〇浬あつて舟運よく、華國に於いては揚子江に次ぐ重要な内陸水路である。廣東は珠江三角洲（Chu-Kiang Delta）に位して舟運の中心となり、梧州（Wuchow 10）は汽船の終航點にある港市である。汽船・小蒸氣船等の水運の中心には、廣東・梧州・潯州（Sun chow）南寧（Nanning 5）等があり、佛領印度支那に對する龍州（Langchow 2）は國境貿易市である。



第36圖 廣東・香港・澳門の三港

【廣東】（廣州 Kwangchow 80）省都廣州は珠江下流にある開港場で、水陸交通の要地である。粵漢鐵道（Canton Hankow Railway）廣九鐵道（Canton Kooloon Railway）廣三鐵道（Canton Samsui Railway）等鐵道交通の中心にあるばかりでなく、陸路・水路等もここに集中し、南嶺の鞍部である梅嶺（Meiling）は山西省に達する唯一の官路である。珠江には舟上生活者たる蛋民が多く、廣東の海上には常に三〇萬の蛋民を算し得るといふから廣東の人口は一二〇萬の大都となつてゐる。南支那を背域とする港で、生絲・絹織物・茶等を輸出する。

【香港】（Hongkong）香港島は珠江の江口にあつて、阿片戰爭の結果一八四二年英領に歸した。イギリスの東洋に於ける海軍並に貿易上の根據地で、南支のみならず東洋各地からの航路がここに集中し、仲買繼

易(Entrepot trade)が盛大で自由山港である。香港島の北岸にはヴィクトリア(Victoria 38)の港市があつて、海岸には商業區、山腹には住宅區が發達してゐる。英國政府の經營とこの優秀なる位置とによつてその發達を來したもので、造船・精糖・煙草等の工業が行はれてゐる。對岸の九龍(Kowloon)は一八六〇年英領となり、附近の小島は一八九八年の條約によつて九九箇年間租借することゝなつた。

澳門(Macao 葡領)はポルトガル人活躍時代に互市場として繁榮した所であつたが、香港に勢力を奪はれて衰頹した。今は公許賭博場があつて僅に餘喘を保つてゐる。

(13)雲南高原(Yunnan Plateau) 雷州半島東岸の廣州灣はフランスの租借地(Lesased Territory)で、南支那に於いては佛國の勢力が大である。雲南高原の氣候は比較的好適であるが、農耕地となつてゐる谷地は不健康である。住民は漢族・シャ族・西藏族・苗族・獯々族等極めて複雑で、農業・鑛業・狩獵業等の原始産業に従つてゐる。雲南鐵道(Yunnan Railway)の終點にある雲南(Yunnan 10)は海拔一九〇〇mの高地にあり、省政府の所在地で商業の中心である。蒙自(Meng-tze 2)思茅(Szu-mao)騰越(Monein)等は國境貿易市で、箇舊(Koku 3)は錫の産地である。雲南の南部から佛領印度支那にかけてはシャ族の住地となつてゐるから、Siam Statesの名がある。

【教授】南支那は亞熱帶性の南支那型で、この氣候的要素はその文化景を解釋する上に大切な事項である。華僑の出資地

と蛮民の生活、並にポルトガル・英吉利・佛蘭西等西歐諸國の政治・經濟的活動の地として、香港・澳門・廣州灣・雲南地方等を教授の中心とした。

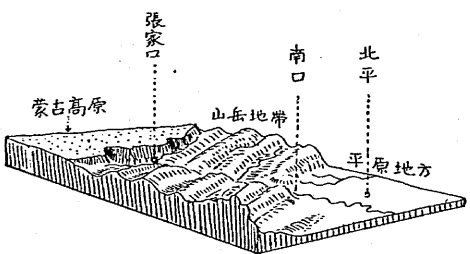
第五節 支那藩部(Chinese Outer Territories)

(1)蒙古(Mongolia)

【蒙古盆地の構造】 蒙古高原の東縁は大興安嶺によるもので、蒙古盆地に連續する準平原面の曲隆によつて生じたものである。Bentley, Morris 兩氏によれば、ゴビは中央アジアの下降撓曲地帶の最東部に當る撓曲盆地で、厚い堆積物に埋められた次の二種の盆地に區別される。その一は激しい變動によつて生じた斷層盆地で、地質時代を異にして形成された各盆地は、厚い堆積物に被覆されてゐる。第二のものは撓曲盆地で、深さも浅く且つ堆積物も薄い。これ等の盆地は蒙古人によつてタラ(Tala)と呼ばれてゐるもので、ゴビ沙漠地には砂地の他に石地が廣く續いてゐる。この平坦面は地形の部で記述した如くゴビ準平原と呼ばれ、蒙古準平原(一六〇〇—一八〇〇m)とハンガイ準平原(三〇〇〇mの高所に發達し、ハンガイ山地に存在す)とは太古代よりジュラ紀に至る地層を切つて發達し、ミオシオン侵蝕期に至つて完成されたもので、其の後の變位によつてかゝる高度差を生じたものであるといふ。

ゴビ沙漠は戈壁或は瀚海と稱し、菱形盆地内に北東—南西方向に横はつてゐる。この無人地帯の存在に

よつて内蒙古・外蒙古の二地域を区分する。氣候は純大陸性で夏冬のみならず一日の變化も著しく、庫倫の最寒月十二月は -26.1° 一度で、七月は 20.0° 度である。



第37圖 北支那・蒙古交界地方

【内蒙古】(Inner Mongolia) 北支那平野と蒙古高原との中間には、南口・張家口間に見る如き山岳地帯がある。南口に於ては極めて著しい斷崖をもつ南口地壘山脈が横はり、壯年の開析された山岳地帯中には、北東—南西の懷來其の他の斷層盆地が發達し、渾河（永定河）は先行河として南口山脈を横斷して南流してゐる。

張家口 (Kaijiao 10) は山岳地帯と蒙古高原間に生じた斷層盆地中にあり、萬里長城の關門に發達した貿易市である。ゴビ沙漠横斷の隊商路 (Caravan routes) の發着點で、平綏鐵道この地を通過し、察哈爾省政府の所在地となつてゐる。滿洲國に接した多倫諾爾 (Dolonnor 3) は喇嘛廟 (Lamasiao) のある所で、畜産物の取引が多い。内蒙古は漢族の流入が多い爲に支那化せられ、漢族と蒙古族の混住地帯で察哈爾・綏遠・寧夏の三省に分たれる。

綏遠省の省都歸綏 (Kueisui 10) は綏遠 (Suiyuan) 及び歸化城 (Kueihwa Cheng) の兩城から成る聚落

で、羊毛・駱駝毛・皮革等の取引が多い。包頭 (Paochow 10) は平綏鐵道の終點にあつて、黄河交通の利益を受けて農牧産物の一大市場となり、その取引は頗る盛觀である。

寧夏省は西蒙古或は額魯特蒙古と稱せられ、省都寧夏 (Ningsia 5) は蒙古に對する城塞市で、黄河岸の沃地に位してゐる。

【外蒙古共和國】 ゴビ沙漠横斷の隊商路として最も主要なるものは、張家口—庫倫間のもので、近來は自動車交通も開けた。喇嘛教の教主活佛は一九一一年大蒙古國を建設して庫倫を首都となし、外蒙古 (Outer Mongolia) は支那本部から離脱して政教一致の國となつた。一九二四年活佛の遷化と共に蒙古共和國が獨立したが、ソビエトの勢力が次第に強大となつて全く保護國の觀を呈するに至り、宗教都庫倫 (Ulaanbaatar) は『赤き英雄の都』を意味するウランバートル (Ulan Batur Khoto) と呼ばれてゐる。市街は三區に分たれ、西部の宮殿區、その東部の寺院區、最東部の商業區 (買賣城) 等で、ソビエト人が増加を來した。北境にある買賣城 (Minnehin) はアルタンブラク (Altan Bulak) と稱せられてゐる聚落で、シベシアとの間に磚茶・毛皮等の交易が行はれてゐる國境都市である。

【註】蒙古人 歴史上に見られる匈奴とウングースとの混血で、蒙古高原のカルカ、黄河上流のエルート、アルタイ地方のトルゴット等に分れてゐる。その大部は遊牧の民で、牧畜群を連れて年に凡そ四回の移動が行はれ、蒙古包と呼ぶ半圓狀のテントに居住する。蒙古人は全く牛・羊等の動物に依つて生活してゐるもので、毛皮並に乳・肉、燃料として使用される糞等は何れも重要な生活資源である。彼等日常の挨拶に『家畜は如何』の言葉を交すことは、遊牧民と畜群との關係を明示してゐる。

(2) 新疆 (Sinkiang)

【西域交通路】 天山山脈の北麓と南麓の地帯は古來重要な交通路で、中央アジアからイリを経てウルムチに至る天山北路と、カシガル・庫車を経て哈密に至る南路とは共に東西交通の要路であつた。支那の文化とギリシア・ローマの文化はこの通路によつて結合せられ、支那人の所謂西域交通路として重視されたもので、タリム盆地周縁の山麓泉地帯は世界文化史上注目し値する文化結合帯をなしたのである。即ちタリム河上流に位する Kashgar, Yarkand の泉地より、アム河上流のシルクアブ河 (Syr Darya) に沿つて西行する通路は最も重要で、更にイランを横断してメソポタミアに達するものである。

【天山南路】 タリム盆地の大部は乾燥度の甚しいタクラマカン沙漠 (Takla Makan) で、四周の山地に發源する諸川は何れも沙漠地に終つてゐるが、タリム河のみは東流して盆地東部のロプノルに注いでゐる。全長は二〇〇浬に及ぶ大河であるが交通上の價値は少く、灌溉に利用されて居住帯を興へてゐる。耕地は山麓泉地帯と灌溉地帯に存在し、こゝに聚落の分布を見るのである。住民は主に回教徒のトルコ族である。喀什噶爾 (Kashgar) は穀物・果實・絹織物の集散地で、中央アジアのアンデジヤン (Andijan) に對する開市場である。ヤルカンド河の泉地にある葉爾羌 (Yarkand) は農牧の中心地で、印度との間に隊商貿易が行はれる。ホタン (Khotan) は崑崙山麓の市場で、絹織物・毛織物の取引が多く、櫛・鉸・指輪・腕輪等に使用する崑崙の玉の産地として名高き。

【ズンガリア】 (Jungaria) 迪化 (Tihwa 10) はウルムチとも稱せられ前清からの省都で、支那本部・蒙古・ソビエト間の要地にある開市場である。ズンガリア (天山北路) はアルタイ・天山兩山脈間の陷沒盆地で、盆地周縁にはブロック山地群が屹立して階段狀地形を呈してゐる。この低地は交通上・軍事上ソビエトに對する所謂『準噶爾門』で、漢族・蒙古人・キルギス人の混住地である。西部の伊犁盆地は狭長な地溝で、イリ河谷の沃地にある伊犁 (Ili or Kulja) は國境貿易市場である。

(3) 青海・西康

【青海】 (Koko Nor) 青海省は民國十九年に設置されたもので、甘肅省に接した西寧 (Sining) が省都である。青海省の大部は西藏高原に續く山地で、その高度は五〇〇m に達してゐて不毛の荒地をなし、青海 (海拔三二四二m) 附近の盆地は最も肥沃で農牧の中心をなす。祁連山脈と崑崙山脈間の柴達木盆地 (Tsaidam Basin) は鹹性ステップをなし、海拔二七〇〇m の高度を有する。元來西藏族の住地であつたが、次第に蒙古族が來住して遊牧生活を営み、これ等の住民は喇嘛教を信奉してゐる。

【西康】 (Sikang) 青海と共に支那本部と西藏間に存在する政治の中間地帯で、もと川邊特別區域と呼ばれたが一九二八年西康省となつた。面積は四〇萬方浬、人口は一四〇萬あつて西藏族と漢族の混住地をなしてゐる。産業は全く原始的で、交易は支那本部との間に犛牛 (Yak) の隊商によつて行はれる。省都巴塘 (Bathing) は金沙江岸の沃地にあり、康定 (打箭爐 Tsaidienlu) と共に西藏並に印度に達する要路に發達

した商業市である。

(4) 西藏 (Tibet)

西藏は世界第一の高原國で、印度との境上にはヒマラヤの高山脈が壁立してその交通を妨げ、サンポー河を隔ててトランスヒマラヤ山脈が横はる。この命名はヘディン博士 (Sven Hedin) によるもので、彼の探検によつてこの秘密國 (Mysterious Tibet) の鍵が開かれた。即ち一九〇六年より一九〇八年に亘る探検によつてこの地の知識は確實となり、崑崙山脈以南にあるチャンタン高原 (Changtung) は氣候乾燥で礫地をなし、人口密度は僅少であるが、サンポー低地が西藏の文化地帯をなすことが判明した。

住民は西藏族で喇嘛教を信奉し、教主達賴喇嘛 (Dai-lama) は政教兩權の首領である。その權威は絶大で且つ尊嚴で、英國の援助を受けてその獨立を宣言し、西康・青海の攻略に當つたのであるが、一九三三年達賴喇嘛の遷化によつて内政は混亂を呈した。西藏族は蒙古族の一派で主としてサンポー河低地に居住し、一妻多夫 (Polyandry) の奇習と僧侶の多い事とは人口増加を來さない理由である。

首都拉薩 (Lhasa) は三五〇mの高地に位し、達賴喇嘛の壯麗な宮殿がある。人口五萬中その過半は僧侶で、政治宗教都市たる特色を示してゐる。サンポー河岸の沃地に位するシガツエ (Shigatse) は班禪喇嘛 (Panchen-lama) の宮殿のある所、拉薩に對する他の重要な宗教都市である。印度に近い亞東 (Yatung) は開市場で礦物・鹽等を輸出し、この國に不足である穀物を輸入する。

【教唆】蒙古はゴビ沙漠によつて自然的に内外蒙古を分ち、内蒙古は北支那と結合してゐるが、外蒙古は事實上ソヴエトの勢力下にある。西藏は英國の勢力が強大な所で、新疆は英・露の争奪地と化してゐる。而して青海・西康兩省は西藏・支那本部間の緩衝帯と見ることが出来る。隣邦華國の實情を知らしめて、日華親善の必要を強調したいものである。

第六節 産業・交通

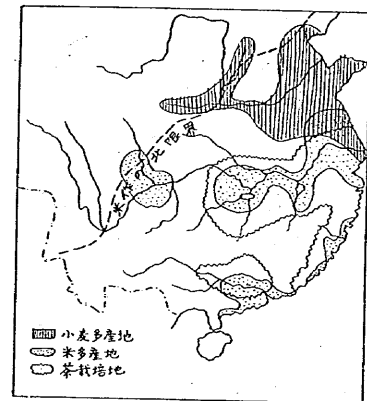
(一) 産業の特色

【農業國】 古來農をもつて主産業となすもので、住民の七割餘は農民である。米の産出は大であるが人口過剰の爲年々不足を來し、米と共に穀物の輸出を禁止した防穀令、或は農産物の輸出税の如き愚策は華國の自殺的制度であると極言されてゐる。河川の如きも堤防を有するものは極めて稀で、洪水・旱魃等は自然のなすが儘に放置されてゐる現狀であるから、凶作の爲に死者を續出することは全く政治の罪である。各地に於ける治水事業の發達を見る場合は、農産額は劃期的増加を來して眞に農業國たる姿を示すであらう。

北支那は黃土の分布が多く、その土壤は肥沃であるが一年を通じて雨量少く、且つ冬季寒冷等の氣候的條件に支配されて、米・茶等の耕作は不適であるが、高粱・小麥・豆類・玉蜀黍・落花生等の農産が豊である。之に反して中支那は氣候温暖で水利よく、揚子江流域の沃野はモンスーンの影響を受けて夏季は高温多湿と

なり、江浙・湖廣の二大平野は米作の中心をなしてゐる。その他中支那を代表する農産物は棉花・茶・煙草等で、棉花は米國・印度に次ぐ第三位の產出國である。南支那は熱帶氣節風帶であるから氣溫・雨量共に大で、米・茶の他に熱帶性の甘蔗・バナナ・鳳梨・龍眼肉等の産が多い。

養蠶は中支那・南支那に發達し、我が國に次いで世界第二の養蠶國である。蘇州と杭州は絹織業の二大中心で、その大部は國內需要を目的とするもので家内工業の域を脱しない。柞蠶は山東半島を中心となし、輸出絹紬の八五％は山東産のものである。



第38圖 華國の小麦・米・茶の産地

【註】 磚茶 華國は茶の產出國として重きをなしたが、今や印度・セイロンの茶葉の發達によつて昔日の儼がない。福建省の紅茶と漢口の磚茶（Brick tea）とは共に著名で、磚茶の輸出先は蒙古・シベリア・ソヴェエト本國等である。磚茶は紅茶或は綠茶の粉末を壓縮して板狀に固めたもので、小刀で割り割じて飲料に供するものである。

【牧畜業】

豚の頭数は世界第一で、一九三三年の總數は九四〇〇萬頭を算してゐる。肉類は豚・鶏等の野外飼育によつて得ることが出來、漁業によつてゐる我が國とよい對照である。支那藩部は實に牧畜地帯とも稱すべき所で、蒙古人は牛・羊等の放牧を業とし、蒙古及び新疆では交通上駱駝が重要であるが、西藏で

は犛牛（Yak）が之に代つてゐる。

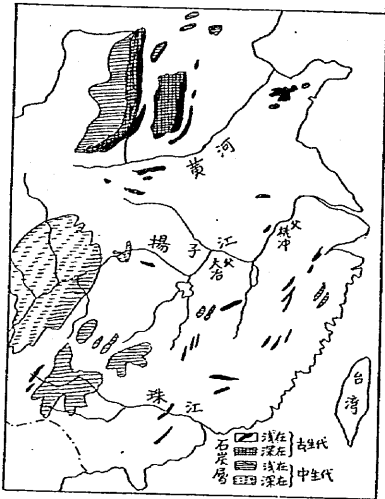
【鑛業】 石炭の埋藏量は頗る豊富であるが、その產出は未だ僅少である。地質調査の如きも不充分であつて正確を期し難いが、その分布に就いては次の如き鑛區を挙げ得るのである。即ち渤海沿岸區・山西臺地區・揚子江中流下流々域區・四川盆地・雲貴高原區等であつて、北支に於いては古生代の石炭層が多く南支には乏しいのである。之は北支那の地域が早くから陸化したことによるものである。炭坑の主要なるものは次の如くである。

(a)開灤炭田…開平・灤州の二炭田に分たれ、年産は四〇〇萬噸に達してゐる。海岸に近い爲に經濟的價値は甚だ大で、中支那・南支那に輸送するのみでなく、南洋方面への輸出も多い。（英人經營）

(b)山西炭田…山西臺地を中心として河南・河北・陝西に亘るもので、上部石炭紀及び二疊紀の炭層から成る。品質は極めて良好で、大行山脈西側炭田は我が臺灣島の面積にも比すべき廣大なる一大向斜盆をなしてゐる。リヒトホルヘンの所謂無煙炭臺地の稱ある炭田であるが、現在は井徑・臨城・澤州等の炭坑が開かれてゐるに過ぎない。將來最も有望な炭田である。

(c)山東炭田…東部には坊子炭田があり、西部には日華合辦經營の淄川・博山の兩炭田がある。淄川炭田は石炭紀のものでその鑛區は一八〇方呎に達し、山東諸炭田中最も重要である。炭質も無煙炭に近く、年産は約四〇萬噸で魯大公司（日華合辦）の經營に屬する。

(d) 萍鄉炭田……江西省の西部にある炭田で、炭層は上部三疊紀及び下部侏羅紀に屬してゐる。年産額は約五〇萬噸に及び、萍鄉の東に位する安源がその中心地である。（漢冶萍煤鐵公司經營）



第39圖 中華民國の石炭分布

合辦）太平山等の鐵山がある。大冶鐵山はその埋藏量約一億噸と稱せられ、鐵山鋪・獅子山・象鼻山等の鐵區に分れてゐる。古生層石灰岩が花崗閃綠岩によつて接觸變質を受けた爲に生じた磁鐵礦で、我が投資によるものであるから年々一〇萬噸を八幡製鐵所に供給することになつてゐる。（漢冶萍公司經營。現在國有。）

石油は陝西省に多く下部侏羅紀のもので、邦人を聘してその經營に當らしめてゐる。アンチモニ―礦は湖南省の安化・新化等の鐵山に産出し、世界産出額二萬噸中その七割は華國の産である。其の他錫は雲南省に多く、鹽は四川省の自流井・貢井等に於いて、鹽井戸より汲揚げた鹽水を煮詰めて製造してゐる。

【商工業】

家内工業は古來その發達著しく、絹織物・繭紬・漆器・陶器等は何れも特色がある。然し世界に於ける近代工業の發達に壓倒されて昔日の偉なく、何れも衰運を辿つてゐる。近代工業は揚子江岸の地方に漸く發達を見、外人の投資によつて紡績・製粉・釀造・製鐵・造船等が行はれてゐる。上海は工業の中心都で殊に紡績・織布の業が盛大で、我が國人の投資經營が最も著しい。近來華國人の國權回復熱が旺盛となつたが、政治及び社會組織の不備と資本の缺乏とによつて資本主義經濟の發達は困難で、同國人による大工業の經營は遅々として進まない。即ち鐵・石炭其の他の原料は豊富であつても、人的要素の缺けてゐる事が首肯されるのである。

華人は商業に堪能である特性を有してゐるが、寧波・山西・廣東の三地方人はその中心をなすものである。商取引上同郷人が相集つてギルド（Guild）を組織し、古來の商業組織はその儘繼承されて現在に及んでゐる。寧波人は中支の財界に活動を続け、山西人は主として北方の滿洲・蒙古・新疆方面に進出し、廣東人は南洋方面に經濟的勢力を保持するに至つた。國內商業上の缺點として擧げられてゐるものに、貨幣の不統一と釐金税（Lien）とがある。釐金税は關稅以外の國內通過税で省界等に於いて課税されたが、日華關稅協定の結果一九三一年之を廢止した。然し各種の課税が新設されたのであるから、單なる名目の變更に過ぎない。

【貿易】 貿易の特色は次の如くである。①年々輸入超過の國で、一九三二年の輸入は一〇億四九〇〇萬海關兩で、輸出は四億九二〇〇萬海關兩である。②國民の購買力が乏しく、且つ産業が幼稚の爲に貿易額は

僅少である。一九三二年の貿易額は我が國の六五%以下であつた。③輸出品は農牧産物がその四分の三を占め、生絲・絹織物・油種子・茶・鶏卵・鑽石・皮革等が主である。農産輸出の大宗であつた大豆・豆粕は、滿洲國の獨立によつてこの國から姿を消したのである。輸入品は綿製品・穀類穀粉・金屬及び金屬製品・藥品・砂糖等である。④取引國は米・日・英・獨等の諸國で、日米英三國の經濟的勢力の對立に對して近來獨逸の進出が著しい。

（二）交 通

【鐵道交通系】 華國の鐵道は總延長僅かに七〇〇〇餘浬で、我が國の二萬九〇〇〇浬に比してその四分の一に過ぎない。而してその敷設事業は何れも歐米諸國人によつて行はれ、現在の滿洲國內に於いては露國、中支では英・獨・白・米・佛等の利權爭奪の地であつた。揚子江は東西系統の交通的價值が大で、鐵道系は平漢・粵漢・津浦・京滬等の諸線の結合による縱貫交通線に、政治・經濟・交通上の意義が大である。

（名 稱）		（區 間）	（距 離）	（備 考）
1. 北 山 鐵 道	（北 平——山海關）	四五〇 軒	英借款 國有鐵道	
2. 平 綏 鐵 道	（北 平——包 頭）	九〇〇 軒	自營（北平張家口間）日本資（西部）	
3. 津 浦 鐵 道	（天 津——浦 口）	一〇一〇 軒	英獨借款 國有	
4. 平 漢 鐵 道	（北 平——漢 口）	一二一〇 軒	英佛日借款（ベルギー財）國有 （開ヨリ回數）	

5. 正 太 鐵 道	（石家莊—太原）	二四〇浬	國有鐵道（回收）
6. 膠 濟 鐵 道	（青 島—濟 南）	三九〇浬	國有（獨逸ヨリ日本經營）
7. 海 蘭 鐵 道	（海州—西安—蘭州）	九〇〇浬開通	白蘭借款 國有（全長ハ一六〇〇浬）
8. 京 滬 鐵 道	（南 京—上 海）	三一〇浬	英借款 國有
9. 滬杭甬鐵道	（上海—杭州—寧波）	二九〇浬開通	英米借款 國有
10. 南 浦 鐵 道	（九 江—南 昌）	一三〇浬	日本借款 民營（福建省ニ連）
11. 粵 漢 鐵 道	（廣 東—武 昌）	一〇七〇浬	英米獨佛借款 國有
12. 廣 九 鐵 道	（廣 東—九 龍）	一八〇浬	英借款（英租界地内）國有
13. 雲 南 鐵 道	（雲 南—河 口）	四六〇浬	佛利權鐵道

【註】鐵道敷設と列國 鐵道は實に文化の將來者であつて、大なる政治・經濟的意義を有つ。露國が滿洲に鐵道を敷設してその野心を示すや、英國は北平—奉天間の鐵道敷設に當つて之に對抗し、中支に於いては揚子江岸の不利權を約さしめた。南支では佛蘭西に大いに活躍を續け、更に佛露は相提携して『ベルギー財團』の名によつて爪牙を露した。大い獨米等の進出があつて華國內に利權鐵道を敷設するなど、その政治的分割は日甚の間にあつたものである。

【南船北馬】 南北支那は地質地形上差異があるばかりでなく、交通上にも異なるところがある。北支那は黃土から成る平坦な地形がその特色をなし、車馬による交通がよく行はれるが、南支那では河川・湖沼・運河・溝渠よく發達して舟運が便である。従つて『南船北馬』の語が生じたもので、交通狀態をよく示してゐる。揚子江は前述の如く『支那の地中海』であつて、南支交通の中樞をなすものである。大洋汽船（Ocean liner）は漢口に至る迄、蒸汽船（Lanuch）は重慶に達することが可能で、各國は内河航行權と沿岸航行權を

得て居るから舟運上の價值は甚大である。

陸路の交通上、馬・驢・駱駝等の駄獸が使用されてゐるが、この他華國特有のものに一輪車・轎等がある。轎は二人乃至四人で擔ぐもので、華國內地の交通機關として重要である。自動車道路は何れも不備であるが、近來は南京を中心として建設せられつゝある。蒙古・新疆地方では雙峯の駱駝による交通が行はれ、蒙古橫斷交通路・西域交通路等の隊商路（Caravan routes）がある。

【教授】 農業國であるが穀物の不足を來し、工業資源が豊富であつても決して工業の發達をなし得ないことを授けて、産業に及ぼす政治上の影響を理解せしめたい。大連河は昔時の南北連絡通路であつたが、現在は鐵道が之に代つてゐる。列國の利權鐵道は次第に少くなつて、單なる投資鐵道に變化してゐることは喜ばしい。

第七節 住 民

【大人口國】 中華民國は四億五〇〇〇萬の人口を有する大人口國で、大英帝國に次ぐ人口數を有してゐる。支那本部の人口密度は一方糶一五人の多數で、世界に於いても最も人口密度の大なる地方の一である。華國の死亡率は非常に大であるが、出産が顯著である爲人口の増加率が多い。然るにこの國は農業本位の國であつて、屢々襲來する洪水・旱魃等の災害を受けることが大であるから、華國農民の生活は決して安易ではない。更に國內には兵亂相續き、且つ土匪・共匪の横行等の爲に、郷國を去つて海外に移住する華僑の増

加を來した。その總數は七八〇萬あつて、イタリヤ・ロシアと共に世界の移民國として知られてゐる。

【註】 華僑の分布 一九三四年の僑務委員會の調査によると華僑の總數は約七八〇萬で、シヤ・マレー諸島を主要分布地となし、經濟的に一大勢力を有してゐる。

シヤ	二五〇萬	澳	門	一	二萬	メ	キシコ	三	萬
英領マレー	一七〇萬	フィリッピン		一	一萬	日	本内地	二	萬
南領印度	一二三萬	ボルネオ		八	萬	フ	ランス	二	萬
香港	八三萬	臺灣		五	萬	中	米諸國	一	五萬
佛領印度	三八萬	朝鮮		四	萬	一	萬		
ソウェイト聯邦	二五萬	カナダ		四	萬	一	萬		
ビルマ	一九萬	西印度諸島		四	萬	七	八三萬		

【種族】

中華民國の舊國族

は五色旗であつて、五族共和を表象したものである。五族とは漢族・滿洲族・蒙古族・トルコ族・西藏族で、人種學上ウラル・アルタイ系に屬する滿洲族・蒙古族・トルコ族と、支那系に屬

する漢族・西藏族・苗族とから成つてゐる。支那系の諸族は言語上からは孤立語系であるが、ウラルアルタイ系は膠着語系で日本語の如く助詞を用ひて語の品詞が結合されてゐる。漢族は全人口の九割餘を占め、華國住民の主體をなす種族で、支那本部並に滿洲國に最大の分布を示してゐる。漢族は勤儉忍耐の美風を有し、執拗で根氣のよいことがその特色である。而も粗衣粗食に甘んじて蓄財に傾き、南東アジアに於いては商業上の一大勢力を掌握してゐる。かゝる發展性に富んだ民族でありながら、利己的で且つ非國家的であり、自己の生活をのみ本義としてゐるから國家的發展は望み得ない。纏足と阿片吸煙は華國の二大弊風と稱せられてゐたが、何れも近年に至つて漸く減少を來すに至つた。

滿洲族は清朝時代に支那本部に入つたもので、清朝の頃は八旗の兵籍にあつて分駐する滿洲人が多く、主要都市には何れもその居住區域が存在した。然し清朝滅亡後は國內の各地に散逸して、漢族に依つて同化されてしまつた。其の他蒙古には蒙古族、西藏・青海には西藏族、新疆にはトルコ族等が居住してゐる。

【註】纏足 この弊風は漢朝の初期に起つたものであると言はれ、女兒は幼少の時から足を縛られてその指先を折曲げるのである。従つて女子は成長した後も大道を闊歩することが出来ず、纖々細歩の美を作すのである。之をもつて美人たるの條件であるとの誤れる觀念を有するに至つたもので、細腰纖手の美人となす爲には子女をして纏足を強制的に行はしめたのである。近來この弊風は次第に改まり、健康美の女子を尊ぶ様になつたことは華國發展の爲に負すべきである。

【大移民國】 華國の海外植民は既に四世紀の頃に始まり、氣節風を利用して印度洋方面に赴いたことが動機となつて次第にその發展を來した。先づ第一に臺灣への植民であるが、既に七世紀の頃に福建地方人が難船して本島を發見し、次第に南方のフィリッピン・スンダ等の諸島への發展を促した。十五世紀に至つて西洋からの新知識が流入して來るに従つて、スンダ・マラッカ・フィリッピン等の實情が判明し、この地方に於ける華國人の商業的發展を見るに至つた。更に第三にはヨーロッパ人の植民地開拓に關係を有するもので、アジア・濠洲・南米等の鑛山・植付等の勞働者としての移民が急増し、單に南洋のみならず全世界に亘つて移動したことがその特色である。然し世界の各地に於いて先づ第一に華國人の排斥が起り、その大なる發展力は制止されたのである。現在南東アジアの地方が、華僑商人の發展地として殘された大移民地である。華僑の分布並に移動の原因に就いては前述した如くであるが、華國人は氣候に對する適應性が甚だ大であ

つて、體質上に特長があることを認めるのである。北支からは之に接した北方の滿洲地方への移動が多く、南支からは熱帶地方への移民が多い。華國の政治そのものは全く不安定であるが、之に反して移民の活動に至つては甚だ力強いものがある。

【教授】 華國人の生活・居住・分布等の正確な狀態を知らしめて、その理由を考察したい。材料のない獨斷的な論議をもつて、一國の住民を論ずることは甚だ危險である。地理教育者は常に新しい正確な教材によつて望まなければならないもので、地理教授は最も準備を必要とする教課の一であると思はれる。

第五章 印度支那

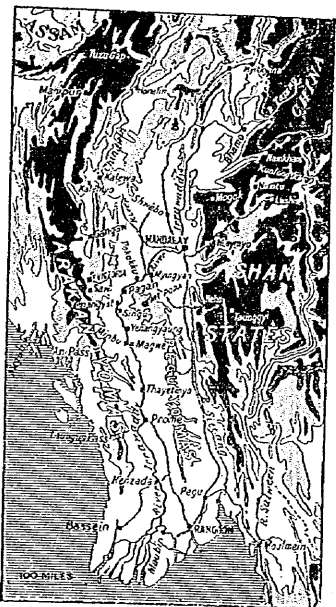
第一節 自然景域

（一）地形誌

【地形の特色】 印度支那半島はその構造上、ヒマラヤ・崑崙兩山系の連續をなすもので、掌狀の山地列と河谷の分布とはその地形の特色である。ビルマ東部から印度支那半島の全域に亘る地域は古期岩層から成る地塊で、S字形に屈曲した安南山地、印度支那北部のシャン山地、馬來半島の諸山地等は何れも崑崙山系の延長を示してゐる。之に反してビルマの山地群はヒマラヤ系の新褶曲山地で、ビルマ造山帶の褶曲隆起に

よつて生じたものである。

【ビルマの地形】 政治的には印度帝國の一部であつたが、地理的には印度支那半島の基脚部に當つてゐる。ビルマ山地の大部はアルプス造山期の褶曲山脈に属し、ヒマラヤ造山帯(Himalaya Geosyncline)と對曲



第10圖 ビルマの地形
黒色…3000呎以上
斑點…1000呎以上

をなすビルマ造山帯(Burma Geosyncline)を構成してゐる。この帯中に於いて最西列をなすものが、ミンガル灣岸に連亘するアラカンヨマ(Arakan Yoma)であつて、結晶質岩石の核心部と之を被覆する第三紀の褶曲層から成つてゐる。この山脈の延長がアングマン(Angman)ニコバン(Nicobar)の列島弧で、アラカンヨマの海岸は太平洋式である。その東方の低地は第三紀層から成る低地で、イラワヂ河が之を貫流してゐる。その上流部を上ビルマ(Upper Burma)と稱し、マインダー盆地がその中心である。チンドウィン河(Chindwin)——イラワヂ下流部の不連続谷の東部には之に並行するペグヨマ(Pegu Yoma)の山地が横はり、シチアン河(Sittoung)上流部は爭奪(Priney)によつてイラワヂ河の上流部をなすに至つた。

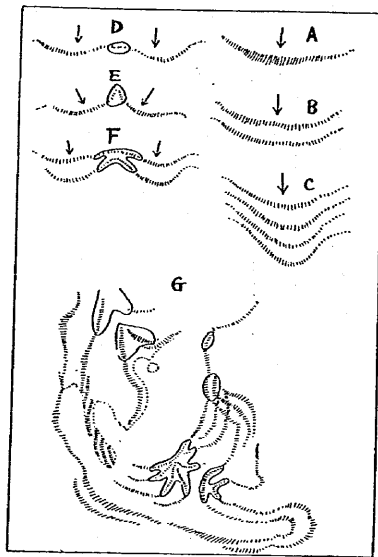
ビルマの東部地方は、所謂 Shan States の地域を占めたシャン高地(Shan Plateau)であつて、ビルマ造山帯に對する舊地塊に相當する。その西部限界はシチアン河谷とイラワヂ上流部とを結ぶ一線である。紅玉の産地として知られたモゴク(Mogoke)錫の産地テナッセリム(Tenasserim)は何れも古期地塊で、サルウィン河が之を貫流してゐる。

【シャン高原】(Shan Plateau) ビルマ東部からシナム山地及び佛領印度支那に亘る高地は古期岩層の地塊で、その主要部に對してシャン高原の稱呼がある。主として前カンブリアの地質から成り、特に卓越した岩石は片麻岩である。その地質の變化に應じて地貌を異にし、『波の化石』の名を有する所がある。この高原地には北西——南東の山地列と、之を分離する裂谷とがあり、谷中をソンコイ(Songkoi)メコン(Mekong)サルウィン(Salween)等の諸河が流れる。

東海岸の安南山地は二〇〇〇mに達する高度を有し、地質を異にする複雑な山地群が斷續的に走つてゐる。東岸は斷層海岸(Eault shoreline)をなしてゐる鐵の濱(Côte de Fer)と呼ばれ、山脚が直ちに海に没してゐて良港に乏しい。然しメコン河口は廣大な三角洲をなし、その存在によつてシナム灣岸のカンボヂア地塊を分離してゐる。シナム國とビルマとの境上を走るタネンタウンギイ山脈(Tanen Taunggyi)は南走して馬來半島となり、クラ地峡以南に於いては山地配列上特色ある地形をなすのである。

【メコン・メナム盆地】 メコン下流部とメナム河流域とを結ぶ沖積平野で、この盆地の低所にはトンレ

サツン(Tonle-Sap)の大湖がある。交趾支那(Cochin China)及びカンボディアに亘る平野は、印度支那に於ける最も大なる米倉である。メナム河上流部はブノンベン附近に於いてメコン河に争奪せられ、メビン河上流も同様にしてサルウィン河に注ぐに至つたものである。



第11圖 印度支那半島及びマレー諸島の山弧の形成

【マレー半島】 馬來半島のクラ地峽以南の山地列は雁行狀を呈して數個の山地に分離せられ、高峻なものはなく何れも丘陵性である。北流するケランタン河(Kelantan)及び南流するペラク河(Porak)は山地間を走るもので、雁行狀の構造に従つてゐる。山地には花崗岩・石灰岩等の岩石が多く、石灰岩地では奇峯が屹立して一大特色を呈してゐる。

(二) 氣候誌

【熱帶氣節風區】

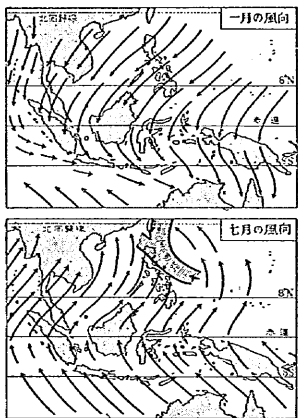
印度支那半島はアジア南東部の氣節風帶に屬し、夏季は南西風が卓越し、冬季に於て

ては北東風が卓越する。従つて海洋上を吹く南西氣節風は雨量の狀態を決定する最大の條件で、南西斜面の海岸には多雨地帯が見られる。ビルマではアラカンヨマの西海岸地及び南部地方に降雨多く、ラングーンの雨量は二四八〇耗に達する。シャムでは馬來半島の存在によつて南西風は弱められ、バンコクでは二三〇耗に過ぎないが、カンボディア山地の海岸地では四〇〇耗以上に達してゐる。

北東風の卓越する冬季は全半島の各地を通じて乾季となるが、安南の海岸のみは雨季となる。印度半島東海岸のコロマンデル海岸に比すべき所で、ユエの降雨は九一―一二月に最高に達する。トンキン地方では夏に降雨が多く、冬季は寒く且つ雨が少い。

【赤道型氣候區】

マレー半島は印度支那半島主體部とは異つた氣候を呈し、純熱帶性の赤道型である。シンガポールの全年平均気温は二七・一度で、その較差は僅



第12圖 一月と七月の風向

かに一・八度に過ぎない。降雨は全年を通じて多く、その量は二五九二耗に達してゐる。熱帶性の原始林が各地にあつて巨樹喬木が密生し、河口及び海岸には湿地林があつて交通を妨げる。有用植物にはコ、椰子・油椰子・ゴム・コーヒー・胡椒等がある。

第二節 地方誌

【政治的區分】 ビルマはもと王國であつたが、十九世紀に入つて英國と戦戈を交へてその土地を割譲し、一八八六年上ビルマ地方も英領に歸して獨立王國は滅亡した。佛領印度支那は唐及び宋代には支那の勢力範圍に屬し、シアム國の勃興後南方に位する安南・カンボディアはその統治下にあつた。フランスは一八六一年より二年に亘つて交趾支那(Cochin China)を攻略し、サイゴン條約によつてこの主要部の領有を確保し、次いで安南・カンボディア・東京・ラオス等を併合した。

シアム國は實にこの英佛二國間の政治的勢力によつて、その獨立を全うし得た緩衝國(Buffer State)である。フランスはカンボディア・安南等のシアム領を攻略したのみでなく、更に西方を侵略した爲にシアムはイギリスに保護を求め、一八九六年英佛協定によつてその獨立が確認された。馬來半島には英國の皇領植民地(Crown Colony)であるシンガポール・マラッカ・ペナン・デンチング等があり、その背後にはマレー聯合州其他の保護領がある。

(1) 佛領印度支那 (French Indo-China) (面積七四萬方杼 (人口二三〇萬))

政治的には交趾支那の植民地と東京・老撾・安南・カンボディア等の四保護地とから成つてゐる。その面積は七四萬方杼あつて本國の面積(五五萬方杼)よりも廣く、一九三三年の調査によれば人口は二三〇萬で

ある。印度支那聯邦の首都は東京の河内でこゝに總督が駐在し、植民地には知事、保護領には駐在官が派遣されてゐる。

【東京】(Tonking) 紅河を意味するソンコイ(Songkoi)の三角洲が最も重要な平原で、米・甘蔗・棉花・煙草等の耕作中心地である。夏季は降雨が著しく河水の氾濫を來することが多く、冬季は乾燥に失する爲に灌溉排水の溝渠網が發達してゐる。首都河内(Hanoi 13)はソンコイ河岸にある歐風の都市で、交通の要地に位する爲商工業が繁盛である。雲南鐵道は河内よりソンコイに沿つて國境市老開・河口を経て雲南に達し、雲南地方の物資輸送路をなす點に於いて經濟的意義が大である。

海防(Haiphong 10)は東京地方の外港で東京米の取引が多く、香港との貿易が盛大である。その北東に位するホンガイ炭田(Hongai Coal-fields)は良質と炭量の豊富とによつて知られ、採掘は露天掘で年々一〇〇萬噸の產出がある。

【安南】(Annam) 安南山地の大部を占めた狹長地帯で、山地には良材を供する森林地が多く、丘陵地には茶・桑・珈琲等が栽培される。須化(Hue 6)は安南の首都で、安南王の都城たる王宮がある。南方のカムラン灣は日露戦争當時バルチック艦隊の寄港した所で、自然の良港である。

【老撾】(Laos) その北部はシャン高原の主體部であるから山岳重疊し、經濟的にも文化的にも全く孤立された地域である。住民は佛教徒のラオス人で、人口密度は四人に達しない。メコン河岸のルアン普拉バ

ン(Luang Prabang)は王都で、シアン國境のヴィエンティアン(Vientien)は政治都である。

【交趾支那】(Cochin China) メコン河三角洲の沃野を占めた直轄領で、佛國の寶庫の稱ある印度支那の核心である。サイゴン(Saigon 13)はドンナイ河の支流たるサイゴン河に面し、米・砂糖・皮革・木材・コブラ等を輸出し、商港と軍港とを兼ねてゐる。その南西に接したショロン(Cholon 20)は米穀取引の中心で精米業發達し、華國商人の在住者多く全くの支那人街である。土人の生活程度は極めて低く、フランス製の高級品よりも華國商人の賣買する日用品がより必要であるから、經濟的には華僑の一大發展地となつた。

【カンボヂア】(Cambodia) トンレサップの北東部平原は米産多く、メコン河岸のプノンペン(Phnompenh)はカンボヂアの首都で米の取引地である。王宮は極めて壯麗で名高い。トンレサップ湖岸にはクメール文化(民族名Khmer)を物語るアンコールワット(Angkor Wat)の廢址があつて、木材を使用することなく全く巨大なる石材によつて建設されてゐる。

(2)ビルマ(Burma) (面積六〇萬方呎
人口一四七〇萬)

人口は一四七〇萬あつて印度支那系のビルマ人がその大部を占め、其他シャン族・インド人等がある。ビルマを地理的に分てば、次の數地域となる。西部諸丘陵區(Western Hills Region)は山勝ちで夏季の降雨が多く、アラカンヨマの海岸地にはアキヤブ(Akyab)の港市がある。北部諸丘陵區(Northern Hills Region)はミイトキイナ・バモ(Bhamo)を中心とした地方で、チーク材・寶石等の産がある。

マンダレー(Mandalay 15)は上ビルマの中心都で壯麗な寺院が多く、城壁に圍まれた舊王城がある。マンダレー以西のイラワヂ河谷は乾燥地帯(Dry Belt)をなし、胡麻・落花生・棉花・果實等の栽培がよく發達し、灌漑による耕作が行はれてゐる。鑛産中の第一位にある石油は第三紀層中に胚胎し、ミンブ油田(Minbu)はその中心である。イラワヂ河の三角洲地域(Delta Region)は米作の中心地で、ラングーン(Rangoon 40)は米を第一とし、石油・チーク材等の輸出が多い。もとは沼澤性の一漁村であつたが、英國の經營によつて一大商港となり、ビルマ總督廳がある。テナッセリム(Tenasserim)は錫及びゴムの産出に知られ、マウルマインの港市がある。

(3)シアン王國(Siam) (面積五三萬方呎
人口一二七〇萬)

シアン國は英佛二領土間の緩衝國で、一九三二年專制政治を改めて立憲王制を樹立した。住民の大部はアジア人種中のタイ族で農業に従事し、彼等自らは自由の國を意味するムアンタイ(Muang Thai)の語を用ひてゐる。東部のコラト丘陵(Korat)は二〇〇mの高度を有し、雨量が少い爲にサッサンナをなしてゐる。北部山地は森林地帯で、チーク・紫檀・黒檀・黄楊等の産出がある。チーク材運搬船はメナン河・メビン河を溯航し、メビン河のシェンマイ(Chengmai)メナン河のナン(Nam)はその市場である。

メナム河(Menam)はシアン國の『水の母』と呼ばれ、メナム河流域の平原はシアン米の産地である。米はこの國輸出品の大宗で、華僑の仲買人によつて取引される。盤谷(Bangkok 50)は一七六五年以來の首都

で、メナム河岸の水上街をなすことから東方のヴェニス(Venice of the East)の稱がある。この港は河口から三〇軒の上流に位し、大汽船の通航が不能であるからバクナム(Batnam)を外港とする。舊都アユチア(Ayuthia)は交通の要地で、我が山川長政が武名を轟した所である。アユチヤ王朝時代輪奐の美を極めた都は、ビルマ軍の襲来によつて全く荒廢に歸し、盤谷遷都を餘儀なくされたのであつた。

【註】チーク材(Teak) 高さは三〇mに達する常緑樹で、珪酸を含んで硬質であるから建築・造船の材料として重要である。チークを伐採するには、樹の根幹に繩を入れて枯死せしめ、適當に切斷して巨象に運搬せしめて河岸に送る。夏季モン・スーンの卓越する頃、河川の増水を利用して筏に組んで流下し、パンコク等に送つて製材する。木・錫鐵に次ぐ重要な輸出品である。

(4) マレー半島 (Malay Peninsula)

【マレー聯合州】(Federated Malay States) マレー半島にあるペラク(Peak)セランゴール(Selangor)パハン(Pahang)ネグリセムビラン(Negeri Sembilan)の四州は英國保護下にある聯合州で、一八九六年の聯邦條約によつて成立したものである。聯邦の支配者は海峽植民地總督が之を兼ね、その下に議會があるもので、その所在地はクアラランボル(Kuala Lumpur 10)である。西岸地方はゴム栽培の中心地をなし、ポートスウェッテンハム(P. Swettenham)はこの地方の外港である。ペラク州は錫の産が多く、トロノー嶺山は最も著名である。

【マレー保護州】 聯合州の北部には、ペリス(Pertis)ケダー(Kedah)ケランタン(Kelantan)トラ



第138圖 マレー半島のゴム栽培地

ングヌ(Trengganu)の四州があり、何れも土人王が統治してゐるが實權は英國にある。この四州は一九〇年シアム國より英國に割讓されたもので、錫・鐵・ゴム・コブラ・タビオカ等を産する。シンガポールの背後にあるジョホール王國(Johore)は一八八五年の條約によつて英國の保護地となり、ゴム・コブラ・錫を産する。マレー半島のゴム栽培地帯は西部海岸地方で、ジョホールは古くからその中心地をなしてゐる。ゴム需要の増加によつて大規模な栽培が行はれ、英人を始め華國人・日本人等の經營者も多く、邦人はジョホールの南部海岸地に集團してゐる。ジョホールバル(Johore Bharu 2)はこの國の首都で、公許賭博所がある。

【海峽植民地】(Straits Settlements) シンガポール・マラッカ・ペナン・デンディング等はイギリスの直轄による皇領植民地(Crown Colony)で、マラッカ(Malacca 2)はもとポルトガル人の領有であつたが後に蘭人この地に據り、一七九五年英人が之を占領して商業の中心地とした。然しシンガポールの發達によつてその勢力は失はれ、昔日の偉はなし。ペナン(Penang 20)はマレー語の檳榔樹を意味する港市で、ゴム・コブラ等を輸出する。

シンガポール（Singapore 卅3）はジョホールと一衣帯水にあり、東洋・南洋・西洋交通の要路に位する商港である。一世の炳眼兒スタンフォード・ラッフルスはこの地の重要性を認めてジョホール王より買収し、一八二四年以來英領となつたものである。マレー半島のゴム・錫・鐵等のみならず、マレー諸島の熱帶性産物を取引する一大市場で、仲繼貿易が盛大であるから自由港となつてゐる。この地は單に商業の中心であるばかりでなく、英領マラヤ（海峽植民地・マレー聯合州・マレー保護州）の首都であり、ジョホールとの間の海峽地には壯大無比の海軍根據地がある。

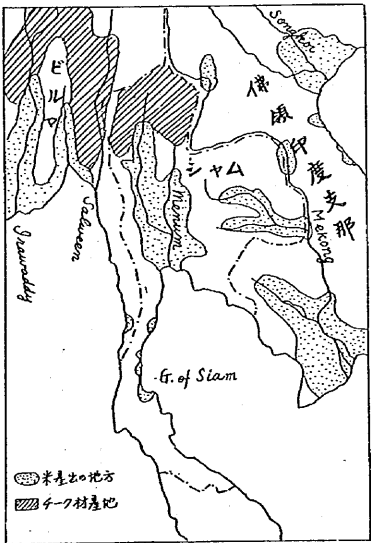
〔教授〕 印度支那半島地に於いては、英佛二國の政治的勢力が大である。佛領印度支那に於ける華僑の經濟的發展は著しく、その各地で商業上の實権を掌握してゐる。英國は海峽植民地——特にシンガポールの要地を領有して、政治・經濟上の勢力を保持し、そこに海軍根據地を置いて大英帝國發展の根據地とした。従つてシンガポールの位置と英國の支配とを論じて、その重要性を理解することが肝要である。

第三節 産業・住民

【産業】 印度支那は米産多くその消費が少いからアジアの米の補給地帯となり、トンキン米・サイゴン米・シナム米・ラングーン米等の名をもつて輸出される。シアム及びビルマの山地には森林が多く、チーク材・紫檀・黒檀及び寶石の産がある。その他産業上注目し値するものは、英領マラヤのゴム栽培事業の發達

と錫及び鐵の産出とである。

英領マラヤのゴム産出は一九三四年に於いて四七萬一九〇〇觔で、全世界産出量一〇三萬觔の四六％に當つてゐる。このゴム樹は南アメリカの原産でヘヴィア・ブラジリエンシス種（*Hevea brasiliensis*）と呼ばれ、



第44圖 印度支那半島の産業圖

英人ヘンリー・ウィクハム（H. Wickham）は一八七六年その種子をロンドンのキュー植物園に播種して苗木を育成し、之を移植したのがその濫觴である。その風土がゴム栽培に適し、殊に自動車・自轉車・飛行機・電信等の發達に伴つてゴムの需要が急増した爲に、その栽培事業の發達を促した。馬來半島の栽培地は英領マラヤの西海岸地方で、暑熱濕潤な氣候條件と交通至便であること、安價なる勞働力が得易い等の條件を具備してゐる。その栽培地が海岸及び鐵道沿線にあることは交通に關係するもので、特にマレー半島の交通的位置を考察せねばならない。我が國は米・英に次ぐ世界第三のゴム工業國で、その原料は英領マラヤ・蘭領印度等より輸入してゐる。

世界ゴム産出（一九三四年）

英領マラヤ	四七・九〇〇	四五・八%
南領東印度	三八・五二〇	三七・四%
セイロン島	八・二〇〇	八・八%
佛領印度支那	一九九〇	一九%
サラワク	一・八〇〇	一・七%
シアン	一・八〇〇	一・七%
世界	一〇三・五〇〇	一〇〇・〇%

錫の産出は世界第一位を占め、聯邦州のベラタからその大部分を出してゐる。一九三四年の世界産出量は一二萬二〇〇〇噸で、英領マラヤは全世界の四一・八%を占めてゐる。鐵の産地はジョホール州のスリーメダン嶺山、其の他トレンガヌ州の諸嶺山等で、我が國にとつては華國よりも重要な鐵礦供給國となつた。その位置がよいから經濟的に極めて有利で、我が國との關係は密接の度を加へた。

【住民】

印度支那半島の政治的區分とその人口數を挙げると次の如くで、その總數は五四〇〇萬に達してゐる。佛領印度支那は我が國の面積より廣大であるが、人口は我が國の四分の一に及ばない。

佛領印度支那	〔面積〕 七三・七〇〇	〔人口〕 二二・三〇	〔人口密度〕 三〇
英領ビルマ	六〇・〇〇〇	一四・七〇	二五
シアン王國	五二・〇〇〇	一二・七〇	二四
保護州	五・九二〇	一・三六	二三
聯邦州	七・二二〇	一・七二	二四
英領マラヤ	七・二二〇	一・七二	二四
海峽植民地	〇・五二〇	一・一一	二二

この地方の原住民族はネグリト種のスマン族（Semangs）で、山地内に狩獵生活を営む原始民族である。馬來族（Malays）は先住民族を壓迫してスマトラよりこの地に來住し、現在はマレー半島と交趾支那に居住して回教を信奉してゐる。北方西藏よりの移住民にはビルマ族（Burmese）があり、一般に怠惰である。印度支那高地から雲南地方の所謂 Shan States にはシャン族（Shans）が居住し、漢族の壓迫を受けて揚子江地方より南下したものである。シアン及び佛領印度支那に多いラオス族（Laos）タイ族（Tais）等は何れもシアン族の一派で、遂にメコン河流域の沃野に定住してシアン族をなしてゐる。近來の移住民に華僑があり、商業上の勢力は實に大なるものがある。然し政治上の實權はこれ等アジア系の住民にあるものではなく、その大部は英・佛兩國の支配下に屬してゐる。

【教養】馬來半島は東亞とヨーロッパ並に南洋諸島を結合する位置にあり、東印度諸島の全域を海上交通によつて結んでゐる。かゝる優秀な位置にあることから、軍事上・經濟上の價值が大となり、海峽植民地の重要性があるのである。更に我が國との關係も密接で、ゴム・鐵礦等の輸入があるばかりでなく、邦人の發展も次第に盛になりつゝある。

第六章 マレー諸島 (Malay Archipelago)

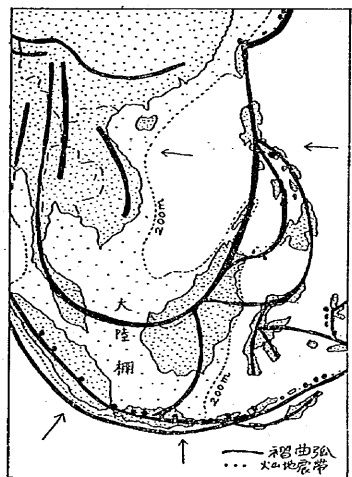
第一節 地形・構造

【島嶼の配列】 マレー諸島はアジア・オーストラリア兩大陸間の陸橋部で、スンダ列島・モルッカ諸島・フィリッピン列島等の弧狀列島と、ボルネオ・セレベス等の大島とから成つてゐる。その全體の形狀は半圓形であつて、その外側にはフィリッピン海溝の如き深淵部があつて、弧狀列島に接近して横はつてゐる。海底の地形上特に注意に値するものは陸棚（Continental Shelf）の存在であつて、ジャバ海（Java Sea）ボルネオ海（Borneo Sea）は共に連續した淺海で、マカッサル海峡以東の地形とは全く異つてゐる。

ホブス（Hobbs）は島弧の配列に就いての系統を考察し、弧狀列島は挿圖の矢印に示した如く、外側よりの壓力によつて形成したことを論じた。徳田貞一博士はフィリッピンからスンダ列島に及ぶ島弧列を論じて、雁行狀配列をなすことに注意した。アジアの地形を論じた場合にこの花彩列島の特色を述べ、日本列島の島弧との關係を記述したのであつた。

マレー諸島の地質構造について、特に注意すべき點は次の如くである。その一は南部限界をなすスンダの弧狀列島で、ヒマラヤからビルマ山地を経て南東に走つてゐる。スマトラ島・ジャバ島の二大島から、Bali, Lombok, Sumbawa, Sumba (Sandalwood), Flores, Ombai, Wetar, Timor の小スンダ列島となり、急轉してモルッカ諸島の Ceram, Buru に及ぶもので『エメラルドの帯』の稱ある花彩列島を形成する。その二はフィリッピン諸島の構造であつて、ルソン島を島軸とする諸島の配列は分岐（Vigilation）をなしてゐて、その東部の海中にはフィリッピン海溝がある。この二個の褶曲山脈は半圓形の外部をなし、その弱線に

沿つて火山の分布がある。ルソン島のコンーデ式火山（Konide）であるマヨン山、スンダ海峡に横はるクラカタウ島（Krakatoe）は最も著名である。



第150圖 ホブスによる褶曲山脈

その三はボルネオ・セレベス・ジロロ等の存在で、そのK字形の地形は特色ある形態である。この形狀に就いては二個の山脈が對曲（Schauung）又は連絡（Kettung）をなすものとして説明されてゐる。ボルネオ島の山地はセレベス島に類似し、ボルネオ島を海水に沈下せしめた場合には、全くK字形の島嶼を示すであらう。この二島間のマカッサル海峡及びセレベス海は共に著しい陥没部で、造山帯の内側に生じた中間海洋（Mittelmeeer）である。ジャバ海及びボルネオ海の陸棚部は、第三紀より最新世に至る準平原の沈水したもので、Banka, Billiton の二島のみならず、ボルネオの大島も準平原上のモナドノックであるといふ。

【スマトラ島】(Sumatra I.) 世界第五の大島でその面積は四五萬五〇〇〇方呎に及び、我が本州島の約二倍である。本島の分水山脈は著しく西偏し、その基底は片麻岩及び種々の片岩から成つてゐる。この山地

をバリサン山脈(Bariisan Mts.)と稱し、二列の山地列をなしてその間に縦間地帯がある。Rutterの説明によれば、この島は第三紀の褶曲を受けた後に第四紀の剝削が行はれ、更に最近の地塊運動を蒙つてゐるといふ。構造上の特色としてはデッケン構造が知られて居り、脊稜山脈の中軸部に當つて、先第三紀時代に形成された東よりの押し覆せがある。本島の西縁に於いては特に甚しい變動を示し、メンタウエー諸島(Mentawai Islands)の存在と中間に於ける間溝、更に外側に横はるメンタウエー海溝等は何れも地形の特色を示してゐる。特に西部スマトラに於いては斷層地形が發達し、之に就いては H. Philippi の調査があるが未だ不完全なものであるといふ。

この島軸の裂隙に沿つて多數の火山が噴出し、デムボ(Dempo 3120m)コリンチ(Korinchi 3690m)等の活火山がある。西部山地は褶曲山地であるが火山の噴出があつて雄大を極め、東部には第四紀層の低地がある。高度の分布や河流の状態は全く我が臺灣島に類似し、その非對稱的地形は著しいものである。

【ジャヴァ島】(Java) スンダ弧狀列島中の最主要島で、その基盤は古生層・白堊紀層から成つてゐるが、第三紀層並に第四紀層の分布が廣い。島の褶曲軸は第三紀層から成り、その弱所には實に一二〇餘座の火山が噴出し、玄武岩・安山岩等の分布區域は全島の三〇%を占めてゐる。この火山質の岩石の上部には軟い沃土が被覆し、良好なる農耕地をなしてゐる。

ジャヴァ島は中央の地峡部によつて、東部・中部・西部の三區に分つことが出来る。西部ジャヴァの北岸

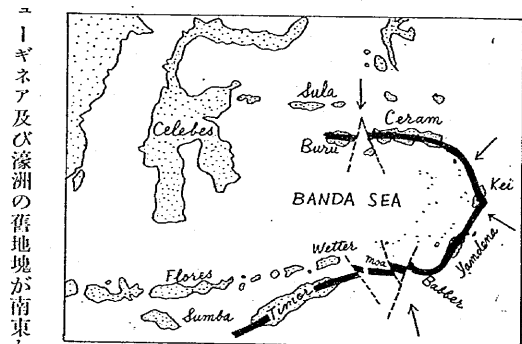
には沖積平野が發達し、タルム河(Tirum)マロク河(Malok)が之を貫流してゐる。タルム河上流には七〇〇mの高度を有するバンドン(Bandung)の盆地があり、數多の火山が之を圍んでゐる。その南方に位するバンダヤン(Papandayan 2600m)火山は一七七二年の爆發によつて知られ、附近の火山は結合して高原狀をなしてゐる。中部ジャヴァは地峡部に當り、低地が廣く續いてゐる。

東部ジャヴァでは分水界が南部に偏在し、平野は北方に存在する。本島の最高峯はセメル火山(Semeru 3676m)で、その北部にあるテングル火山(Tenger 2780m)は徑八軒に餘る噴火口を有し、三個の火口丘が存在してゐる。全島を通じて豊饒であることは火山灰の恩恵によるもので、噴火に際しては常に『自然の肥料』の供給がある。北部並に東部の海岸には隆起珊瑚礁の分布があり、モレングラフが注意した様に近年の地盤隆起を物語つてゐる。

【小スンダ列島】(Lesser Sunda) エメラルドの帶の稱ある小スンダ列島は、Bali, Lombok, Sumbawa, Sumbay, Flores, Lombok, Ombai, Wetar, Timor 等の小島群から成り、その東部に於いてはモルッカ諸島のセラム・ブルに及んでゐる。この地方の火山分布と造山との關係につきて H. A. Brøgger の與へた結論は次の如くである。即ちバンダ弧の外側島列をなす Timor, Tenimber, Ceram, Butu 等の島には火山を缺き、内側の島列ではウェッテル其の他二三の島を例外として何れも火山の存在を見る。この二列の島弧は地背斜部に相當し、ウェッテル島の位置は内外二列の接近した所にあつて、この島の附近では衝上構造が發達して

ゐる。

小スンダ列島の東部地域は、褶曲形成の途中にある島弧として知られてゐる。Molengraph, Brower 等の學者によつて隆起珊瑚礁の分布が明瞭となり、褶曲の背斜部に當る島列の水平並に垂直的の運動が知られた。バンダ弧の形成に關しては、バンダ海の地向斜部から遠心的に働いた側壓によるものではなく、周囲から及んだ求心的の壓力によるものとなした。ブラウワーは地背斜の運動速度がある一點を界として著しく異なる場合には、地背斜部に直角状の水平斷層が見られ、セラム島とブル島間の Manipa 海峡の如き裂罅を形成するに至ることを論じてゐる。



第40圖 スンダ弧の構造

スミット・シビンガ氏 (Smit Sibinga) はツェーゲナー説を取り入れてバンダ弧の成立を論じ、地質學・層位學的に證據を擧げて地殼運動を説明した。バンダ諸島の二重弧について、その外側弧はセラム島及びブル島から Sula, Celebes に及ぶものとなし、マニギネア及び濠洲の舊地塊が南東から壓縮して二重の島列が形成された。之を原位置に復する時には、マ

ニバ海峡 (Manipa Str.) は閉鎖されてセラム・ブルの二島は結合し、更にスラ群島に繋がる。而して小スンダ列島・セレベス・モルッカ諸島等は何れもスンダ陸地の縁邊山地で、濠洲陸塊の壓縮を受けて現在の地形を呈するに至つた。

かくの如く東印度諸島の地形・地質に關しては、Molengraph, Brower, Rutten, Sibinga 等の和蘭の學者や、Wanner の如き獨逸の學者によつてその研究が進められ、その構造が次第に理解される様になつたものである。

【モルッカ諸島】 (Moluccas) Jilolo, Sula, Nisoi, Ceram, Buru 等の總稱で、一名香料諸島 (Spice Is.) の名がある。ジロロ島はK字形の小島で、七島マリアナ造山帯とバンダ弧の會合點にあつて數多の火山がある。その南東に位するミゾール島は中生代の地層から成り、南部海岸には溺谷があつて沈降を示し、北部にはカルスト (Karst) 地形が發達してゐる。南部モルッカの諸島は、構造上小スンダの連續をなすものである。

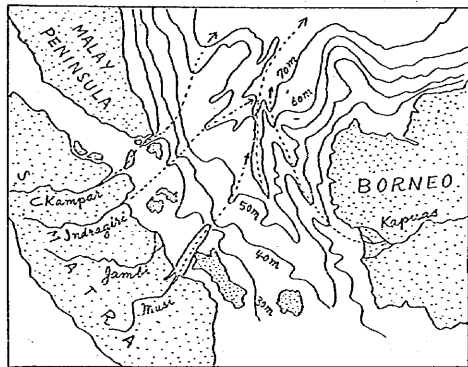
【セレベス島】 (Celebes) その形狀は地形學上極めて興味あるもので、ボルネオ島並に前述のジロロ島と共に三K島の稱がある。附近の深海より高起した地塊狀の山地で、その面積は一八萬八〇〇〇方呎であるが、海岸線の延長は三五〇〇呎に及ぶ。中央部にあるバル (Pau) の入江は深く灣入して三〇〇呎に満たない地峽部となり、全島を通じて海岸より一〇〇呎以上の所はない。中部セレベスの山地には二〇〇〇m以上の高度を有する準平原があつて、アベンダノンによれば漸新世の形成であるといふ。

【ボルネオ島】(Borneo)

世界第三の大島でその面積は七四萬五〇〇〇方呎に及び、蘭領東印度諸島中の最大島である。この島の南西海洋中にはスンダ陸棚 (Sunda

Shelf) の浅海面があつて興味ある地形を示し、ボルネオの山地はこの平坦面上に屹立してゐる。モーレングラフ並にウエーベルの研究によると、ボルネオからスマトラ・馬來半島に連続して形成された準平原面が沈水して生じたもので、この陸棚上には沈水谷が発見されてゐる。

本島の軀幹山脈は塊状をなす二個の山群から成り、その結節部に當つてチバン峯 (Tiban 1700m) がある。K字形山脈の主脈は西端のダッ岬 (C. Datu) に起り、北方に延長して上カプアス山脈 (Upper Kapuas Mts.) イラン山脈 (Iran Mts.) となり、英領北ボルネオではキナバル山 (Kinabalu 4175m) の高峯が崛起してゐる。山地間の低地は陥没部に相當し、河川は中心部より放射狀に流れてゐる。マカッサル海峡に注ぐコチ河 (Coti) ジャヴァ海に注ぐバリト河 (Barito) カプアス河 (Kapuas) 等はその大なるもので、バリト河は六〇八呎の長さをも有してゐる。本島を約一〇〇〇m沈下



第17圖 スンダ陸棚上の海中河谷

せしめたならば、河谷低地は何れも沈水して、セレベス島の如きK字形島を示すであらう。

地質上の核心は斑禰岩・片岩・花崗岩等で、熱帯地に於ける濕潤氣候の影響を受けてその起伏は大である。

Rutter の觀察した所によれば、中山性並に低山性の山地に於いてもその起伏は著しく、東部ボルネオにある一五〇mの高度を有する丘陵の山腹傾斜は普通三五度を示してゐた。最近に於ける地殻の變動に就いては、北部のボルネオで Reinhard が第四紀隆起珊瑚礁の存在を報告し、其の他英蘭の境界地方では河口が入江をなして沈降を示してゐる。然し隆起準平原の存在する事も知られて居り、第三紀造山運動の餘波を受けてかゝる地形變化を來したのである。

【フィリピン諸島】(Philippine Islands) ルソン島・ミンダナオ島の二大島を Samar, Panay, Negros,

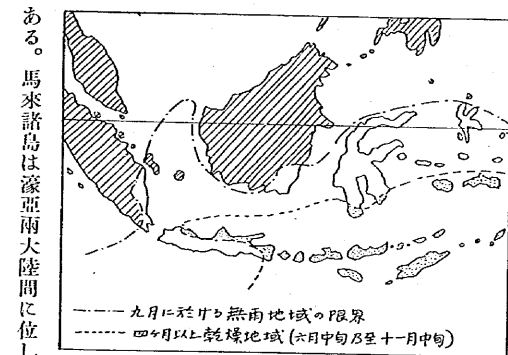
Palawan 等の小島群から成り、アジアの東部を限る第三紀の褶曲山脈である。島内には到る處に山岳が起伏して堆積平原に乏しく、山脈の高所が本列島をなしてゐるのである。この山脈はルソン島を軸として四箇の樹枝狀山脈を形成し、バラワン・ズール・サンギル等の島弧がある。この諸島の東部には世界最深のフィリピン海溝が横はり、その溝中にはスワイヤー海淵・エムデン海淵等がある。褶曲山脈の形成は、既に第三紀以前に始められ、中新世・鮮新世に至つて漸くこの山脈を構成したもので、マヨン山 (Mayon 2522m) 等の火山を伴つてゐる。

第二節 氣候誌

【赤道型】(Equatorial Type)

馬來諸島の大部は北緯二〇度と南緯一〇度間に位し、赤道型氣候を示して

ゐる。氣温に於ける季節的變化は全く認められず、一日中の氣温變化も七—八度位で、バタヴィアの全年平均氣温は二六・二度を示し、較差は僅に一度内外である。赤道地方の低氣壓帶では空氣が間斷なく上昇し、膨脹して熱を失つて冷却する結果降雨が大である。殊に降雨季は太陽が朝から強く輝き、午後になるとスコール(Signal)があつて沛然たる驟雨を齎すのである。



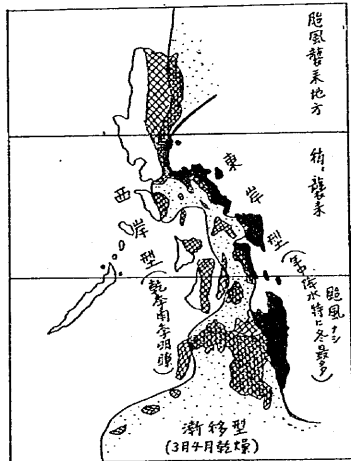
第48圖 マレー諸島の乾燥地域

ある。馬來諸島は濠洲兩大陸間に位し、この二大陸の氣候的影響を蒙る貿易風帶に屬してゐるもので、氣節

風と貿易風の結合された氣候帶をなしてゐる。

【颱風の影響】

本邦に襲來する颱風(Typhoon)は特に夏季に多く、南洋諸島に發生した小渦流が相合して一つの大渦流となつたものである。フィリッピンはこの颱風の通路にある爲に、その襲來を受けること



第49圖 フィリッピンの降水

が多く、一九〇三—一九一八年の一六六年間に六〇回の記録がある。この島では颱風をバギオ(Bagyo)と稱し、ルソン島の土地の名によつたものである。颱風の襲來はルソン島北部に最も多く、南部のミナダナオ島には少い。降雨量の最大であるのは風上の斜面で、フィリッピンでは北東貿易風の卓越する北東斜面である。風下の西海岸は少い地方で、夏季の雨季と冬季の乾季とが判然としてゐる。

【ウォールズ線】(Wallace's Line) 馬來諸島は

アジアとオーストラリア間の陸橋部で、地理上からはスンダ列島の東部にこの兩洲の界線がある。然し生物の分布に就いて、ウォールズ(A. R. Wallace)は東洋區と濠洲區の境界をこの諸島中に劃した。即ちバリ・ロンボック兩島間より、セレベス・ボルネオ間のマカッサル海峡を北上して、フィリッピン諸島の南部を東

方に通ずる線によつて之を區分したのである。ウォーレスは一八五四——一八六二年にマレー諸島を旅行して、生物分布上著しい變化のあることに注意した。ジャヴァの動物相に於いて最も興味ある問題は、本島に遠いアジア大陸の動物がこの島に分布し、近いスマトラ・ボルネオに發見されないものがあることである。之に對しては、氷河期の存在と其の後に於けるスンダ列島の分離によつて説明した。

ウォーレスは馬來諸島の旅行に際して、ダーウィンとは全く獨立して自然淘汰説を考究したのであるが、その論文をダーウィンに送つてこの學説の發表をダーウィンに譲つたのである。ウォーレス線の移動について論ずる學者も多いが、マレー諸島が曾て一部はアジアに、他は濠洲に連絡してゐたことは事實である。地質學的に古い地盤であるジャヴァ海がボルネオ・ジャヴァの兩島を結合し、更に地形的に大陸棚によつてアジアに結合されてゐることを考察する時、ウォーレス線の存在は更に深い研究を要するものであると思ふ。

【教授】馬來諸島の地形と構造を述べ、この諸島の氣候的特色について記した。『島の地理は眞の地誌である』とは、リュンメの名言である。従つて地理區の如きは大島の研究に必要であるばかりで、小島に於いてはそれ自身が一つの地理區である。各島についての地誌を、次節に述べることにした。

第三節 地 誌

【政治的區分】

マレー諸島遠征の最初の歐人はポルトガル人で、十六世紀初葉に先づマラッカ海峡を占

領した。次いで香料を得る目的でマレー諸島を探查し、モルツカ諸島のテルナテ（Ternate）を根據として貿易に従つた。一方西班牙人はフィリッピンを根據として勢力を有してゐたが、一五九五年蘭人ハウトマン（Houtman）は喜望峯を迂回して印度に達し、翌年スマトラ・ジャヴァに航した。これより蘭人は東印度會社を組織して通商に當り、一六一九年ジャヴァにバタヴィア（Batavia）府を置いてこの地方から蘭人を驅逐し、アンボイナ島を根據としてその勢力を奪取した。オランダは一時苛酷なる政策によつて失敗したこともあつたが、植民地經營の目的を商利に置き、土人に信教等を強制しなかつたから貿易は益々發展し、馬來諸島の大部を領有するに至つた。

- 政治區
- (1) 蘭領……スマトラ・ジャヴァ・ボルネオ大部・セレベス・小スンダ列島・モルツカ諸島（香料諸島）
 - (2) 英領……ボルネオ北部（北ボルネオ・ブルネイ・サラワク）
 - (3) 米領……フィリッピン諸島（フィリッピン共和國）
 - (4) 葡領……チモール島の北部

(1) 蘭領東印度（Dutch East Indies）

【ジャヴァ島】面積一三萬方里

本島には火山質の肥沃土壤が廣く分布し、世界有数の熱帶農業地をなしてゐる。蘭領東印度はもと東印度會社がその經營に當つたが、後に英吉利の占領する所となり、ナボレオン戦争後和蘭に還付された。一八三〇——一八八〇年間は植民地搾取主義の時代で、總督ヴァン・デン・ボッシ

エ（Van Den Bosch）は財政の危機を救ふ爲に強制労働法（Culture System）を實施して、土人所有の土地

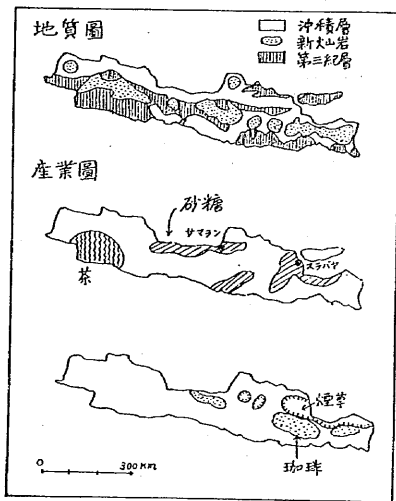
の一部を國家の管理下に置き、甘蔗・珈琲等の栽培をなさしめた。この制度はジャヴァ島の農業を發達せしめ、『オランダの寶庫』ならしめたものであつて、蘭人の經營と土人の勤勉とは相俟つて本島の産業を躍進せしめたのである。強制栽培による時代を経て、現在では道義的政策時代（一九二一—）となり、バタヴィ

アには國民議會が開設された。

甘蔗の耕作は本島の主要産業で、キューバの原始的であるのに比して、その集約的經營は異彩を有するものである。然し近年に於ける產出量は次第に減少を來し、土人の生活は極度に脅されてゐる。之は世界的不況による需要減退と、日本並に印度等に於ける糖業の發達によつて輸出市場を失ふに至つたもので、生産の制限を餘儀なくされてゐる。

珈琲は海拔五〇〇—一二〇〇mの傾斜地に栽

培せられ、品質は極めて優良である。ゴムは西部地方を主産地とし、海拔一〇〇—七〇〇mの地帯を産地としてゐる。規那(Quina)は南米が原産地であるが、一八五四年政府が之を移植して栽培を奨励した爲に、



第50圖 ジャヴァ島の産業圖

世界第一の産地となつた。バンタン(Bandung)が栽培の中心地で、海拔二二〇〇—一八〇〇mの地帯が栽培地となつてゐる。

【註】規那、ペルーを原産地としたからペルーの樹皮(Pernian bark)と呼ばれ、茜草科に属する常緑樹である。この樹皮を乾燥してキニネを製するもので、解熱剤・強壯剤として特效がある。その產出額は世界の九九%までがジャヴァ島で、年々一〇〇萬盾以上を出し、一八七二年迄は政府の專賣としてゐたが、今では自由栽培に委してゐる。バンタン南方の山地は古くから栽培の中心となり、排水のよい傾斜地に階段耕作が行はれてゐる。

バタヴィア(Batavia) 市街の大部は曲流する河川の自然堤防上に位し、港市であると共に蘭領東印度の首都である。熱帯產物取引の仲繼市場として發達したもので、バタヴィアは下町で支那人の商店街をなし、山の手は歐人の住宅地でウエルテフレンデンと呼ぶ。ボイトンゾルグ(Buitenzorg)は海拔二六六mの高地にある「無憂境」で、總督官邸がある。獨逸の植物學者ラインワルド(Reinward)の創設した大植物園がある。

地峽部の南岸に位するデョキヤカルタ(Djokakarta)は甘蔗耕作の中心で、舊王城がある。木綿地に蠟を溶して模様を描き、染色してから蠟を落して製する特殊なジャヴァ更紗は、舊王領地方に發達した手工業である。北岸のサマラン(Samarang)は砂糖の輸出港で、支那人移民の中心地である。マゾラ島に抱かれた港市スラバヤ(Surabaya)はジャヴァ糖業の中心で、糖業トラストの本部があり、砂糖・煙草・ゴム・香料等の輸出が多い。バタヴィア・スラバヤ・サマランの三港はジャヴァ島の門戸で、我が汽船の寄港地である。

あるが、何れも砂濱海岸で良港ではない。

住民は馬來系の土人が全人口の九八%を占め、ヨーロッパ系の住民は混血種を合して漸く二〇餘萬に過ぎない。政權は蘭人に、教權はアラブに、商權は華僑にと言はれるもので、和蘭の支配的植民地の中心である。ジャヴァ島に於ける華僑の数は六〇萬に及んでゐるが、次第に没落してその信用は全く地に墜ちた。この間本邦商品の進出は驚くべきもので、昭和八年に我より一億五七〇〇萬圓の輸入をなして、著しい片貿易の現象を呈したのである。和蘭の商業上の植民地は一轉して我が國の市場となるに及んで、本邦商品の輸入制限を見るに至つたもので、日蘭會商の如き問題が起つたのである。

【スマトラ島】（面積四三・七六〇萬方呎）（人口一七六〇萬） 北部平原の東部を北流するムシ河（Musi）の下流地は原始林の密生した所で、低湿地が連続してゐる。ムシ河が丘陵地を横斷する所に小支流が會合し、會合點にあるバレンバン（Palembang II）は植民地の中心で、市街は河岸に發達した。この地方の新第三紀層の背斜部には油田が多く、そこに向ふ鐵道はこの地方の開拓に資したことが大である。

マラッカ海峡に面した北部地方は歐亞連絡交通の要路に當り、本島中で最も開發された地方である。煙草・ゴム・茶・珈琲等の熱帶性植物の耕作が發達し、メダン（Medan）はこの地方の經濟的中心地で、邦人の在留する者が多い。マラッカ海峡に注ぐロカン河（Rokan）カンバル河（Kampar）等の第四紀層中には錫の産があり、ジャヴァ海中に屹立してゐる殘丘島バンカ・ピリトンの兩島にも錫鑛を産する。

【蘭領ボルネオ】（面積五三萬方呎）（人口二三〇萬）

ボルネオ島の七分の五が蘭領で、一九三〇年の調査では二二〇萬の人口を有してゐる。コチ河（Cot）バリト河（Barito）等の下流低地には廣い平野が存在してゐるが、森林或は叢林等に蔽はれてゐる爲農耕は餘り發達してゐない。森林中からはサゴ（Sago）コブラ（Cobra）藤等を産し、耕地は隆起洪澗地及び河岸段丘地等に見られる。河川は内地への主な交通路で、ボルネオの開拓路となつてゐる。バリト河口のバンジェルマシ（Banjermasin）は石油産地の中心で、水上に聚落が發達してゐる。

住民はマレー系の土人が多く、その大部はダヤク族（Dayak）である。海岸地方に居住する者は新來の華僑と混血し、交易等に從ふ者もあるが、内地にあるものは首狩の惡風がある。華僑は商業上の實權を有し、燕窩（海燕の巢）コブラ・鼈甲・鑛物等の取引に従つてゐる。

【セレス島】（面積一八萬方呎）（人口一四〇萬）

K字島の南端にあるマカッサル（Macassar）は一八四八年の開港で、珊瑚礁に圍まれた自然の良港である。香料諸島・小スンダ・ボルネオ等の交通上重要な位置にあり、香料・皮革・椰子等を取引する。北端のメナド（Menado）はフィリッピン——濠洲間の通路に當り、邦人の居住が多。

【香料諸島】（Spice Islands）

モルッカ諸島の別名で、コロンブスの新大陸發見、カボットのニユーFOUNDランドの發見、バスコダガマの喜望峯迂回等を促したことは、この香料諸島に到達することが目的であつたといふ。住民は主としてマレー系の土人で、其の他に早くから香料取引に従事したアラブ人が多く、近

來は華僑の勢力が大きい。アムボイナ (Amboina 1) は葡人の建設した港で同名の島にあり、一時は蘭領東印度の首府であつた。

【註】香料植物 丁香・肉豆蔻・胡椒等の香料植物は、肉類の貯蔵上缺くべからざるものであつたが、冷蔵法の發達によつてこの植物の利用は減じた。丁香 (Clove-tree) は常緑喬木で、その小花の蕾は調味料となり、丁香油は鎮靜劑となる。肉豆蔻 (nutmeg) は樹高三〇mに及ぶ常緑樹で、果實は橙實大のもので胚乳を乾燥して製造する。肉豆蔻油は飲料・健胃劑として用ひられる。胡椒 (pepper) は胡椒科に屬する植物で、その果實を粉末として香料となすものである。

(2) 英領ボルネオ (British Borneo)

ボルネオ島の七分の二を占め、北ボルネオ・ブルネイ・サラワクの總面積は二一萬方呎に及ぶ。北ボルネ

英領ボルネオ	面積	人口	密度	首府
北ボルネオ (N. Borneo)	七萬六千六百六十六	二七、五九六	三・六	Sandakan
ブルネイ (Brunei)	一・〇	三・三	三・三	Brunei
サラワク (Sarawak)	二二・九	六・〇	四・六	Kuching

オ (N. Borneo) は北ボルネオ會社の經營する所で、首府サンダカン (Sandakan 2) は同名の灣頭にあり、附近には邦人經營のゴム園がある。ブルネイ (Brunei) 保護地の首府はブルネイで、サラワク保護地の首府はクチン (Kuching) である。ラバン島 (Labuan) はもと海峡植民地の管下に屬したが、今では分離した植民地をなしてゐる。

(3) フィリッピン聯邦 (Commonwealth of Philippines)

【獨立問題】

フィリッピン諸島の面積は二九萬六〇〇〇方呎に及び、人口は一九三三年の調査によれば

一二八〇萬に達してゐる。この島はもと西班牙の領有であつたが、その住民が虐政にたへずして叛するや、一八九八年米國は之を援助して領有したものである。然し當時の米大統領マッキンレー (William McKinley) は宣言書を發し、比島領有は決して領有の爲の領有ではなく、獨立の能力を有する迄援助育成の任に當るものなることを聲明した。比島獨立問題の萌芽は實にこの宣言書にあるもので、米領後も常に獨立運動の絶えることはなかつた。一九一六年には自治を許すこととなり、最近では全くその氣運が熟して遂に一九三五年憲法草案は米大統領によつて裁可せられ、いよいよフィリッピン聯邦獨立準備政府の出現を見た。今後十年の歳月を経て完全に獨立するもので、大統領にはケソン氏 (Manuel Quezon) が就任した。

【住民】 原住民はネグリート (Negritos) と稱する短軀の黒人で、後に馬來族のイロロット族 (Ilorots) 及びタガログ族 (Tagalogs) が侵入して、原住民を山中に驅逐した。イロロットはルソン島北部の山岳地に住し、タガログ族はマニラ附近の沃野に住み、中部の諸島にはヴィサヤ族 (Visayans) が居る。タガログ族とヴィサヤ族とはその數に於いても文化の程度に於いても最も優れたもので、キリスト舊教を信奉し、獨立運動の如きもこれ等の種族によつてなされてゐる。

ミンダナオ島に住するモロ族 (Moros) は回教を信ずる後來の馬來系で、海賊を業とする者が多かつたが今では靜謐に歸した。西班牙人及び合衆國人等のヨーロッパ系は少く、アジア系では支那人が最も多く、日本人の數も約二萬を算してゐる。

【産業・都市】 高温多湿の氣候であるから米作がよく行はれ、ルソン島の北部山地には見事な階段耕作が發達してゐる。コ、椰子は我が國に見る海岸の松の如く繁茂し、人造バター・石鹼の原料として重要なもので、一九三三年の産額は五六萬噸で世界第一である。マニラ麻は本島の重要輸出品で、バナ、に似たアバ



第51圖 フィリピン産業圖

カ (Abaca or Musa textile) の纖維をはぎとつたものである。降雨の多い而も排水のよい傾斜地に茂り、船舶用のロープ或は製紙原料として價值がある。煙草の栽培はルソン島の北東部を中心とし、マニラ煙草の名を得てゐる。

マニラ (Manila 34) は同名の灣頭にある港市で、聯邦の首都である。パンク河が市中を貫流し、河南の舊城内には官衙・學校等があり、河北は商業區域をなしてゐる。灣岸のカヴィテ (Cavite 5) は軍港で、オロンガポ (Olongapo) は要港となつてゐる。リングギエン灣 (Lingayen B.) の東方にあるミンゲット山脈にはバギオ (Baguio) の避暑地があり、海拔一五〇〇mの高地都市である。ミンダナオ島のダヴァオ (Davao 2) は邦人發展の中心地で、ダヴァオ灣の西岸地方を開拓してマニラ麻。

椰子等の栽培が行はれてゐる。パネイ島のイロイロ (Iloilo 6) は砂糖の輸出港で、セブ島のセブ (Cebu 5) は自然的良港でフィリピン最古の港市である。

【教授】 馬來諸島は我が國に近接してゐるばかりでなく、軍事上からも經濟上からも、更に移民問題からも特に留意を必要とするものである。その各地に於いて近來邦人の發展は著しく、殊に熱帯地の栽培業は行詰つた我が國にとつて刮目せねばならぬことである。フィリピンの獨立問題の如き、日蘭争論の如き、その何れもが強國日本との關係を物語る問題である。地理教授に際してはその地理的特色を授け、更に國民の發展に留意せしめることが肝要である。

第七章 印度 (India) (面積三七〇萬方浬 人口三億七〇〇萬)

第一節 政治

【印度帝國】 (Indian Empire) 英國は現世界に於ける植民強國の筆頭に立つもので、英本國に從屬してゐる印度は少數の英人によつて支配されてゐる。即ち四六〇〇萬の英本國人によつて、印度の三億三七〇〇萬の住民が統治されてゐる状態であるから、決して政治的健康状態にあるものではない。この印度を特に印度帝國と稱し、英國の植民地の中で最も重要視してゐる所以は、政治上の理由は勿論であるが、英本國に對する經濟上の理由が至大であるからである。

印度帝國の發達に就いて見るに、英人は一六〇〇年東印度會社を組織して印度經營に當り、次いで一六一年には西岸のストラット(Surat)を根據として貿易に従つた。其の後一六三九年にはマドラス、一六六一年にはボンベイ、更に一六八六年にカルカッタ市を建て、英國發展の基を開いた。之に對して佛蘭西は一六七二年ボンデシェリー市(Pondicherry)、一六七三年にはシャンデルナゴル市(Chandernagore)を營んで英人に對抗し、一時は全く佛國の勢力下に歸したこともあつたが、英人クライツ(Robert Clive)は一七五七年佛軍を破つて之を殲滅せしめ、印度統一の基礎をなしたのである。

英國は十九世紀の半ムガル帝を廢して全土を統一し、英國王を皇帝とする印度帝國を成立せしめた。印度帝國は印度半島とベルチスタンを含したもので、直轄地と土候國とに分たれる。直轄地は九省六州あり、省には總督、州には政務官を置き、五〇〇餘の土候國にはその政治を監督する理事官が派遣されてゐる。首府はデリーで大總督が駐在し、上下兩院の議會がある。印度帝國に屬してゐたビルマに就いては既に記述したから、本章では印度半島の部分のみを考察する。

【印度の民族運動】 全印度を統一せる政治狀態に導いたのは、英國の征服と統治の結果である。然し英國の印度統治に就いては決して善政なりと稱し難く、爲に印度人は次第に自覺を促されて、十九世紀後半からその民族運動を起すに至つた。一八八五年に開かれた國民會議は、其の後も民族運動の中心となり、二十世紀には日露戰爭の影響を受け、更に世界大戰に参加するに及んでは、民族運動は次第に激烈の度を加へて

來たのである。

世界大戰當時、英本國では印度人の援助を要望し、一九一八年所謂モンテーギユの宣言を行ふに至つた。この改革は印度の自治制に對する準備の約束を與へたものであり、更に時の英首相ロイドジョージは同年印度に赴いて、自治の完成を暗示した。従つて印度人は一〇〇萬に近い軍隊をヨーロッパの戦場に送り、莫大な戦費の支出をなして英本國を援助したのである。然し戦後に於いても自治の要望は達成し得ず、激昂した民衆は遂にブールナ・スワジ(完全なる獨立)を望んで愈々民族運動は激化した。ガンディー(Mohandas Karamchand Gandhi)の如きもその一人であるが、彼は全く無抵抗主義の指導者で、流血を見ずして自治の達成を絶叫したのである。

従來の印度統治法はかゝる印度人の自治要求に甚だ懸隔あるものであつたから、一九二七年以來數次の會議に於いて新統治法の審議が行はれたもので、ガンディーもその圓卓會議に列席した。一九三四年にはその修正草案が成つて翌年英國の兩院を通過し、遂に印度は印度聯邦を組織することになった。

第二節 地形誌

【地形區】 印度は地形上次の三區に分たれる。その一は山岳障壁をなしてゐるヒマラヤ山脈・カラコルム山脈・スリマン山脈等の北部山地で、パミール結點(Pamir Knot)によつて結合された褶曲山脈である。

地理的には印度の北限界をなすもので、ヒマラヤ山脈中にはエヴェレスト (Everest 882m) キンチンヂンギ (Kinchinjunga 8579m) 等の高峯がある。二は中央平原のインダス河・ガンヂス河の所謂ヒンドスタン (Hindustan) の沖積平野で、印度の人口並に政治・經濟等の重心部である。その幅員は二四五—四八〇浬に亘り、面積は八〇萬方浬に及ぶ廣大な地域である。その三は南部臺地でデカン高原 (Deccan Plateau) と呼ばれ、その基部は地質上最古の陸塊で、アフリカ・アラビアに續く臺地の一部をなし、その北限界をなすものがヴィンヂヤ山脈 (Vindhya Range) である。特に北西部はトラップ (Deccan Trap) の熔岩臺地でその風化によつて生じた黒棉土 (Black Cotton Soil) は棉花耕作の適地となつてゐる。

地形區
(1) 北部山地 (Northern Ranges)
(2) ヒンドスタン平原 (Hindustan Plain)
(3) デカン高原 (Deccan Plateau)

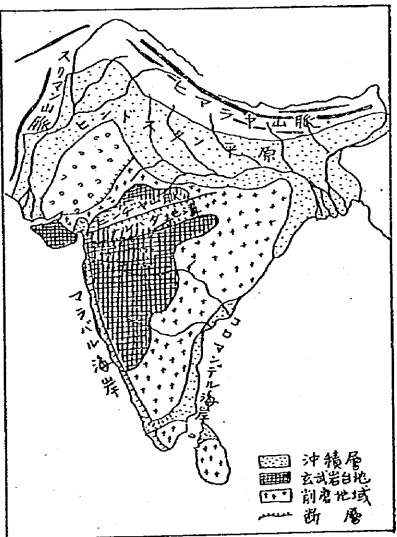
(1) 北部山地 (Northern Ranges)

【山岳障壁】(Mountain Wall) 印度平原の北に連亘するヒマラヤ・ヒンズークシ等の諸山脈は、パミル結點 (Pamir Knot) を中心として對峙してゐる褶曲山脈である。パミル高原から南東に走るヒマラヤ山脈は、七〇〇〇m以上の高峯群が多數屹立し、梵語の『雪の住居』の意から Himalaya (= the abode of snow) の名を得た。ヒマラヤは印度と西藏の間にある山岳障壁で、人類移動の歴史的運動を阻害することが強い爲

に印度と支那とは分離せられ、異つた人種が山脈を境界として居住したのである。スリマン山脈はヒマラヤ山脈の西部に於いて結合し、兩者は結合した地理的・一大境界帶を形成するもので、交通上の障壁たることは勿論であるが、その間に介在する峠があつて

通路となつてゐる。

スリマン山脈中の重要通路は、①ボラン峠 (Bolun P.) ②キヤン峠 (Gomal P.) ③カイミル峠 (Khyber P.) 及び④マクラン (Makran) 海岸の通路等で、中央アジア及び西アジアとの連絡路である。カイミル峠は海拔一〇一一mの高度を有し、『印度運命の門戸』であると言はれる。アリヤン民族の移動に際しても、亦アレキサンダー大王の印度侵入にもこの通



第52圖 印度の地形・構造

路が求められた。かく政治的・軍事的に重要性を有する爲、英國はカイミル峠の關門を確保すると共に、アフガニスタンに勢力下に置いて、ソヴィエトに對する防禦となしてゐる。

ヒマラヤ山脈中には、僅かにインダス河上流の⑤カラコルム峠 (Karakoram P.)、サトレチ河上流の⑥シ

ブキ峠 (Siya P.) 及び⑦ダーデリングの通路等が存するのみである。爲に印度の北方障壁は文化傳播の妨害物となり、完全にその交通を閉鎖してゐる。英國はこの方面の防禦に對しては、西藏をその保護地となすことに成功し、印度の安全性を確立した。

【ヒマラヤ山脈】 (Himalaya Mts.) ヒマラヤは世界最高の一大山脈で、その平均高度は五〇〇〇——五五〇〇mに及び、その延長は二四〇〇kmに達してゐる。西藏高原と印度平原の間に連亘して、七〇〇〇m以上の高峯は實に三〇餘座に及び、『雪の住居』の稱も偶然でない。その形成は主として第三紀に於ける褶曲によるもので、蓋層構造が知られて居り、地質上からは海成層の分布によつて、少くともその北部に於いてはデブスの所謂テチス海の水面下にあり、爾後の隆起によつてこの大山脈を構成した。而してその西端に於いてはヒンヅークシ山脈及びスリマン山脈の兩山脈と對曲をなし、東端に於いてはビルマの諸山脈と同様に對曲を示し、ヒマラヤ山脈の兩隣とは著しい地形的對照を示してゐる。

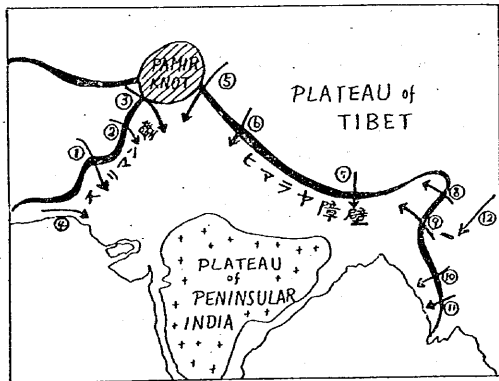
ヒマラヤ山脈は三重の主要山脈に分たれ、その内側には中生代の褶曲層が存在し、中央部の主要地帯は結晶質岩石及び古期水成岩から成つてゐる。エヴェレスト (Everest 882m) キンチンジュンガ (Kinohingung 850m) 等の高峯群はこの部に當るもので、エツェレストは國の母の意である Chomolungma の西藏名がある。花崗岩の高峯が八〇〇〇m以上に高起してゐることは極めて著しいことで、深部に凝固したであらう火成岩が、爾後の莫大な隆起と削刻によつて露出するに至つたことを認めねばならぬ。この結晶質の部は

Himalaya Zone と呼ばれ、アルガンによれば地向斜山脈の内部に於ける深部褶曲に相當するものであると

す。

山脈の南部には第三紀褶曲層から成る低い山脈があつて、準ヒマラヤ (Sub-Himalaya) の稱があり、シワリク山脈及びタライ山脈として知られてゐる。その上部のシワリク層 (Siwalik Series) は南方に乗りかゝつて逆斷層を示し、この地方の造山運動は現在に引續いてゐることを示してゐる。

この大山脈に於いても、その一部カシ米尔地方に於けるが如く、六〇〇〇mの高度を有する隆起準平原面の存在があり、その面上には幾多のモナドノックが屹立してゐる。インダス河はこの準平原中に深い峡谷を穿つて流れ、その水源は主要高峯群の北部に發源してゐる。單にインダスのみでなく、ガンデス河 (Ganges) プラマプトラ河 (Brahmaputra) も共に北側に發源して大山脈を横斷し、先行性河流 (Antecedent river) となつてゐる。この山脈の形成に關するアルガンの説明によれば、第三紀の造山期に於いてティチス



第53圖 印度北部障壁中の通路

海を挟む歐亞大陸と印度アフリカ大陸とが接近し、爲にこの中間の地^{○○}向斜部が壓縮せられて隆起したのである。單に地向斜堆積物のみでなく、背後の地殻も變位を受けて高起し、その爲に前方陸地に向つて倒れ、蓋層構造を示すに至つたものであるといふ。

カラコルム山脈(Karakorum Mts.)はインダス河を隔て、ヒマラヤ山脈に對し、脈中のダブサン山(Dapsan or Godwin Austen 8620m)は世界第二の高峯である。この山脈の東方への延長がトランスヒマラヤ山脈(Trans Himalaya)で、西部に於いてはヒンズークシュ山脈と對向をなしてゐる。この山脈中には、Hispar, Baltro, Bialo 等の氷河が存在してゐて、樹枝型氷河(Dendritic type)をなしてゐる。この山脈に於いてさへ小起伏の高原性の部分が山頂に近く存在し、ダブサン山は準平原面上に残つた部分であらうと云ふ。

(2) ヒンドスタン平原 (Hindustan Plain)

一名インド・ガンデス平原 (Indo-Gangetic Plain) と稱し、インダス河・ガンデス河・ブラマプトラ河流域の沖積平野である。その流域面積は八〇萬方呎に達し、關東平野のそれに比して約一一〇倍に相當する大平原で、世界に於ける最も重要な平原の一である。インダス河(Indus R.)は平原の西部にあつてその長さは二九〇〇呎、西藏高原に發源して平原に流下すると所謂五河(Punjab は五河の意)を合せ、沙漠地を流れてインダスデルタを作つてゐる。ガンデス河(Ganges R.)は流程二五〇〇呎、Jumna, Gogra, Son, Gandak 等の支流を容れてベンガル灣に注ぐ。その下流には東より合流するブラマプトラ河(Brahmaputra は梵天の

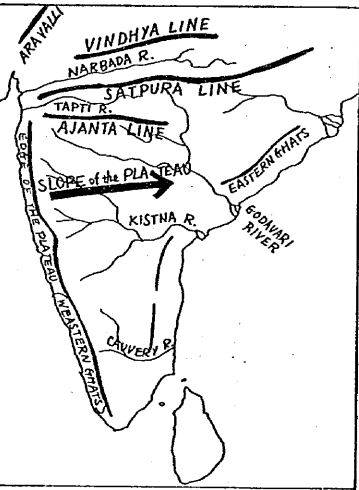
子の意でその長さは二九〇〇呎)の大河があり、兩河の河口には凡そジャヴァ島の面積にも比すべき大三角洲が發達してゐる。

この平原の一特色は、その廣大なる地域に亘つて一の小丘陵も認め難く、極めて平坦なことである。ガンデス河を溯ること一五〇〇呎の上流に於いても海拔は僅かに一五〇mで、インダス河とガンデス河の分水地帯の高度は海拔二五〇mに過ぎない。然しこの平原の自然景觀は各地に於いて異なるところがあり、タール沙漠(Tar Desert)の乾燥地、パンジャブ(Punjab)の半乾燥地、ガンデス三角洲の沼澤地——サンダルバン(Sundarbans)及びアッサムの叢林等がある。第二の特色としては驚くべき厚層から成る沖積土で、砂・粘土・ローム等の新沖積土とカンガル(Kankar)と呼ぶ石灰質の古沖積土とがあつて、その耕作景は異つてゐる。第三の特色は、この平原の北部に存在するヒマラヤ大山脈の起伏で、障壁をなして急に聳立することである。準ヒマラヤの稱ある山麓丘のシワリク山脈等の小起伏があるにしても、この平原の北に横はるヒマラヤの起伏は特に著し。

(3) デカン高原 (Deccan Plateau)

ヒンドスタン平原の南は所謂半島部印度(Peninsular India)で、地質上世界最古の陸塊の一部をなしてゐる。その高原狀の臺地は、全體として西から東に向つて緩斜し、一の傾動地塊(Tilted Block)をなすものである。その北部を限るものはヴィンデヤ山脈(Vindhya Range)で、その南にはナルバダ及びタプチの二地

溝帯があり、その谷底を Narmada, Tapi の兩河が西流してゐる。他の諸河は何れも東流してベンガル灣に注ぐに反し、この二河が西流することは著しい特色である。この兩地溝間に存在するサトブラ山脈(Satpura Mts.)は之に並走する山地列と共に交通上の障害となり、人類分布上の境界をなし、印度史上重要な役割をなしてゐる。



第54圖 印度半島部の地形的特色

デカントラップ(Deccan Trap)はこの半島部印度の北西部を占め、玄武岩の風化によつて生じた黒土は、保湿力に富む沃土である。印度に於ける棉花耕作の中心地は實にこの地帯であつて、この肥沃土は黒棉土(Black Cotton Soil)と稱せられてゐる。

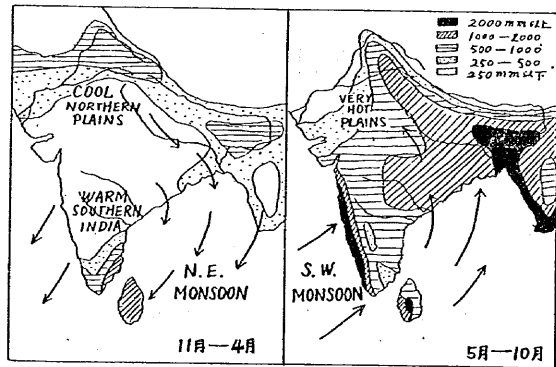
半島の西海岸には西ガッツ(Western Ghats)が連亘し、南西氣節風を遮斷する障壁をなしてゐる。ガッツとは階段の意を有する語で、その西に横はつてゐるマラバル海岸(Malabar Coast)は帶狀の海岸平野である。之に反して東海岸は廣い海岸平野を形成するコロマンデル海岸(Coromandel Coast)が横はり、キストナ河(Kistna R.)ゴダヴァリ河(Godavari R.)等の

三角洲が結合して生じたものである。東ガッツは西ガッツの如く連續することなく、數多の河川の侵蝕谷によつて分離せられ、小丘列が臺地の東縁に存在してゐる。

【教授】印度を北部山地・中央低地・南部臺地の三區に分ち、その各の地形的特色を記述した。ヒマラヤ等の北部山地のもつ特色は、その大障壁をなす爲に政治的境界をなすことにあり、中央低地並に南部臺地は印度の生産地帯である。何れも人類居住に對して如何なる自然的基礎をなすものなるかを論議したのであるが、地形の理解は地理教授の目的を左右するものであることを忘れてはならないと思ふ。

第三節 氣候誌

【印度の季節】 印度はアジアの南部に位する氣節風區の一部で、氣節風型(Monsoon Type)の代表的氣候を呈してゐる。一年間の氣候狀態は通常二季に區分せられ、北東氣節風季(Season of the North-east Monsoon)は十二月中旬から翌年の五月迄で、六月より十二月中旬迄は南西氣節風季である。北東氣節風季には概ね北寄りの風が吹いて大氣が乾燥し、晝夜氣溫の差が大であり、所謂印度の乾季(Dry Season)となる。之に反して南西氣節風季には濕潤氣候を呈して雨季(Rainy Season)となり、雲多く屢々降雨が來り、晝夜氣溫の差は餘り大でない。印度の氣候上の特色はこの二季を分ち得ることであるが、然しその變化に富むことは意外とする處で、決して單調ではない。之を次に記す如く、寒冷期・暑熱期・氣節風期・氣節風後



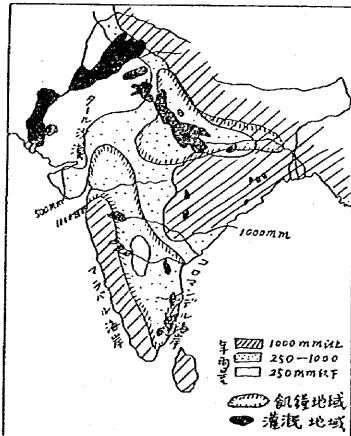
第55図 印度の気節風と雨量分布

この時期には、西方のイラン高原に発生した小低気圧が、次々に東方移動をなして降雨を齎すのである。

退期の四期に分つことが出来る。

- (1) 乾季（十二月中旬——五月）
- (a) 寒冷期（十二月中旬——二月） (b) 暑熱期（三月——五月）
- (2) 雨季（五月——十二月中旬）
- (c) 気節風期（六月——九月中旬）
- (d) 気節風後退期（九月中旬——十二月上旬）

(a) 寒冷期 (Cold Weather Period) 寒冷の語は比較的のもので、カルカッタの最寒月気温は一九二度、マドラスは二四・四度、デリーは一四・九度を示し、我が國では最も暑い七月の気温に等しい。印度の北部では北西風が吹いて甚だ爽快な時で、旅行の好シーズンであると言はれてゐる。然し気温上はこの寒冷期に於いてさへ、ヨーロッパの穀物成熟期の気温以下にはならない。



第56図 印度の飢饉並に灌漑地域

印度北西部地方の亞熱帶型氣候の地域に對して、この時期の降雨は小麥耕作を發達せしめてゐる。サトブラ山脈以南の半島部印度には、かゝる寒波の影響は全く認められず、風向も主として東風の弱いものである。

(b) 暑熱期 (Hot Weather Period) 三月より五月に至る間、気温は急上昇を來して酷熱となり、印度の最熱期であるが雨量は少い。首府デリー及びカルカッタ等の都市に在住する外人は、多くシムラ・ダーリング等の高地都市に避暑する。五月下旬が最熱で、北西部印度では四〇——五〇度の高温を示し、ベルチスタンの境に近いジャコバンダ (Jacobabad) では、最高五二度の記録がある。

(c) 気節風期 (Monsoon Period) 六月初旬から印度の各地では気節風が吹き初め、先づ西海岸地方に現れるが、次いで東方並に北方へと進んでゆく。ボンベ

イでは大體六月五日頃、ベンガルでは六月十五日頃より起り、パンジャブ (Punjab) では七月一日頃がその開始期である。気節風の風向は、半島部では南西風であるが、ガンデス河口では南風となり、パンジャブでは南東風に変つてゐる。従つて風上に位するマラバル海岸、或はヒマラヤの南斜面等に降雨が著しい。

氣節風による降雨の遲速及び多寡等の變化は、實に印度に於ける農作物の豐凶を決定するもので、降雨が遅きに失する時は稻作植付の時期を失つて凶作となる。又多量の降雨を必要とする時に、屢々終を告げるこ
とがあり、更に驚くべき廣範圍に涉つて年々降雨量の變化があつて、印度人の生活を極度に脅してゐる。印
度に於ける雨量の分布は、この氣節風期の狀態によつて決定されるもので、マラバル海岸では二五〇〇耗以
上の降雨があり、西ガッツの東斜面は寡雨である。アッサム (Assam) のチェラプンシ (Cherapunji) の如
きは二〇〇〇耗の雨量に達し、世界最多雨の地である。

(d) 氣節風後退期 (Retreating Monsoon Period) 氣節風の終頃は一體一定して居り、ボンベイ附近では
十月十五日頃、ベンガルでは十月十五——三〇日頃、バンジャブでは九月一四——二二日頃である。而して
この後退期には日本と同様に旋風の襲來があり、降雨量の減少と共に大氣は再び乾燥して、氣温の上昇を見
るのである。マドラス附近のコロマンデル海岸は、十一月と十二月が最多雨の月で、印度半島の他の地方と
異つてゐる。

印度の氣候表

地 名	緯 度	高 度	最寒月氣温	最暖月氣温	年平均氣温	雨 量
シムラ (Simla)	N 三一度六	三二〇五 m	四・七度	一九・六度	一三・〇	一六〇三 mm

カルカッタ (Calcutta)	二二・三六	六	一九・二	三〇・五	二五・九	一六一九
デリー (Delhi)	二八・三九	二二	一四・九	三四・三	二五・六	六九九
マドラス (Madras)	一三・〇四	七	二四・四	三一・一	二七・八	一二七九
ボンベイ (Bombay)	一八・五四	一一	二四・〇	二九・九	二六・九	一六九〇
コロンボ (Colombo)	六・五四	七	二六・六	二八・四	二七・五	二一四七

【註】氣候不順と饑饉 インド人は全く農業によつて生活するもので、氣節風による降水量の如何は直ちに米・棉花等の農作物に影響を及
ぼし、凶作・饑饉の原因となるのである。かかる場合には産業は全く停止し、蓄財もなく食物も有たない三億の農民は困窮の極に達し、
彼等の宗教心は強くその土地に結ばれて彼等の移住を妨げ、遂に餓死する者が多いのである。一八七八年の大饑饉には五二五萬の死者を
出し、一九〇〇年に於いては被害者六〇〇〇萬中、遂に餓死したる者は一五〇萬であつた。現在では交通系が發達し、灌漑事業並に信用
組合の普及等によつて天災に備へる様になり、政府も饑饉保險賜金 (Famine Insurance Grant) を支出して救済に當る様になつた。
爲に一九二二年の凶作には餓死者は僅少で、救済を受けた者の數も四五萬に過ぎなかつた。

【氣候區】 印度の氣候は氣節風型を特色としてゐるが、決して一樣な氣候狀態をなすものではなく、之
を數區の氣候區に分つことが出来る。地形區との關係について見るに、デカン高原をマラバル海岸區・半島
内部地方・コロマンデル海岸區に細分し、中央平原はアッサム・ベンガル區・ガンデス平原區・西北部乾燥
地の三區となし、更にヒマラヤ山地を一區とした。

(1) マラバル海岸區 この地方は一樣な氣温と雨季に於ける濕潤とを特徴となし、ボンベイの年雨量は一
六九〇耗であるが、南するに従つて増加を示し二五〇〇耗を超えてゐる。西ガッツの存在によつて、マラバ

ル海岸の多雨地帯と、以東の飢饉地域を區分する。

(2) 半島内部地方

この地方は南西氣節風に對して風下に位するから雨量が少く、年雨量は一〇〇〇耗以下である。その北西部はデカントラップの地域で、その風化によつて生じた黒棉土(Black Cotton Soil)は棉花耕作の適地となり、半島の南部には始原代岩石の分解した赤土(Red Soil)がある。氣候不順による旱魃の危険がある飢饉地域であるから、井戸・貯水池を設けて灌漑を行つてゐる。

(3) コロマンデル海岸區

北緯十四度以南の

ベンガル灣岸で、年雨量は一〇〇〇耗以上である。その降雨期は北東氣節風の卓越する時で、

十月から十二月中旬迄である。

(4) アッサム・ベンガル區

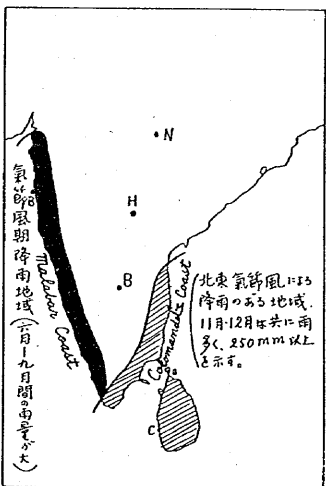
印度北東部の地

域で、六月の上旬から起る氣節風によつて降雨

が始まり、十一月に至る迄の雨季が続く。この地域は最も多雨地で、その大部は一五〇〇—二五〇〇耗の降雨があるが、アッサムでは一二〇〇耗以上に達し世界最多多雨地である。

(5) ガンチス平原區

ガンチス河流域平原と中部印度高原の地域で、六月から十月中旬迄は湿润期で、冬

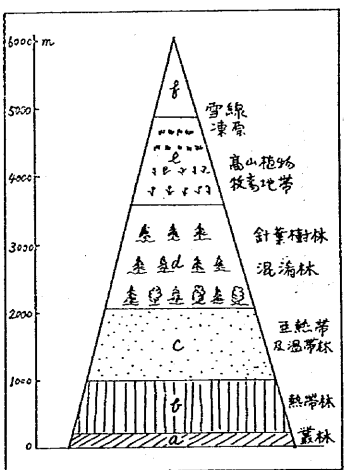


第57圖 コロマンデル區とマラバル海岸區

季には低氣壓による降雨がある。南西氣節風はヒマラヤの氣候壁の存在によつて南東風となり、降雨を齎すのである。その雨量が少きに失する時は旱魃となり、飢饉地域をなしてゐる。

(6) 北西部乾燥地

タール沙漠(Thar Desert)からパンジャブ(Punjab)にかけた地方で、極端な酷暑と



第58圖 ヒマラヤ南斜面の植物帯

冬の寒冷を示す所で、雨季は甚だ短い。パンジャブ地方の雨量は五〇〇耗であるが、ジャコババッドでは僅に七五耗以下である。タール沙漠地は夏に於ける印度の熱極となり、南方又は南東風は次第に保湿度を増しつゝこゝに進むから、その土地は乾燥氣候となり、冬季は寒極で高氣壓の中心となるので、こゝに沙漠地が生じたのである。

(7) ヒマラヤ山地區

夏季氣節風による降雨が多

リングでは三一二〇耗、シムラでは一六二五耗、スリナガルでは六八五耗である。ヒマラヤ山脈の南斜面では植物帯は垂直的に變化し、次に示す如く六帯を區分し得るのである。

(a) 叢林(Jungle)

- (b) 熱帯林(Tropical Forests).....二五〇——一〇〇〇 m
(c) 亞熱帯及溫帯林(Sub-Tropical & Warm Temperate Forests).....一〇〇〇——二一〇〇 m
(d) 針葉樹林・混生林(Coniferous Forests, Mixed Coniferous and Deciduous).....一一〇〇——三六〇〇 m
(e) 高山植物・牧畜地帯(Mountain Flora, Pasture Lands).....三六〇〇——四九〇〇 m
(f) 雪線(Snow Line).....四九〇〇——以上

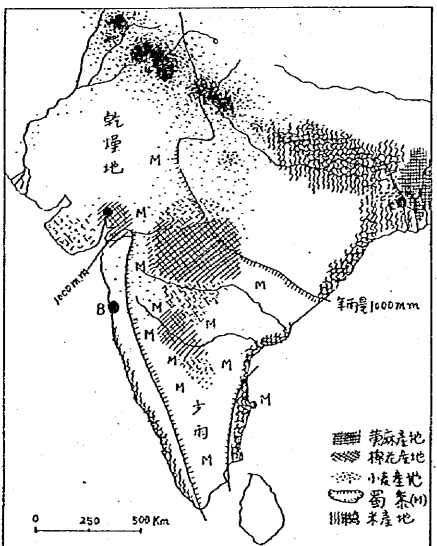
【教唆】ヒマラヤ山脈が氣候上の大障壁をなす爲に、西蔵との氣候的關係は遮断されてゐる。かるが故に小規模の氣候的
中心がタール沙漠地に生じたもので、風雨に一大變化を示してゐる。先づ風向圖を示して雨量の分布と比較し、主要地域
の特色を知らしめたい。この場合印度の重要な居住地帯は、何れも飢饉地域をなしてゐる。

第四節 産業・貿易

【農業】 農業は印度第一の産業で、その耕地面積は全面積の三四％に當り、棉花は世界第二位、小麥は
ソヴィエトとアメリカ合衆國に次いで第三位、其の他甘蔗糖・黄麻・菜種・米等は何れも世界第一位である。
印度の農業は古來乾燥農業を主とし、小規模の灌漑によつてゐたのであるが、現在では組織的に而も大規
模な灌漑事業が行はれ、その進歩發達は著し。

- (1) 棉花 その栽培地帯は火山質の土壤である黒棉土(Black Cotton Soil)を最適となし、ボンベイ・バ

ロダ兩州が中心である。水分の供給は降雨による爲に、氣節風の狀態如何は直ちに收穫に影響を及ぼし、印
度人の經濟生活と密接な關係がある。即ち棉作地では十分耕耘して六月を待ち、氣節風の霽す雨によつて播



第59圖 印度の農、産地域

種をなすもので、粟と一年交代の輪作をな
してゐる。アメリカ合衆國に次いで世界第
二の產出量を有し、ブローチ棉(Brouch
Cotton)が最も優良である。

- (2) 小麥 氣候の關係上、その栽培地は
北西部諸州の寡雨地で、パンジャブ・聯合
州の兩州が中心である。この地方は特に人
工灌漑の發達が著しく、インダス河・ガン
デス河の上流地には灌漑運河(Irrigation
Canal)の溝渠網が出来てゐる。近年完成し
たサツカー堰(Sukkur Barrage)は近代式

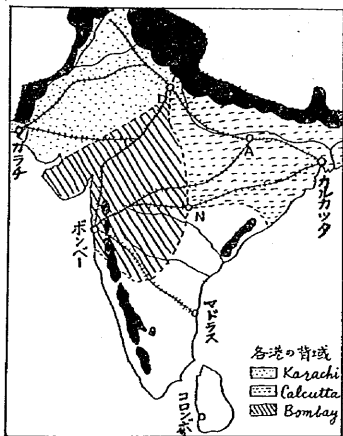
の大堰堤で、之によつてインダス下流地では一〇〇萬ヘクタールの耕地を得ることが出来た。實にこの地方
は印度の穀倉(Granary of India)をなすもので、カラチはその外港である。

(3)黄麻(Jute) ガンデス河・ブラマプトラ河の氾濫原(Flood Plain)の沃地に耕作せられ、全くこの地方の獨占的産物である。その播種は四―五月頃で、年々堆積する新土壤の地がその栽培地となり、七月頃に收穫する。その組織はガンニー袋(Gunny Bags)ヘシアンクロス(Hessian Cloth)リネン・製紙原料として使用せられ、年々一〇〇萬疋の産出がある。

(4)甘蔗 従来は栽培法も品質も共に劣つてゐたが、一九三一年糖業保護法を出して之が奨励をなし、驚異的の發達を見る様になつた。その栽培の中心はヒマラヤ山麓の地方で、一九三三年の産出額は實に四六七萬噸(世界第一位)を出してゐるが、國內消費が莫大であるから、未だ多量の輸入をなしてゐる。

(5)茶 印度は高温多湿で茶に好適な自然條件を有し、且勞賃が安く、政府の奨励によつてその發達を見

る様になつた。華國に次いで世界第二位を占め、世界産出の二七%に相當する。その中心はアッサム地方で、この地の波狀高地は適度の雨量を有する上に、砂質のロームで赤土から成り、年に十二回の摘葉を行つてゐる。その輸出貿易に於いては世界産出の三九%を出し、セイロン・華國を壓迫して第一位を占めてゐる。



第60圖 印度各港の背域

主要國の茶の輸出 (一九三四)

英領印度	一四・三〇〇〇噸	三九%
セイロン島	九・九四〇〇噸	二七%
蘭領印度	五・一四〇〇噸	一四%
中華民國	四・七〇〇噸	一〇%
日本	二・三六〇噸	七%
全世界	三六・四〇〇噸	一〇〇%

世界第二位にあり、阿片は次第に減少を來した。印度藍(Indigo)は染料として重要なものであつたが、人造藍の出現によつて減少を來した。

【註】印度の牛 印度牛は所謂ヒンズ牛(Humped Cattle)で、暑い氣候に適してゐる。一九三一年の調査によれば、牛の頭数は一億二一五〇萬頭で世界第一である。他國では牛を食用に供するのであるが、印度では乳牛として或は勞役に使用する。ヒンズ牛教徒は彼等の宗教心から之を殺害することなく、寧ろ尊敬してゐるのである。牛の横行から交通の妨害を來したり、その排泄物を糞肥あるものとなす事などは滑稽も甚しい。

【工業】 石炭の産地はカルカッタの西方にあるゴンドワナ炭田(Gondwana Coal Fields)が知られ、二疊紀のゴンドワナ層中から産出する。石油はアラカン山脈とスリヤン山脈の兩山麓地が主産地であるが、最早増産の望は少い。鐵礦は廣く全印度に分布し、その品質は優良であるが未だその利用は十分でない。かく

(6)米其他

米は農産中の大宗で、ガンデス平原コロマンデル海岸等を主産地となし、華國を除けば世界第一である。粟(Millet)は印度人の主要食物として重要で、氣候不良の乾燥地帯に耕作されてゐる。全く灌漑することなく、單に除草するだけで棉花と輪作を行つてゐる。其他、亞麻・胡麻・菜種等の油種子の産が多く、煙草・阿片・香料等の産も多い。煙草は合衆國に次いで

の如き状態であるから、製鐵工業の如きも見るべきもなく、工業動力としては水力が最も有望である。印度は上古以來、絹及綿織物の手工業が行はれてゐたが、英國の政治的勢力の影響を受けて衰頹した。それが歐洲戰爭に際して工業製品の需要が増大を來し、各地に近代式の工業が勃興した。工場工業（Organized Industry）は綿・黄麻の機業を第一とし、其の他金屬製品・食料品・化學製品等が行はれる。綿工業はボンベイがその中心で、この地の濕潤氣候は綿工業に適してゐる。ボンベイは單に棉花産地の中心地に近いばかりでなく、印度金融の中心地であり、且つ交通の便宜しきことは工業發達の條件である。

【貿易】 印度は農業國であるから、その貿易の特色として①輸出品には棉花・茶・麻袋・黄麻・油種子等があり、一九三四年の輸出額は一四億八〇〇萬ルピー（Rupee 1565）であつた。之に對して②工業品の輸入（一二億六四〇〇萬ルピー）が多く、綿布・船車・鐵製品・器械類がその主なものである。③取引の相手國は英本國・日本・獨逸・米國の順位で、我が國にとつては重要な取引國である。我よりの輸入品は綿織物・人絹織物等で、人絹は全輸入額の大部を占めてゐる。④商品貿易に就いては、常に輸出超過の國であるが、貿易外の支拂勘定が多く、公債及鐵道等の利子の流出がある。⑤この國は東洋・南洋・歐洲・アフリカ等の中間的位置にあるから、その貿易の大部は海路によつて行はれる。カルカッタ・ボンベイ・カラチ・マドラス等の港を經由して行はれ、仲繼貿易（Entrepot Trade）の額も莫大である。

【註】 日印貿易 印度は英國の貨庫であることは、産業状態を一瞥すれば明瞭である。貿易上は我が國と密接な關係にあり、輸出入共英本

國に次いで第二位にあり、斷然他の諸國に優つてゐる。一九三四年の我が輸出は二億五八〇〇萬圓で、綿布・人絹布・絹布等を送り、輸入は棉花・鉄鐵等で二億九一〇〇萬圓であつた。印度は華國に次ぐ世界第二の人口國で、比較的我が國に近い農業國であるから、産業上日本商品の大市场である。英國は我が綿織物の通出に對して不當關稅をなし、その壓迫を加へたことは遺憾である。

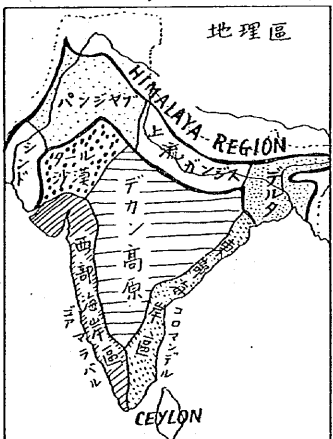
第五節 地 誌

【地理區】

印度の自然景域的區分については、(一)ヒマラヤ山地(二)ヒンドスタン平原(三)印度高原の三區に分つことが最も自然であるから、この三地理區の區分法を尊重し、更にスタンプ L. D. Stamp の方法によつて之を細分した。この場合半島部を四區に、中央平原も四區に分つた。

(一) 印度高原 (Indian Plateau)

(1) 西部海岸區 (West Coast Region) 西ガッツ西斜面の帶狀海岸地で、南西氣節風の影響を受けて降雨が大である。椰子・檳榔子等の熱帶森林が横はり、諸處に水田耕作が行はれる。西海岸南部のカリカット

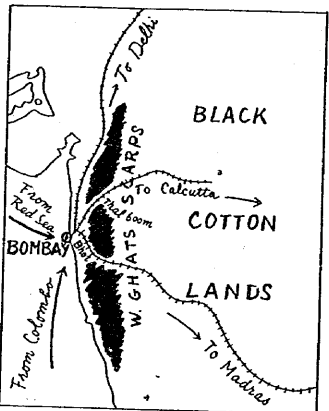


第61圖 印度の地理區

この地方を北音・中音・南音の三地域に分つことが出来る。

西海岸區南部の稱で、ゴア以南の地を占める。葡萄牙のアレグ

今(1803)を征服し、爾來荷國植民地の根據として知られたが、今は全く衰頽に歸した。中部海岸區はデカントラップの山麓地で、ゴア附近よりボンベイ附近に及んでゐる。



第62圖 ボンベイの位置

Climate の二大通路があり、③大棉花地帯の背域に結合される。④而して印度西海岸の好位置にあることは、ヨーロッパとの貿易上利すること多く、棉花取引の市場であると共に、⑤綿紡織の工業都市である。綿工業に對してはこの地の濕潤氣候が要因である。

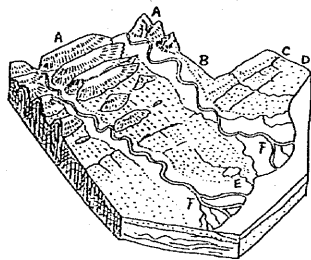
西海岸區北部はカッチ (Cutch) カシヤワル (Kathiawar) グジャラト (Gujarat) 等の地域で、西海岸區とタール沙漠地の漸移地帯である。カッチは Great Rann of Cutch として知られた不毛の岩石地で、降雨に際しては一大内海に變化する。カシヤワル・グジャラトは比較的肥沃であつて、その一中心地たるアーメダバード (Ahmedabad 30) は棉花の集散が多く、近代式の棉花工場がある。

(2)東部海岸區 (East Coast Region) 北緯十六度以南の東部海岸平野がコロマンデル海岸 (Coromandel Coast) で、砂洲・潟湖の分布が多い。米はこの平野の主要作物で、灌溉がよく行はれてゐる。甘蔗・煙草・棉花・椰子等の栽培に適し、丘陵地には茶を産出する。コロマンデル海岸に續いて Northern Circars の地域があり、結晶質岩石の小丘陵が海岸に及んでゐる所もあるが、小三角洲が發達してゐる。この小丘が沖積平野中にインセルベルグ (Inselberg) として高起してゐる。ゴダバリ (Godavari) キストナ (Kistna) の兩河はその河口に大三角洲を造り、コロマンデル海岸に連續する。

マドラス (Madras 65) は印度第三の大都會、砂濱海岸の港市であるから水深が小であつたが、人工によつてその設備が完成した。この港はカルカッタ・ボンベイの如くよい背域をもたぬ爲、貿易額はカラチにも及ばぬ程であるが、東海岸區唯一の商港として重要である。主要輸出品は皮革製品・棉花及び綿製品等で皮革業はこの地の重要な産業である。マナール灣岸のツチコリン (Tuticorin 66) は昔て蘭人の據つた處で、眞珠の產出に名高い。

(3) デカン高原 (Deccan Plateau) デカン高原は普通サトブラ山脈以南の全高原地域を總稱してゐるが、その北西部の鎔岩高原と南東部のデカン主體部を區分し得る。デカン主體部は一般に貧弱な土壤で、結晶質岩石の霉爛して生じた Red Soil から成つてゐるが、粟 (Millets) の生産に對しては主要地域をなす。高原南西部のニルギリ丘陵 (Nilgiri Hills) 地は降雨量大で、茶園の分布が廣い。

A 中央侵蝕台地
B 中央侵蝕台地
C 沖積平原
D 沖積平原
E 古代海岸線
F デルタ



第63圖 デカン東岸の模型圖

デカン高原の北西部は鎔岩臺地の地域で、前述した如く Black Cotton Soil の沃土である。この土壤は濕氣をよく保存するから棉花・粟に適し、灌漑することなくその耕作が行はれる。實に印度に於ける棉花栽培の核心をなすもので、ハイデラバード (Hyderabad 46) は棉花取引の市場町である。

(4) タール沙漠 (Thar Desert) アラヴァリ丘陵 (Aravali Hills) の北西にある乾燥地域で、諸處に岩石及び丘陵が起伏してゐる。沙漠中央部に位するジャイサルマー (Jaisalmer) は駱駝毛製品の取引が行はれる。

(二) ヒンドスタン平原 (Hindustan Plain)

(5) シンド (Sind) インダス河下流の河谷平原地域で、降水量が乏しいから農耕は全く氾濫水によつたのである。従つて住民の生活は甚だ不安であつたから「不幸な河谷」と呼ばれてゐた。近來は灌漑水路の發達によつて耕地面積を増大し、粟・米・小麦・棉花等の產出が多い。特に近年完成されたサツカー堰 (Sakkar Barrage) は、インダス河を堰きとめて水位を高め、運河によつて常に給水することを得たのである。

カラチ (Karachi 56) はシンドの門戸であるばかりでなく、パンジャブ地方を背域とした印度第三の港市である。小麦の輸出港として急速な發達を遂げ、小麦港であると同時に棉花港である。カラチは印度穀倉と英本國を結ぶ良好な位置を占め、デルタの小都市は今や大港市カラチに置換へられた。

(6) パンジャブ (Punjab) パンジャブとはギリシャ語の五河の義で、Jhelum, Chenab, Ravi, Beas, Sutlej 等五河の沖積平原である。これ等の河はヒマラヤ山地の雪山に發源し、パンジャブの半乾燥地を流れてインダス河に合流する。インダス本流は經濟的に餘り重要でないが、五河は極めて重要な役割をもち、河水による灌漑方法は絶対に必要である。氾濫運河 (Inundation Canal) による灌漑は舊式のもので、堰堤を造ることなしに直接河水を引くのである。近年は堰堤を築造して河水を堰止め、永久運河 (Perennial Canal) による灌漑事業が發達した。本地域の耕地面積中、その六〇%に當る一三〇〇萬エーカーは灌漑によるもので、冬蒔による小麦栽培の中心となつた。

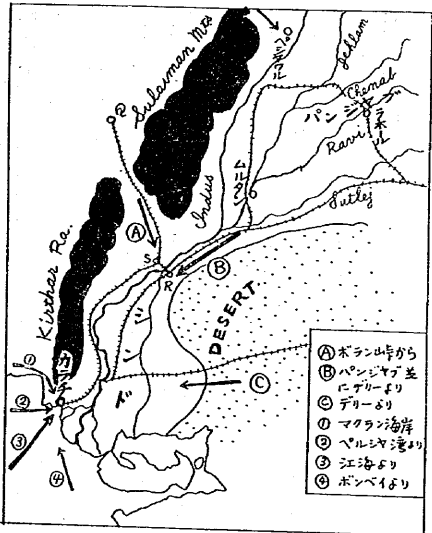
ラホール (Lahore 48) はパンジャブ地方の鐵道集中點をなし、小麦・棉花の取引が多い。市は州政府の

所在地で、古城・博物館・回教寺院等がある。アムリツアル(Amritsar 27)はラホール(Lahore 27)の東に位する商業都市で、敷物の製造が行はれる。北西境に近いベシヤワル(Peshawar 12)はアフガニスタンに對する要地である。

(7)上流ガンジス平原(Upper Ganges Plain)
デリー及びアラハバードを包括した地域で、本地域の耕地はその三六%が運河による灌漑地である。その主要作物は小麦・大麦で、パンジャブに類似した景觀をもつてゐる。農業を本位とする地方であるから、全人口の九〇%は村落に居住してゐる。

デリー(Delhi 45) 一九二二年以來印度の首府となり、こゝに新興の政治都が出現した。デリーはヒンドスタン平原の二大部分一

ーガンジスの沃野とパンジャブ平原との中央に位置してゐる。即ち軍略的に、政治的に、經濟的に、印度の核心に立つてゐる。三〇〇〇年以前から政治の中心となり、特に莫臥兒帝國の首府であつたことも、その位



第41圖 シンドとパンジャブ

置の優秀なことに由來する。同市はデユムナ河(Jumna R.)航行の終點にあつて、ガンジス河の水路と北西

の陸路とが結ばれた所で、現在は鐵路の大集合點である。

アグラ(Agra 23)はデユムナ河右岸の都市で海拔二〇四mにあり、肥沃な平原にある。アラハバード(Allahabad 18)はデユムナ河がガンジスに合流する地點にあり、ヒンズー教徒の聖地である。ベナレス(Benares 20)はヒンズー教の最も神聖な地で、遠近より集るヒンズー教徒は聖河に沐浴し、苦行者は終日端座して修業をなすのである。市には一五〇〇に餘る寺院があつて、鐘や讃歌の聲が響しく、喧騒な宗教都市である。

バトナ(Batna)附近は上流ガンジスとガンジスデルタとの中間地帯で、ヒマラヤより流下する河川は何れも天井川(天井川)の特色を有し、多量の土砂を山麓地に堆積してゐる。北西部に比して雨量が多く、小麦・大麦・粟等の産出は減少し、之に反して米の産出は



第55圖 首府デリーの位置

豊である。バトナはガンジス河の終航點にある港市で、バトナ米其の他農産物の集散が多い。
(8)ガンジス三角洲(Ganges Delta)
本地域はベンガル州の大部を占め、Ganges, Brahmaputra, Surma

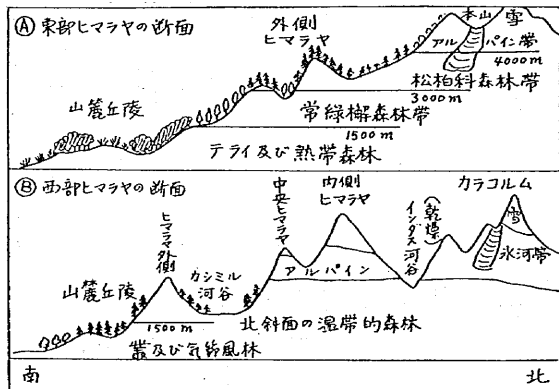
等の三角洲平原である。雨量は一五〇〇耗以上に達し、殊に北東部に行くに従つて増加する。サンダルパンス(Sandarbens)と呼ばれる低湿地森林からは、チーク・鐵木(Ironwood) 黒檀(Ebony)等を出し、農産物には米・黄麻・亞麻仁等がある。

カルカッタ(Calcutta 150) フーグリー河(R. Hooghly)に面した都市で、對岸のハウラ(Howrah)を合した人口は一五〇萬に達し、印度第一の大都會である。一九一二年迄は印度政廳の所在地であつたが、低濕で不健康地であつたから、首府をデリーに移した。今や上下水道の工事が完備し、健康的な近代都市に一變した。ガンジスの水運と東印度鐵道・ベンガル・ナグプル鐵道の交通系が集中し、印度平原を背域とした印度の商業都(Commercial Capital)である。フーグリー河はガンジス分流中の最西水路であるから、こゝに到着する西方よりの鐵道は大河を横斷する必要なく、極めてよい條件をもつてゐる。市には黄麻の工業が發達し、世界に於いて特色ある生産である。

ブラマプトラ河谷(Brahmaputra Valley)は一小地理區をなし、雨量は極めて多く、河谷低地には米、傾斜地には茶が栽培される。茶業の發達に従つてネパール人・ベンガル人等が次第に來住し、この低地の人口は急速に増加を來した。

(三)ヒマラヤ山地(Himalaya Region)

ヒマラヤの弧狀山地は印度の一大障壁をなし、地理的に一大境界帶を構成する。氣候的基礎より東西の二



第300圖 東部及び西部ヒマラヤの植物帶の斷面

部に之を分ち、ガンジス水源附近を中心として、東部ヒマラヤ・西部ヒマラヤを區分した。西ヒマラヤは東ヒマラヤに比して雨量が少く、植物帶の變化も差異が著しい。

東部ヒマラヤでは、主幹ヒマラヤの主要地帶と低ヒマラヤが結合して高山地をなし、その山麓にはSub-Himalayaの丘陵があつて、熱帶森林が繁茂してゐる。テライ(Terrai)と呼ぶ平原の叢林地は、粗硬な雜草に蔽はれた所であつたが、今やその大部は耕作された。印度と西藏間の重要な通路にあるダージリング(Darjeeling)は貿易市である。カルカッタとの間に東ベンガル鐵道を通じ、眺望は極めてよく、二〇〇mの高地にある避暑地として有名である。

【註】ダージリング カルカッタの避暑地として發達した高地都市で、こゝに行くと登山鐵道によれば、山腹の植物景・耕作景及び居住民等の變化を認め得る。東ベンガル鐵道(五二八軒)によつてシリギリ驛に達し、こゝから狹軌の鐵道によると、小山を鉢巻狀に迂回する所が二箇所ある。速度の遅い列車の屋根には、多數の猿が飛び乗つて、乗客から食物を乞ふ如きは、實に天下の樂園である。

西部ヒマラヤの主要部はカシミル地方で、インダス河谷を隔て、北方のムズタフ(Muztagh or Karakoram)の高峯群に對する。内側ヒマラヤの Zaskur Range は實に六五〇〇m以上の大障壁をなし、その一鞍部——ゾジラ峠(Zojila Pass)はスリナガルからインダス河谷のレー(Lel)に至る通路である。中央ヒマラヤは前者より稍、低く、外側ヒマラヤとの間にカシミル河谷がある。住民はカシミル人が主で、小麥・米・蕎麥等の農耕が行はれ、牧羊の業も見られる。スリナガル(Srinagar)はカシミルの首府で、舟上に居住する者が多く、刺繍・木彫等の工業が行はれてゐる。

デリーの北方にあるシムラ(Simla)は、海拔二〇〇〇——二四〇〇mの高地にある避暑地である。カルカッタに對するダージリングの關係に類似した所で、冬の人口は二萬餘であるが、夏季には印度の政治の中心となり、人口も數萬の多きに達する。

ネパール王國(Nepal) 面積は一四萬方呎、人口は五六〇萬で、國王があるがその實權は世襲宰相にある。國名はネパール河谷より生じたもので、沖積層の肥沃な盆地である。首府カトマンヅ(Katmandu)はこの盆地にあり、王宮・政廳の所在地である。歐洲大戰に際して英本國を援助した爲に、一九二二年その獨立が認められた。

ブータン王國(Bhutan) 面積は五萬方呎、人口は約三〇萬の小國で、主産物は米・蜜蠟等である。プナカ(Punaka)は政治の中心地で、西藏・アッサム間の取引が行はれ、毛布・皮革・鐵器等を集散する。

【教授】 ヒンドスタン平原は生産物に最も重要な所で、ガンジス平原の外港としてカルカッタ、インダス平原の外港としてカラチが發達した。更にデカン高原を背城としてボンベイの港市があり、コロマンデル海岸にマドラスがある。地域の教授に際しては、これ等の外港との關係を注意して見ることを忘れてはならない。

第六節 交通

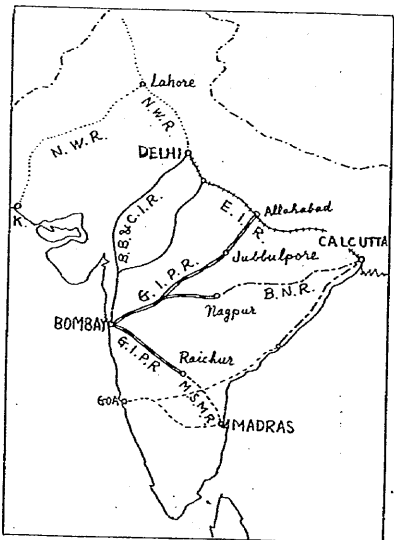
【水運】 ガンジス河は印度人の所謂「聖河」で、神シヴァの頭より流下するものと信じてゐる。母ガンジスの流程は二七〇〇呎、その上流地は山地の土砂を流下して網流をなし、舟楫の利を缺いてゐる。下流ではバトナ迄汽船を通じ、カルカッタの外港と舟運によつて結ばれる。ブラマプトラ及びイラワディの兩河も舟運の便がある。

デカン高原上の河川には、西流するナルバダ・タプチの兩河・並に東流する双子河^{ゴダヴァリ・キストナ}の兩河等があり、何れも急流であるから舟運は便でない。これ等の兩河は東西の流路をとり、ナルバダ・タプチの兩河は地溝中を西流してアラビア海に注ぐ。

海運は歐洲諸國や日本の船舶により、コロomboを初めとして、カルカッタ・ボンベイ・カラチ等の港市を中心としてゐる。殊にコロombo港は印度洋交通の中樞となり、歐亞連絡の要衝を占めてゐる。従つてボンベイ港が棉花取引港として知られ、カラチは小麥、カルカッタは黃麻・袋類・採油種子等の背城地の産物輸出

を特色とするに對して、コロンボ港は培養線航路を多數集中してゐることが注意される。

【鐵道】 總延長は七五〇〇杼、その中五一〇〇杼は國有鐵道である。一八五三年、時の大總督であつた Dalhousie によつて鐵道網計畫が發表せられ、一八五九年に於ける兵士の叛亂に當面してその敷設の急



第37圖 印度鐵道圖

であることを痛感し、軍事上からも更に産業の發達に刺戟せられて、その發達を見たのである。その主要線には次の如きものがある。
(1) 大印度半島鐵道 (Great Indian Peninsular Railway)——ボンベイを起點としてジュン布尔 (Jubbulpore) に至るものと、南東に向つてライチュール (Raichur) に至るものがある。總延長は五四〇〇杼で、國有狹軌線である。(G. I. P. R.)

(2) 東印度鐵道 (East Indian Railway)——カルカッタを起點としてガンジス流域を走るもので、アラハバド (Allahabad) デリー等に至るもの。總延長は四五〇〇杼で、前者に同じく狹軌である。(E. I. R.)

(3) ベンガル・ナグプル鐵道 (Bengal-Nagpur Railway)——總延長は四五〇〇杼で、カルカッタ——ナグプル間の鐵道である。この鐵道はメートル軌間 (Metre Gauge = 1m) の鐵道で、カルカッタ附近の炭坑地に通じてゐる。(B. N. R.)

(4) ボンベイ・バロダ及び中央印度鐵道 (Bombay-Baroda and Central Indian Railway)——ボンベイ・ハリ間を主要線となし、總延長は五九〇〇杼である。軌幅は印度標準軌間 (Indian Standard Gauge = 5 F. 6) で、首都とボンベイを結ぶ點に價值がある。(B. B. & C. I. R.)

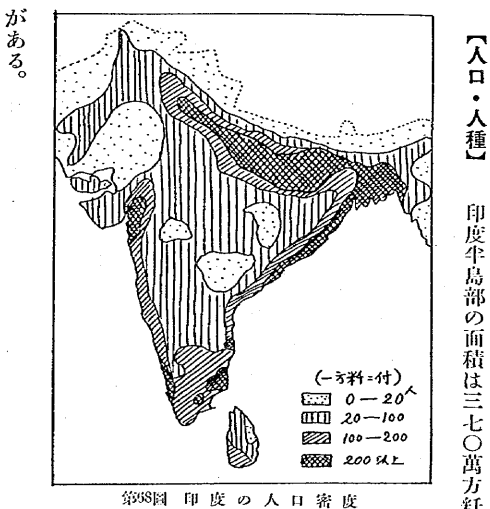
(5) 北西鐵道 (N. W. Railway)——カラチを起點として、ラホール其他のパンジヤブの諸都市に連絡する。總延長は約一萬杼で、國有の標準軌間である。(N. W. R.)

(6) マドラス及び南マラッタ鐵道 (Madras & Southern Mahratta Railway)——ライチュールより南下してマドラスに達し、更に西に進んでゴア (Goa) を結んでゐる。總延長は四八〇〇杼に及んでゐる。その軌幅は標準線で、暑熱の甚しい印度では、長距離旅行をなすには軌幅の大であることは有効である。

【空運】 定期航空路の主要なものには、カラチ——シンガポール線、ラホール——カラチ線、カラチ——ボンベイ——マドラス線、ロンドン——カラチ線、カラチ——デリー——カルカッタ線等がある。國內及び西歐間に航空網が發展した爲に、カラチは航空路の一大中心地となつてゐる。

第七節 住民

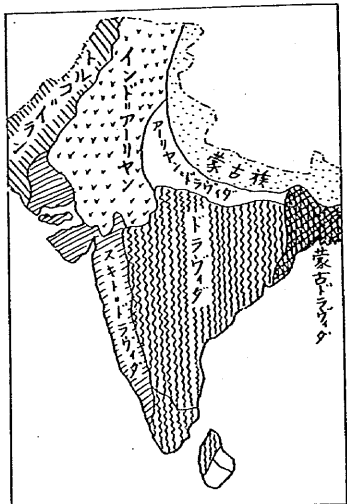
【人口・人種】



第38圖 印度の人口密度

印度半島部の面積は三七〇萬方呎で、その人口は三億三七〇萬であるから、人口密度は約九〇人である。人口分布圖に就いて見るに、その分布状態が雨量の分布圖に類似し、特に降雨量の大きいガンジス平原では二〇〇人以上の人口密度を有してゐる。人口の最も小である地域は北西部の沙漠地方で、印度高原の大部は五〇——七五人の密度である。印度の飢饉地域は實にこの高原を主とするもので、氣節風による雨量が不定である爲に生ずる飢饉は、人口の減少を來す最大の原因をなしてゐる。其の他恐るべき傳染病によることや、印度人の甚しい早婚等も人口の増減に對して至大の關係がある。

印度の原住民はドラヴィダ族（Dravidians）で、現在の分布は印度高原を主としてゐる。その特徴は身長



第39圖 印度の人種

が小で長頭であり、眼は黒く、鼻低く、顔は扁平である。非アーリアンで海岸島嶼種族に屬し、印度の自然環境に適應した體質を有してゐる。このドラヴィダ族の住地であつた印度の地に、北西からアーリアン・スキチャ・モガル等の種族が侵入し、北東からは蒙古族が侵入して人種的に甚だ複雑な半島となつた。セイロン島の熱帶森林中に住むヴェンダー族は、オーストラリアの土人に似た種族であるが、その言語はドラヴィダ族の語に類してゐる。

インド・アーリアン族（Indo-Aryans）は、プナラ地方からベルシアを経て印度に來たもので、パンジャブ・カシ米尔地方に住してゐる。身體は長大で皮膚は白く、長頭で鬚が多い。アーリアン・ドラヴィダ族（Aryo-Dravidians）は、アーリアン系とドラヴィダの混血で、ガンジス上流地に居住する。スキチャとドラヴィダの混血がスキット・ドラヴィダ族（Sytho-Dravidians）で、上流階級をなすものにはスキチャの血が多く、下流階級はドラヴィダの血が多い。その他、北東部には蒙古人との混血になる蒙古・ドラヴィダ（Mongolo-Dravidians）が居住してゐる。

【宗教】

印度は宗教の國で、住民の生活並に社會組織までも、この宗教によつて規定されるものと言ふことが出来る。その起原を印度にもつ佛教は、今や印度半島にはその信徒なく、セイロン島及びビルマに行はれてゐるのみで、ヒンズー教が全印度に行はれてゐる。ヒンズー教(Hinduism)は婆羅門教から出た邪教で、全人口の2/3はその信徒である。全智全能の神ブラーマを尊信し、その靈山に發源するガンジスは神聖な河流であるから、川に降つて沐浴し或は終日河岸に端座して禪定に入る者がある。

シクー教(Sikhism)はパンジャブ地方に行はれ、ヒンズー教の社會制度に反對して興つた改革派で、四〇〇萬の教徒がある。ジェイン教(Jain)はヒンズー教の一派であるが、佛教の如く涅槃を理想とし、特に商人として各地に散在してゐる。回教は七〇〇萬の信徒を有し、中世に於ける侵入者によつて齎されたもので、シンド・パンジャブ・ベンガル東部等に行はれ、ヒンズー教徒との對立・衝突が多く、全く相容れないものがある。

【階級制度】

印度の階級制度は一には宗教的のものであり、他方では人種的のものである。アーリアン族の侵入によつて、原住民たるドラヴィダ族は被征服者となり、最下位の階級に置かれてゐる。ホーエルン(Hoernle)博士によれば、この階級制度の起原は次の如くであらうといふ。即ちアーリアン系の種族が印度への大移動をなすに際して、到底婦女子には越え難い大山脈を通過した爲、平原に居住するに及んでドラヴィダの女を娶つた。その皮膚の色の異なることや、更にその間に生れた子は全く彼等よりも劣れることを

認め、こゝに階級的の意識を強め、かゝる種姓が起つたものと説明した。

階級制度は四階級に大別され、僧侶(Brahman)士族(Kshatriya)農商(Vaia)奴隸(Sudra)の種姓であるが、更に複雑な現在の階級が生じた。ヒンズー教徒は、宇宙創造の神ブラーマ(Brahma)が種姓を區別したものと信じ、ブラーマの口から出たものが僧侶で、腕から生れたものが王侯・武士の階級となり、股から出たものが農民・商人の階級で、足から生れたものが人に仕へる階級の奴隸である。異階級間の婚姻は行はれず、最下級の者には全く接近せず、ブラーマンは決して祈禱を行はない。かゝる制度は印度の發達を害し、國民の融和・統一をなすことが出来ない理由であつて、印度發達の痛といふべきである。

【教授】 印度は英本國に從屬し、少數の英人によつて支配されてゐる。その獨立運動の如きも、僅かにその一部の人によつてなされてゐるもので、その國內に於いては宗教上から、更に階級制度から、國民の融和を缺いてゐる。その上に人口は過剰であつて、人口と生産との不調和が甚しい爲に困窮してゐる。印度人の大問題は如何にして飢饉に處すべきであつて、之が對策をなすべきことが最大の急務である。

第八節

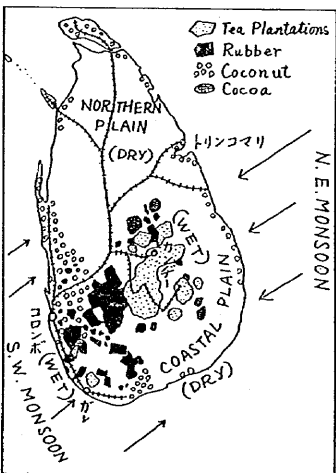
セイロン島(Ceylon)

(面積六・六萬方呎
人口五三〇萬)

【直轄植民地】(Crown Colony) セイロン島は印度半島の先端に位する英國の直轄植民地で、半島地とは海峡によつて分たれてゐるのみでなく、政治的にも區別されてゐる。印度洋に於ける交通上の中心にあり、

位置的に優秀な島であるから、英國はこの地に總督を派遣して統治してゐる。

本島の骨格は片麻岩と花崗岩とから成り、南西部の山地を占めてゐる。Adams Peak (2241m) Pedrotulla-galla (2338 m) 等の尖峰は、本島の最高地點に相當し、その周圍には海岸平野が続いてゐる。片麻岩の分解



第70圖 セイロン島の經濟地域

によつて生じた赭土はカブク(Kabuk)と稱せられ、海岸地を被覆してゐる。印度半島とセイロン島との間にあるアダム橋(Adams Bridge)は、この兩陸地を結合する如く連つてゐて、珊瑚礁の島列から成つてゐる。

【産業】セイロン島の土人は非常に活動的で勞働を好み、茶やゴムの栽培は全く土人の仕事である。住民の大部は土人で、シンハレス(Sinhalese)タミール(Tamil)等のドラヴィダ系が多く、其の他アラビア系のムール人(Moors)及び少數のヨーロッパ人がある。十九世紀の前半迄は珈琲・肉桂・丁香・肉苣蔻等を主要産物としたのであるが、英國の統治の下に一大植樹地となり、現在では米・ゴム・茶・カ、オ・肉桂等を主産物とする。珈琲栽培は葉病によつて衰退を來したもので、茶の栽培が之に代つて發達し、紅茶・綠茶の輸出が多い。茶は海拔一〇〇〇mの高地迄栽培せられ、ゴムの限界は七〇〇m迄で、これ等の栽培業は島の南西部を占めてゐる。

【コロンボ】(Colombo 28) セイロン島の三つの港——Colombo, Galle, Trincomalee——を比較して見ると、自然的の良港としてはトリンコマリを第一とする。然し交通上の位置としては他の二者に劣つてゐる。

コロンボは南岸に小突角を有するのみで、自然的には之に接したガレに及ばない。従つて以前はガレ(Galle)が海洋交通の中心であつたが、一八八四年築港が完備して、モンスーンの巨濤を防ぐことが出来た爲に、コロンボは印度洋交通の焦點たり得たのである。この地はもとポルトガル人の要塞のあつたところで、之を中心として歐人の市街が發達し、アジア屈指の港市となつた。輸出品の主なもの、紅茶・綠茶・ゴム・椰子製品・石炭等である。

カンデー(Kandy)は海拔四四七mにあつて、コロンボと鐵道を通じ、カンデー王國の首都であつた所である。河谷の地を占め、風光極めて明媚で避暑に適してゐる。「齒の寺」として有名なダラー・マリガワ(Dalala Maligawa)寺院がある。

【註】コロンボの發達 コロンボの地名は、ポルトガル人によつて改稱されたもので、コロンブスを記念して舊名カラムブ(Kalambo)をコロンボと呼んだ。本港の發達に關しては「港としての位置」がすべての他の條件に優れて居り、築港の完成によつて發達したもので、人工港として發達した好例である。

第八章 南西アジア (South-West Asia)

第一節 概 説

【地形及び構造】

パミル結點(Pamir Knot)から西方に走る山脈群は、花綫狀に彎曲した褶曲山地をなし、アルメニア結點(Armenian Knot)を中心として、イラン高原と小アジア高原を分つてゐる。イラン高原の縁邊部には、ヒンズーシユ(Hindu Kush)エルブールス(Elburz)及びスリマン(Sulaiman)等の山脈があり、アルガンの所謂自由山岐(Virgations libres)をなすもので、高原地は一〇〇〇mの平均高度を有してゐる。これ等の山脈はその構造が複雑で、特に縁邊部に於て起伏が著しく、屢々轉倒褶曲をなしてゐる。

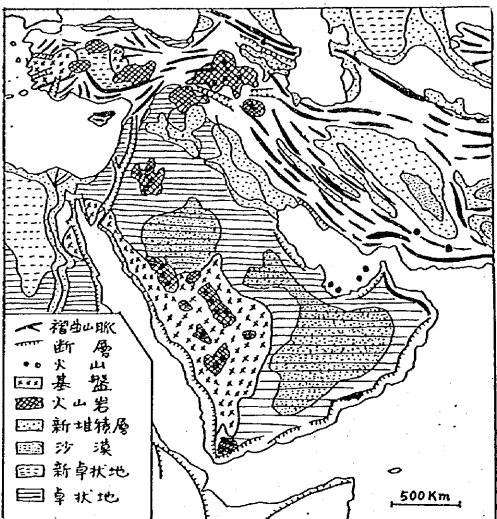
アフガニスタンを探検したE. Trinkler氏は、この地方の地質地形の發達を次の如く説明した。即ち第三紀に於ける造山運動によつて、印度方面から北西に向つた大褶曲が行はれ、新第三紀には海は全く退いて陸成層の形成を見た。印度のシワリク層に相當する鮮新紀の灰色砂岩・礫岩及び洪積紀の礫岩が之である。シワリク層は一般にアジアの大山脈南側にあるもので、アフガニスタンでは三〇〇〇mの高所にあり、四八〇〇mの厚層をなすことから見ると、その當時は地面向斜狀をなしてゐて、ヒマラヤ・西藏等の山地から多量の

礫が運ばれたのである。従つてこの地域の隆起はヒマラヤ東部よりも遅く、鮮新紀の終であらうといふ。

イラン高原は前述の如き諸山脈と幾多の支脈によつて圍繞せられ、雨量が少く且つ高温である爲に内陸流域(Inland-drainage System)となり、ヘルマン湖(Helmand L.)の如き内陸湖が存在する。テヘランの南東にはカヴィル沙漠(Kavir or Salt Desert)の大乾燥地が横はり、更に南東部にはルト沙漠(Lut Desert)が続いてゐる。

アルメニア高地は、イラン高原と小アジア高原を結合する山地で、この彎曲部に當つてアララット山(Ararat 5200m)アラユス山(Alagöz 4096m)等の火山が噴出してゐる。小アジア半島地は黒海と地中海の中間に突出し、古い胴體部(Rumpf-massen)の山地から成つてゐる。

而して之を縁取るものはヒマラヤ系の褶曲山地である。エーゲ海斜面の海岸線は特に出入に富み、數多の地溝がこゝに喰ひ込んでゐる。かゝる陷落地帯は



第71圖 西部アジアの地盤構造

何れも轉入部を形成し、人文上の門戸をなしてゐる。

アラビア半島は前述の褶曲山脈とは全く隔離せられ、屢々アラビア島と呼ばれてゐる。アフリカ臺地の一部が切斷されたもので、太古代の結晶質岩石を基盤としてゐる。一般に南西から北東に向つて緩傾斜を示し、南西端は一二〇〇—二五〇〇mの高度を有する山脈となる。全地域の1/3は沙漠地で、残りの2/3も半沙漠性或は草地をなす所が多い。

この二つの異つた地域——ヒマラヤ褶曲系山脈とアラビア臺地——の中間に生じた堆積平原がメソポタミア (Mesopotamia) で、チグリス河・エウフラテス河の双子河が之を貫流する。この低地は文化の搖籃地として知られ、アッシリア (Assyria) は北方のニネヴェに、バビロニア (Babylonia) は南方のバビロンに都した。この低地は歐亞連絡の一大通路となり、古來極めて重要な平原となつたのである。

【氣候誌】

南西アジアの氣候は、ケッペン氏のステップ氣候又は沙漠氣候に屬するもので、年雨量は二〇〇耗以下が普通である。一般的に言ふと大陸性の氣候で寒暑は共に甚しく、惡疫が流行して健康地ではない。四周は何れも山脈に圍まれてゐるから、降雨は少く沙漠性となり、時には裂風が鹽分を含む砂を吹き飛ばして沙漠風景を示すのである。一年を通じて北寄りの乾燥した風が多く地中海岸では冬西寄りの風が吹く。

イラン地方の氣候は、溫帶に位する内陸盆地の氣候で、四周に山脈を圍繞し、爲に卓越した景観は沙漠性・



第72圖 西アジアの氣候區

半沙漠・草地等の乾燥地域性のものである。イランの高原性氣候は極めて特色あるもので、之をイラン型 (Iran Type) の氣候と呼んでゐる。一月は甚だ寒く、夜間は結氷を來すのであるが、夏季には空氣が乾燥して氣溫高く、雨量は僅少である。テヘランの一月平均氣溫は〇・九度で、七月には二九・四度を示し、最高は四三度の高騰を來すのである。ペルシア地方に卓越する北西風は Shamal の名があり、夏は極めて猛烈である。アフガニスタンでは砂塵を交へた暴風があつて、土人は之を Shaitans (惡魔) と呼んでゐる。

小アジアの氣候は次の三型式に分つことが出来る。その一は北部の黒海沿岸區で、冬は寒氣が強く、夏は暖濕である。冬の寒氣はロシア平原から吹く風の影響によるもので、この氣候を地方名によつて Pontus 型 (Pontus

Type) 氣候と云ふ。その二は地中海に面した南西海岸區で、地中海型 (Mediterranean Type) の氣候である。

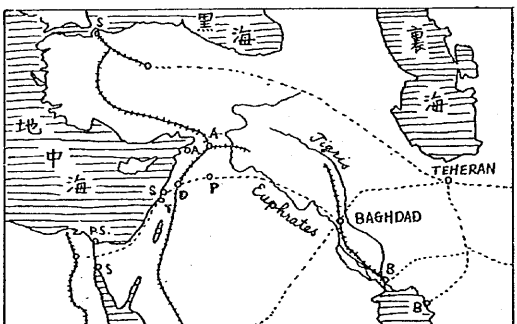
イズミル (Izmir, Smyrna) の一月氣溫は七度、七月は二六度を示し、雨量は冬に多く夏は少い。その三は内陸の高原地帯で、氣溫の季節的變化に富み、雨量は極めて少い。

メソポタミアの平原は高地に圍まれてゐる爲に雨量少く、且つ夏の暑さが甚しいから、住民は地下室に暑さを避ける。バグダードの八月平均は三四・八度を示し、一月は九・四度である。アラビア半島の氣候はイランとは異つてサハラ型(Sahara Type)を示し、サハラに續く乾燥地帯の一部をなし、紅海沿岸の南部とペルシヤ灣岸の一部のみは高温多湿である。

【東西の交通】

古い時代の通商について、世界商業上劃期的なものは、東方の強國アッシリア(Assyria)及びバビロニア(Babylonia)と西方の文明國エジプト間に行はれたものである。この時代に於いて東西を連絡する大通路となつたものは、メソポタミアのユーフラテス河谷を溯つて西行し、シリア及びバレスタインの海岸を南下してエジプトに達したのである。然し後にはユーフラテスの河谷からバルミラ(Palmyra, Tadmor)ダマスカス(Damascus)等を過ぎ、直線的に沙漠地を横斷した。この通路の要地に當つてシドン(Sidon, Saida)チレ(Tyre)等の都市が發達し、フェニキアの中心をなしたのである。フェニキアの土地は狭小で不毛の地であつたから農耕に適せず、その位置が當時の交通の中心にあつたから、商業國として發達した。後方のレバノン山(Libanon)の森林から良材を得て造船に供し、地中海岸の交通に従つた。

又、印度からヨーロッパに達する通路は、印度洋・ペルシヤ灣を経てユーフラテス河を溯り、古代商業市(Ancient Trading City)アンチオク(Antioch)に出るもので、之を貫流して地中海に注ぐオロンテス河



第73圖 西アジアの交通路

(Orontes)は極めて重要なものであつた。然し現在では近代式の港であるアレクサンドレッタ(Alexandria)が繁榮し、陸地交通の中心はアレppo(Aleppo)である。

この古代に於ける東西の交通路は、現在如何に改變されてゐるか。その一はスエズ運河の通路であつて、歐亞の交通上實に重大なる使命を果してゐる。之に反して陸地に於ける交通は昔日の如き状態ではないが、隊商路が沙漠性のこの地方に於ては今猶重要性がある。

戦前獨逸が計畫したバグダード鐵道は、實に世界戦争の一原因となつたものであるが、之は英國と印度を結ぶ交通を脅かすものであるばかりでなく、印度の支配に對して危険であつた。この地の重要性は歐亞並にアフリカの中間的位置にあることで、決して將來とも輕視し得ないのである。

【政治的區分】

トルコは世界大戦に際してドイツと同盟を結び、聯合國に對戦した爲に、戦争後はその領土の大半を失つた。アラビア半島・パレスチナ・シリア・メソポタミア等は、すべて舊トルコの領域であつた。アラビア半島は日本の版圖に四倍す

る面積を有し、その全體に就いて確定的であつたとは稱し得ないが、アデンの英領を除けばトルコの権力下にあつた。世界戦争勃發後、イギリスの援助によつてヘジャス國が獨立し、更にケラク國が建設された。英軍の占領したシリア・パレスタインは、佛・英二國の委任統治となり、半月形沃地の稱あるメソポタミアの地は英國の委任統治となつたが、一九三二年イラク王國の獨立を見た。

國名	面積(萬方呎)	人口(萬)	首都	政體
アフガニスタン (Afghanistan)	六五	一二〇〇	Kabul	立憲王國
バルチスタン (Baluchistan)	三五	八七	—	英領
イラン (Iran, Persia)	一六三	九二〇	Tehran	立憲王國
イラク (Iraq)	三七	三三〇	Baghdad	立憲王國
トルコ (Turkey)	七四	一六〇	Izmir	立憲共和國
シリア・レバノン (Syria-Lebanon)	二〇	三二〇	Damascus	委任統治(佛)
パレスタイン (Palestine)	二六	一一七	Jerusalem	委任統治(英)
ケルカ (Kerk)	四・二	三〇	Amman	同
アラビア半島 (Arabia)	二六〇	七〇〇	—	英保護地

【教授】 南西アジアの重要性はその位置的關係にあるもので、歐亞大陸とアフリカを連絡し、印度洋と地中海を結合することにある。露土戦争・世界戦争の起因は實にこの重要性を明示するもので、英國はこの要地の支配によつて印度への通路を完全に掌握してゐる。

第二節 イラン地方(Iran)

(1) アフガニスタン王國 (Afghanistan) (面積六五萬方呎 人口一二〇〇萬)

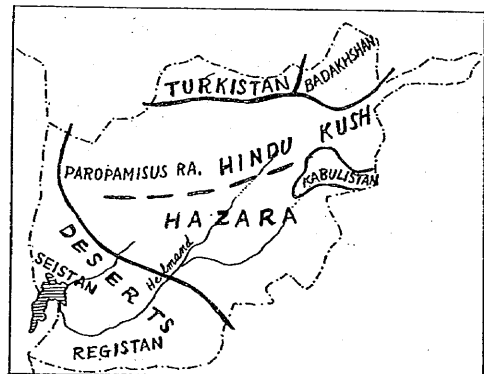
【緩衝國】 (Buffer State) アフガニスタンの歴史は、典型的な緩衝國の歴史であると言つてよい。紀元前五世紀にはペルシアに征服されたことがあり、後アレクサンダー大王によつて席巻されたのである。陸地から印度に侵入した軍隊は、すべてアフガニスタンを通過したもので、爾來二千年の間、支那・匈奴・トルコ・蒙古・ペルシア等の一部となつてゐた。

一八七九年英人の宣教師が土人に暗殺された事に端を發して、英軍は大舉してカブールを占領した。之がアングロ・アフガン戦争で、其の後アブダーアーマン (Abdur Ahman) が王位に即き、現在のアフガニスタンの基を開いた。この間ロシアは北方より侵略の歩を進め、英露の進出が甚しかつたから、アフガニスタンは巧みに之を利用して國力の伸展に努めた。一九二一年イギリスとの條約によつて獨立が認められ、一九三二年の新憲法によつて立憲王國となつた。

【地誌】 ヒンズークシ (Hindu Kush) 山地は、ヒマラヤの續きとして重要な氣候界を作り、北方からの寒波を防止する障壁となり、南部のスリマン山脈及びアフガニスタンの國境山脈によつて、氣節風の侵入を阻止してゐる。印度とイランの中間地帯であるばかりでなく、印度とツラン平原の境界山地をなしてゐる。

アフガニスタンの研究者フーロン (M. Raymond Furon) によれば、ヒンズーキンを中心として、北部を Turkistan, Badakhsian の二區に、南部を Kabulistan, Hazaru, Deserts の三區に分つてゐる。

海拔高度による耕作帯の變化は極めて明瞭である。ヒンズーキンによつて寒波を保護されてゐる一〇〇〇m以下の地帯は、亞熱帶性の甘蔗・オレンジ・棗椰子の産に富み、一〇〇〇—一五〇〇mの地帯は棉花を主とし、米・メロン等を産出する。一五〇〇—二〇〇〇mの地帯では最も變化に富み、特に葡萄の産が多い。二〇〇〇—二五〇〇mでは冬作物、二五〇〇—三〇〇〇mは夏作物、三〇〇〇—三四〇〇mでは燕麥の耕作が行はれる。



第74圖 アフガニスタンの地理區

【カブール】(Kabul) カプリスタンはカブール附近の沖積平野を包括した低地で、インダス河に注ぐカブール河の流域である。一三〇〇—二〇〇〇mの溪谷がその大部を占め、四季の區別が明らかで、温和な氣候を特色としてゐる。

首府カブールは一八〇〇mの高地に位し、カイバー峠によつて印度に出る通路を有し、軍事上重要な位置に

ある。敷物・皮革等の取引が行はれ、葡萄・メロン等の果實の産に名高い。

(2) ベルチスタン (Baluchistan) (面積三五萬方呎、人口八七萬)

四周は全く山地に圍まれた乾燥高原で、海拔は三〇〇—一〇〇〇mの高度を示し荒蕪たる土地である。政治的には印度帝國の一部であるが、印度に對する北西の障壁地をなしてゐる。その北部は直轄地で一四萬方呎の面積を有し、約四五萬の人口がある。アングロアフガン戦争の結果領有した所で、ボラン峠(Bolan Pass)からケタ(Quetta)を経てアフガニスタンの國境を走る鐵道は、全く軍事的のものである。住民はアフガン人と同族であるバタン族(Batans)が住む。

南の大部は保護地で、カラット(Karat)ラス・ベラ(Las-Bela)の二酋長國に分たれ、バルチ族(Baluchis)が居住する。住民の大部は遊牧生活をなし、羊・山羊・牛・馬等を放牧する。宗教は回教が行はれ、男子の數が多い結果、一般に一妻多夫である。

(3) イラン王國 (Iran) (面積一六三萬方呎、人口九二〇萬)

【政治】 ペルシアはもとシャー(Shah)の統治する絶對專制の王國であつたが、一九〇六年以來國民の參政權が多少は認められたのである。然し一般民衆の利益は顧みられず、特權階級は全く自己の利腹を肥すのみで、内政は益々亂れたのである。その上英露二國からの財政的援助を得て以來、北部には露國、南部には英國の勢力が強大となつて、二國の勢力範圍が決定されたのである。現國王リザ・カハーン(Kia Khan Pahlavi)

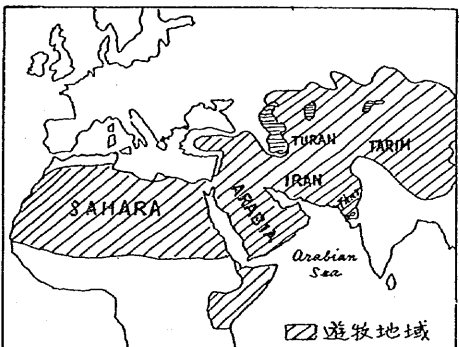
はシャールを退位せしめて、一九二六年王位に即き、着々善政に邁進して立憲王國の實を示し、一九三五年國

號をイランと改稱した。

【遊牧地域】(Nomadic Herding Region) 遊牧生活を營んで

ゐる地域は、中央アジアからイラン・アラビアを経てサハラに及んでゐる。遊牧民は衣食住のすべてを家畜群から得るのであるから、之等の動物を飼育するに足る牧草地が必要である。その分布が如何に沙漠地帯に一致してゐるかは、挿圖によつて明瞭であらう。イラン國の遊牧民は約三〇〇萬あつて全人口の1/3を占め、その中半遊牧民の者も多い。半遊牧民は多く山間に居住し、夏季に於てのみ牧草地に出て遊牧を行ふのである。

イランを地理的に區分すると、(1)カスピ灣岸平野、(2)イラン高原地域、(3)ペルシア灣岸平野の三區となる。カスピ灣岸地方は暖帶性で雨量も多く、農耕がよく發達してゐるが、高原の大部は前



第75圖 舊大陸の遊牧地域

述の如く遊牧地域をなし、農耕は灌漑によらねばならない。灌漑方法は地下に隧道を掘つて地下水を導く方法で、之をカナト(Kanat)と稱してゐる。この灌漑法によつて、麥類・玉蜀黍・米・煙草・棉花等の耕作が

行はれる。耕作法は主に三畑法(Three-fields System)が用ひられ、土地を三區分して一つの畑を休閑地となし、年毎に輪作をなすのである。

ペルシア灣岸はカスピ海岸と共に石油産出に知られ、この國第一の豐源である。ペルシア灣岸の石油は、中新世のファーズ層(Fars Series)から産出し、アングロ・ペルシア石油會社の經營に屬してゐる。シャスター(Shuster)の南東に位するマイダナフチュン(Maidan-i-Naphthun)油田がその中心で、バイブによつて二五〇料を隔てたシャラルアラブ河口のアバダン島(Abadan I.)の製油所に送られる。

【都市】首都テヘラン(Tehran 35)は隊商路の中心で、エルブルス山脈南麓の泉地に位し、市街は城壁に圍まれてゐる。この市の錯雜した道路は有名な迷路で、侵入者に對して困難をなさしめる爲であつた。然し近年では非然たる大道が縱横に通じ、煉瓦造の立派な市街と化した。市の中央に王宮があり、之に接したバザル(市場)は取引の中心で、特に絨氈は有名である。

北西境に近いタブリーズ(Tabriz 22)は一四〇七mの高地にあり、隊商貿易の要地である。絨氈・敷物・乾果等の取引が多い。テヘランから南方への隊商路・自道車路はイスファハン(Isfahan)シラズ(Shiraz)等の泉地都市(Oasis City)を経て、ペルシア灣岸の港市ブシル(Bushire)に達する。

第二節 イラク王國 (Iraq) (面積三七萬方浬 人口三三〇萬)

イラク國の面積は三七萬方軒あつて、人口は三三〇萬である。一九二二年英國の援助によつて王國となつたが、英國の委任統治下に置かれ、一九三二年漸く獨立を全うし得た。現在國際聯盟に加入してゐるのであるが、外交・軍事等の實權は今猶英國にある。イラクとは懸崖の意であつて、メソポタミア平原を圍む四周の急崖をアラビア人がかく稱したことに由來する。

【メソポタミア】 チグリス(Tigris)ユーフラテス(Euphrates)の双子河は、『半月形沃地』の稱ある大平原を貫流してペルシア灣に注ぐ。この兩河間の地がペルシア語によつてメソポタミア(Mesopotamia)と稱せられ、古代に於ける文化の搖籃地として知られてゐる。紀元前三〇〇〇年頃スメル人(Sumerians)は既にこの地方に幾多の都市を營み、頗る開化の域に達したが、北方から侵入したセム族が之を征服してその文化を繼承し、南方のバビロンに都した。その後に興つた大帝國アッシリア(Assyria)は、平野の北方盆地にあるニネヴェ(Nineveh)に都を奠め、バビロニアの地を攻略したのみでなく、その版圖はシリア・エジプトの地に及んだのである。次いで中世には回教國であるサラセン帝國が起つてバグダッドに都し、その繁榮を誇つたのであつた。

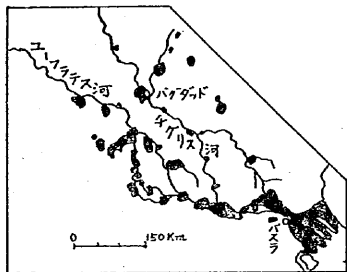
かく世界文化の發祥地として知られたメソポタミアの地は、サラセン帝國の滅亡後全く荒廢に歸してしまつたのである。この地方は昔時灌溉・治水の事業がよく行はれて農業が發達し、棉花の耕作も行はれたことが分つてゐる。之がサラセン國の滅亡後、相次いで侵入したトルコ人・蒙古人等の外敵によつて、文化施設

は全く破壊されて住民は他の地方に移動した。近年迄トルコの治下にあつても全く荒廢に歸した儘で、沼澤地・沙漠地となつてゐた。近年漸く灌溉事業が各所に行はれて、昔時の狀態を再現せんとしてゐる。

【地誌】

農業はこの平原の主産業で灌溉による耕作が發達し、大麥・小麥・棉花・豆類・棗椰子等の産が多い。棗椰子は二〇—三〇mに達する喬木で、その果實は住民の常食として價值がある。石油は北東部のモスル地方に多く、この國の一富源であるが、その大部は英人の經營である。

古代の交通路として重要であつた沙漠横斷路は、經濟的に運搬費が高いことが缺點で、その價值は大でない。その上チグリス・ユーフラテスの兩河は共に水深が小で船舶の交通が不便であるから、鐵道の敷設は極めて重要である。貿易關係が南東のペルシア灣岸との間に盛であるのも之に由來するもので、鐵道によつてペルシア灣に出て、印度との貿易が比較的發達を來してゐる。



第76圖 メソポタミアの耕作地

バグダッド(Baghdad 80)はイラク國の首都で、古來陸商貿易の中心地として知られてゐる。皮革・羊毛・棗椰子・絨氈等の取引が多く、シャテルアラブ河口の外港バスラ(Basra 9)と鐵道によつて結ばれる。サラセン國の首都であつた地で、アラビアンナイトに記された繁榮の都市として、その富祜を誇つた所である。

獨逸が三B政策の遂行上敷設を急いだバグダッド鐵道(Baghdad Railway)は、トルコのハイダルバシアからモスル・バグダッドを経て、バスラに達するものである。

モスル(Mosul)はチグリス河の終航點に位し、石油產出の中心地である。モスルとは『中央の門戸』(Central Gates)を意味し、ペルシア灣とカスピ海並に地中海との交通上の中心に當つてゐる。かゝる要地であるから、イラクとトルコ間に國境に關する問題が起つたのである。モスリンの名はモスルから出たものと云はれ、古來毛織工業に名高い。

【註】三B政策 世界大戰前、ドイツは未だ何れの國の植民地でもないトルコを攻略せんとする野望を有し、奧漢國と結んでバルカンから南東へ進出せんとした。その第一歩としてバグダッド鐵道を敷設し、Berlin—Baghdad—Baghdadを結合して、トルコを支配しようとした。之が所謂三B政策で、之が達成によつてバルカン及びトルコを支配下に置き、印度の背面を脅すことになる。この政策はバルカンに於いてロシアと完全に相對立し、英國の三B政策と衝突して、世界大戰の一因をなしたのである。

第三節 トルコ(Turkey) (面積七十四萬方浬 人口一三六〇萬)

【小亞細亞】(Asia Minor) 地中海と黒海との間に突出した半島が小亞細亞(Asia Minor)で、地理的にはアジアの縮圖たる觀がある。即ち内部高原は沙漠性のアナトリア(Anatolia)で、東部のアルメニア高地に對してゐる。アナトリア高原の南縁にはタウルス山脈(Taurus)が横はり、北縁には西にビテニツシエン山脈(Bitlynschen)東にボンテシエン山脈(Pontischen)が存在し、これ等の縁山脈の周圍には豐沃な海

岸低地がある。従つて小アジアとは小さくしたアジアの意味があり、甚だ興味あるものである。

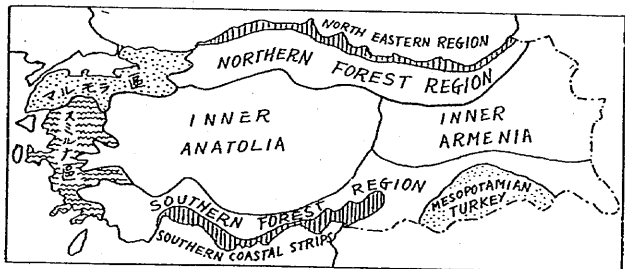
アルメニア高原の北部は急に傾斜してコーカシア低地となり、南部に於てもメソポタミア低地に下つてゐる。この中間部がアルメニア結點(Armenian Knot)に相當し、その大部は火山噴出物に被はれて鎔岩臺地狀をなし、その上にアララット山(Ararat 5500m)が聳えてゐる。アナトリア高原は古い胴體部山地で、四周の山脈の影響を受けて雨が少く、且つ寒氣が厳しいから、樹木の乏しい草原をなしてゐる。小亞細亞半島が西に没する所がエーゲ海で、海岸は水平的肢節に富み、バルカンに對する門戸である。スミルナ灣の南に於て海に注ぐメアンデル河(Menderes)はデネーヤ(Dinir)附近に發源して高原を流れ、見事な曲流をなしてゐる。その特色から曲流—Meanderの語が生じた。

【註】トルコの地名 トルコ及びバルカン地方には、トルコ語による地名が多い。トルコ語では山を Dagh or Dağh と稱してゐるから、この語のつゞいてゐるのは山に關係した名稱であることが分る。その主なるものゝ意味は次の如くである。

Dagh or Dağh = Mountain, Çai = River, Göl = Lake, Su = Water, Tepé = Hill, Göi = Village, Kollé = Fortress.

【地理區】 小アジアは地形上からは高原地と海岸地を區分するが、海岸地は更にボンッス型の氣候を呈する黒海岸地方と、地中海型に屬する二區——エーゲ海岸區・南部海岸區とを區分する。

(1)黒海岸地方 この地方は溫帶性の海洋氣候で冬の寒氣は特に強く、シノベ以東は多雨地帶である。その背後に連る山地帶には、松・樅・杉・ブナ等の森林がよく繁茂し、海岸地方と高原地の中間地帶をなして



第77圖 トルコの地理區

ゐる。キヂルイルマク (Kizil Irmak) 等の河谷低地には良質の煙草、其の他小麦・玉蜀黍等の産がある。サムソン (Samson 3) は黒海岸最大の重要港で、煙草・乾果・獸皮等の輸出がある。

(2) エーゲ海岸區

マルモラ海岸地方は温暖乾燥の氣候で、地中海式氣候を代表するオリヅの森林が多い。海岸低地には煙草・小麦等の耕作が行はれ、ブルサ (Bursa) 附近では養蠶の業が盛である。ボスボロス海峡 (Bosporus) ダルダネル海峡 (Dardanelles) は歐・亞大陸の交通上重要な所で、黒海に對してはその門戸に當つてゐる。スクタリ (Skutari 12) はボスボロス海峡に面した渡頭聚落で、イスタンブールに對してゐる。

エーゲ海に面した海岸は、往時ギリシア人の植民した所で、歐亞の文化史上重要な地帯である。氣候は標式的な地中海型で、煙草・葡萄・甜菜・茶・罌粟等の栽培が行はれる。イズミル (スミルナ) はその中心をなし、背後の森林からは鞣皮の原料に供するヴァロニア (Valonia) の特産がある。イズミル (Izmir or Smyrna 15) は七〇軒に達する灣入部にあつてトルコ第一の港市をなし、ギリシア時代からの商業市として、又宗教都市と

して名高い。輸出品の主なもの、乾葡萄・ヴァロニア・敷物・羊毛・煙草等である。

(3) 南部海岸區

炎熱性を帯びた地中海型の氣候區で、棉花・玉蜀黍・稷等の耕作が行はれる。この海岸では、オリヅは七〇m以上の高地に後退してゐる。アダリア (Adalia) はこの海岸の中心で、製粉等の工業が行はれ、背後の森林地からは西洋杉・栗・胡桃等の木材を産出する。

(4) 高原區

この高原地はソヴィエトのステップの景觀を有する區域で、牧畜地をなしてゐる。アンゴラ山羊 (Angora G.) はアンゴラ地方に牧畜されるもので、その毛は絹の如き光澤を有し、衣服地・子供の外套・冬帽子等に使用されてゐる。

アンゴラ (Angora or Ankara 9) 一九二三年以來トルコの首都となり、高原上更に一六〇mの小丘にある古い城市 (海拔八七〇m) である。アンゴラ山羊或は兎等の名によつて知られ、古來牧畜業の中心であつたが、ケマルパシヤ (Kemal Pashe) 派によつてアンゴラ政府の所在地となり、新興トルコ共和國の首都となつた。

アルメニア高原は土地が僻陋で、トルコのシムリア (Siberia of Turkey) とはされてゐる。山地には回教徒のクルド人 (Kurds) が居て遊牧生活營み、半穴居の生活をしてゐる。アルメニアの中心地はエルゼムム (Erzerum 3) で、海拔一九〇〇mの高地にある。陸商貿易の要地として知られたが、近時は稍衰微を來した。

【註】トルコ共和國 トルコはもとオットマン帝國(Ottoman Empire)と稱して、サルタン(Sultan)の專制王國であつた。トルコは世界戦争に際してドイツと同盟を結び、聯合諸國に對戦した爲、戦後に於ては國土分割の危機に直面した。陸軍少將であつたケマルパシヤはその分割に反對して國民軍を起し、その智勇によつて祖國の滅亡を救済した。一九二二年帝制派は倒されて、首府はコンスタンチノーブルからアンゴラに移され、翌年共和國が布かれ、マケルパシヤは大統領に就任した。

第四節 アラビア半島

(1) シリア (Syria 佛委) (面積二〇三萬方呎 人口三三〇萬)

一九二三年以來佛國の委任統治地となり、行政上四州に分たれてゐるが、之を總括してシリア・レバノン(Syria-Lebanon)と稱してゐる。地形上は南北に走る四地帯——海岸平野・レバノン山脈・中央低地・東部高地——に分たれる。

地中海沿岸は古代の商業國フェニキア(Phoenicia)の出現した所で、シドン(Sidon)・チレ(Tyre)の商業市は有名であつた。この海岸にあるベイルト(Beirut 14)は近代式の港で、その地名がフェニキア語の「泉の王」を意味する如く、湧泉に富んだ町である。フェニキアが東西交通の要路に位して發達した如く、その地理的位置が優れてゐることは現在もこの港に作用して、モンボタミア・ペルシア方面からの物資が輸送せられ、その通過貿易が多い。

中央低地は地溝帶(Rift Valley)に屬し、南境にあるガリレー湖(Sea of Galilee)は死海に續く低地にある。

つて海面下二〇八mにある。主産業は農業・牧畜で、小麦・大麥・棉花・玉蜀黍・オリヅ・煙草等の産がある。

ダマスカス(Damascus 15)はシリアの首都で、世界最古の都會である。アンチレバノン山地より發するバラダ河(Barda)の泉を受けて地味が極めて肥沃で、古來陸商貿易の中心であつた。舊市街には回教寺院(Mosques)尖塔(Minarets)が多く、商業市であると共に宗教都市である。市の南方に延長した部分は新市街として發達したもので、メッカに向ふ巡禮街をなしてゐる。北方にあるアレppo 18)もダマスカスの如く泉地に起つた商業市で、ハグダッド鐵道と巡禮鐵道(Pilgrime Railway)の分岐點に當つてゐる。

(2) パレスタイン (Palestine) (面積二・六萬方呎 人口一一七萬)

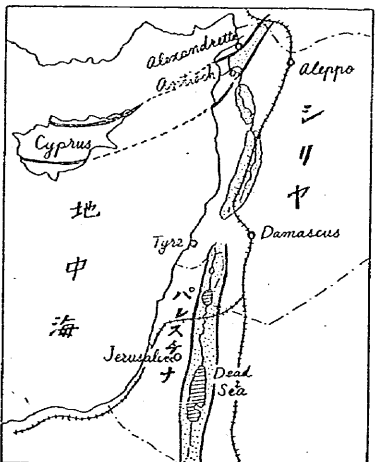
猶太民族の國を再建せんとするザイオニズム(Zionism)運動は、前世紀の末葉からこの地に起つたもので、大戦後は特に顯著な活動を續けてゐる。一九二三年以來英國の委任統治となるに及んで、猶太人の母國建設運動は次第に具體化し、海外から多數の猶太人が入國したのである。然しパレスタインの住民はアラブ人が最も多く、全人口の七〇%を占めてゐるに反し、猶太人の数は僅かに二〇餘萬に過ぎない。アラブ人はイラク同様彼等の獨立國を希望してゐるから、英國が猶太人援助をなすことに對して反對運動を起し、これに兩民族は反目を來すに至つた。

地形上はシリアの如く四つの並行地帯——(a)海岸平野、(b)カルスト地形を呈する西部高地、(c)死海が横つ

てゐる地溝帯、(d)アラビア高原——から成つてゐる。中央低地には死海(Dead Sea)が横はり、その水面は海面下三九四m、最深部は海面下實に八〇〇mである。氣候乾燥であるから水分の蒸發が盛で、湖水の鹽分は二〇——二五%で生物が存しない爲に死海の名を得た。レバノン山或はヨルダン河その何れもが聖書に示

された樂土であつたが、山の木は伐られて谷の水は枯れ、灌漑の工事は棄てられてこの地の農耕は衰へた。然しヤッハ(Jaffa)以北の海岸平野には葡萄・オリヴ・柑橘等の産が多い。

ジェルサレム(Jerusalem)はパレスティンの首都で、石灰岩の高原上七六三mの地にあるキリスト教の聖地である。キリストが昇天した場所に建てられた聖骸の教會(Church of Holy Sepulchre)は聖都第一の聖處で、巡禮者が群つて祈禱を捧げてゐる。メテレヘム(Bethlehem)には誕生の教會(Church of Nativity)があり、ジェルサレムとの間には坦々たる大道が通じてゐる。



第78圖 地中海の東岸地方

【註】ケラク王国(Karak) ケラク國はトランスヨルダニア(Transjordania)とも稱し、パレスティンから見るとヨルダン河の彼方にあ

ることに由來する。その面積は四・二萬方軒で人口は約三〇萬、アラブ人の王國で英國の委任統治下にある。國の大部は沙漠或は荒原で首府をアムマン(Amman)とす。

(3) アラビア (Arabia)

【アラビア島】 アラビア半島は東西南の三面が海洋に面し、シリア及びパレスティンとはシリア沙漠(Syrian Desert)によつて限られてゐる。大體北緯三〇度以南のアラブ人の半島地は、地理的に全く隔絶された爲に屢々『アラブの島』(Isle of the Arabs)と呼ばれてゐる。

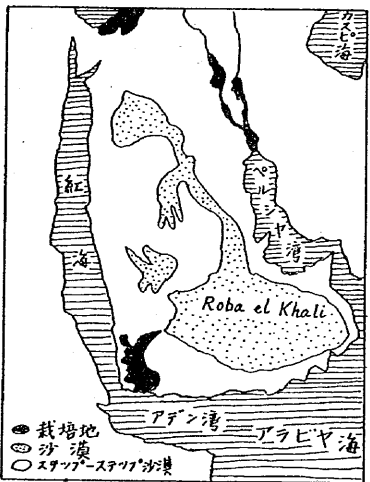
紅海に面した西縁山脈は二二〇〇——二五〇〇mの高度を有し、紅海岸よりは大山脈狀をなして聳立してゐるが、北東に向つては次第に陵夷する。この半島部は世界の高氣溫地に位し、南西部の縁邊山脈によつて海風の流入を遮斷してゐるから、雨量は極めて少い。この縁邊山脈はアラビアの氣候上の障壁をなすもので、紅海岸及びアラビア海岸の濕熱な不健康地帯を限つてゐる。然し内地は比較的人類の生活に適した所で、大氣が乾燥してゐる爲に海岸地の如く不健康地ではない。従つてアラブ人の死亡率は少く、且つ長命であるといふ。この地に於いて人口増加を制約するものは、食物の不足である事で、高温であるが爲ではない。植物の生育に必要な水が少いことに原因がある。泉地(Oases)が人類居住の中心となり、商取引の核心をなすことは必然の結果である。

アラブ人の主食物は椰子(Date-Palm)で、穀物としては麥類・玉蜀黍・黍等がある。葡萄・桃・杏・

無花果・林檎等の果實は高地に栽培せられ、南西部では品質のよい珈琲、或はアラビアゴムの産出がある。動物は馬・駱駝・驢馬等が飼はれ、アラビア馬は古來良馬として名高く、海外への輸出が多い。

【地誌】

ヘジャス (Hejaz) は紅海岸の地域で、世界大戦に際してメッカの回教主がその獨立を宣言したが、現在はネジドに併合された。メッカ (Mecca) はマホメットの生地で巡拜の信徒が群集し、カーバと呼ぶ黒布で被はれた建物は巡拜者の最大目的で、その中に黒い聖石 (隕鐵であるといふ) がある。この宗教都市の外港としてジッダ (Jidda) が發達した。巡禮鐵道 (Pilgrine Railway) は Aleppo—Damascus—Amman—el Ala を経て、メデナ (Medina) の宗教都市に達してゐる。一九〇五年リヤド (Riyadh) の酋長イブンサウド (Ibn Saud) はネジド (Najd) を



第79圖 アラビアの土地利用

統一して次第に領域を擴げ、一九二五年ヘジャス國を併合した。

イエーメン (Yemen) は濕熱であるが、高原地には麥類・果實等の耕作が行はれる。高原のサナ (Sana) は首都で、海岸のモカ (Mokha) は珈琲の輸出に名高い。オーマン (Oman) はペルシア灣口を扼する位置

にあり、首府ムスカット (Muscat) は貿易港で、世界最熱の港であると言はれる。

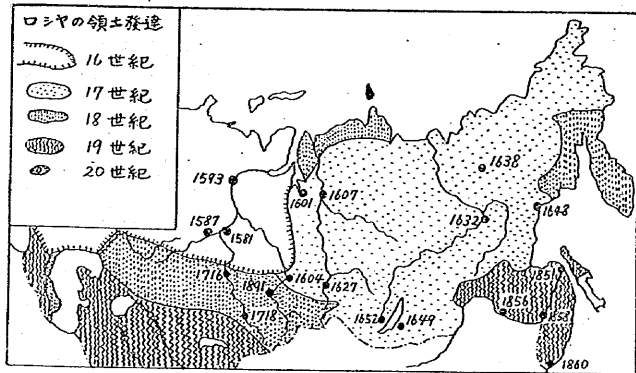
【アデン】 (Aden) アラビア半島の南西部は海に面した要地で、イエーメンからアデンを経て東に延びた降雨のある海岸は Happy Arabia や Arabia Felix と呼ばれてゐる。この海岸の中央にあるアデンは一八三九年以來英領となり、バブエルマンデブ海峡の門戸に位する。火山性の半島に扼された良港で、軍港を兼ね、コーヒー・アラビアゴム・眞珠等の輸出が多い。

【教授】 アラビア半島の教授に際しては、主として三つの注意すべき事項がある。その一は宗教上の問題で、ユダヤ教・キリスト教・マホメット教の狀態と宗教都市との教授である。その二はユダヤ人とアラブ人を中心とした政治上の考察で、その三はこの半島の地理的位置に就いての問題である。英國はこの半島の大部分を支配して、英本國——地中海——印度の結合を不安なからしめてゐる。

第九章 アジアロシア (Asiatic Russia)

第一節 政治

【ロシアの膨脹】 ロシア本國はヨーロッパの東半部を占め、西歐諸國に比して地理的には餘り恵まれてゐない。然し北方の森林帶と南方の乾燥地帶との間には大草原が横はり、舊ロシア帝國がウラル山脈を越え



第80圖 ロシアの領土發達

てアジアへ發展する通路をなした。ロシアがかくの如き自然的通路を有し、陸地による膨脹を誘致する状態にあつたことは極めて有利であつた。英國が海によつて發展したことに反して、この國は陸に發展して強國となつたもので、海との連絡關係が不良であつたから、海洋への進出は常に悩まされて來たのである。ロシアが革命によつて瓦壞した後も勞農政府によつて再びその統一が行はれたもので、草原帶の存在はこの國に對して結合的意義を與へてゐる。勞農政府はシベリア・中央アジア等を統一して、舊露帝國の大領域を繼承した。

【アジアロシア】(Asiatic Russia) ロシアがアジアの侵略を始めたのはイワン四世の時で、ウズベクのシビル汗國(Shir)を奪つたのがその最初であつた。次いで一五七九年イエルマツク(Yermak)に率ゐられたコサツク(Cossack)は、ウラル以東のシベリアを探検し、オビ河上流に住んでゐたタタール族を破り(一五八二年)その土地をロシア皇帝に獻じた。シベリア侵

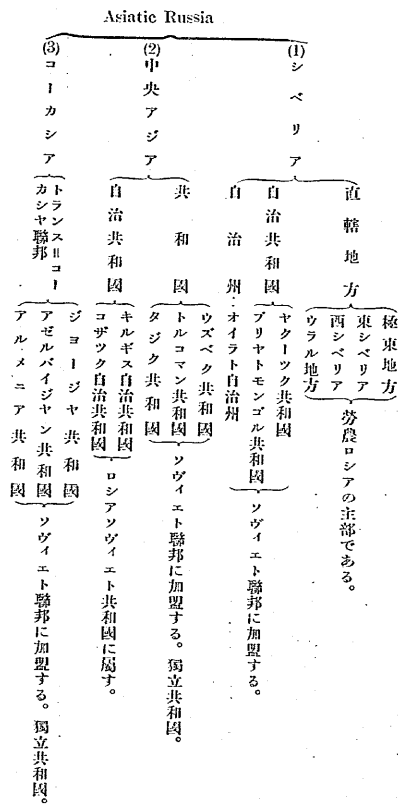
略の目的は毛皮獸を捕獲することにあつたが、一六一八年にはエニセイスクを建設し、一六三七年にはヤクーツク、一六五一年にはイルクーツクの地に城砦を築いてその根據となし、一六三二年には早くもカムチャツカ半島まで探検の歩を進めた。この侵略に當つては全く無人の曠野を行くが如く、何等の困難もなく領域を擴大することが出來た。

中央アジアでは一七三二年に小キルギス族を降し、一八四六年には大キルギスを併合した。キツア汗國(Khitai)の攻略に際しては、ロシア軍は曠野に迷つて殆ど全滅したのであつたが、一八六六年にはタシケント、同六八年にはサマルカンドを占領して、ブハラ汗國を保護國となした。帝制時代の中央アジアは政治的に、キツア汗國・ブハラ首長國・トルキスタン總督領に三分されてゐたが、一九一七年の革命後はソヴィエト聯邦に加盟せる三共和國と、ソヴィエト共和國に屬する二自治共和國とに分たれてゐる。

コーカシアの侵略に際してはペルシアとの衝突があつたが、一八二八年の媾和によつてペルシアから裏海岸の地——アラクセス河(Araxes)以北——を得て南方への發展をなしたが、シベリアへの進出とは全く趣を異にし、幾多の困難に遭つたのである。一九一七年の争亂後、アゼルバイジャン・アルメニア・ジョージアの三共和國が獨立し、特に英國はアゼルバイジャンの石油に注意してその獨立を援助したが、この三共和國は外コーカシア聯邦を組織して、ソヴィエト聯邦に加盟した。

【政治的區分】 ソヴィエト領アジアはシベリア・中央アジア・コーカシアの三地域に分たれ、地形上か

らはアジアの北西低地（N. W. Lowlands）に位する。シベリアは政治的にウラル地方・西シベリア・東シベリア・極東地方の直轄地と、ヤクーツク・ブリヤトモンゴルの二自治共和国並にオイラト自治州とに分れる。中央アジアはウズベク・タジク・トルコマンの三共和国（ソヴィエト聯邦加盟）と、キルギス・コザクの二自治共和国に分れてゐる。トランスコーカシア聯邦はソヴィエト聯邦に加盟し、三共和国から成る聯邦である。



第二節 地形誌

【地形區】 ソヴィエト領アジアを地形的に區分すれば、次の六區となる。この場合、西シベリア準平原はキルギスの高地のことで、シベリアと中央アジアの自然的境界である。

- (1) 東部高地…… Sayan, Yablonoi, Stanoboi 等の高地。
- (2) シベリア臺地…… エニセイ河以東の臺地。
- (3) シベリア平原…… Ob, Yenisei 兩河の沖積平原。
- (4) 西シベリア準平原…… キルギス草地からセミ巴拉チンスク附近に連る準平原。
- (5) ツラン低地…… 中央アジアの内陸流域。
- (6) コーカシア…… カスピ海と黒海間の地域。

東部高地の大部のみは太平洋斜面で、シベリアの大部は北極海斜面に屬する。シベリア平原は世界最大の平原で、オビ・エニセイ兩河の沖積平原であるが、南北に於ける植物景觀は全く異にしてゐる。西シベリア準平原の高地によつて、シベリア平原とツラン低地とが區分せられ、ツラン低地は乾燥性で内陸流域となつてゐる。

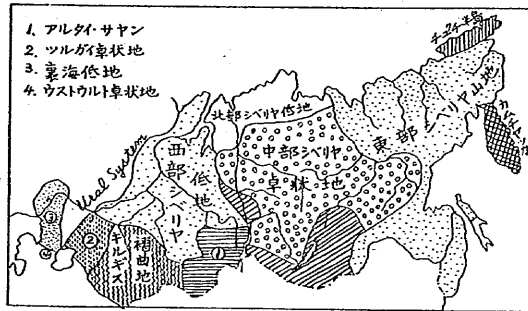
(1) 東部高地 (Eastern Highlands) アジア大陸の中核をなす古い地塊部が、サヤン山脈 (Sayan Mts.) を

プロノイ山脈 (Yalnoi Mts.) 等のシベリア高地帯で、北東—南西に走る斷層構造が多く、地壘山脈及び

之に沿つた地溝が多い。バイカル湖はかゝる Rife Valley のデプレツション部に當り、周邊はバイカル山脈等の峻峻な斷層崖で圍まれてゐる。その深度は一五二三m あつて、湖底は海面下一〇〇〇m 以上に達してゐる。東部高地は更に北東に延長してスタノボーイ山脈 (Stanovoi Mts.) となり、チユクチ半島 (Chukchi) に及んでゐる。

ヤプロノイ山脈は高原性の山地で、一のホルストを形成する。この山地に發するシルカ河 (Silka) は北東に流れ、本流のケルレン河 (Kerulen) と共に東亞の地質構造線の方向を示してゐる。この二川は合流して黒龍江と呼ばれ、滿蘇の國境を流れてゐる。シベリア側からはゼーヤ (Zeya) プレーヤ (Bureya) の二川を合せ、沿岸には沖積層の沃野と洪積層の段丘を造つてゐる。この低地がシベリアの極東地方に於ける主要な居住地帯をなし、ハバロフスク・ニコライエフスク等の重要都市がある。

日本海岸のシホタ山脈 (Shikota Alin) は太古代の岩石が廣い部分を占め、古生代及びアンガラ層が之を



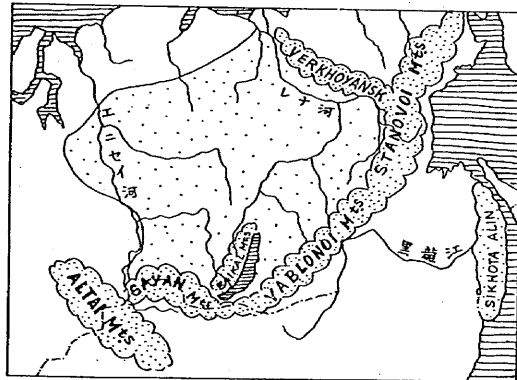
第81圖 シベリアの地形圖

被覆し、その各所に噴出岩がある。この山地は褶曲構造の山地で北東—南西の方向に走り、その南端のウラデラストク附近では特に出入が多く、リアス海岸 (Rias Coast) をなしてゐる。この海岸に就いてドムブロフスキー (B. S. Dombrovsky) は地體構造と現在の地形との關係を論じ、一〇〇m の深度を有する陸棚は昔時の侵蝕による基準面で、緩分河等の谷は海水に浸されたものであるといふ。

(2) シベリア臺地 (Siberian Plateaux) シベリアの大部を占めてゐる臺地で、ジウスによつてアンガラランド (Angara Land) と名づけられた。大體エニセイ河の流路はシベリア臺地の西端を示すものであり、南部は古生代褶曲の前記高地に接してゐる。北方のタイミル半島も古生代の褶曲によるものと言はれ、シベリア臺地の北方を限るものである。

臺地の基盤は最古の片麻岩で、その上には石膏・岩鹽等を含む赤色砂岩・泥灰岩等があつて、下部シルリア或は泥盆紀の層である。この古生代の高臺地を被覆して、植物化石を含む中生代の地層—アンガラ層があつて、古大陸アンガラランドの河流堆積物から成るものである。エニセイ河とレナ河との間にはシベリアトラップと稱する玄武岩臺地があり、エニセイ河の河口からヴィチム臺地 (Vitim Plateau) に亘つて斷續してゐる。シベリアの鎔岩臺地は第三紀の噴出によるもので、ゴンドワナランドのデカントラップに比較することが出来る。イルクーツク附近にはバイカル湖を中心とした半圓形の斷層地形があり、ジウスによつてイルクーツク半圓劇場 (Amphitheatre of Irkutsk) と名づけられた。古生代の褶曲帯が近代の造山運動の影響

を受けて隆起し、斷層によつて半圓狀の陷沒地を形成したものである。



第82圖 シベリアの高地帯

(3)シベリア低地 (Siberian Lowlands) シベリアの西部に横はる沖積平原で、オビ河とエニセイ河の流域を占めてゐる。東はシベリア臺地に接し、南にはキルギスの丘陵地が横はり、西部はウラル山脈に限られてゐる。キルギスの丘陵地は西方に延長して、ウラル山脈との間にツルガイ狹隘 (Strait of Tura) の低地となり、ツラン低地とシベリア低地を結合してゐる。オビ河はアルタイ山地に發源し、同じくアルタイに發するイルチシ河 (Irtysh) を合せてオビ灣の三角江に注ぐ。河道の傾斜は極めて緩慢で、北緯五十六度以北は概ね沼澤性をなし、その上、下流地は結氷期間が長い爲に利用は大でない。

地質は南部より北部に至るに従つて新しく、上部白堊紀の海成層の分布より見れば、白堊紀の海侵作用は南からツルガイ狹隘を経て北方に侵入してゐたもので、オビ河の下流には及ばなかつたであらうといふ。従つてツルガイ

狹隘は全く一つの海峡をなしてゐた。然しその大部は沖積平原で、地質的には甚だ單調であるが、植物景觀は必ずしも單一ではない。北方には凍土帯、之に續いて森林帯があり、南部には草原帯の沃野がある。黒海岸の黒土の如くその土壤は肥沃で、シベリアの穀物倉と呼ばれる。

(3)西シベリア準平原 セミバラチンスクの南に横はるキルギスの丘陵地は、低位置準平原 (Low-lying Penoplain) の好例であるといふ。Davis は中央アジアの探検旅行に際してこの山地を横斷し、準平原の存在に注意した。この地方の岩層は東西の走向を有する粘板岩及び粘板岩質砂岩で、潤い山陵から成つてゐる。セミバラチンスク附近では起伏は減じて小丘が不規則に分布してゐるが、その西方では再び高起して一〇〇〇m以上に達し、バルハシ湖北方のカルカラリンスク (Karkarinsk) 附近では一三四〇mの高度を示す。然し西方では高度を減じてゐるが、キルギスの草原地も廣い準平原面であるといふ。

(5)ツラン低地 (Turan Lowlands) 中央アジアはキルギス草地・ツラン低地等の地域で、シベリア及びロシアの平原に連續した一大平原であるが、南東境には大山脈の障壁が存在する。世界の屋根 (Roof of the World) の中核をなすパミル高原を中心として、東境には崑崙・天山・アルタイ等の山脈が連亘し、南境にはヒンズークシ (Hindu Kush) パロパミナス (Paropamisus) 等の山脈がある。天山山脈より分派したアライ山脈 (Alai Tagh) は三〇〇〇—四〇〇〇mの高度に達し、サマルカンドの北方に及んでゐる。アム河 (Amu Daria) 及びシル河 (Syr Daria) はこの南東山地に發源し、ツラン低地を貫流してアラル海 (Aral Sea) に注ぐ。

に注ぐ。その上流部に於ては多數の支流を有してゐるが、下流部は乾燥の爲に之を缺いてゐる。フェルハナ盆地 (Fergana Basin) はシル河上流の山間盆地であり、北方のイシククル (Issik Kul) は七〇〇mの深度を有する陥没湖である。

ツラン平原は沙漠性の低地で、Kizi Kum (紅沙漠) Kara Kum (黒沙漠) 等の沙漠地がある。三日月狀の砂丘——バルハン (Barchan) が不規則に存在し、カラクムでは數哩に達するバルハンの砂丘列がある。アラル海はウストウルト高原 (Ust Yurt) とトルキスタン平原との中間にあり、その面積は六・八萬方呎に達し、西方の高原に阻止されて湛水したものである。西方の裏海 (Caspian Sea) は世界最大の湖沼で、その面積は四三萬九〇〇方呎に及んでゐる。もと黒海・裏海・アラル海等は二續きの海洋であつたが、地殻の變動と氣候の變化によつてその連續を失つた。

【註】裏海 世界最大の湖沼で、その面積はスウェーデンよりも廣く、ドイツの全面積よりは稍々小である。第三紀末迄は黒海・アラル海に連續した海の一部で、現在の水面は海面下二六mにある。湖沼中で最も深い部分は南部にあつて九四六mの水深を有し、エルブールズ山脈の北に生じた陥没水盆である。湖岸には湖成段丘があつて水面の低下を示してゐる。ヴォルガ河・ウラル河等の流入する北部では鹽分が少いが、カラブガス灣 (Kara Bugaz) では一八%に達してゐる。

(6) コーカシア (Caucasia) 北西——南東方向を示す四並行地帯から成り、内コーカシア・コーカサス山脈・外コーカシア低地・アルメニア高原を區別する。コーカサス山脈 (Caucasus) の構造上の特色は、激しい斷層と著しい褶曲の結果生じたことである。褶曲運動は北方から南方に向つて行はれ、北側は緩傾斜である。

が南側は峻嶒である。最高峯エルブールズ山 (Elbrus) は五六二九mに達してゐる。外コーカシア低地は裏海に注ぐクラ河 (Kura R.) 及び黒海に流入するリオン河 (Rion R.) の流域で、一の通谷をなしてゐる。アルメニア (Armenia) はアルメニア高原上にあり、Armenia Knot の北部を占めてゐる爲に地形は甚だ錯雜し、高山・盆地・湖沼等が横はる。南境にあるアララット山は五八一mの高峯で、その北の高原中にはゴクチャ湖 (L. Gokcha) が横はる。ペルシア及びトルコとの政治的境界はアラス河 (Aras) とその支流のアルバチャイ河 (Arpa-Tchai) で、アルメニア人の居住地はこの境界によつて區分されてゐる。

【教授】シベリア・中央アジア・コーカシア等は何れもソヴィエトの領土で、政治的に一括して説明することが好都合であるばかりでなく、地理的にも一連の地帯であるから、之をアジアロシア (ソヴィエト領アジア) として取扱つたのである。地形上から之を六區に分つたのであるが、東部高地中に於いても、黒龍江流域の如きは特色ある一地域をなすものである。

第三節 氣候誌

【樞東地方】 スタノボイ山脈以東の樞東地方は海洋の影響が可なり著しく、特に雨量の多いのはカムチャツカ半島の東岸で、一〇〇〇呎以上に達してゐる。黒龍江流域の地方はアジアの氣節風帶に屬し、夏季の降雨が多いことはその特色である。冷帶東岸のセントローレンス型 (St. Lawrence Type) で、夏と冬の氣

歴配置が轉倒するばかりでなく、大陸西岸とは異つて寒流の存在すること等の理由によつて、その氣候は變化に富んでゐる。ウラヂヤストクの年平均氣温は五・三度で、シベリアの何れの地方よりも温暖であり、年雨量は六九〇耗に達してゐる。

黒龍江流域では、夏は暖い南東風が吹いて海洋性を呈し、冬は北西風が吹いて乾燥し、大陸性氣候となる。シホタアリンは夏の暖風を遮斷してゐる爲に、黒龍江上流では海洋性の度が弱められ、ブラゴベシチェンスクの年平均氣温は(一)〇・三度、チタでは(一)二・九度である。オホーツク海北岸の地域は、低温で且つ濕潤である。春より夏にかけての低温は海岸の流水の影響によるもので、初夏には特に濃霧が多い。オホーツクの年平均氣温は(一)五・五度を示し、年雨量は二三七耗であるが快晴の日は少い。カムチャツカ半島の西海岸は、冬季大吹雪に見舞はれて寒冷であるが、東岸は稍温和である。ペトロバウロフスクの年平均氣温は(一)一・二度で、その雨量は九四〇耗である。

【世界の寒極】 ヤナ河の上流に位するヴェルホヤンスク (Verkhoyansk) は、世界の寒極と稱せられてゐる。一月の平均氣温は(一)五〇度を示し、一八八五年には(一)六八度の低温を示した。ソヴィエトの地質學者オブルチエー (Sergei Obrutshew) は一九二六年インデギル河上流を調査し、ヴェルホヤンスク山脈に並行して同心的な圓弧をなすチエルスキー山脈を發見し、植物の限界は海拔一三〇〇mであり、雪線は一六〇〇mであることを報告してゐる。この調査に際してオイメコン (Oymyakon) は世界の寒極であらうことを注意

したのであるが、一九三〇年一月の観測によつて月平均氣温並に最低氣温・最高氣温は何れもヴェルホヤン

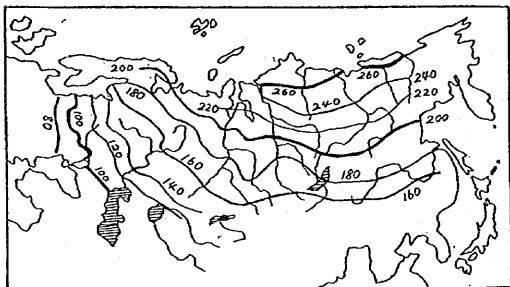
スよりも低温であることが分つた。

一九三〇年一月	(一)月平均度	(最低氣温)度	(最高氣温)度
ヴェルホヤンスク	(一)四五・三	(一)五五・九	(一)二九・四
オイメコン	(一)五〇・〇	(一)六五・二	(一)三四・二

オイメコンの位置……(63°15'N, 133°12'E)

【バイカル湖附近】 バイカル湖を中心とした地方は、冬季に於ける最高氣压の地帯となり、七五五耗の世界最高氣压を示す。これはアジア大陸に於ける温暖高氣压帯に當るもので、シベリアの低温にのみ山來するものではなく、低温の影響を受けて發達したものである。従つて冬季に於ける氣節風の方向は、この地方を中心として四方に流れてゐる。之に反して夏季は七五五耗の低壓となり、蒙古高原一帯に續く低壓區域の一部をなしてゐる。

バイカル湖が附近の氣候に影響を及ぼすことは注意すべきことで、挿圖によればこの關係が明瞭である。即ち夏七月の等温線はバイカル湖を中心として低温を示し、冬十二月の等温線は之に反して同心的に温度が高くなつてゐる。この事に關してウ

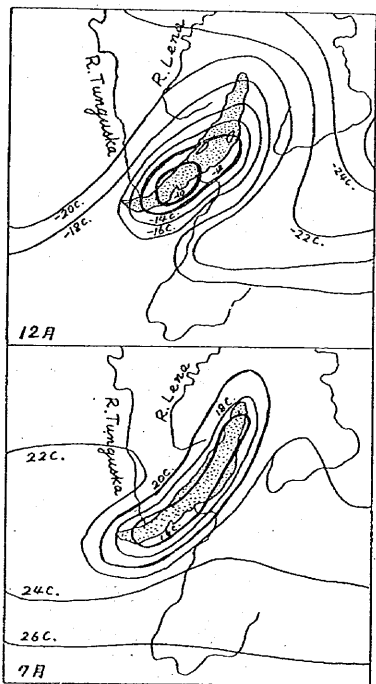


第83圖 シベリアの結氷日数

エウラシア(Woikof)は、世界に於いても類例の少ないことであると稱してゐる。

【ステップ地方】

シベリアの南西部からキルギスステップ(Kingiz Steppe)にかけて地方は、



第84圖 バイカル湖附近の気温

から合衆國に連るプレーリーでは、大西洋からは遠く離れて雨量少く、ロッキーマウンテンからの風は Chinook Wind となつて降雨が少い。ステップ地方は東方に自然の障壁があつて遮断せられ、ヨーロッパ方面の海に對しては遠距離にあるから降雨が少い。

アジアロシア各地の氣候

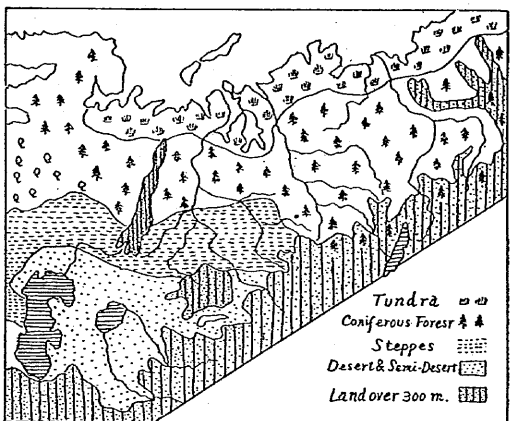
地名	緯度	高度	最寒月気温	最暖月気温	年平均気温	年降雨量
ウラヂターストク	N 四三・〇七分	一七m	(一)一三七度	二〇・六度	四・六度	五七〇mm
オホーツク	N 五九・一八	一〇	(一)二三・一	一二・四	(一)五・五	二三七
ペトロパヴロフスク	N 五二・五三	一〇二	(一)一一・二 (三月)	一一・八 (八月)	〇・三	九四〇
ベルホヤンスク	N 六七・三三	一〇〇	(一)五〇・一	一五・五	(一)一五・九	一二八
イルクーツク	N 五二・一六	四六七	(一)二〇・四	一七・四	(一)一・三	三七八
オムスク	N 五四・五八	八七	(一)二〇・二	一九・三	(一)〇・一	三三〇
サマルカンド	N 三九・三九	七二〇	(一)〇・六	二五・六	一三・一	三四五

【ツラン型】(Turan Type)

この型式は暖帯に位する内陸平原の氣候で、ロッキーマウンテンやアンデス山脈の東斜面にある高度の大なる平原——High Plain もこの型式である。ツラン平原は夏季に於けるアジアの低氣壓の中心となり、冬は高氣壓の端に位して北風が吹く。降雨は主に夏にあるがその量は少く、四周の山地に遮断されてゐるから乾燥氣候である。気温の日較差及び年較差は共に著しく、カスピ海から東方に行くに従つて増大する。カラクムの沙漠地は最も乾燥し、夏季には乾いた風が山麓地方に吹いて、農作物に損害を與へることが多い。

【植物帯】

中央アジアからシベリアに亘る地域の氣候に就いては概説したのであるが、之に關係して植物帯の變化がある。中央アジアの沙漠地の北にはステッ



第25圖 シベリアの植物帯

プ (Steppe) が横はり、北緯五五度より六五度間の地帯は森林帯をなしてゐる。森林帯は樺・松・樺等の原始林で、この針葉樹林 (Coniferous Forests) の中には毛皮獸が多い。北極海岸に面した五〇——三〇〇呎の地帯はツンドラ (Tundra) をなし、地下深く凍結してゐる低地であるが、夏季のみは地表が融けて沼澤性の湿地となる。

(a) 沙漠地……ツラン型の氣候區で、Kara Kum, Kizil Kum 等の沙漠がある。人類の居住は流水地及び泉地に求められ、山麓地帯と河川の沿岸とに特色ある文化景觀が見られる。

(b) ステップ (Steppe)……プレーリー型の氣候區。この地の居住民は羊・馬・駱駝・牛等の牧畜によつて生活してゐるから、草地を次から次へと移動する遊牧民である。

(c) タイガ (Taiga)……シベリアの森林帯をタイガと稱し、落葉松・唐楡・杉・樺等の樹木があつて世界第一の針葉樹林をなしてゐるが、この森林の經濟的利用は未だ盛でない。この森林中に住んでゐる熊・貂・狐・栗鼠・山猫等の毛皮獸が、商業上の目的となつてゐる。この森林地は毛皮獸の繁殖場で、世界に於ける毛皮の寶庫である。

(d) ツンドラ (Tundra)……シベリア北部の森林限界以北に横はる凍原で、長い寒い冬と短い夏をもつてゐる。夏には僅かに數週間地表が融解して地衣・蘚苔類を生じ、樹木は何れも矮小で數十呎に過ぎず、柳・ヒトス・躑躅等の分布を見る。馴鹿苔 (Reindeer Moss) は最も重要な植物で、馴鹿の飼料として必要なものである。サモエード人 (Samoyeds) ヤクト人 (Yakuts) オスチャック人 (Ostyaks) 等は狩獵に従事する者も多し、多數の遊牧民は馴鹿を飼育して生活してゐる。

【註】自然地理區 (Natural Region) 地理區は自然・人文から之を設定しなければならない。然しソヴィエト領アジアの如く全く未開の地域であり、人類の活動が十分でない處では自然上の區分によらねばならない。ツンドラ・タイガ・ステップ・高草地帯・沙漠地の五地理區に分つことが一つの方法であるが、本書では開發といふことに留意して、自然環境中に文化景観を見出すことにした。従つて植物の分布を氣候の一節中に記述したのである。

第四節 地誌

シベリアはイルクーツクを中心として東シベリア・西シベリアに分たれる。東シベリアは我が國と特に關

(1) 極東地方 (Far East Region)

【北樺太】(Sakhalin)

北樺太に於ける最も重要な鑛産物は石油で、最北のシュミット半島から東岸に沿つて分佈してゐる。この

取引する。

第86圖 北樺太（サハリン）

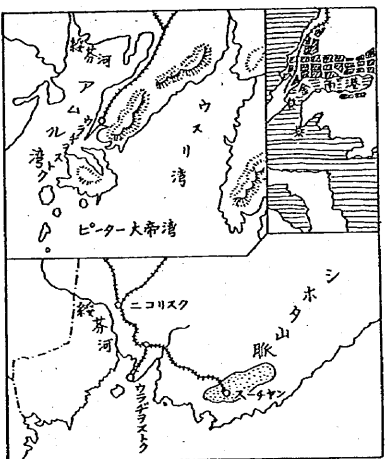
事するのである。近來は多數の日本人・蘇國人がこの近海に出漁し、鮭・鱈・蟹・鰵・鯨等の漁獲に従つてゐる。ペトロバウロフスク (Petrovsk) は漁業によつて發達した港市で、定住者は二〇〇〇人以下であるが、夏季には二萬餘の人口を示す季節的都市である。

東方に位するコマンドル諸島(Comandors Is.)は、米領のプリビロフ諸島並に我が海豹島と共に胆舘獸の三大蕃殖地で、一九二一年以來その保護が行はれてゐる。

【黒龍江流域】 黒龍江(Amur R.)はアジアの大河で、支流シルカ河の合流點から河口迄は二八八〇軒に及び、ソウイェト本國のヴォルガ河よりも長大である。夏季は船舶の交通が便で、冬の結氷期には立派な糧道となる。ハバロフスク附近の解氷期は五月上旬で、十一月下旬の結氷期に至る迄六ヶ月間汽船の便がある。カナダのセントローレンス河の如く、その流路が北東に向つて海に注ぐことは大なる缺點で、水運の中心はウスリ河(R. Ussuri)の會合點にあるハバロフスクと、ゼーヤ河の會する位置にあるブラゴヴェシチエンスクである。浦鹽斯德から滿洲國の境界に沿つてウスリ線(七六〇軒)黒龍江線(二八八〇軒)の迂回線を通じ、カリムスカヤ(Kurimskeya)に達してゐる。ソウイェトの新設したシベリア横斷鐵道は、樺太對岸のソウイェトスカヤ灣(Port Imperial)を起點とし、その一部は黒龍江線に連絡し、バイカル湖の北を過ぎてシベリア平原を横斷し、ウラル山脈の北部を越えてレニングラードに達するものである。(シベリヤ大北鐵道)

ウラヂボストク(Vladivostok 12)——ロシア語の『東方の支配』を意味する代表的植民都市で、シベリア鐵道の東端に建設された港市である。ペテロ大帝灣(Peter the Great B.)のムラヴィヨフ・アムルスキー半島の先端に位し、金角灣の自然的良港に面してゐる。帝政時代より軍港・商港として知られ、東シベリア第

一の貿易港である。東方に位するスーチャン(蘇城 Suchang)はジュラ紀に屬する炭坑で、その埋藏量は四〇〇〇萬噸に達し、炭質は極めて良好である。



第37圖 ウラヂボストク

ハバロフスク(Khabarovsk)は四通八達の要地で、極東地方の政治・軍事の中心である。一六五二年コサツクの探検家ハバロフが城塞を築いた地で、市は三段の丘陵上にあり、毛皮の市場町である。ブラゴヴェシチエンスク(Blagoveshchensk 6)はゼーヤ河の金産地及び附近の農業の中心で、滿洲國の黒河に對する貿易市である。黒龍江の河口にニコライエフスク(Nikolaevsk 6)の漁港があり、夏季には邦人の漁業者が多數來住する。一九二〇年暴民蜂起して所謂尼港事件を起し、七〇〇餘名の邦人が虐殺された所である。

黒龍江上流のシルカ河(Shilka R.)に面してストレチエンスク(Stretensk)の河港があり、黒龍江湖航の終點である。チタ(Chita 8)は滿洲國とブリヤートモンゴルの中間に位する要地で、ヤプロノイ山麓の古い町である。市はこの地方の商業上重要な中心地で、毛

皮・木材等の取引が盛である。

(2) ヤクーツク (Yakutsk)

ヤクーツク共和国は東部シベリアの北部を占め、土地は廣大であるが人口は僅に三〇萬に過ぎない。一九二二年に開かれた全露中央執行委員会で、この自治共和国の建設が決定されたもので、レナ河(R. Lena)流域をその主要部としてゐる。森林は全面積の七〇％に達し、シベリア森林帯——タイガ(Taiga)の大部を占め、殆ど針葉樹の單純林から成つてゐる。樹種はヨーロッパのそれよりも多く、北米種であるシトカ桧・アラスカ樅等の存在は、洪積世氷期の影響がなかつたことを示してゐる。

土地が寒帯であるから人口が少く、その産業は原始的で、狩獵が第一の産業である。この地方の開発は全く毛皮貿易に由來するもので、白狐・熊・栗鼠・北極兎等の柔毛獸の棲息することは、ヤクーツクの富源である。共和国の首都はレナ河岸のヤクーツク(Yakutsk)で、毛皮獸の市場町である。その東方に位するアルダン(Aldan)は金産地として注目されてゐる。

(3) ブリヤト・モンゴル (Buryat Mongol)

バイカル湖東部を占めた自治共和国で、面積は三八萬方呎に達し、人口は約五〇萬である。住民はブリヤト人が最も多く、ロシア人・ツングース人が之に次いでゐる。森林は全土の七〇％を占め、この森林中の狩獵業は住民の經濟生活上最も大なる意義を有し、現在では狐等の飼育も行はれてゐる。國境都市キヤフタ

(Khatka 1) は蒙古の買賣城に對する貿易市で、毎年二月に定期の市場が開かれ、毛皮の取引が行はれる。

首都ウエルフネウヂェンスク(Yekhe Udaik 2) はセレンガ河と支流ウダ河の合流點に位し、蒙古に對する軍事・商業上の中心地である。

(4) 西部シベリア (Western Siberia)

オビ・エニセイ兩河の沖積平原を西部シベリアと稱し、イルクーツクは東部及び西部シベリアの中間都市である。西部シベリアは政治上ウラル地方とシベリアに分たれ、共にソヴィエト聯邦の直屬地であるが、別にアルタイ山麓にはオイラト及びハカスクの自治州がある。シベリア鐵道はこの平原の南部を横斷してイルクーツクに達し、更に東方に延びてウラデポストクに連絡してゐる。

【シベリア鐵道】(Siberian Railway) シベリア横斷鐵道は露都モスコーに起り、極東地方の軍港ウラデポストクに達するものゝ稱で、北滿鐵道經由のものは八四七〇軒、黒龍江線經由のものは九三三〇軒に達してゐる。この鐵道はシベリアの東西交通の必要と、極東經略の軍事的目的から敷設されたもので、一八九〇年以後その工事に従つて一九〇五年に全通した。即ち一八九五年にはチエリヤビンスク——オムスク間が開通し、次いで支那から東支鐵道の敷設權を得てウラデポストクに至るものは一九〇二年に開通し、一九〇五年にバイカル湖の迂回線が完成した。日露戦争以後黒龍江線の工事に着手し、一九一六年にクエンガ——ハバロフスク間が開通して國境鐵道が完成したもので、現在は國際列車も通つてゐる。

シベリア鐵道は極東經路の目的から敷設したものであるが、シベリアの開発に貢献したことは甚大で、多數の移民を招来して沿線には農園が開けてゐる。交通上歐亞連絡の最短路として至大の價値を有し、更にソヴェエトの軍事的重要性を秘藏してゐるのであるが、太平洋方面とヨーロッパ間の國際貿易は殆ど行はれてゐない。従つて國際鐵道としての價値は、旅客・郵便の輸送上にある。

イルクーツク (Irkutsk 10) — バイカル湖に發するアンガラ河と支流のイルクト河の會合點に位し、イルクーツクとはイルクト河の町の意味である。東部シベリアと西部シベリアの分界點に當り、シベリアの政治・軍事・交通・商業の主要中心である。『毛皮の寶庫』の稱あるタイガからは、熊・狐・栗鼠・兎等の毛皮を出し、その取引が行はれる。

バイカル湖は世界最大の淡水湖で、その面積は三萬三〇〇〇方軒、長さは六七四軒、平均の幅は五〇軒に及んでゐる。その深度は一五二三mあつて世界第一の凹窪地をなし、湖岸の斷層地形は極めて雄



第88圖 シベリヤの交通圖

大である。シベリア鐵道は半日の間湖畔を迂回して通過するもので、幾多のトンネルを出入して單調な大陸旅行の旅人を慰めるのである。この湖盆は古い形成によるもので、本湖の生物は第三紀淡水動物の遺物を藏してゐる。

【草原帶】 (Steppe) 中央アジアの沙漠地と北部の森林帶の中間に草原帶が横はり、北緯五〇度附近から北緯五五度附近まで、所によつては北緯六〇度に及んでゐる。この地方では森雨の爲に樹木乏しく、北米のプレーリー、南米のパンパスの如き草原地をなしてゐる。この草原地は古來キルギス人の遊牧地であつて、羊・駱駝・馬・山羊・牛等の放牧が行はれた。然し近年はスラブ族の來住する者が多く、森林帶の緣邊部及び鐵道沿線は全く農耕地と化した。キルギス人の職業は原始的な遊牧であつたが、この文化民の來住によつて灌漑工事が行はれ、機械による耕作が發達して、所謂『シベリアの穀倉』となつたのである。農産物の主なものは、小麥・燕麥・ライ麥・球根等で、この沃野の開発は經濟的に極めて重要なものである。牛の飼養は近來非常な發達を來し、穀物と共にバターやチーズの輸出が増加を示した。

オムスク (Omsk 16) イルチシユ河とオム河の合流點に位し、水運並に鐵道交通の要地である。シベリアの穀倉の中心都市で、『シベリアのウイニペグ』(Siberian Winnipeg) と稱せられ、穀物・バター等の市場である。市には勞働大學・博物館があり、西部シベリアの文化の中心である。シベリアの都市は殆ど鐵道沿線にあり、鐵道の開通によつて發達したものであるが、市街は多く停車場から數軒或はそれ以上離れた所に

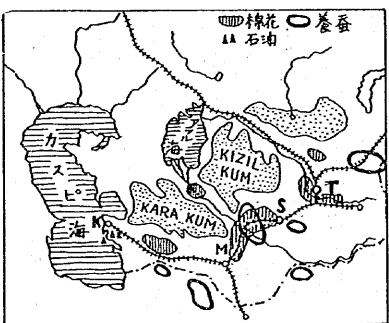
存在してゐる。

ノボシビルスク (Novo Silinsk) は鐵道交通の要地で、シベリア鐵道と中亞連絡のツルクシブ鐵道の分岐點である。ツルクシブ線上には、アルタイ鑛業地の中心都バルナウル (Barnaul 10) セミ巴拉チンスク (Semipalatinsk 12) がある。セミ巴拉チンスクはイルチシュ河の河港で、金屬工業・石鹼製造等が行はれ、穀物・畜産物の集散が盛である。ノボシビルスクの南東にあるクズネツク (Kuznetsk) は鐵・石炭の産が多く、ソヴィエト重工業の中心となつた。トム河に面したトムスク (Tomsk 13) は金鑛業の爲に發達した町で、大學・博物館・圖書館等があつてシベリアの學藝の中心であつたが、稍々衰頹の兆がある。

(5) 中央アジア (Central Asia)

【キルギス草地】(Kirghiz Steppe) 西シベリア準平原の西部は次第に陵夷してキルギス草地となり、純然たる草地又は半沙漠性である。カスピ海に注ぐウラル河とエムバ河 (Emba) の中間地域は湖底平原で、鹽分の多い草地をなしてゐるが、之に續いた東部のツルガイ臺地は、新しい堆積層から成る草地である。最東部は中世層から成る侵蝕臺地で、次第に東方に高起して二〇〇—四〇〇mの丘陵地となる。

キルギス草地は放浪的な牧民たるキルギス人の住地で、彼等にとつては極めて重要な草地である。文化の程度の低いキルギス人は、家畜の乳と乾酪と肉を得て生活するもので、夏は高原に住み、冬は平地や谷間に轉住する。牧民の生活は常に移轉する爲に、運搬に都合のよい圓形の天幕を用ひ、乳や酪製品は羊皮で作つ



第89圖 中央アジアの産業圖

た什器で運搬する。キルギス人は蒙古人とトルコ人の混血種族で、高地に住むカラキルギス (Kara Kirghiz) と草原地のキルギスカサツク (Kirghiz-Kazaks) に分たれる。ロシア人の影響を受けたものは定住して農耕を営み、交易に従ふ者も多い。カサツク (Kazaks) はトルコ族とスラブ族の混種で乗馬に長じ、日露戦争の當時騎兵として活躍したもので、極めて勇悍な種族である。

【トルコメン共和国】(Turkmen S. S. R.) ソヴィエト聯邦の一國で、住民の七〇％はトルコメンに屬し、その面積は四九萬一二〇〇方呎、人口は一一四萬である。ツラン低地 (Turan Lowlands) の最低所を占めた國で、その中央部にカラ・クム (Kara Kum) の荒地が横はる。乾燥氣候の地であるから山麓の泉地帯が農耕地となり、新疆の如く山麓に居住地帯が見られる。首府アスハバード (Ashgabad) は山麓の樂土で、隊商貿易の要地である。トランスカスビ鐵道 (Trans-Caspian Railway) は裏海岸の港市クラスノボドスク (Krasnovodsk 2) に起り、アスハバード・メルフ (Merv) を經てタシケントに至り、ツルクシブ鐵道に結合して支那邊境の鐵道となつてゐる。

【ウズベク共和国】(Uzbek S. S. R.) 回教を奉ずるウズベク族を主としたソヴィエトの一國で、面積は

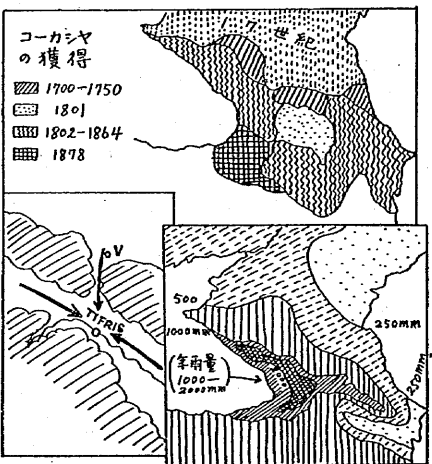
一六萬五〇〇〇方籽、人口は五三〇萬に及ぶ。山麓の沃地には人工灌溉によつて農耕が發達し、棉花・果實・穀物等の産が多く、フェルガナ盆地（Fergana Basin）にはアメリカ種の陸地棉（Upland Cotton）が栽培される。タシケント（Tashkent 50）はシル河の支流に沿つた町で山麓の沃地を占め、中央アジア鐵道（Central Asia Railway）とトランスカスピ鐵道がこの地に會し、更にツルクシヤ鐵道の完成によつてシムリアとの交通が便である。古來隊商貿易の市場として知られ、ウズベクの首都である。サマルカンド（Samarkand, 14）はチムルの古都で回教の寺院が多く、隊商貿易の中心地で穀物・果實の集散が多い。

【タジク共和国】（Tadjik S.S.R.） アム河上流にある共和国で、住民はイラン族の一派たるタジク族である。面積は一五萬方籽で、人口は一〇〇萬に達する。スタリナバード（Stalinabad 8）はタジクの首府で、新興の町である。

⑥ コーカシア（Caucasia）

【概説】 コーカシアは黒海と裏海の間を横はる地方で、コーカサス山脈（Caucasus Mts.）を境界として北のシスコロシア（Ciscaucasia）と南のトランスコーカシア（Trans-Caucasia）を區分する。コーカサス山脈は自然的の一大障壁をなし、中央部には火崗岩の分布が多く、北方に向つては緩斜してゐるが南は斷崖に終つてゐる。この山脈中のエルブールス山（Elbruz 5629m）カズベク山（Kazbek）は共に五〇〇〇mに達する休火山で、南北交通の障壁をなすものであるが、軍用道路の通じてゐるダリエル峠（Darrel Pass）は

この脈中の鞍部（Saddle）である。ウラヂカフカズ（Vladikavkaz 8）はその名の示す如くコーカサス山脈の要地で、七一五mの高地に位してゐる。



第90圖 コーカシアの獲得

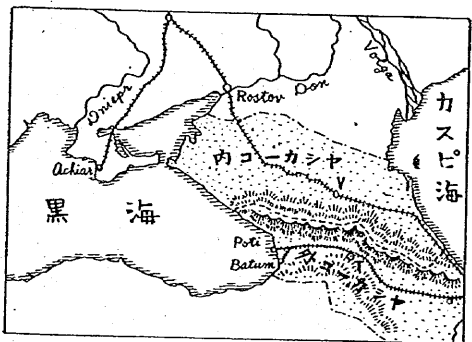
シスコロシアはダゲスタン（Daghestan）自治共和国と北コーカシア區に分たれ、ソヴィエト本國に所屬してゐるが、外コーカシアは Azerbaijan, Georgia, Armenia の三共和国から成る外コーカシア社會主義聯邦ソヴィエト共和国（Trans-Caucasian Socialist Federated Soviet Republics）を組織し、ソヴィエト聯邦に加盟してゐる。農業は主な産業で、黒土層の多いシスコロシアでは穀物の産が多く、外コーカシアの低地では棉花・茶・果實等の産出がある。石油はコーカシア第一の富源で、アプシエコン半島（O. Apsheron）のバクー油田を第一と

し、シスコロシアのグロズヌイ油田（Groznyi Oil Fields）マイコフ油田（Maikop Oil Fields）が之に次ぐ。一九三四年のソヴィエト産油量は一億六八六〇萬バレルで、世界第二の産油國であるが、その大部はコー

カシアの産である。

二七二

【トランスコーカシア】(Trans-Caucasia) 外コーカシア聯邦の全面積は一八萬五〇〇〇方呎で、人口は六四〇萬に達してゐる。一九二三年、三共和國から成る聯邦が組織せられ、チフリスに聯邦廳がある。住民はコーカサス族に属するジョージア人・アルメニア人・トルコタール人等で、ジョージア人は容貌の秀麗なことによつて古來著名である。



第91圖 歐亞の結合地帯——コーカシア

アゼルバイジャン (Azerbaijan) の首都バクー (Baku) はアプシエロン半島の南岸に位する油田聚落で、石油は第三紀層の砂岩層中に含まれ、附近の油田から原油をパイプでバクーに送り、こゝで精油される。石油事業は全くソヴィエトの國營で、バクーの石油はパイプと鐵道によつて黒海岸のバツム及びボチに送油するが、一部はボルガ河の舟運によつてモスコに送られてゐる。アルメニア (Armenia) は高原上の共和國で、全土殆ど山地であるが、アラス河 (R. Aras) 沿岸にのみ低地がある。首府エリヴァン (Yerivan) はアラス河の上流にあつて九八〇mの高地に位

し、葡萄・果實・メロン等の栽培が盛である。

ジョージア (Georgia) の首府はチフリス (Tiflis) で、クラ河 (R. Kura) 上流の盆地に發達した温泉町である。黒海岸からアゼルバイジャンに達する通谷に位し、ダリエル峠によつてウラヂカフカスに通じ、交通・軍事・政治・經濟の要地である。黒海岸のバツム (Batumi) はトランスコーカシア鐵道 (Trans-Caucasian Railway) の終點で、石油・マンガン鐵等の輸出が多い。コーカシアはロシア人の懼れの土地で、單調なロシア平原に比して風景は絶佳であり、避暑・避寒に好適であり、温泉が湧出し、新鮮な果實に富んだ所で、實にロシア人に與へられた樂園である。

【發掘】ソヴィエトの極東地方は特に我が國と密接な關係にあり、政治的に留意せねばならぬ。近海に於ける漁業問題はその一である。北樺太に於ける石油・石炭の探掘権がその二である。而して將來に於いて開發に値する土地であり、パルプ及び木材を供する森林資源と、鐵物の埋藏とに關して重要性がある。更に滿洲帝國の獨立後は、その國境に對して直接に我が國防線が擴大し、兩國間の政治的關係は重大なものとなつた。従つてソヴィエトの極東政策を打診して、我が國防に留意し、徒らに戰爭を誘ふこととなり、アジア平和を確立する爲に努力せねばならぬ。かゝる見地より地理の教授をなすことは、特に重要であること痛感するのである。

櫻井 靜著 —（本書の姉妹篇）—

○教材 解説 世界新地誌（植民大陸篇） 正價 金三圓貳拾錢
送料 廿二錢

○教材 解説 世界新地誌（亞細亞篇） 正價 金貳圓八拾錢
送料 廿二錢

○教材 解説 世界新地誌（歐羅巴篇） 印刷中

東京大同館發行

索引

【ア】		
アキアブ	アラカンヨマ	安南
アグラー	アラゴス山	イラン型
アジアの気節風	アラス河	イラン王国
アスハバード	アラハバード	イルクイック
アゼルバイジャン	アラビア半島	イルチシニ河
アダム橋	アララツト山	印度ス河
アダリア	アリアン ドラウイダ族	印度藍
アネトリア高原	アルタイ山脈	インド アリアン族
アバカ	アルメニア結點	インド ガンヂス平原
アバダニ島	アレクサンダー山脈	印度帝國
アフガニスタン王国	アレクサンドロフスク	印度の季節
アブシエロン半島	アレクサンドレツタ	印度の穀倉
アメリツァール	アレツボ	印度の民族運動
アメダバード	アンガランド	【ウ】
アユチヤ	安慶	
	アンゴラ	ウイエンティアン
		ウイサヤ族
		ウインヂヤ山脈

ウエツテル島	二六三	エリヴァン	二七二	蓋層構造	一四	カプール	三六
ウエルホヤンク	二六六	エルゼルム	二七〇	開拓鐵道	四	上カプアス山脈	二六
ウエルテフレデン	二七三	エルブール山	二七〇	階段耕作	二六・二七・二八	カムチヤツカ	二六
ウエルフネウヂンスク	二六六	煙臺	二六	階段狀露層	三	カムラン海	二五
ウオーレス線	二六六	〔オ〕		開平	二八	カラクム	二六
ウスベク共和国	二六六	歐亞大陸	二	カイベル峠	二八	カラコルム峠	二六
吳淞	二六六	オスチヤツク人	二六	外來河川	二九	カラコルム山脈	二六
烏雲和爾冬吉	二六六	オムスク	二六	海龍盆地	二九	カラチ	二六
ウラヂボストク	二六六	オランダの貨庫	二六	カウイテ	二九	カルムツク人	二六
ウランバートルホト	二六六	オルドス	二六	カザフ	二九	カラムツク人	二六
雲南高原	二六六	オロゲン説	二六	カズベク山	二九	カラムツク人	二六
雲南盆地	二六六	オロンガボ	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
雲南鐵道	二六六	温泉町	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
〔エ〕		温帯高氣壓帶	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
英領ボルネオ	二六六	温暖大陸型	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
營口	二六六	〔カ〕		カサツク	二九	カラムツク人	二六
エヴレスト	二六六	海岸段丘	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
學漢鐵道	二六六	階級制度	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
エムバ河	二六六	開原	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
エーゲ海	二六六	海峽殖民地	二六	カサツク	二九	カラムツク人	二六
エメラルドの帯	二六六			カサツク	二九	カラムツク人	二六

カンヂー	二六六	北支那	二六六	キンチンゲンガ	二六六	緩衝國	二六六
漢中盆地	二六六	北支那型	二六六	クアラランボル	二六六	緩衝地帶	二六六
ガンヂス河	二六六	北支那平野	二六六	クアランボル	二六六	關中	二六六
ガンヂスIIプラマボトラ盆地	二六六	北滿洲平野	二六六	クアランボル	二六六	皖南平野	二六六
間島省	二六六	吉林	二六六	クアランボル	二六六	〔ケ〕	
廣東	二六六	冀東政府	二六六	クアランボル	二六六	京滬鐵道	二六六
カンパール河	二六六	規那	二六六	クアランボル	二六六	傾動地塊	二六六
カンボヂヤ	二六六	キナバル山	二六六	クアランボル	二六六	景徳鎮	二六六
寒冷溫帶氣候	二六六	起伏	二六六	クアランボル	二六六	京滬線	二六六
漢陽	二六六	キヤフタ	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
〔キ〕		九江	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
饒鋒地城	二六六	九省の會	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
饒鋒依陽賜金	二六六	牛心臺	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
歸化城	二六六	九龍	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
氣候不順と饒鋒	二六六	強制分岐	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
宜昌	二六六	饒鋒線	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
歸綏	二六六	極東のバルカン	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
キストナ河	二六六	局子街	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
季節的都市	二六六	キルギス人	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
氣候風型	二六六	キルギス草地	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六
北緯太	二六六	錦承線	二六六	クアランボル	二六六	毛皮の市場町	二六六

高地都市	一七六	ゴビ沙漠	九三・二九	サトプラ山脈	一八八	三民主義	三三〇
昂々溪	一七五	ゴビ準平原	九三	沙漠氣候	一〇一	三民主義	三八九
江西盆地	一七〇	ゴマル峠	一八三	サハラ裂	三三〇	山麓都市	一〇九
香料諸島	一七五	コマンドル諸島	一六二	サマラン	一七三		
コカシア	一七〇	コラト丘陵	一五五	サマルカンド	一七〇		
コカサス山脈	一七〇	五龍山	一五三	サムン	一七〇		
簡荷	一七〇	コロンナ	一五三	サモエド人	一七六		
國境貿易市	一七〇	コマンデル海岸	一八八・九二	サワク	一七六		
國際五市場	一七〇	呼倫貝爾高原	一八八・九二	山海關	一七六		
黑龍江	一八八・八八・八四	コロソ	一八九	三角江	一八九		
黑龍土	一八八・八八・八四	琿春	一八九	三角湖平野	一八九		
黑遼分水嶺	一八八・八八・八四	ゴンドワナ炭田	一八九	山岳障壁	一八九		
湖廣盆地	一八八・八八・八四	ゴンドワナランド	一八九	三峽	一八九		
滬杭甬鐵道	一八八・八八・八四	崑崙山脈	一八九	殘丘島	一八九		
梧州	一八八・八八・八四	西域交通路	一八九	三江準平原	一八九		
五臺山	一八八・八八・八四	最重國條款	一八九	山西炭田	一八九		
五臺山脈	一八八・八八・八四	サイゴン	一八九	山西炭田	一八九		
古代商業市	一八八・八八・八四	済南	一八九	サンダカン	一八九		
古代文明發祥地	一八八・八八・八四	草原帶	一八九	サンダルバンス	一八九		
ゴダウアリ河	一八八・八八・八四	砂漠	一八九	山東半島	一八九		
コチ	一八八・八八・八四			三細法	一八九		
湖底盆地	一八八・八八・八四						
ゴビ裂	一八八・八八・八四						

支那の地中海	一八八・八八・八四	珠江	九三・二九	人為的國境	一八八	スリメダン	一八八
支那本部	一八八・八八・八四	シュツト牛島	九三	シンガポール	一八八	ズンガリア	一八八
支那本部	一八八・八八・八四	準平原	九三	新京	一八八	準噶爾門戸	一八八
支那方向	一八八・八八・八四	巡禮鐵道	九三	秦皇島	一八八	スンダ陸棚	一八八
支那都市の形態	一八八・八八・八四	商業植民地	九三	新嘉坡	一八八	スンダ列島	一八八
支配的植民地	一八八・八八・八四	松花江流域	九三	新嘉坡	一八八		
シベリア鐵道	一八八・八八・八四	小興安嶺	九三	新嘉坡	一八八		
シベリアのウイニベグ	一八八・八八・八四	小スンダ列島	九三	新嘉坡	一八八		
シベリアの穀倉	一八八・八八・八四	常德	九三	新嘉坡	一八八		
シムラ	一八八・八八・八四	植民都市	九三	新嘉坡	一八八		
ジャバ島	一八八・八八・八四	植民都市	九三	新嘉坡	一八八		
ジャババド	一八八・八八・八四	徐州	九三	新嘉坡	一八八		
沙市	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
戒克	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
シヤン高原	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
シヤンデルナゴル	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
シヤンステート	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
シヤン族	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
上海	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
白山港	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		
從順山形	一八八・八八・八四	叙州	九三	新嘉坡	一八八		

大連河	二六
タイガ	二五九・二四〇
對曲	二一六・八四
太原	二三
大興安嶺	三
大黑河	三七
大沙漠羣地	三
泰山	一一〇
大人口國	四
大郎線	七
太同	二三
颱風	一九
大陸棚	八一
大領城國	八二
大凌河	八三
大遼	三三
大連集中主義	三八
ダウアオ	二六
提曲盆地	一八九
タウルス山脈	一七
タガラグ族	一七
タクラマカン沙漠	二三
ダゲスタン共和國	七
タジク共和國	一〇
タシケント	一〇
ダージリング	四〇
ダネンタウングイ山脈	四七
ダブサン山	八六
ダブリーズ	三九
ダマスクス	三五
ダヤーク族	七五
タラ	二四
グライトーラ	九
タリム型	一九
タリム盆地	〇九
ダリエル峠	七〇
タルム河	一三
タール沙漠	二〇
段丘	四
單斜構造	六
斷崖崖	六七
薩萊	一六
鹽民	一七
中間海岸	一六
中華民國	一八
仲繼貿易	八二
重慶	一二
中原の地	八五・九五
中立地帯	六六
中央アジア	一六
中央アジア諸高原	一〇
中央部アジアの構造	一一
チエラブンチ	七一・九三
地向斜部	一八六
チルク	一五四
チタ	一六三
地垠	一四三・八八
地中海型	一五
地中海交通時代	一五
地中海式氣候	四三・五
地中海性植物	六
齊ナ哈爾	一五
地背斜部	一六
地方的旋風	一〇
チバン峯	一六
芝罘	一三

ツアアイダム盆地……………	六・三三	ツチエ炭田……………	二・三	天山山脈……………	一六
チフリス……………	二・三	ツチコリン……………	二・三	天山南路……………	一三
西蔵型……………	六・四	ツラン型……………	二・七	天津……………	一〇
佳木斯……………	五	ツラン低地……………	二・六	綏遠……………	一〇
チヤンタン……………	六・四	ツルガイ臺地……………	二・六	天日製鐵……………	一六
自由港……………	一・五	ツルク―シブ鐵道……………	二・六	デンボ……………	一六
自由栽培……………	一・五	ツングース族……………	二・七	〔ト〕……………	
黃麻……………	一・六	ツンドラ……………	二・六	東岸氣候……………	一六
樹枝狀水河……………	一・六		二・六	洞窟住居……………	一六
張家口……………	一〇	〔テ〕……………		東山煙……………	一六
朝陽……………	四	低位置準平原……………	三〇・三	東山地方……………	一六
長沙……………	一〇	鄭家屯……………	四	洞庭湖……………	一七
直轄領……………	一五・二七	鄭州……………	一〇	湖南……………	一七
デョキヤカルタ……………	一七	デカン高原……………	一六・三	トルファン地溝……………	一七
地理的景觀……………	一六	デカントラツプ……………	一六	特殊鐵盆の發生……………	一七
地盤……………	一五・九七	鐵嶺……………	四	都市集中……………	一七
鎮江……………	二	デツケン構造……………	一六・二	波頭集落……………	一八
青島……………	二	テナツセリム……………	四	トムスク……………	一八
チンドウイン河……………	四・六	テハラン……………	四	ドラヴィダ族……………	一八
チンチンゲ……………	一五	テライ……………	二〇	トラツプ……………	一八
		デリー……………	二〇	トランスコーカシア鐵道……………	一八
		テルナテ……………	一七	トランスコーカシア……………	一八
		テングル火山……………	一六		
				〔ナ〕……………	
				トランスコーカシア社會主義……………	一〇
				聯邦ソヴィエト共和國……………	一〇
				トランスコーカシア鐵道……………	一〇
				トランスヒメラヤ山脈……………	一六
				トルコ……………	一六
				トルコマン共和國……………	一六
				トレンガヌ……………	一六
				多倫諾爾……………	一〇
				東京……………	一〇
				〔ナ〕……………	
				內蒙古……………	一〇
				內陸流域……………	一〇
				中支那型……………	一〇
				中支那平野……………	一〇
				ナン……………	一〇
				南京……………	一〇
				波頭集落……………	一〇
				トルファン地溝……………	一〇
				天山山脈……………	一〇
				天山南路……………	一〇
				天津……………	一〇
				綏遠……………	一〇
				天日製鐵……………	一〇
				デンボ……………	一〇
				東岸氣候……………	一〇
				洞窟住居……………	一〇
				東山煙……………	一〇
				東山地方……………	一〇
				洞庭湖……………	一〇
				湖南……………	一〇
				トルファン地溝……………	一〇
				特殊鐵盆の發生……………	一〇
				都市集中……………	一〇
				波頭集落……………	一〇
				トムスク……………	一〇
				ドラヴィダ族……………	一〇
				トラツプ……………	一〇
				トランスコーカシア……………	一〇
				天山山脈……………	一〇
				天山南路……………	一〇
				天津……………	一〇
				綏遠……………	一〇
				天日製鐵……………	一〇
				デンボ……………	一〇
				東岸氣候……………	一〇
				洞窟住居……………	一〇
				東山煙……………	一〇
				東山地方……………	一〇
				洞庭湖……………	一〇

南嶺	ノボシビルスク	二六	〔イ〕	ニコライエフスク	二六三	寧安盆地	二七
〔イ〕	包頭	二四	二六	西氣節風	二六	ネグリト	二七
海防	培養線	二五	二六	西ベリア準平原	二六	ネグリセムビラン	二七
海拉爾	彭義平野	二六	二六	日滿工業統制	二六	熱河山地	二七
白音太拉	巴ギオ	二六	二六	日華親善	二六	熱河省	二七
バギオ	バクター	二六	二六	日本絹綃	二六	熱帶農業地	二七
博山	バグダッド	二二	二六	ニルギリ丘陵	二六	ネパール王國	二七
バグダッド	バグダッド鐵道	二二	二六	寧波	二六	〔ネ〕	
巴山山脈	バストラ	二二	二六			寧安盆地	二七
バツヴィア	バツナム	二七	二六			ネグリト	二七
バトナ	河内	二七	二六			ネグリセムビラン	二七
ハバロフスク	ハバン	二七	二六			熱河山地	二七
ババンダヤン	バミル高原	二八	二六			熱河省	二七
バミル結點	巴陽湖	二八	二六			熱帶農業地	二七
巴顏喀喇山脈	バリサン山脈	二八	二六			ネパール王國	二七
バリド河	バルナウル	二八	二六			〔フ〕	
哈爾濱	春時小麦	二八	二六			東印度鐵道	二八
パレイデン	パレストアイン	二八	二六			ビカネル	二八
パンカパン	パンカ山脈	二八	二六			鏡子窩	二八
満海山脈	ハンガイ準平原	二八	二六			匪族	二八
半月狀沃地	萬縣	二八	二六			比馬獨立問題	二八
磐谷	パンジエルマシ	二八	二六			比馬ラヤ山脈	二八
パンジヤブ	バングラ	二八	二六			莽鄉	二八
	バング	二八	二六			ブリトン島	二八
	ハンテングリ山	二八	二六			ビルマ	二八
	バンド	二八	二六			ビルマ造山帶	二八
	〔エ〕					濱湖線	二八
	東印度鐵道	二八	二六			濱綏線	二八
	ビカネル	二八	二六			ヒンズー族	二八
	鏡子窩	二八	二六			ヒンドスタン平原	二八
	匪族	二八	二六			濱北線	二八
	比馬獨立問題	二八	二六				
	比馬ラヤ山脈	二八	二六				
	莽鄉	二八	二六				
	ブリトン島	二八	二六				
	ビルマ	二八	二六				
	ビルマ造山帶	二八	二六				
	濱湖線	二八	二六				
	濱綏線	二八	二六				
	ヒンズー族	二八	二六				
	ヒンドスタン平原	二八	二六				
	濱北線	二八	二六				

フィリッピン諸島	六七・二六
フェルガナ盆地	七〇
福建省	二五
蕪湖	一九
武昌	二九
撫順	四七・五
ブータン王國	三〇
傳家甸	五一
佛領印度支那	一五
フインベン	一五
ブラゴヴエシチエンスク	一六
ブラマプトラ河	一八
普蘭店	一八
ブリヤート人	一八
ブリヤト川モンゴル	一八
ブル島	一八
ブルネイ	一八
ブレリー型	二三・二六
ブロック山地群	二三
分岐	二六
文化の將來者	二七

【ハ】	
平漢鐵道	四〇
平綏鐵道	四〇
平齊線	七一
北票	四六・五
ベグヨマ	四六
ベシヤワル	四六
ペテレヘム	四六
ペテロ大帝灣	四六
パトロバウワフスク	四六
ペナレス	四五
ペナン	四五
北平	四七
ベラク	四八
ベルヒスタタン	四八
ベルリス	四八
ペルーの樹皮	四八
ペンガル川ナグアル鐵道	四八
ペンゲット山脈	四八
ポイチンゾルグ	四八

【ホ】	
奉吉線	七一
奉山線	七一
奉天	四六
楠給地帯	四六
北極族	四六
北星線	四六
浦口	四六
ホタン	四六
保定	四六
ボルトスウエツテンナム	四六
ボロン峠	四六
鶴立岡	四六
ボルネオ島	四六
ホンガイ炭田	四六
本溪湖	四六
香港	四六
ボンツシエリ	四六
ボンツシ型	四六
ボンベイ	四六
ボンベイ川パダグ鐵道	四六
マイコブ油田	四六

【マ】	
買賣錢	一三
マイダンナフチュン	一三
マウルマイン	一三
澳門	一三
マカッサル	一三
マ克蘭	一三
マドラス	一三
マニバ海峽	一三
マニラ	一三
磨坊	一三
マツッカ	一三
馬拉ツカ海峽	一三
マラルバ海岸	一三
マルマラ海	一三
マレー半島	一三
マレー諸島	一三
マレー半島	一三
マレー保護州	一三
マレー聯合州	一三
マロータ河	一三
マヨン山	一三
滿洲國有鐵道	一三
滿洲氣候	一三
滿洲人	一三

滿洲大豆	元	老獨	五二
滿洲平野	三	ラオス族	一元
滿洲里	英六	ラブアン島	七六
[ニ]		ラホール	〇五
南アフリカ	九二	藍蘭	二三
南支那群	一〇	ラングーン	五五
南支那平野	九	深圳	〇八
南滿洲鐵道	七一	蘭州	一四
岷山山脉	八六	蘭領ボルネオ	七五
閩浙海岸	二五	[リ]	
ミンダナオ島	二六	リアス海岸	六八〇
ミンプ油田	二五	陸橋部	六〇
[ム]		陸地棉	七〇
無憂境	一五	陸棚	六〇・六一
無煙炭空地	一七	撿茶農法	六七
ムシ河	一四	隆起珊瑚礁	一五
無錫	六六	隆起準平原	一七
夢澤	六六	龍州	一七
[メ]		龍井村	四五
メアンデル河	三四	柳袋送塔	七七
		遼東山地區	四〇
メコン河	三		
メコン盆地	二三		
メツイデン	九		
メソポタミア	二三		
メダン	一七		
メナド	一五		
メンタウエー諸島	二六		
蒙古	二六		
[モ]			
蒙古	二元		
蒙古高原	二五		
蒙古準平原	二五		
蒙古人	二三		
蒙古族	七		
蒙古包	六		
木村都市	四		
モゴク	四七		
モスル	三四		
モナドノツク	一		
モルッカ諸島	三八・六二・六六・六八		
モロ族	一五・六五		
	七七		
モンズーン型	三		
[ヤ]			
揚子江	一九		
揚子江三角洲	一六		
揚子江流域	五七・七二		
ヤクルト人	一五		
ヤクーツク	六四		
ヤクト人	五九		
亞東	一四		
ヤルカンド	二三		
[ユ]			
順化	五一		
油田聚落	七三		
油房業	六		
ユーラシア大陸	二		
[ヨ]			
鈴岩空地	一八		
ヨーロッパの偏西風	四		
老獨	五二		
ラオス族	一元		
ラブアン島	七六		
ラホール	〇五		
藍蘭	二三		
ラングーン	五五		
深圳	〇八		
蘭州	一四		
蘭領ボルネオ	七五		
[リ]			
リアス海岸	六八〇		
陸橋部	六〇		
陸地棉	七〇		
陸棚	六〇・六一		
撿茶農法	六七		
隆起珊瑚礁	一五		
隆起準平原	一七		
龍州	一七		
龍井村	四五		
柳袋送塔	七七		
遼東山地區	四〇		

【附】支那の都市

今次の支那事變によつて、抗日の支那は親日の支那として建設されつゝある。一つの山も河も湖も、すべての支那の國土は皇軍の進軍によつて明朗化したものであり、樂土の上に新しい支那人の生活が營まれて來たのである。城壁によつて圍繞された大都市も、土壘に圍まれた小村落も、皇軍の貴い血によつて色彩られた新しい姿であることを忘れ得ない。支那の都市に就いては既に記述したのであるが、一括して更に茲に細説をなして、支那研究の一助としたいのである。

(1) 北 支 那

○ 河 北 省

【北京】北京は河北平野の一角に位する政治都市で、遼・金・元・明・清の五朝に亘る九〇〇年間の帝都であつたところで、模式的の支那式城郭都市である。城は内城と外城に分たれ、内城は東西七軒・南北五軒半その周圍は二十五軒に及び、明の永樂年間に改築されたもので、外城は其の後一三〇年を経て明の嘉靖年間に築造された。外城は東西八軒半・南北は三軒半、周圍は二十四軒、その面積は内外城合して八〇方軒に及ぶ。城壁は磚をもつて構築し、内外城を通じて十數個の樓門があり、内城の南門である正陽門を北進すれば舊皇

城たる紫禁城がある。紫禁城の壯麗な建築物を中心として、大和殿・中和殿・保和殿等が連り、北海・中海・南海より成る大液池を中心として、内城は更に東城と西城に分たれる。内城は清朝時代には人種の職業的地域を分つて漢滿蒙の八旗が分駐し、現在はこの内城の東南隅に外國公使館等の存在する東交民巷がある。

遼・金・元・清等はすべて北方から侵入して河北平野に都したもので、その位置が偏在的であるが歴代の帝都であつたのは、地卜的の見地からであるといふ。外城の築造は都市の發達によつてなされたもので、現在城郭内の人口は約一〇〇萬、城郭外の人口五〇萬を合して北京特別市が形成される。職能的には政治を中心とした文化機關が都市構成の核心で、その他日用品の家内工業が行はれる。都市景觀の特色として、漢文化のもつ固有景觀が歐化された都市としての特色の中に、日本文化が如何にこの都市を改變してゆくかは興味ある問題である。北京から京山線・京漢線・京包線(北京—包頭)京古線(北京—古北口)等が起り、滿洲及び内蒙古地方との取引が行はれる。

北郊外には、明・清兩朝の離宮であつた萬壽山があり、之に近く深山幽谷の温泉避暑地湯山がある。歷朝の夏の離宮として知られたもので、現在は別莊地として著名である。北京の南西の五台山麓には、清朝の帝陵地である所の西陵がある。

【天津】天津城の築造は明の永樂帝の初期で、北京を明の首都となすに及んで、南方の廣東・福建・江西等より多數の商賈人が來住して商業上の中心地をなすに至つた。天津の開港は一八六一年のことで白河・大運

河等の水系の會合點に位し、北京の外港として發達した。天津は白河の河口より七〇軒の上流に位し、天津附近の河幅は約一〇〇m、水深は四m位であるから決して良港ではない。けれども北支の經濟都市として重要性を有することは、北京に從屬した港市であり、北支那平野・山西台地・內蒙古の諸地方を後背地とした點にある。輸出品は棉花・獸皮等で、絹絲・綿布・麥粉・石油等の輸入が多く、貿易上は常に輸入額が超過してゐる。

鐵道及び舟運の中心にあつて、紡績・製粉・製油・日用品雜貨等の工業が發達し、北支那第一の工業都市となつた。開平炭の産地に近く、北支經濟開發の先驅をなして工業の發達が期待される。市街の南東部には外國租界があり、塙・露・白・獨等の租界は回收され、現在日・英・佛・伊等の租界がある。北西部は支那街で、舊城内を圍む城壁は全く撤去され、東西南北の大馬路が存在する。人口は約一〇〇萬。

【大沽】白河の河口右岸にある港で、遠淺の海岸であるので商船は沖合に碇泊する。市街は東沽・西沽の二區に分たれてゐる。

【塘沽】白河河口の北岸に位し、對岸の大沽と相對して天津の咽喉部を扼す港。北支の開發が進捗するに従つて、この河港の重要性は増大するであらう。

【開平】河北省の北東部に位する炭田地で、灤河右岸にある灤州に續く開灤炭田の炭坑聚落である。英國の投資によるもので、その埋藏量は三億餘噸に及び、年々三〇〇—四五〇萬噸の産出がある。

【泰皇島】もと海岸の一小島であつたが、現在は陸地に續いてゐる。不凍港で一八九八年以來開港場となり開港炭の移輸出が行はれる。白河の結氷期間は天津の補助港となり、築港が行はれて重要な港市となつた。

【山海關】萬里長城の東端にある關門で、松嶺山脈が海に没するところに位する。滿洲と支那との境界に立つ要害で、樓門には『天下第一關』の文字がある。滿洲の奉山線と支那の京山線がこの地で連絡され、市街の人口は約三萬ある。

【註】滿洲國の接境地帯。昭和八年日滿軍が熱河作戦を敢行した際に、我が軍は長城線を越えて北支平野に進出した。こゝに於いて支那との間に塘沽停戦協定が成立し、長城以南の地帯に非戦地区が設定された。この地帯は塘沽の北方に位する順台から北西に向つて寧河・香河・通州・昌平等を結ぶ一線以北の地であつた。次いで昭和十年十月、この地帯内の香河縣に農民運動が起り、民衆は香河縣廳に殺到して遂に自治宣言を發した。こゝに於いて殷如耕は自治政府を組織して中央より離脱し、親日滿の冀東防共自治政府を樹立した。宋哲元一派も國民黨反對、北支自治を宣言して冀察政務委員會の成立を見たが、次第に軟化して全く南京政府の支配を受ける様になり、遂には抗日排日の第一線となつて、宋哲元の軍隊によつて蘆溝橋事件が起された事は如何にも皮肉である。それだけにこの滿洲國の接境地帯としての特色に意義があるわけで、昭和十二年七月七日、支那軍の不法發砲によつて生じた蘆溝橋事件は、第二の柳條溝事件となり、サラエボの一彈と化したのである。

【通州】北京の東方にあつて白河に面し、鐵道開通前は米穀を北京に輸送する白河舟運の河港として發達したところで、現在もジャンクを通じてゐる。今次事變に際して多數邦人の虐殺されたところで、冀東自治政府の所在地であつた所である。

【居庸關】河北省と察哈爾省との境にある關で、五台山脈の延長部である南口山脈の鞍部に相當する。小谿の南が南口で、續いて居庸關、更に上流に上關があり、居庸三關の稱がある。

【南口】北京の北西三〇軒の地にあり、居庸三關を経て北支平野に出る所にある。上古匈奴の侵入を知らせる爲の狼煙台のある所として知られ、京包線の一驛として經濟的にも重要で・羊毛・柿・粟等を集散する。

【涿州】京漢線の要驛で史上に著れ、漢代の涿郡で唐以後涿州と呼ぶ。城壁に圍れ人口約三萬。

【易州】京漢線の一驛高碑店から西陵に通ずる線上にあり、白河の支流易水に面してゐる。雜穀・藥草・煙草・石炭等を集散する地。人口一萬餘。

【保定】京漢線に沿ふ要地で人口二五萬、明代に築造した城壁に圍まれてゐる。清代には直隸省の省城が置かれ、軍官學校・兵營等の所在地として有名であつたところである。附近の沃野に生産する棉花・雜穀等の取引をする中心である。

【正定】城郭市で滹沱河北岸にある形勝の地。城門外の隆興寺には隨代の創建に成る大佛がある。人口は約二萬で活氣乏しく、城内にも田園がある。

【石家莊】太原に通ずる正太線の分岐點にあり、井陘・臨城等の炭田に近く、紡績・硝子・煙草等の工場があり、人口は約一萬である。

【順德】太行山脈の山麓にある城都市で、扇狀地上に發達してゐる。人口は約一〇萬あつて、山西の地に産

出する羊毛・皮革等の取引が盛んに行はれる。

【滄州】 津浦線と大運河による交通が便で、農産物・長蘆鹽の集散地である。その北方に位する青縣と共に鹽田の中心地で、海岸地方の蘆草を燃料として製鹽する爲に、長蘆鹽の稱がある。人口は約四萬。

○山東省

【德州】 山東省北部の都市で、天津より二三七軒の位置にある。大運河の交通によつて發達した港市で、農産物の集散の爲に繁榮した町である人口は約二萬。

【濟南】 濟南とは黃河の南の意義で、北支平野の一角に位する城都市である。城郭は内外の二城から成り、外城の周圍は一二軒、城壁の高さは八m、堂々たる樓門を有してゐる。内城の北部には、古來文人墨客の舟遊に知られた大明湖が横はり、市街地の各所には清水の湧出が著しい。津浦・膠濟兩鐵道の分岐點で重要な位置にあるから、山東政治の中樞となり、英米人等によつて種々の文化事業が營まれたのである。教育機關としては齊魯大學及び廣知院があり、邦人の事業としては濟南病院がある。製粉・紡績・セメント等の工業が發達し、棉花の改良や、米國種煙草の耕作等が行はれてゐる。北支平野の政治・經濟上の中心であるばかりでなく、山東半島に對する要地である。

【周村】 膠濟沿線の市場で、柞蠶絲・ガラス器・麥稈眞田等の集散地で人口約四萬。

【淄川】 淄川炭坑の所在地で、俗惡な炭坑町である。

【博山】 山紫水明の地にあつて、山東第一の工業都市である。淄川・坊子・博山等を包括した大炭田は、その埋藏量一〇億噸以上と推定せられ、この石炭の利用によつて工業が發達し、ガラス・陶器等の産出が多い。人口は約五萬である。

【青州】 膠濟線の一要驛で、明代には山東の首都であつた爲に立派な城市である。絹紬の取引に知られ、豆油・豆粕・生牛・皮革・乾柿等の集散が多い。人口は凡そ五萬。

【濰縣】 膠河地溝帶の要地に位し、坊子街道・壽光街道・蒙陰街道等の集中點で、古來商業が發達した。人口は約八萬、大豆・小麥・落花生・生牛・豚毛等を取引し、商家櫛比、雜沓を極めてゐる。

【龍口】 山東半島北岸の開港場で、山東苦力の一出發地である。港内水淺く、ジャンクの出入がある位で、冬季は結水する。

【芝罘】 支那人は煙臺と稱し、芝罘半島の突出と前方に横はる崆峒島が存在によつて、自然的の良港灣をなす。一八五八年の天津條約によつて開港以來、一漁村に過ぎなかつたこの地は大いに繁榮して、山東の一門戸となつた。滿洲國に對する港で苦力の根據となり、繭紬・柞蠶絲・ヘアーネット等の移輸出が多い。青島の發達と膠濟鐵道の開通によつて、この港市の勢力は衰へたが、ジャンクの來往は依然隆盛である。

【威海衛】 芝罘の東約二〇軒の地にある良港で、その名の示す如く支那海軍の根據地であつた。日清戦争に

八
際して我が軍はこの軍港を占領したが、後、英國は一八九八年支那より之を租借し、露の旅順及び獨の青島に對抗した。日本が青島を支那に還附した際、英國も還附を聲明し、昭和六年租借地の還附を實行した。

【青島】 一八九七年山東省の兗州でドイツ人の宣教師が殺害されたのを機會に、ドイツ東洋艦隊は大舉してこの地を占領した。この港市の地理的位置の重要なことは前述したのであるが、その經營に留意するならば北支第一の外港であることは、リヒトフオーヘンの言に據るまでもない。世界戦争に際して、我が軍は一九一四年之を軍事的に占領し、その經營をなしたのであつたが、華府會議の結果之を支那に還附した。

ドイツの經營は十七年間であつたが、兗山には植林が行はれ水源地を造り、海岸地には松樹、公園地には櫻樹を植えて都市の美化を計畫し、整備した港市が建設された。西海岸北部の大港は大船の繫泊する所で、別に支那船の泊する小港がある。山東並に北支の物資を集散する港として、又北支に於ける近代的工業都市として、今次事變後の繁榮は期して待つべきものがあらう。市の北東に位する嶗山は支那古來の名山で、青島附近の避暑地として有名になつた。

【泰山】 泰山は一四五〇mの高度を有し、泰安の北方に屹立する名山である。筑波山が關東平野の中にあつて名山となつた様に、泰山は北支の大平原中にあつて偉觀を呈する。『國を泰山の安に置く』といふのは、この平原中に存在する山容を示してゐる。泰山を東岳と稱し、山西省の恒山を北岳、河南省の崇山を中岳、陝西省の華山を西岳、湖南省の衡山を南岳と稱し、所謂支那五岳として知られてゐる。特に泰山は歷代帝王が

天地神明を祭られたもので、支那人一般の信仰が頗る大である。

【曲阜】 濟南の南方鐵路に沿ふ要驛で、驛の東方にある曲阜城の一部に孔子の聖廟である大成殿がある。聖廟は魯の哀公に始ると言はれ、正面の大成殿は清の雍正二年に起工されたもので最も壯麗である。曲阜は孔子の生地であり、そして又終焉の地である。城北に位する至聖林は孔子及び子孫の墓地で、松柏の森に包まれてゐる。

○河南省

【開封】 北支文化の源は黃河流域で、扇狀地の形態をなす大三角洲——北支那平原の頂點に位してゐる。五代並に宋の首都となつたこともこの地の位置の重要性を物語るもので、人口二〇萬、河南省の省都である。雄大なる城壁を繞らし、宋の宮殿の遺蹟である龍亭、其の他磁磚より成る十三層の高塔、黃河岸の應天府等舊蹟が多い。黃河の水害或は掠奪等の難を蒙つたことが多く、幾度か衰頹に歸したが、經濟上の中心として復興したのである。附近は低平で各地に沼澤地が存在し、天然曹達(炭酸ナトリウム)の産が多い。昔時海灣の一部であつた爲に、鹽分が土中に保存せられ、地表の乾燥によつて地中から吹き出すものである。

【鄭州】 京漢線と隴海線の交叉點にある交通都市で、米・棉花の集散が盛んである。一九〇五年開市場となり、輸入貨物の取引が多い。鄭州は後周の帝都であつたところで、古來陶器の名産地である。今次の事變に於

いて、徐州と鄭州を結ぶ線は、北支に於ける支那軍の據點であつたもので、黄河の堤防を決潰して我が軍の進出を防いだ。人口は約二萬。

【信陽】 平漢線上の要地で、棉花・大豆等の集散地。南に横はる大別山脈に武勝關トンネルがあり、湖廣盆地に連絡される。人口約三萬。

【河南】 古の洛陽の地で、周・漢・西晋・隋・唐等の國都であつた。附近には白馬寺・禪那寺等の名勝蹟多く、黄河河谷から中原に出る要地にあることが知られる。現在の人口は僅に二萬である。

【函谷關】 洛陽から潼關に至る間を函谷と稱し、その隘路に函谷關がある。靈寶に近く存在するものが秦時代のもので、孟嘗君が鶏聲を真似て關を出たところで、漢時代の函谷關は新安にあるものを指した。

○山西省

【安邑】 運城とも稱し、夏歴代の都であつたところで、後に魏の都ともなつた。河東鹽の產地。

【平陽】 黄河の支流汾水の左岸にある城市で、汾水舟航の終點である。同蒲鐵道開通以來商業盛んになり、この地方の經濟上の中心である。

【太原】 山西台地の略中央にあり、恒山・太行等の諸山脈に囲まれた汾水の盆地北部にある。その地の高度は七八〇mで、明代築造の城壁を繞らしてゐる。山西モンロー主義を持してゐた閻錫山の居たところで、政

治上の中心であると共に教育の中心であつた。法・文・理・工の各學部を有する山西大學、其の他高等師範や専門學校等が設立されてゐる。人口は二五萬あつて山西の經濟都市となり、支那の各地に出稼する山西商人の故郷である。附近には石炭・銅・鐵等の鑛産が多く、特に炭田の分布が多い。

【雁門關】 太原より忻州を経て桑乾河流域の大同に至る關門で、句注山の隘路を扼し、古來中原防禦の要衝であつた。

【五台山】 中國五大山の一つで、恒山山脈の連峰が五つ屹立する爲に五台山といふ。地質學上特に著名である五台層の露頭地で、山上に大伽藍がある。

【大同】 山西台地の北部にある大同盆地中の都會で、永定河の支流桑乾河の上流にある。盆地は古い地質時代に湖盆をなしたところで、曹達・加里等の鹽類の産がある。大同は海拔一三〇〇mにあり、正方形の城壁に圍まれてゐる。京包線の要驛として著名であり、高粱・粟・小麥・大豆・羊毛・皮革等を集散する。附近には各地に炭坑が存在し、運炭用鐵道によつて大同に送られる。(この附近は蒙疆地區に屬してゐる)

【雲岡石佛】 大同から西力二五杆の地にある雲岡は、北魏時代の石佛が多數存在するので有名になつた。之を學界に紹介したのは伊東工學博士で、その大なるものは三〇餘、小さな洞中にあるものは萬に達するであらうといふ。

○陝西省

111

【潼關】 秦嶺と山西高原の相迫るところが潼關で、渭水盆地の門戸を扼す關門である。東方鄭州へは三六〇軒、西方の西安へは一三〇軒、隴海鐵道によつて結ばれる。

【臨潼】 西安の東にあり、渭水の要津である。臨潼は小城市をなし、南門外の驪山々麓には温泉があり、楊貴妃の華清宮の遺跡であるといふ。

【西安】 古の長安の地、秦・漢・隨・唐の國都であつたところで、隨・唐時代の長安は現在の西安に六倍し、その人口は一五〇萬に達したといふ。現在の西安城は東西に長い長方形の城壁に圍まれ、四門を通じてゐる。附近には舊蹟が多く、大雁塔の雁塔、隨の無漏寺、秦の阿房宮址、秦の咸陽城址等がある。穀物・棉花・煙草・羊毛・皮革等の取引が行はれる。

漢民族はその初め、渭水盆地を中心として活躍したもので、東洋文化の曙光は先づこの地に發した。今は支那の政治・經濟的中心より離れ、只昔時の跡を尋ねるばかりである。然し隴海鐵道が更に西方に延長し、この地の經營に留意するならば、再びこの地の發達も見られるであらう。

【漢中】 秦嶺と大巴山脈との間に存在する盆地にあり、漢水上流の沃野を占める。棉花・絹織物等を産し、四川並に湖北の地と渭水盆地の中間にある地域である。漢の高祖がこの地に都した事や、諸葛孔明がこの地を

根據として魏と戦つたことは、その孤立的の地形を利用したのであつた。

○甘肅省

【秦州】 甘肅の南東部、渭水の上流に位する商業市である。その位置が渭水盆地と漢中盆地と更に嘉陵江によつて四川盆地に通ずるのみでなく、西域路に結ばれてゐる爲に貿易商の根據地であつた。人口は約四萬、貴重獸皮の取引が盛大である。

【蘭州】 潼關から西安・咸陽・邠州・長武を経て甘肅省に入る蘭州街道は、靜寧・西定を経て蘭州に達してゐる。歐亞連絡路として重要であつた西域路に位する要地で、人口約一〇萬、羊毛・皮革・氈毯・藥等の集散が行はれる。この地は偏境の蠻界であるに拘らず、夙に文化も發達し、支那政府は古來要人を駐在せしめてゐた。現在回教徒の住するものが過半を占めてゐるが、商業上の實權は漢族にある。

【涼州】 蘭州の北西部にある城市で、沙河流域のオアシス中に位してゐる。新疆に至る隊商路の要地で、農産物・畜産物の取引が多く、市況繁盛である。人口は約五萬。

【註】 萬里長城 支那の大工事として著名なものは、萬里長城と大運河とであらう。萬里長城は秦の始皇帝が北狄の侵入に備へる爲に築造したものと云はれ、その前身は更にそれより二三〇年前に秦の宣太后に始められたといふ。東は山海關に起り、西は甘肅省の嘉峪關西方に終る間、山嶺や路を渡つて長蛇の如く續いてゐる。山西省に於いては二重に築造せられ、長城の總延長は實に三二〇〇軒に達してゐる。この大境界は城郭思想の擴大に起原するもので、外敵防禦の必要に迫られて建設された人為的境界である。従つてその築造は決して短期間に

一四
完成されたものではなく、趙・燕等の造つた城壁を利用して、始皇帝が一連の城壁としたもので、其の後も幾十度か修築を重ねて今日に至つたのである。長城の構造や大小は各所に就いて異つてゐるが、南口附近では、その高さ八m餘、頂の幅は四m餘あり、ある一定の間隔を置いて望樓が設置されてゐる。

(2) 内 蒙 古

【蒙疆地區】 内蒙古獨立運動は、蒙古民族が漢人からの支配を脱しやうといふ民族運動である。殊に滿洲國の獨立以來、この地方の自治獨立の運動は盛んになり、一九三三年には内蒙古自治政府を組織し、徳王の名によつて國民政府に自治を要求した。然し自治も有名無實の有様で、南方に位する察哈爾・綏遠兩省よりの壓迫が大で、蒙古人の要望は達するを得ない状態であつた。昭和十二年七月支那事變が勃發するや、蒙古軍も皇軍の作戦に呼應して軍事行動を起し、同年十月厚和を中心とした蒙古聯盟自治政府が成立した。かくて同年九月張家口を中心として成立した察南自治政府と、十月大同を中心として成立した晋北自治政府は、遂に蒙古聯盟自治政府と結合して同年十一月蒙疆聯合委員會を結成し、所謂蒙疆自治政府を設立した。

○察哈爾省

【懷來】 北京の西北部に横はる南口山脈の北側にある地溝中にあり、懷來盆地の中心である。樹木の乏しい黄土盆地にある城都市で、葡萄を名産としてゐる。人口凡そ一萬。

【張家口】 蒙古語ではカルガンと稱し、外蒙古との交通貿易に知られた都市である。萬里長城の關門に位し蒙疆聯合委員會の所在地である。一九〇二年開市場となり、羊毛・皮革・毛皮・小麥・雜穀等の取引が多く、春秋は特に盛である。京包鐵道はこの地を経て大同盆地に入り、平地泉・厚和を通つて包頭に達してゐる。人口は約一〇萬である。

【宣化】 張家口南東にある京包線の一要驛で、永定河上流の洋河岸にある。人口は約三萬あつて、市街は方形の城壁に圍まれてゐる。

【多倫諾爾】 張家口地方にある市街で、喇嘛廟と新廟の兩大寺がある。この寺院がある爲に發達した町で、内蒙古に於ける宗教・政治の中心である。多倫諾爾は蒙古語の七湖の意で、もとは湖沼の存在する所であつた。人口は約三萬あつて、畜産物の集散が行はれる。

○綏遠省

【豐鎮】 平地泉の南にある都市で、人口は約五萬に達する。京包線の一要驛で農産物の集散が多く、又鹽の産地である。

【平地泉】 京包線に沿ふ商業都市で、麥・菜種・亞麻仁・羊毛等の集散地である。外蒙との貿易も盛大となり、近年著しい發達をなした市街で、人口は約二萬である。

【厚和】 歸綏と稱した所で、歸化城と綏遠城とから成る雙子市である。人口は約一〇萬あり、蒙古聯盟自治政府の所在地である。歸化城の市街は商業上の中心で、この地方に産出する農産や畜産の集散がある。一九一四年支那政府が開いた開市場であるが、外國との貿易は餘り見られない。住民上からは、漢族と蒙古人の雜居地である。

【包頭】 京包線の終點で、黄河舟運の中心をなしてゐる。その港を南海子と呼び、黄河上流の寧夏・甘肅の地方から羊毛・皮革の輸送が多く、その集散地である。人口は約一〇萬で、市況は極めて殷盛である。

○寧夏省

【西蒙古】 額魯特蒙古とも稱せられ、額魯特人の居住するのが西蒙古である。一九二八年この地を一省となし、甘肅省の一部であつた寧夏を中心として設けられた。住民は南東部に漢族が多く、西部には蒙古人の遊牧民が多く、支那化したトルコ族も居住してゐる。聚落も支那式のものが多く、支那人の開拓によつて農牧の業が発達したのである。

【寧夏】 黄河水運の終點で、舟運によつて包頭に結ばれる。清代には寧夏府と稱し、蒙古に對する防禦上重要な地であつた。人口は正確でないが凡そ五萬位であらうと言はれ、黄河岸の沃野にあつて米を産し、農牧の産物を集散する。寧夏の羊毛は柔かで長く、光澤がよいので知られてゐる。

(3) 中 支 那

○江蘇省

【徐州】 津浦・隴海兩線の交叉點に位し、交通・軍事・經濟上の要地である。一九二二年支那政府は之を開市場として開放し、商業上の中心をなすに至つた。市街は城壁で圍まれ、附近には平地から突出する丘陵が存在し、支那軍が今次事變に際して北支に於ける一大據點であつた。附近はさまで沃野ではないが、穀物・落花生・豆油・豆粕・牛皮等を集散する。

【海州】 一に東海と呼ばれ、人口は三萬である。隴海線の東起點となし、濼河下流の大浦が海州の外港であつたが、近時東方に連雲港の築港がなされ、青島——南京間の商港たらしめんとしたものである。

【連雲港】 大浦は水深が小で良港でなく、その爲に連雲港の築港が計畫せられ、一九三二年その建設に着手した。海州より鐵道は連雲港に延長し、事變前よりその利用が行はれてゐる。

【清江浦】 淮河と大運河の交通上の要地にあり、江蘇省に於ける江北の市場として知られてゐる。人口は凡そ八萬、農産物・鹽等の取引が多い。

【揚州】 大運河の西に沿つた市街で人口は一〇萬、古來水運の要地である。隋の煬帝が江都宮を置いて遊樂を恣にしたところで、蘇州と共に美人の産地として著名である。揚州城北の仙女廟は米の産地、揚州には

鹽商多く、揚子江北岸の瓜洲は鹽輸送の中心地である。

一八

【通州】 揚子江下流北岸の都市で人口は約四萬、通州棉花の產地として有名である。

【上海】 上海の發達に關しては、既に中支那の地誌に説明した。上海發展の中核をなしたものは南市であつて、こゝは支那型の一城郭市であつた。それが一八四二年の開港以來一大躍進を遂げ、東洋屈指の支那最大都となり、この國の經濟上の中樞となつた。現在の上海市域は八九〇方呎に及び、北は吳淞の外港から黃浦江東岸の浦東を包括し、人口三七〇萬の大上海市が實現した。現在支那の中樞をなすものは揚子江流域の沃野で、この廣大なヒンターランドと、自然の大水路をもつ上海は、全く卓絶した發展の要素を具備するものと言つてよろしい。

黃浦江岸——バンドの繁榮は、實に上海に於ける貿易の發達を示すものであり、江岸には宏壯建築が軒を連ね、商業及び金融の中心機關が集中してゐる。之に接した南京路は小商店・百貨店等多く、商店街をなすものである。上海の港灣は公營の岸壁及び倉庫等の設備なく、各國の會社は何れも一區劃を占居して貨客の昇降を許す結果、無數の棧橋・倉庫が立並んで特色ある上海港灣を形成したのである。

租界には共同租界・フランス租界があり、共同租界は黃浦江屈曲部北岸に、フランス租界は共同租界と上海城の中間にある。イギリス租界と米國租界はもと別々であつたが合體して共同租界となり、我が國も日清戦争後租界を設置して之に加はり、共同租界の面積は二二・六方呎に及ぶ。フランスは行政方針が異なる爲獨

立の租界をもち、主に住宅地となつてゐる。支那側の行政區劃である閘北と南市は支那人の居住地で、閘北は北停車場を中心とした所で、今回の事變の爲大部は破壊された。南市は純然たる支那街で、城内と更にその南部に續いてゐる。浦東には工場が多く、其の大部分は外國人の經營によるものである。

【吳淞】 今は大上海市の一部で、上海出入船舶の潮待港である。上海港に從屬した開港場で、江上防備の爲砲台を置いたところ、昭和七年の上海事變にも今次事變にも我が軍の占領するところとなつた。

【大場鎮】 上海閘北の北西にある市街で人口は約三萬、昭和七年にも激戦が行はれたが、昭和十二年十月上海攻撃の大激戦が展開せられ、幾多將兵の貴き犠牲と勇猛果敢な攻撃によつてこの支那軍の一大據點を占領し、上海攻略は完成したのである。大場鎮の北東にある廟行鎮は昭和七年の上海事變に知られたところで爆彈三勇士の名は不朽のものである。

【蘇州】 海上と南京を結ぶ海南線の要驛で、吳の國都であつた地である。廣大な城壁を繞らし、上海・杭州・鎮江を結ぶ運河を通じ、水利四通八達の地である。従つて古來市況繁盛を極め、絹織物・漆器・銀銅細工其の他の美術品を出し、人口五〇萬を有する藝術都市として知られたが、上海に勢力を奪はれて運河交通による港である蘇州は活氣を失つてゐる。

【無錫】 蘇州の北西にあつて、大運河・海南線を通じてゐる。沃野の中心にあるので、農産物の取引が多く、近時工業の發達が著しいものがあつた。人口は約二〇萬である。

【鎮江】 揚子江と大運河の交叉點にある開港場で江蘇省の省都である。絹織物・米・漆器等の集散があり古くより繁盛な港であるが近時は運河交通の衰頹に由來して貿易も振はない。附近に金山寺・焦山寺・甘露寺等の名勝地がある。

【南京】 上海より鐵路三一〇軒、我が軍の占領前中華民國の首府であつたところ、人口六〇萬を有する城郭都であつた。紫金山其の他の古生層より成る丘陵が四周を繞らし、玄武湖・護城河・揚子江・夾江等に圍まれた天然の要害地である。されば度々帝都となり、楚の金陵邑、吳の孫權が都した建業、東晉及南朝の建康、明の應天府等はこの地である。明の太祖がこゝに都したのであるが、永樂帝に至つて都を燕京に遷したので、燕京の北京に對して南京と稱した。其の後は衰頹に歸したが、一八九九年下關の地を開港となし、一九二八年國民政府は之を首都と定め、政治並に教育・軍事等の中樞として發達した。生産は乏しいが絹織物・綿織物の産多く、特に南京縐子と稱する縐子・縐子の産は著名である。對岸の浦口は一九一四年以來の開港場で津浦線の終點に位し、下關との間に連絡船がある。現在は南京特別市の一部に編入された。

○浙江省

【嘉興】 上海と杭州を結ぶ海杭線に沿ひ、大運河の舟運の便を有する爲古來商業の中心である。人口は約六萬、米・生絲・絹織物の集散が多い。杭州灣岸の敵前上陸に知られた金山衛は、この都市の南東海岸に

位してゐる。

【杭州】 杭州灣の三角江頭にある都市で、下關條約により一八六一年以來開港場である。市街は城壁に圍まれ、その西方に名勝地西湖があり、風光明媚を以て知られ「支那の公園」の稱がある。物産には絹・絲絹織物・茶等が多く、扇子の製造も重要工業の一である。マルコポーロによつて稱せられたところ、南宋の都臨安府の地で、『天に天堂あり下に蘇杭あり』とその美を謳歌される位で、觀光客の來遊する者が多い。

【紹興】 杭州灣の南岸にあり、寧波運河の岸に沿つた市街で、堅牢な城壁を繞らしてゐる。春秋時代越王勾踐の都した處で、附近に有名な會稽山がある。支那全土に送られる紹興酒の醸造地で、錫箔・茶・棉花・生絲等の出産も多い。

【寧波】 日支の古代交通に知られた都で、遣唐使の往來やヨーロッパの船舶の來航するものも多かつた。南京條約によつて開港場となつたが、外國との關係は少なく國內貿易の中心として繁榮してゐる。所謂浙江財閥の本據をなすもので、上海附近に於いて財界に勢力を有する者の郷國である。市街は甬江岸に位し甬杭甬線（海杭線）の終點にあり、人口は約二〇萬、紡績・織布・莫崖莫大小等の家内工業が盛である。

【定海】 舟山島上にあり船舶の來往繁く、揚江江口にある商業地である。人口は約三萬。

【温州】 浙江省東岸のリアス海岸に位する開港場で、甌江に沿ふ港市で、甌江流域を背域としてゐる。絹織物・皮椅子・竹細工・橘柑等の産がある。人口は約一〇萬、温州蜜柑の名は世既に著名なものである。

○安徽省

二二

【蚌埠】 淮河畔にあり、津浦線の開通以來發達した町で開市場となつた。小麥・大豆・高粱・油種子等の農産物を集めて浦口に送る要地で、船運と鐵道による交通都市である。人口は約二萬。

【鳳陽】 明代には太祖の出身地として知られ、明の皇城の跡、太祖の父母の孝陵等歴史上の遺跡が多い。米・煙草等の農産が多く、市街の人口は三萬である。

【亳州】 安徽省西北部の重要都市で、人口は約一〇萬である。農産物及び畜産物の集散が多い。

【蕪湖】 一八七六年英清條約によつて開港場となつたところで、人口約二三萬、蚌埠と共に安徽省に於ける重要な港である。市街は城内・城外・租界地の三區に分たれ、城内は純然たる支那街をなし、皖南平野を背域とした商業都市である。特に米穀の集散に名高く、其の他雜穀・菜種・豌豆・麥類の集散が多い。

【安慶】 安徽省の首府で、人口は約五萬である。市街は城壁に圍まれ、織物・雜貨・藥劑等の商店が多く皖南平野の一中心地であるが、その發展は餘り見られない。然し官衙・學校の所在地で、此の地方で文化の中心をなしてゐる。

【宿松】 泊湖の北西部に位した都邑で、煙草の産地である。

【徽州】 安徽省の南境にあり、松煙壘の産地として名高く、徽墨とせ稱られる。人口は凡そ三萬。墨・筆

等の商人として他郷に行く者が多い。

○江西省

【湖口】 鄱陽湖の水が揚子江に注ぐ口の東岸にあり、江西盆地の咽喉を扼する要地であるから、砲台が設けられ軍事上の據點をなした。

【九江】 揚子江岸に位する城郭都市で、一八六一年開港場となつた。南潯線によつて南昌の省都に連絡し麻・苧麻・茶・煙草・陶磁器等の移輸出が行はれる江西省の外港である。白樂天の詩に名高い琵琶亭の遺址廬山の避暑地等の名勝地が多い。

【廬山】 九江の南西に蟠居する地。山脈で、五老・香爐・雙劍・鶴鳴・蓮花等の諸峰が屹立し、その周圍は一五五呎、高さは一三〇〇mに達してゐる。北東—南西の方向に連る山列から成り、鄱陽湖と揚子江の連る低地を望み、古來支那の名山として著名である。山上の牯嶺は海拔一一〇〇m、避暑地として名高く、國民政府首腦部の會議である廬山會議の開催地をなした。

【德安】 南潯線の一驛で、激戦の後皇軍の占領するところとなつた。茶・紙等の集散が多い。

【南昌】 贛江岸の港市であるばかりでなく、南潯線と浙贛線によつて九江及び杭州に連絡される。人口三〇萬を有する江西省の首府で、南北に長い長方形の城壁に圍まれてゐる。彭蠡平野の經濟上の中心で、商業

二二

殷盛を極め、米・茶・磁器等の市場である。

二〇

【景德鎮】 鄱陽湖の東部にあつて昌江に沿ひ、唐代には昌南鎮、宋の時に景德と改めたところである。人口は約三萬、古來陶磁器の産に名高く窯業の中心である。日本其の他の陶器に壓倒されて昔日の隆盛は見られず、依然舊式の窯法によつてゐる。

【萍鄉】 江西省の西境にある小聚落で人口は約一萬、小盆地中にあつて袁江炭田の中心である。この大炭田の東部には安源炭田があり安源がその中心をなしてゐる。萍鄉を含む大炭田の埋藏が五億噸と稱せられ、中支に於ける工業發達の源をなすものである。

【贛州】 江西省南部の重要都市で人口一〇萬、米・雜穀・煙草・砂糖等の産多く、商取引は汕頭・廣東方面との間に行はれる。

○湖北省

【武穴】 湖北省東端の揚子江北岸にある河港で、人口は約三萬、麻・油類の集散地である。

【黃州】 揚子江左岸の小都市で、煙草の産地として名高い。この近くに蘇東坡の赤壁の賦に知られた地があり、東坡の赤壁と稱せられる。

【大冶】 大冶は滄源湖岸の小聚落であるが、その北にある大冶鐵山は中支に於ける一大富源をなすもので

ある。その發見は一八九〇年のことで、獅子山・紗帽翅山・鐵山等の鐵山があり、漢冶萍煤鐵公司の經營に屬し、我が國にも年々鑛石を送つてゐた。その埋藏量は一億噸と言はれ、二疊石炭化の石灰岩と花崗岩の接觸部に生じた磁鐵鑛で、鐵分は六〇——六五%の富鑛である。揚子江岸の石灰窯は鑛石輸送の門戸で、鐵道によつて鑛山に連絡されてゐる。

【漢口】 天津條約によつて一八六一年開港場となり、漢水と揚子江の會點にあり、京漢線・粵漢線によつて北支・南支に結びつけられ、海洋航行船廻行の終點にあるといふ地理的諸條件を具備した位置にあるから貿易は年と共に發達を來して支那中部の大都となつた。漢口の人口八〇萬、武昌の人口は五〇萬、漢陽の人口は三〇萬で、武漢三鎮の總人口は一六〇萬以上となる。漢口の輸出品は茶・棉花・鶏卵・胡麻・皮革・桐油等が多く、輸入するものには米・小麥・綿織物・石炭等がある。市街の北東部には日・佛兩國の租界があり、南西の大部分は支那街をなし、街路は狹隘を極め不規則な狀態であつたが、近來は次第に改められて立派な市街となつて來た。工業も漸次發達を遂げて紡績・生絲等の大工場があり、家内工業も盛んである。

【漢陽】 武漢三鎮の一で、漢口とは漢水を隔て、對し、武昌とは揚子江を隔てゐる。漢冶萍公司の製鐵所、兵工廠・磚茶製造所等があつて工業都市であるが、商業上には見るべきものがない。大別山の南に城市があり、兵工廠・製鐵所は大別山の北にあつて漢水に面してゐる。

【武昌】 揚子江右岸にある都市で、湖北省の政治の中心である。市街は城壁に圍まれ、省政府・兵營・武

漢大學等がその内部にあり、政治都市として發達したもので商業は餘り盛でない。近來城門や城壁等を撤去して市街の景觀を一變せしめ、都市計劃が實行されてゐる。揚子江岸は工業區をなし、織物・紡績・製麻等の工場が並んでゐる。蛇山が江に接するところが黃鶴樓の跡で、其の他名所舊跡が多い。

【沙市】漢口の上流約三八〇軒の地にあり、下關條約の結果我が國の要求に應じて開港した港である。四川省の物産を取引する港市であつたが、宜昌の開港以來その特色は失はれんとしてゐる。市街は江岸に細長く延びて存在し、米穀類・棉花・桐油・麻・綿布・絹織物等この地の商品は種類が甚だ多い。

【荊州】沙市の北西にある小聚落で人口は約五萬、江陵と稱せられる。古來軍事上の要地で、春秋の楚の郢都の地、赤壁戰後劉備この地にあつて四川を經略したこともある。米・棉花等の集散が多い。

【宜昌】揚子江の北岸にある港市で人口は一〇萬、一八七六年芝罘條約によつて開港場となつた。四川盆地と汽船を通じてその仲繼地をなし、漢口とは二〇〇〇噸級の汽船が往來して商業の發達を促し、現今では江岸有數の貿易港となつた。

○湖南省

【岳州】洞庭湖口の東岸にある開港場で、港は城外の城陵磯にある。湖南の各地に産する米・麥・茶・棉花・牛皮等の産物を取引する仲繼港で、汽船及び民船の來往が盛である。人口は三萬であるが、軍事上並に

交通貿易上極めて重要な土地である。白樂天や杜甫の詩によつて知られた岳陽樓、又は君山の孤島などの名勝舊蹟地が多い。

【長沙】湘江右岸に位する港で、日清條約の結果一九〇四年に開港された所である。湖南隨一の都市で人口は五〇萬と言はれ、堅牢な城壁に圍まれてゐる。湖南省の首府で、官衙・學校・兵營等があつて湖南地方の文化の中心である。米・茶・アンチモニー等を集散し、一〇〇〇噸級の汽船がこの港迄廻航することが出来る。西方の岳麓山は瀟湘八景の一つである。

【湘潭】長沙の南西にある港で、人口は約一〇萬、米・紙・茶・桐油の市場である。工業も盛に行はれ、綿布・煙草・錫箔等の製造が盛大である。

【衡州】支那五岳の一つである衡山は衡州の北方にあり、天台・禪等の傑僧によつて知られたところで、山中に幾多の大寺がある。衡州は湘江左岸にある交通上の要路にあり、粵漢線の一驛である。人口は約一〇萬あり、米・綿布・綿絲・錫器等の産が多い。

【常德】沅江下流の左岸に位し、城壁を繞らした市街で沼澤地に臨んでゐる。人口は二〇萬と言はれ、貴州・四川・湖南等の天産物を漢口方面に輸送する重要港である。

【桃源の郷】支那人の理想郷として知られた桃源は常德の南西にあり、風景よく豊沃な原野である。城壁に圍まれた桃源の市街は人口凡そ二萬、棉花・米等の農産が多い。

【辰州】沅江の中流にあり、人口二萬の小城市で、油・薪炭の産出が多い。

【沅州】沅江の上流にあつて人口は約五萬、苗族の多く居住する地方である。その南東にある洪江は桐油の集散地で洪油の別稱がある。この地は秘密結社に知られたところで、哥老會・洪江會の本據をなした。人口は約三萬である。

○四川省

【萬縣】一九〇二年の英清條約により一九一七年開港した港で、四川省東部の中心地である。人口は凡そ一〇萬あり、生絲・桐油の移輸出が行はれる。

【重慶】揚子江と嘉陵江の會合點にある港で、島狀に突出した斷崖上に市街が建設されてゐる。その人口は六〇萬、四川省の物資を集散する貿易港である。四川盆地の交通は何れの方面へ通ずる道路もすべて險惡なもので、河川交通が交通の主體をなすものであることが理解される。重慶の重要性は全くこゝに存するもので、生絲・絹織物・鹽・皮革・藥材等の取引が盛である。蒋介石は先に共產軍討伐の爲にこの地に入り全土を平定した事があつたが、上海・南京・漢口を失つた彼が再び國民政府と共に重慶に入り、天險を利用して餘命を保つてゐる。

【叙州】揚子江と岷江との會點にあり、揚子江汽船通航の終點にある貿易市場で、更に雲南に通ずる要路

に當る。人口は約五萬あり、鹽・藥材等を集散する。

【自流井】叙州の北方にある市街で人口五萬、鹽の産地として有名である。製鹽法は鹽井戸から鹽水を汲み、煮詰めて結晶させるのである。

【嘉定】成都の南方の岷江右岸の市街で、絹織物・蠶繭を産する。南西にある峨眉山は佛教の靈地で、夏季は避暑客の集る所である。

【成都】岷江上流の成都盆地の沃野にあり、蜀漢の古都で望蜀の語がある。成都盆地は一つの湖底平原で岷江の分流錦江の河岸に位し、周圍一六軒・高さ九米の城壁を繞らしてゐる。この地の工業としては特に絹織物が有名で、蜀錦の名がある。其の他生絲・製革・漆器・製粉等の家内工業が発達し、西康・西藏・青海等の奥地との取引も行はれる。人口は七〇萬と言はれ、四川省の首府で政治都市であるばかりでなく、商業上の都市でもある。劉備と諸葛孔明に知られた地で、南門外にはその合祀した祠堂がある。有名な蜀の棧道は漢中に至る中間の山道で、一に金牛道とも呼ばれ、險難な山道をなしてゐる。

【保寧】嘉陵江上流の成都市で人口約三萬、生絲・棉花・鹽・牛皮等の集散地で硝工業が盛大である。殊に生絲の生産に名高い所である。

(4) 南 支 那

○福建省

【福州】福建省の首府で、南京條約の結果翌年の一八四三年に開港場となつた。閩江下流の左岸に位し、市街の主要部は城壁に圍まれて居り、閩江を隔て、南臺島に對してゐる。外人の居留地や日本人の專管居留地は南臺島上にあり、萬壽橋・倉前橋によつて本市に結ばれる。官衙・學校等は主に城内にあり、南臺・洪山橋は商業上の中心である。漆器・茶・紙等は重要産物で家内工業の主要をなし、殊に紅茶は品質良好で工夫茶と稱せられる。その他木材・竹細工・骨細工・角細工・支那靴・雨傘等の集散が行はれる。その位置が臺灣海峡を隔て、臺灣島に對する爲、彼我の關係は密接である。人口は約四〇萬、福建省に於いて最も重要な商業都市である。

【馬尾】福州の外港として重要な港で海洋航行船通航の終點である。閩江中の小島羅生島岸は好錨地をなし、島上には羅生塔が屹立して美觀を呈してゐる。従つてこの良好な錨地と呼ばれてゐる。

【三都澳】三沙灣中の一島である三都島にある港市で、一八九九年開港場となつた。自然的の良港であるが潮汐の干満が甚だしく、港岸の碇泊は危険である。古來茶の市場として名高い。

【延平】閩江の上流にあつて建溪と沙溪の合流點に位し、人口は凡そ三萬、民船による交通上の要地で、

米・麥・茶・椎茸の産が多い。

【泉州】昔時臺灣との貿易によつて發達した港であるが、この重要植民地を失つたこと、大汽船による貿易の發達によつて衰運に傾いた。マルゴボーロによつて繁榮を記されたのは實にこの泉州ことで、現在の人口は約五萬ある。

【廈門】廈門島上にある港市で、南京條約の結果開かれた五港の一である。港は天然の良港で安全な避難港であるから良港の稱があり、古くは茶の輸出に知られた。然し現在は印度・臺灣等の茶に壓倒されてその産出も少く、華僑の出發地で『移民の輸出港』となつた。市街は極めて不潔であるが、その西方の小島——古瀝嶼は其同租界のあるところで、市街は整備し富豪の別荘が多い。

【漳州】廈門の西方にあつて龍江の北岸にあり、泉州よりも早く外國貿易に知られた港市であつた。人口は凡そ一〇萬、福建南部の中心市場である。

○廣東省

【汕頭】天津條約の結果一八六〇年に開港した港市で、韓江右岸の三角洲上に位してゐる。爲に三面は海に面し市街は扇狀に擴りて海中に突出してゐる。港口の水深小なるが故に二〇〇噸級の船舶に制限され、主として華僑の出入を主とする港となつた。人口は二三萬、砂糖・煙草・紙等を輸出する。

【潮州】汕頭より韓江を遡江すると潮州に達する。潮汕鐵路が汕頭と潮州間に通じ、潮州附近の沃野に入ることが出来る。韓退之の左遷に知られた潮州府の地で、柑橋類・荔枝等の生産がある。

【バイアス灣】昭和十三年十月十二日、我が軍はこの南支那の一角に敵前上陸を決行した。我が勇猛果敢な將兵の努力によつて奇襲に成功したばかりでなく、更に奥地の淡水を突破し、惠州の占領成り、十月二十一日遂に廣東を占領して入城した。この南支の作戦は實に重大な意義を有するもので、支那への武器輸送路を全く遮斷し、歐米依存を事とする國民政府に對して一大衝動を與へた。

【惠州】東江南岸に位する港で、人口は凡そ三萬、小汽船による交通繁盛を極め、商業の中心である。英清條約で將來の開港を約した港市である。

【廣東】珠江北岸に位し、鐵道並に舟運の中心地である。阿片條約の結果開港されたもので、上海・漢口・天津と共に支那の四大貿易港と呼ばれる。その人口は八〇餘萬あり、水上に生活する蛋民の人口を合するならば、一二〇萬の大都市となる。南支那に於ける政治・經濟・交通・文化の中樞地で、廣東及び廣西に産する物資を集散し、市況は極めて殷賑である。輸出品の主要なものは、生絲・絹織物・茶・陶器・爆竹・花筵等で、輸入品には綿織物・米・小麦・砂糖・石油・石炭等がある。市街は老城・新城・東關・新關・西關に分たれ、珠江の對岸には河南街がある。主要な街路は何れも歐米式の建築が軒を連ね、市街の景觀は一變したが、未だ狹隘な道路の舊市街が残存してゐる。西關の南部にある一島は英佛兩國の居留地で沙面シャミンと稱し、淺洲を埋立て、築造し

たものである。この地の廣東料理は特に有名なもので、その材料は支那及び南洋の各地から集められ、『食在廣州』の諺がある。

【順德】廣東の南方にあつて、人口三萬、製絲業が盛である。

【三水】廣東の西方にある開港場で、西江と北江の合流點にある。花蔞・爆竹・鴨毛等の取引が行はれる。

【肇慶】西江北岸にある港市で、人口は凡そ四萬、蘭草の集散地である。端溪は肇慶の東方一五料の羚羊峽に近く、名硯の産地として知られる。

【北海】東京灣北岸にある小半島上の市街で、一八七六年の芝罘條約によつて開港場となつた。然しシンタールランドの狭小な事はこの港の缺點で、その發達も期待することが出来ない。人口は約四萬である。

【海南島】雷州半島の南に横はる支那第一の大島で、その間に瓊州海峽（海南海峽）が存在する。その全面積は三萬四〇〇〇方料で、我が台灣島と略々同大である。昭和十四年二月我が軍はこの島を軍事的に占領し我が大陸政策貫徹上不動の信念を示したもので、内外人の注意を喚起することが至大になつた。

海南島は頗る山勝ちで、中央部にはその高度一七八九mの大五指山が屹立し、火山の遺跡である。その南東部には小五指山（九二〇m）があり、山岳地は南に延びて海岸に終つてゐる。従つて南部海岸は山地が海に迫り、良港泊は數多存在してゐるが平野は乏しい。北部海岸は比較的山地少く、昌江・大江・建江・北門江等の河川が何れも北に向つて流れ、その流域には平野が展開し交通上の利用も盛である。氣候は熱帶多雨氣

候であるが、氣節風の影響を受けて北部と南部では全く雨期を異にする。即ち北部では冬に北東風卓越して降雨多く、南部では之に反して夏季南西風による降雨が大である。

住民には本島の原住民たる印度支那系の黎族が居り、山地に居住する番人である。之に對して後來の漢族は平地に居住し、經濟上の實權を握つてゐる。漢族は沿岸地方に農業を營み、米・甘蔗・護謨・鳳梨・荔枝等の産がある。鑛物資源は埋藏量に富む地として知られてゐるが、その調査は十分ではない。

【瓊州】は本島の首府で人口は約五萬、天津條約による開港場である。その港市は海口で瓊州と水陸兩路によつて連絡せられ、英・米・佛等の領事館或は商館があり、人口三萬の近代都市である。豚・生牛・皮革・砂糖・護謨等の輸出が多い。南岸の榆林港は天然の良港で内外二港に分たれ、文化的施設は之を缺いてゐるが軍事上の價值は極めて大である。

○廣西省

【梧州】西江と桂江との合流點にある港市で、人口に約一〇萬、水上の生活者が多い。一八九七年英清條約による開港場であるが、貿易は不振である。

【潯州】柳江と鬱江の會點にあり、農産物の集散が多い。人口は約三萬である。

【南寧】廣西省の首府で城壁に圍まれ、一九〇七年開市場となる。砂糖・牛皮・爆竹等の取引が行はれ、佛

領印度支那に對する要地である。水上の生活者も多く、その人口は之を合して五萬である。

【龍州】佛領印度支那に接する國境貿易地で、人口は二萬であるが、軍事上極めて重要な都市である。

【桂林】桂江の西岸に沿ひ、もと省城の地であつた。湖南省に通ずる要路に位し、人口は一〇萬人。

○貴州省

【貴陽】貴州省の首府で、雲貴高原にある都市である。烏江・沅江・右江等の水源地に位する爲、河谷に縱つて四川・湖南・廣西・雲南等の各省との間に取引が行はれる都市で、人口は一〇萬である。

【鎮遠】沅江の上流に位し、湖南首に通ずる要路にあり、此の地方商業上の中心である。

○雲南省

【雲南】雲南省の首府で一に昆明と稱し、人口は約一〇萬、一九〇〇mの高地にある。雲南鐵道は老開で安南鐵道に連絡するもので、狹軌の鐵道ではあるが交通・貿易上雲南に及ばず影響は大である。雲南は茶・玉・ハム等を輸出する開市場で、市街は城壁を繞らし昆明湖の邊に位してゐる明媚な地である。

【蒙自】南部にあつて國境に近く、一八八六年の清佛通商條約により翌々年開市場となる。

【箇舊】蒙自の北西に位する錫の鑛山地の中心にあり、人口は約三萬、臨箇蒙鐵道の運鑛鐵道を通じてゐる。

る。鑽石は北崗岩の風化によつて生じた砂礫層中に存し、舊舊治錫公司の經營に屬してゐる。

【思茅】 一八九七年に開市場となつたもので、安南との取引が行はれる。

【騰越】 雲南地方から、ビルマに對する要地にある開市場である。

【大理】 海拔二一〇〇mの高地にある都會で、雲南より騰越を経てビルマに至る隊商路に當り、大理石の産出に知られてゐる。往昔その繁榮を誇つたところであるが、回教徒の反亂や地震等により人口の減少を來し、今は僅か六千を有するのみである。

【教 授】

支那事變は我が國興亡の一大試金石で、我が大陸政策達成の最大難關である。我が海の黒船は廣大な支那の海上を全く封鎖し、上海戦に或は廣東攻略に活躍し、最近海防島を占領した。陸の精銳は北京・上海・南京・漢口・廣東等の支那の大都市を占領し、北支・中支・南支の主要平原を確保したのである。この戦果として眞に東洋平和の礎石ならしめることは我々の責務であり、更に平和確立に邁進せねばならぬのである。地理上の理論を離れて、我々は實際に之を運用せねばならぬ時代となつたのである。従つて教授に際しても、支那の建設を目標として進軍せねばならぬ。

（亞細亞篇）一 完

昭和拾四年三月七日印刷

昭和拾四年三月十日發行

世界新地誌亞細亞篇

正價三圓三拾錢

著 者 櫻 井 靜

東京市神田區一ツ橋二丁目三番地

發 行 者 阪 本 眞 三

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 者 寺 井 藤 左 工 門

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所 大 日 本 印 刷 株 式 會 社

不 許
複 製



發行所

東京市神田區一ツ橋武丁目三番地
振替貯金口座東京八七貳番

大同館書店

(大 同 館 出 版 時 下 必 讀 考 書)

- 吉原公平著 **マルコポーロ大旅行記** 七十年前に亞細亞大陸を旅行したマルコ・ポーロの記録 金壹圓八拾錢 送料十四錢
- 吉原公平著 **マルコポーロ記行奇談** その珍談奇談は實に面白き讀物である好評噴々なる良書 金壹圓八拾錢 送料十四錢
- 山縣信敬著 **滿洲事變に並上海事變** 平易に就き大人にも有益なものと諸新聞に好評噴々 正價金貳圓 送料十四錢
- 芦間 圭著 **日露戰爭物語(上下二冊揃)** 其原因から經過結果まで詳しく説き比類なき名著也 正價各貳圓 送料十四錢
- 塚田忠泰著 **日清戰爭物語(全壹冊)** 史實の正確、記述の明快なものが大なる特色で著者苦心の書 正價金貳圓 送料十四錢
- 佐々木三治郎著 **東洋諸民族の歴史** 首尾一貫沿革を明かにした所が特長で時代の書である 正價金貳圓 送料十四錢
- 佐藤正作著 **歐米人亞細亞侵略の歴史** 荷し東亞を語る人々は必ず一讀すべき書であると大好評 金壹圓八拾錢 送料十四錢
- 鈴木周作譯 **ペルリ提督日本遠征記修正七版** 我國開國當時の有様を知る唯一の書籍時代の珍書一讀を要す 正價金貳圓 送料十四錢
- 小林友雄著 **蒲生君平の生涯(新刊)** 君を想ひ國を愛へ四十有六年忠義一徹の勤王志士の詳傳 正價金貳圓 送料十四錢
- 濱田壽郎著 **勝安房の生涯(五版)** 明治維新の業績に偉大なる足跡を印せし人の詳細な傳記 正價金貳圓 送料十四錢
- 遠藤與資謹著 **古今正氣歌新釋(最新刊)** 一言一句必ずや讀者の胸に深く刻なる感銘を與ふ現代必讀書 正價金貳圓 送料十四錢
- 吉松祐一著 **偉人と風土錄(最新刊)** 郷土が生けし偉人を語り且つ史蹟名勝を説き新人國記 正價金貳圓 送料十四錢

◇學習院助教古谷義徳先生著 [巻頭には論語解説を附して書物としての論語を推賞し興味深き美談を掲げたる等實に懇切を盡せる良書]

(好評絶讀) 第五版

少年論語讀本

四六判 最上製美本 全壹冊 五百餘頁 箱入 正價金貳圓 送料十四錢

昭和の御代は實に思想純化・行為徹底の時代でなければならぬ。これに附て青少年の思想の爲め良心の爲に先づ論語に親しませたいと云ふのが著者の切なる願である。此の書は實に其手引であつて内容は論語の全巻中より六十餘頁を精選し一原文・讀方・意味・訓話・道歌・例話等を掲げたるもので、眞にこれ金玉の文字一粒遊びの大教訓である。

學習院助教 古谷義徳著 ●少年徒然草讀本 日本が生んだ唯一の思想書人生教科書とも云ふべき徒然草の珠玉名篇を選びしもの時下必讀の修養参考書 [好評] 金貳圓八拾錢 送料十四錢

小倉嘉市著 ●本居宣長の人及思想 文部省で推賞せられし名著で前著の事蹟と思想とを簡明にまとめしもの時下必讀の修養参考書 [新刊] 金壹圓八拾錢 送料十四錢

大久保龍著 ●教育者の明治天皇御製謹解 教育家諸君は必ず本書一冊を机上に備へて日常修しむ [新刊] 正價金壹圓 送料十四錢

笠井義夫著 ●本邦教育思潮概説 先賢古哲の教育的業績を説く日本文字小冊子年意義ある好著なり [新刊] 金壹圓五拾錢 送料十四錢

市川一郎著 ●ペスタロツチ全集 彼れの全生涯を述べ且つ有名な成る此一冊で全部を知得せらる [六版] 金貳圓五拾錢 送料十四錢

早稲田大學教授 原田 實譯 ●エレンケイ 代表著作の全譯或は漢に漏れて餘す所なし教育者諸賢に薦む [七版] 金貳圓五拾錢 送料十四錢

長田 新閑 ●女史原著 兒童の世紀 萬學者が苦心の大作ベスタロツチの全生涯を脚色せる [三版] 金貳圓五拾錢 送料十四錢

大久保龍著 ●曲人としてのペスタロツチ 長田博士が経典の名著 [三版] 金貳圓五拾錢 送料十四錢

東京市橋區 大 同 館 行 發 振 替 貯 金 口 座 番 七 八 京 東

九條武子夫人のお話

四六判最上製美本箱入
全一册紙數四百餘頁
挿畫寫眞八葉入

正 價 金 貳 圓
送料金十四錢

大同館出版 紫の女神代 秋の夜の誕生 父、父明如上人 生母明如院證子の子 幼時の生活 幼稚園時代 古代の英雄と時代英雄の振闘 伏見桃山の三夜話 須磨の夏 第二篇 清らかな無常觀 (悲しく急變し 哀光の夜話) 第一部 武式師範の縁談 九條家と大谷家 法政の初戀 第三篇 國學院死闘 (ロンドン) の別居生活 悲しく急變し 哀光の夜話 第二篇 武式師範の戀人 (清くきりとのこ) 秋葉方母得夫人死 法政の熱心 孤獨の苦行生活 悲しく急變し 哀光の夜話 女の狀況 日蓮夫人と武式夫人 第五篇 愛と恨の歌 愛の種が腐り 嫉の象徴と黒髪 武式夫人の戀愛秘史 生蓮 應仁院と社會主義者 叙山 第六篇 愛の慰問 愛の種が腐り 嫉の象徴と黒髪 武式夫人の戀愛秘史 貧女 (女神像のモデル) 大地の遠境 下 落合の住居 第九篇 第九 不滅の信仰と藝術 (京都府富北の秋) 第十篇 北海邊巡遊生活 愛の慰問 悲願の裏面 第十一篇 靜かなる久遠の眠り (美しき路終り 久遠の生命 聖神の羽渡) 本篇の清草と僧侶 第十二 靜かなる久遠の眠り (美しき路終り 久遠の生命 聖神の羽渡)

山縣信敬
新著 ● 少年
印度の地理歴史
正價金貳圓
送料金十四錢
美本四冊以上型
四六列裝上型

[illegible]

◇鴛田惠吉先生新著
 (四六判最上製美本箱入 全一册紙數四百五拾頁) 正價金貳圓送料十四錢
 『天下唯一の出版書』

【刊新最】
少年史傳
叢書
太田道灌傳

【刊新最】
少年史傳
叢書
太田道灌傳

[illegible]

上原一實著
少年史傳叢書
武藏坊判慶
お徳藏で御願染の辨廢を正史文獻を盡く研究して成りし理想の良書
【新刊】 正價金貳圓
送料十四錢

松本浩記著

少年史傳叢書

明治天皇御傳

天皇御一代の事蹟を謹記せ
る著述である若林の仰せに
て更に今回修正増補せり

【三版】

四六判上製五百頁

正價金貳圓

送料十四錢

◇大阪九條第一小學校長 三橋節先生新著
《教育者及教育行政關係の人々の一讀を希ふ》

(最新刊)
教學刷新の實際的基調
著者：佐々木啓祐
編輯：佐々木啓祐
出版：明治書院
価格：金價正拾貳圓壹錢十金料送

振替貯金口座
東京八七二番

大 同 館 發 行

東京市神田區
一ツ橋二ノ三

東京市神田區
二ツ橋三ノ

振替貯金口座
東京八七二番
大田館發行

●世界大戰史概説 滋賀 貞著 〔大坂朝日新聞〕の篇を讀んで、何等かの教訓と示唆とを得るに十分。〔大好評〕金貳圓八拾錢 送料十八錢

●大戰後の世界史 滋賀 貞著 大戰後の世界の史實を平易に描き、明快に説き盡してゐる。〔大好評〕金貳圓五拾錢 送料十八錢

●滿洲史 要 本間泰次郎 著 智と熱とに燃ゆる若き學徒の不斷の努力苦心は、凝つてこの小書を産んだ。敢て天下諸彦の机上に捧ぐ。〔最新刊〕金壹圓貳拾錢 送料十二錢

●歐米の亞細亞侵略の歴史 佐藤正作 著 東京朝日新聞「亞細亞」の「亞細亞」の歴史を、細く、詳しく、手にとりやすい。〔最新刊〕金壹圓八拾錢 送料十二錢

●東洋諸民族の歴史 佐々木三治郎 著 決つて、新開闢の歴史では解を説く一體の價值充分也。〔最新刊〕金壹圓八拾錢 送料十二錢

●文部省検定用 大日本歴史 岡部精一 共著 繁簡適宜、あらゆる重要史試験問題對照。〔拾六版〕金七圓五拾錢 送料十二錢

●日本國史時代の研究 栗山周一 著 一切の從來の研究方法を、捨て、白紙的立場から日本國史を見直した研究書。〔最新刊〕正價金貳圓 送料十八錢

●國史吉野朝時代記〔南北朝〕 春藤與市郎 著 彼の太平記の諸大事件を、現代史實に引直して、分り易く説きし有る。〔再版〕金貳圓五拾錢 送料十八錢

●自習 少年國史讀本〔上卷〕 小林 博 著 國定教科書の國史の骨に、肥かなる筋肉を附け、兒童少年を指導する有益な書。〔第貳版〕各貳圓五拾錢 送料十二錢

●國史 吾妻鏡史話〔上下二冊〕 萩原時夫 著 彼の有名な「吾妻鏡」を、趣味、本位に説く。讀史興味、如く、好著なり。〔最新刊〕各冊金貳圓 送料十二錢

●少年少女滿洲國の地理歴史 吉松祐一 著 本書を讀めば、面白う、ちとすつかり、滿洲國と成つて仕舞ふこと請合。〔最新刊〕金壹圓五拾錢 送料十二錢

大田同發行 振替貯金口座 東京市神田區 三ツ橋二ノ三 番七八二

◇塚田忠泰先生著 〔四六判〕最上製美本 正價金貳圓 送料十八錢 ◇〔最新刊發賣〕

高等專門學校 日本歴史問題解答 過去年入試 本書内容は、國史の重要性が叫ばれ、試験場でも重きを成す日本の問題を、過去年間に亘りて集め、これを中等學校の教科書に準據して配列し、組織立て適當な解説を與へしものである。此表が諸君の國史學習の好伴侶となり、更に受験勉強の一助となれば、著者の望みは足る。本書はまた此一冊の精讀で、日本歴史の全体を解明得べし。

●最新日本歴史辭典 六藝活字三段組九百頁の大典である。〔最新刊〕金六圓八拾錢 送料廿四錢

●西田直三郎 著 作家作品 趣味の日本文學史 日本文學史の大要を詳細に説く。〔最新刊〕金貳圓八拾錢 送料十四錢

●川島秀三 著 現代高一一の國史教授 表面的史實でなく、史實の底を採り、兒童の疑問を想定して解説する。〔四版〕金四圓八拾錢 送料廿四錢

●新井順一郎 著 基調 世界新地誌〔植民大陸篇〕 地理研究の参考書なり。〔最新刊〕金參圓貳拾錢 送料廿四錢

●櫻井 靜 著 新小學地理の勉強〔外國の部〕 內容正確、興味最新。〔最新刊〕金壹圓五拾錢 送料十四錢

●栗山周一 著 新小學地理の勉強〔外國の部〕 內容正確、興味最新。〔最新刊〕金壹圓五拾錢 送料十四錢

●平良惠路 著 文檢修身科委員の思想研究 委員思想の理解、正確な方法也。〔最新刊〕正價金貳圓 送料十四錢

●富田義雄 著 帝國大學〔正系〕入學試驗法 該博なる蘊蓄を傾け、實際の体験に基き、受験者の良心と學問の全責任を以て全國四大入學受檢者たる著者が其感

大田同發行 振替貯金口座 東京市神田區 三ツ橋二ノ三 番七八二

((刊 新 最))

文
物
理
化
學
研
究
の
爲
に
檢

四六判最上製美本箱入
全壹冊紙數五百頁
正金貳圓五拾錢

物理化學中等教員は他の學科に比し極分と不足を告げて居るが文藝受驗者は未だ少し、物理化學の學習は果して困難であらうか。著者は中學卒業程度のものを以て全く獨習で文藝を突破し奥に眞を希大理想學部に負ふた。凡庸の頭腦ではあるがその體験の綴を綴つては木書であつた。著者の最も意を獨習したのは新舊法書の精選とその攻方法であつた。これは各試驗委員の懇切なる感想を仰き又一方文藝の重要問題を分類討究する等その準備法より受驗法まで餘す所なく詳述した。一本を机上に備へて是非合格を期せられんことをすむ。

◆大日本武徳會劍道錬士
朝鮮京城師範學校教諭
根本通夫先生著
(劍道研究唯一の手引指導書出現發賣)

《(一)隋下天》

新刊
文檢受驗用及
鍊士昇段參考
劍道要義

四六列最上製美本
全壹冊箱入
紙數四百五拾頁
正金貳圓五拾錢
送料金十四錢

[illegible]

◆島田正藏著 ●**體育原論** 實際經驗と眞摯なる學的研究とに基き體育の根本義を明かにした書である一讀をすむ。【好評】 金參圓八拾錢
送料廿四錢

振替貯金口座
東京八七二番

大同館發行

東京市神田區
一ツ橋二ノ三

392
26

